"魔王"秋山成勲が来なくて……DREAMミドル級GP!

enterbrain MOOK

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

4.29 DREAM.2
徹底速報

5.11 DREAM.3
直前情報

5.18 戦極 -第二陣-
大展望

2008 JUNE 780yen

"ミスター・やれんのか!"が
『HERO'S』王者に完勝!
独占ロングインタビュー!!
青木真也

新しい夢が始まる!! "KID級"大戦争、開戦間近!
山本"KID"徳郁
今成正和/所英男

7.21『DRAEM.5』出場濃厚!
超人復活ロードにK-1包囲網!!
ミルコ・クロコップ

生き残りを懸けた5.24『UFC84』出陣!
ヴァンダレイ・シウバ

聞いてないよ～! 大自然サバイバル対談が実現!!
三崎和雄×ネイチャージモン

ウソだと言ってよ!
5.24ハッスル・エイドで涙の引退――!!
さよならインリン様

呪われたJ.Z.カルバン戦、ついに完全決着!!
三度目のやれんのか! やれました!!

kamipro Special 2008 JUNE 三度目でやれました!!
2008年5月23日
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本 大日本印刷株式会社

enterbrain

CONTENTS

阿修羅チョロに宣戦布告!? DREAMに新キメポーズ誕生か!?

3、2、1、ワニ! ワニ!!

谷川貞治に似てると噂のホナウド・ジャカレイさん。

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2008 JUNE

表紙写真/乾 晋也

s DREAM!!

ROSでもない新しい闘いの

おめでとう!!

"三度目のやれんのか!"でついに決着!!
あのJ.Z.カルバンに完全勝利!!

青木真也

"職質直後"の独占ロングインタビュー

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

This is D

PRIDEでもない、HERO'S

明けましてお

せ～の！　明けましておめでとう!!
ようやく訪れた青木真也の2008年に、DREAMの本当のスタートに、そして消えちまったPRIDEに、そう叫びたくなる決闘だった。

〝歴史的決闘〟となった青木真也vsJZカルバン戦は、単なる再戦というテーマだけでは捉えきれないドラマがあった。〝ミスター・やれんのか！〟が『HERO'S』絶対王者に完勝!!　という対立構造や、MMAの最先端を突っ走る技術の攻防戦！　という視点だけでは確認することができないおもしろさもあった。いや、それだけでも鳥肌全部立つことができる激闘だったのだが、そこがこの一戦の奥深さである。

誰も勝てなかった強者カルバンを完全に圧倒、PRIDEファンの鬱憤を晴らした青木真也には、PRIDE活動停止からこの1年のあいだいろんな〝不運〟が降りかかった。極めつけは、この呪われたカルバン戦だった。

昨年の『やれんのか！大晦日！2007』では、カルバンの負傷により直前に消滅。〝ミスター・やれんのか！〟なのに、一人だけやれなかった。仕切り直しとなった3・15『DREAM・1』は、反則となるカルバンのヒジ攻撃により続行不可能、没収試合に。DREAMの船出に巨大な暗雲をもたらした。

そして、三度目の正直ならぬ〝三度目のやれんのか！〟となった決着戦。半年間で異例となる三度目のマッチメイク。そのうえ勝者は中11日の強行スケジュールで5・11『DREAM・3』永田克彦戦への出場が〝希望〟されている。こんな過酷な話は聞いたことはない!!　青木とカルバンならやれるというのか。いや、彼らがやるしかなかった。そうだ、DREAMが標榜する〝新しい闘いの価値観〟は二人が生んでくれるはずだったじゃないか。

PRIDE消滅の悔しさ、大晦日大連立の大混乱、『DREAM・1』の苦い挫折。いまだにくすぶり続けるこれらのモヤモヤは、この青木vsカルバン戦に内包されていたといっても過言ではない。だからこそ我々は「やれんのか！」と叫んだのだ。

そして披露された誰もやったことのない、誰も観たことのない超次元の闘い。PRIDEでもなければ、『HERO'S』でもなかった。新しい格闘ステージの、明けましておめでとう!!

やっと2008年を迎えることができたいま、〝DREAMの主役〟青木真也は何を思うのか――？　試合翌日に緊急直撃！

——青木さんって、メチャクチャ強いんですねぇ。

青木　ボクも思いましたよ！「ヤベェ、オレ強い!!」って。ククク。

——誰も勝てなかったカルバンをあそこまで完封するなんて。ここ一年、なかなか試合する機会に恵まれてなかったじゃないですか。すっかり忘れてましたよ！こんなに強いって。

青木　じつはけっこうね、陰では頑張ってるんですよ。口ばっかりが先行しがちのイメージがありますけど。

——……それはウチの責任かもしれないなあ。

青木　試合後の記者会見でも記者の皆さんは「青木ってやるじゃん！」みたいな雰囲気になってましたけどねぇ。ホントにやれるんですよ！

——ケガのほうは大丈夫なんですか？

青木　いまから病院に行ってきます。さっきピヨピヨしながら外を歩いていたら、「ケンカでもしたの？」って警官に職質されましたよ。「ケンカじゃないんですけど、そんなものです」って言っときました。クククク。

——ホントに大丈夫ですか!?（笑）。

青木　いやあ、カルバンのパンチ、メチャクチャ効きますよ〜。あと、かかと蹴り。

——ああ、足を取ったときに。

青木　さっき試合を見直したら、かかと蹴りをいっぱいもらってたんですね。気付いたら立ち上がってバックを取ってたんで、そこは覚えてなかったですけど。

——じゃあ、あのときはちょっと意識が飛んでたんですかね？

青木　たぶん飛んでたみたいです。でも、本当よかったですよ。もう4月30日はないと思って臨んだから。今日、手帳をつけようと思ったら、ボクの4月30日はあったんだと思って……（しみじみと）。

もう4月30日はないと思って臨んだから 終えたことの、生きていることの喜びです

ラバーガードを駆使してカルバンを翻弄する青木。変型のオモプラッタでカルバンの右腕をロック、そのまま極めかける！　どうなってるのかよくわからんが、とにかくスゲェ!!

この試合、青木真也の最大のピンチ! カルバンに足関を脱出され、背後から強烈なパウンド! 青木は必死に立ち上がり難を逃れたが、あと数発入っていればストップされてもおかしくなかった。

足関節を狙う青木！　アキレス腱固めがガッチリ極まった!!　カルバンはかかと蹴りを青木の脇腹、顔面に何度も何度も連打! なんとか脱出! 青木は一転してピンチに……。

♪生き残れ、これ！　青木真也のバカサバイバーな入場は、もうそれ自体が"煽りV"となっているほどの見応えがある。第1試合から場内のムードは最高潮となった。

青木真也

——あのカルバンに勝ったこと、そして半年続いた因縁に終止符を打てた喜びもあるわけですよね、そこには。

青木　そうですねぇ。終えたことの、そして生きている喜びです。

——それくらいこのカルバン戦はいろんな想いがあるわけですよね。決してただの一勝じゃない。

青木　ホントにキツかった!!　24歳の若者に背負わせるには厳しいですよ。背負っちゃったけど（笑）。

——そもそもこの再戦って、じつはあまり乗り気じゃなかったんですよね？

青木　そうですね。そんな"半○起"でも勝ってしまうワオ木さんは凄くないですか？　よくやったぞ〜。

——"半○起"で完勝！（笑）。再戦するんだったら、精神的にも肉体的にも万全な状態でやりたかったと？

青木　そうです。やっぱりそれくらいの相手ですから、カルバンは。

——『HERO'S』の絶対王者ですしね。実際どうでした、そのカルバンは？

青木　もう乱暴！　乱暴に扱われた!!（笑）。

青木　一生懸命、殴るんですよ、人の顔を。もうビックリ！

——そりゃそうですよ！　しかし、試合は完全に青木さんが主導権を握っていたとはいえ、やっぱりカルバンには一発の怖さが常に漂ってましたよね。

青木　そうそう、足関極めようと思って調子に乗って深追いしたんですよ。「やってやるよ、コノヤロー!!（骨を）鳴らしてやるよ！」と思って。実際にバキバキ鳴ってたんですけど、逆襲されてそのぶんエライ目に遭いましたねぇ。

——あれはムキになっちゃったんですか。

青木　そうなんです。あそこは本気になっちゃいました。「コノヤロー！」と思ったらダメですね。おかげで痛かった!!

——しかし、あの局面はホントにヒヤヒヤしましたよ。

青木　危ないですよっ！（セコンドの）中井祐樹はタオル投げようとして握ったとか言ってましたから。「いいかげんなことすんなよ、コノヤロー！」って怒っておきました。クククク。

——師匠に向かってなんてこと言うんですか!!（笑）。でも、あまりにも完勝だったから、一本勝ちじゃなかったことに不満があるくらいですよ。まあ、カルバン相手に贅沢なもの言いは百も承知ですけど。

青木　だけど、ボクも最後に腕を取ったときにこのままキープして終わるか、一本勝ちのボーナスを狙うかって頭の中で考えちゃって。

——そんなことを考えていたなんて。

青木　それで「一本勝ちのボーナスくれ、カルバン！」と思って攻めたんですけど、タップしなかったですねぇ。

——ビデオだと一瞬、タップしてるようにも見えるんですよね。極められて反射的に叩きそうになったのか。

青木　あ〜、なんだか"神の手"が動いたらしいですよ。でも、あのカルバンを倒したんですよ。もっとほめてくださいよ!!

——凄いですって。よっ、青木真也！

青木　みんなそうやって超バカにするんですよ。だから、カルバンを倒したのにあんまりほめてもらってないんですよねぇ。

——この一年間、さんざんな目に遭ってきてるのに（笑）。

青木　『DREAM・1』があんな結果に

変型オモプラッタからそのまま腕十字に移行!!　カルバンは前転して抜けるが、その直後に放ったパウンドに力はなく、完全に右腕は伸びきっていたようだ。恐るべし、青木!!

ボクは逃げていない。勝つことでいろいろ言ってる人を黙らせたかった

なったから、「青木はたいしたことねえ」とか「青木は逃げた」とかいろいろ言われたんですけど。ここまで言われるなんて、逆にすげえなって思いました。

——そういえば、あの小川直也にまで「プロとして……」なんて言われてましたよ。

『東スポ』のコラムで。

青木　マジっすか⁉　けどね、そうやってさんざん言われても、有言実行北島康介ばりに勝てたんですから万々歳ですよ。ボクは闘いたかったし、絶対に逃げないし、カルバンから逃げる理由は何一つない。今回勝つことで、グジャグジャ言ってる人たちを黙らせたかったんですよね。

——なんか上の世代のファイターはみんな青木さんを批判してましたよね。青木さんってまだ若いじゃないですか。上の世代からすると脅威なのか……。

青木　（さえぎって）まあ、調子に乗ってると思われますよね!!　ククク。

——間違いない!!（笑）。

青木　煽りVで「KIDハンパねぇ」とか言ってるからいけないのかもしんない。KID選手に大変失礼な話ですよね。

——あと五味さんが石田さんを倒したときに……。

青木　そうそう！　控室で「ヤベエ、五味ハンパねえ！　つぇえ！」とか騒いでいたら撮られてんの。もう五味選手にも失礼な話です！

——それはバカにしてるんじゃなくて、ファンが選手を応援するときに呼び捨てにしているのと変わらない感じですか？

青木　そうそうそうそうそう!!　取ってつけたようなフォローですけど（笑）。

——ま、取ってつけたようなフォローですけど（笑）。

青木　いやいや、バックステージですれ違ったりすると「お疲れさまです!!」とか言ってかなりビビっているボクがいるんですけどね。

——そういえば、青木さんと同世代のファイターってあまり見当たりませんね。

青木　いますよ！　\(^o^)/チエとか、KUSHIDAとか。

——また凄いところに飛びましたね。

青木　KUSHIDA、カルバン、\(^o^)/チエ、ワオ木真也さん。これが四天王です!!

——どんな四天王だ（笑）。それはさておき、ホントに長かったですね、カルバンとの決着戦は。

青木　ホントに長かった!!　やっと新年が明けましたよ〜。

——明けましておめでとうございます（笑）。大晦日の『やれんのか！』、カルバンが欠場しちゃって青木さんだけが〝やれなかった〟ところがあったわけじゃないですか。ようやく『やれんのか！』を終えてみてどうですか？

青木　正直、実感がないんですよね。勝ったっていう実感もないし、終わったっていう実感もないし、とりあえず生きているんだなっていう実感しかないです。なんだか、わけがわからんですよ……。ヨアキム・ハンセンのときは凄く勝った気がして、チョー嬉しかったんですけど、今回はとりあえず生きている!!　っていう実

感しかないです。
――う～ん、あとでジワリジワリとくるんですかね？
青木　くるといいんですけどね～。とりあえず昨日の試合が終わってから待遇がよかったですけどね。いつもは全部で4つしか弁当くれないのに、昨日はさらに4つぐらい余分に弁当くれましたからね！
――それ、おそらく余りものを押しつけられただけですよ！（笑）。
青木　（無視して）バックステージはけっこうファンキーでしたよ。セコンドのNTT（ニホン・トップ・チーム）は全員丸坊主だし。
――あれ、この一戦のために？
青木　ノリらしいですよ。全員丸坊主でビックリしましたよ。
――へえ～。そういう仲間の意識もあったんですね。
青木　そうです。あと、今回ボクが勝ったことで、PRIDEオタクたちが大喜びしているでしょ。俺もPRIDEオタクなんで、よかったなあって思って。
――そうですよね。もうみんな忘れてますけど、この試合のテーマって、PRIDE vs『HERO'S』でしたもんね（笑）。青木さんの中にはいまだに“PRIDE”の意識は強いんですか？
青木　ありますよ、やっぱり!!
――“UWF”というものがいまだに語られるように、やっぱり青木真也の根っこにはPRIDEがあり続けるんですか？
青木　持ち続けますね。PRIDEへの想いはずっと持ってる。だって、プロ格闘家としての青木真也を世に出してくれたリングですから。
――そして、そのPRIDEから派生したDREAMというリングも、青木さんの勝利によってようやくスタートした気がするんです。
青木　ボクは頑張りました。皆さんも頑張ってください!!
――ダハハハ！　この号が発売する頃にはどうなるか発表されてますけど、『DREAM・3』の永田克彦戦は……？
青木　いや、現時点で今後のことは何も考えられないですね……。そのぐらいのスタンスで今回の試合に臨んだんで。そのぐらいのものだったと思うんですよ、カルバン戦って。
――そういえば、試合が終わってから24時間も経ってないですし。
青木　そんだけのもんですよ。痛みもハンパねえもん、あの乱暴者は。ビックリしたなあ。あんなに殴られると思わなかっ

[2008.4.29 DREAM.2]
さいたまスーパーアリーナ
○青木真也 vs J.Z.カルバン×
（2R終了 判定3-0）
試合終了直後、勝利を確認した青木は小躍り気味にリングを跳ねた。そして、また泣いた。あのカルバンに勝った喜びもさることながら、“呪われた1年間”をやっと清算できた嬉しさがあったのだろう。

本文中にも触れられているが、青木真也の練習仲間は頭を丸めてセコンドに。今成さんは普段から坊主ですが、それにしてもズバリ見かけは変態集団だよ！　女子は近づかないでください。ククク。

青木真也

マイクで人生を語ろうとして何を言っていいかわかんなくなっちゃうんですよ（笑）

たなあ。よくハンマーで殴られてるみたいとか言うじゃないですか。あんなのハンマーとかいうレベルじゃないですよ。機械かと思いましたもん！

——機械で!!

青木　あれ、下から蹴れなかったら相当危ないですよ。相手が殴ってくるんで蹴るしかないって。

——殴られないように必死だった、と。

青木　そう。やっぱり、カルバンって勝負所を知っているんですよ。たたみ込むときに一気にくるから、それでみんな食われちゃってるんですよね。やっぱりあの勝負勘のよさとか勢いは凄い。あの瞬間のどう猛さにみんなやられている。

——そのカルバンの勢いはどのへんから落ちたと思いました？

青木　2ラウンドのラスト2分のときですね。寝ているボクの顔を蹴りそうになったじゃないですか。そのときに顔が凄くあせってたんですよ。で、こっちが顔を起こしても攻めてこないし、逆に下からヒザを蹴ったら、凄い痛がって。「ビビってんな〜！」って思いましたね。

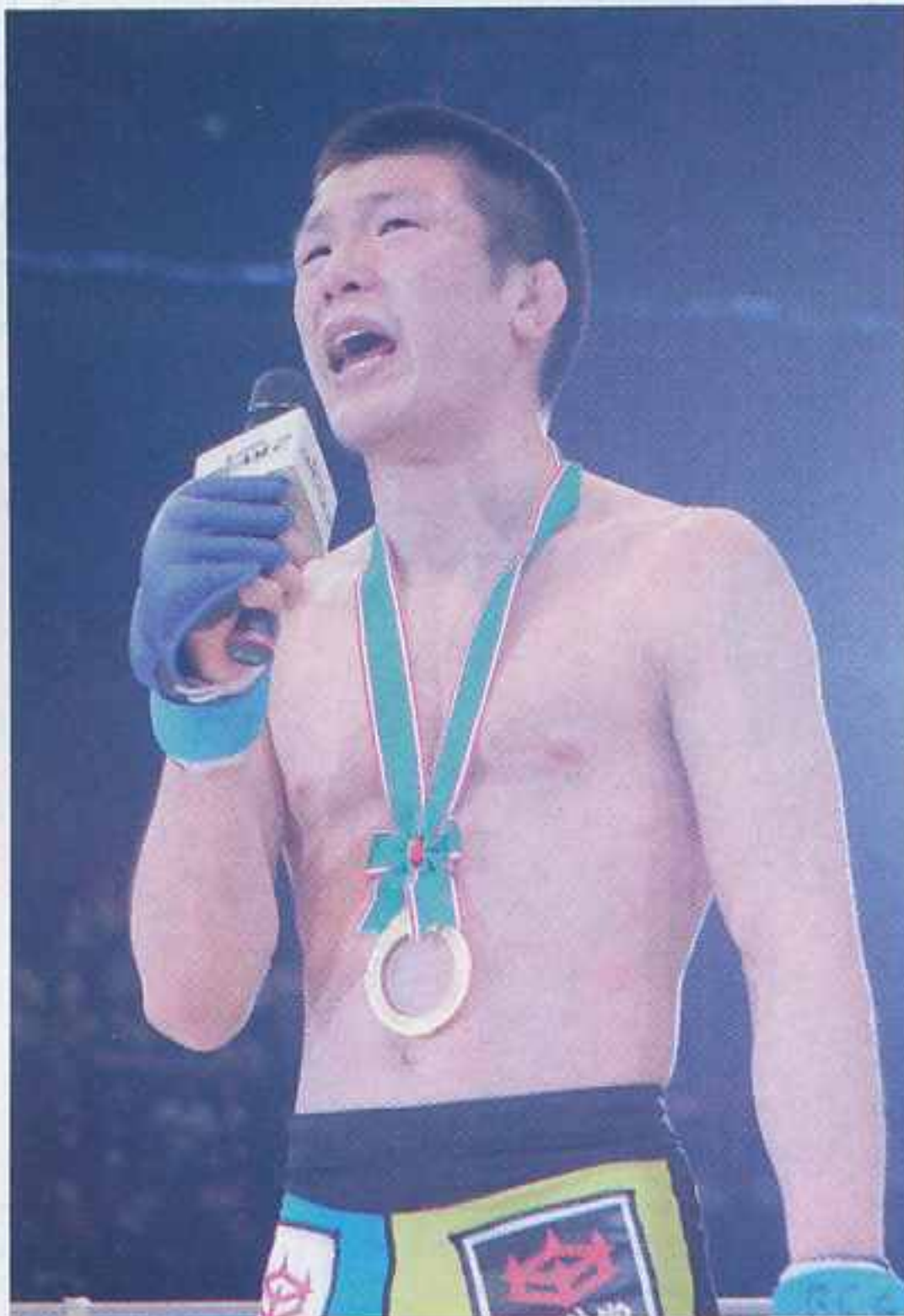
——カルバンは青木さんの寝技をかなり警戒してましたよね。

青木　最後にオモプラッタを何回か引っかけたじゃないですか。あのときも凄くあせっていたんで。いや、もっと殺しにくると思ったんですよ。だから、正直ボクのことをちょっとナメてたんだと思います。すぐにテイクダウンしてパウンドアウトできると思ってたんじゃないですか？　そうしたら、案外こっちが大和魂を持っていたっていう。

——カルバンって打撃だけじゃなくて、寝技も凄いイメージがあるじゃないですか。彼のグラップリングってどうでした？

青木　弱くはないと思いますよ。けど、正直NTTのほうがATT（アメリカン・トップチーム）より全然強いと思いますけどね。

——いまやアメリカが〝MMA先進国〟のイメージが強いですけど。

青木　そうは思いませんけどね。ボクらがやってる技術って、ブラジル人が考えた技術を中井さんが高専柔道ミックスの柔術に改良したものなんです。全然ブラジル発じゃないんですよ。

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。柔道、柔術などをバックボーンにする天才グラップラー。修斗、PRIDEで活躍。"ミスター・やれんのか!"としてDREAMに合流。現・修斗世界ミドル級チャンピオン。180cm、70kg。

——じゃあ、ラバーガード一つをとっても違うわけですね。カルバンはラバーガードの対策を発案者のエディ・ブラボーに習ってたそうですけど。

青木　柔術とかグラップリングで通用したからって、MMAで通用するとはかぎりませんよ。なんかラバーガードの呼び方、変えようかなあ。

——いまMMAでラバーガードを一番使ってるのはワオ木さんですし。

青木　『GONKAKU』で募集してください。じゃないや、『格通』だ。

——すいません、ウチは『kamipro』という変態雑誌なんですが（笑）。

青木　あ〜、頭を打たれてるんですみません!!

——次に『Fight&Life』って言われたらどうしようかと思った。

青木　とにかく募集してくださいよ。

——最後に読者のメッセージはありますか？　マイクで言えなかったこととか。

青木　あ、マイクはヒヨりましたねぇ。本当はもっとヒヨりたかったですけど。

——青木さん、マイクでいつもいいこと言おうとしてアレですね（笑）。

青木　ヒヨってんですよ。人生語ろうとして何言っていいかわかんなくなっちゃうんですよ。いいこと言おうとしたら、わけわかんなくなっちゃったんですよ。

——あそこの青木さんって、素ですよね。

青木　素です、素（照れながら）。試合が終わったときの無邪気な飛び跳ねと、マイクは素です。あそこだったら、何をやっても許されるだろうなっていう計算高いボクがいたんですよね。ずいぶん待ちましたから、これくらいはいいかなって。

——長かったですね。

青木　長かったですよ（ポツリと）。

——ちょうど1年ですね。昨年4月の『PRIDE・34』から。

青木　あれから1年。ホントにいろいろあった。けど、生きてよかった。本当によかったっすよ。本当によかった……。

——わかりました。とりあえず、いまは何も考えないでゆっくり休んでください。

青木　あ〜、最後に一つだけ言いたいのは、「青木って本当に強いのか？」みたいな空気が流れていましたけど、「強いでしょ!!」みたいなね。

——せっかくいいシメだったのに、繰り返しますか（笑）。もしかして、会見とかでえらく不満げだったのは、そういう声に頭にきて……。

青木　だって、そういうもんですよ！

——ダハハハハ！　それが格闘家の誇りですよね。リングで「俺ってストロングだぜ〜！」って叫びたいもんですよね。

青木　そうそう、『柔道部物語』の五十嵐先生ですよ（笑）。あ〜あ、マイクでそう叫べばよかった。俺ってストロングだぜ〜!!

［08年4月30日／電話取材にて収録］

というわけで、俺ってストロングなワオ木さんのインタビューでしたが、5月1日の現時点では、5・11『DREAM・3』の2回戦出場の行方はハッキリしていない。出撃の可能性も当然あるため、カルバン戦で痛めた負傷箇所は明かされることはなかったが、かなりのダメージがある模様。『HERO'S』絶対王者を撃破し、〝夢の落とし前〟をつけた英雄がGP不出場となれば、そのネガティブな衝撃は秋山成勲や宇野薫の欠場の比ではない。なにはともあれ、年は明けても青木真也の〝素晴らしき地獄〟はまだまだ続く!!　生き残れ、バカサバイバー！

KIDの予想をくつがえす大激闘に!

「次やっても一緒だと思うけど」

選手・関係者が観た世紀の三戦目!

青木vsカルバン証言集

まさかの没収試合に終わったDREAM旗揚げ戦の青木vsカルバン。解説席の山本KIDは「次やっても一緒だと思うけど」と語っていたが、『DREAM.2』での“世紀の三戦目”はKIDの予想をくつがえす大激闘に! 『kamipro Hand』のアンケートでも、ぶっちぎりのベストバウト1位に輝いたこの一戦について、縁の深い選手・関係者を直撃しました!

構成／阿修羅チョロ　撮影／乾真也

中井祐樹

青木の師匠&セコンドにしてパラエストラ東京代表

「前回の試合で、ある程度、手応えをつかめたので今回も、ほぼ同じ作戦でした。青木の気持ちも完全に立ち直ってたし、試合前の動きもよかったので、やるだけやろうという感じでしたね。

試合が始まったら、意外にもカルバンは組んできたんですよね。ヒザの調子がよくなかったのか、早いうちに投げてパウンドで決めようと考えてたのかもしれませんけど。

青木は、アキレス腱固めでバキバキ音がしたって言ってましたが、そのあとパウンドを何発も食らったときは、正直、タオルを握りましたね。もう少しもらったら危なかったです。

そのあと青木のバックマウントからのフェイスロックでカルバンの気持ちが折れかけたと思いましたね。カルバンは極まらないと思ったでしょうけど、それでも凄くイライラしただろうし、ペースを握られてる感じはあったと思いますよ。

最後は極めきれませんでしたが、途中でタップしてるようにも見えたんで僕は立ってアピールしたんですけどね（笑）。まあでも、冷静に考えて、青木に打撃は当たりにくいだろうと思ってました。青木は引き込めるし、下から蹴り上げも打てますからね。あの蹴り上げは、ポルトガル語で“ペダラーザ”（自転車のペダル）といって、脚が長い青木ならではの技ですけど、タイミングもよかったし、かなりヒットしてましたよね。JZはガードに入りたくなさそうでしたから、逆にガードに入れちゃえば、守ることしかできないだろうと思ってましたし。

それに、カルバンは、マルセロ・ガルシアとかとラバーガードの対策をしてきたって話を聞きましたけど、逆に研究してきてくれてよかったかな、と。

まあでも、青木が勝てたのは、いろんな強い選手が一緒に練習してくれたおかげだと思いますね。これからも応援よろしくお願いします【談】」

谷川貞治

K—1イベントプロデューサーにして自称・格闘技評論家

「青木選手は、前回までは試合らしい試合ができなくて、今回ようやく青木選手らしい試合が観れたんだけど、やっぱり、たいしたもんだなって思いましたね。

ホントに総合格闘技の型にはまったら強いっていう闘い方を凄く知ってるっていうか、できる選手だなって。

あとはカルバンのような強いガイジンに対して、日本人があああいうふうに勝つパターンっていうのが、観てて一番おもしろいし、格闘技界の未来を考えると凄く頼もしく思えました。

カルバンに対しては、ひとこと“ふがいない”（笑）。でも、いい薬になったんじゃないですかね。次の青木選手の試合に関しては、本人とDREAMのスタッフが決めることなんで、そのへんはお任せしてますけど、素晴らしい選手だなとあらためて思いました【談】」

DEEP代表にして青木の公開練習パートナー（?）

佐伯繁

「この1年ぐらい〝スーパー〟な青木の試合を観てなかったんで『ホントにコイツはスーパーなのか?』って最近は思うようになってたんだよ。『もしかしたら、普通の選手なんじゃないか』って。でも、今日の試合を観たら、やっぱ、〝スーパー〟だったなって、あらためて思ったわ!

近くで青木のことを見てきて思うのは、ホントにいまの状況とか体調で、よくあそこまでの試合ができたなって。実際、精神的には間違いなく不利だったと思うしね。結局、今回の青木はそういったものを、すべて怒りに変えて試合で出したような気がするんだわ。そういう意味で、無の境地になったことも勝因だと思うんだよな。大会前に俺と一緒に公開練習をやって座禅組ませたんだけど、俺が棒で叩いたことが精神的によかったんじゃないかな。ウシシシシ。

まあ、次の試合はどうなるかわかんないけど、またリングに上がるときは〝スーパー〟な青木を見せてもらいたいっていうのが自分の気持ちだね。まあ、その前に5・19のDEEPは絶対に観たほうがいいよ! 正直な話、DREAMにつながってくるから……（以下、DEEPの宣伝が延々と続くがやむなくカット）【談】」

5・11『DREAM・3』で主催者が希望する青木の対戦相手

永田克彦

「もう自分は、1ラウンドが終わった時点で、青木選手が優勢だったんで、2ラウンドからは、自分が青木選手と闘うことを前提にして試合を観てましたね。今回は青木選手の寝技のいい部分が全部出て、JZのいい部分を全部殺してたから。そのかたちになったら絶対にまずい、自分はそうさせないと思いました。

試合前、みんな『JZ有利』って言ってましたけど、自分はもともと五分だと思ってたんですよ。JZが得意なスタンドの打撃や、パウンドを打つときには、どうしても接近しなきゃいけないけど、組みついたときの青木選手は怖いですからね。JZはそれで、なかなか攻めていけなかったと思いますけど、僕はガンガン攻めていきたいですね。

ただ正直に言えば、（青木vsカルバン戦を観て）ちょっと悔しかったんですよ。やっぱり自分が日本人として初めてJZに勝ちたいって気持ちがあったんで。先を越されたなって。でも、逆に考えたら、〝JZを倒した男〟と闘えるっていうのは、これ以上ない最高の相手だし、これほど嬉しいことはないんで、GP2回戦では、最高の試合をしたいですね。

青木選手と闘うとなると、もしかしたらメインイベントになるかもしれないし。メインが終わって、お客さんによかったな、と思ってもらえる試合をしたいと思います。

あと今回の試合はリングサイドで兄貴（永田裕志）と一緒に観てたんですけど、TBSのカメラが僕らのことも撮ってたんで、煽りVの第2弾も僕自身、楽しみにしてますね（笑）【談】」

試合後の両者のコメント

「試合をやるときは、すべて出しきるという気持ちでやっているのでそういう意味では、いい試合だったと思う。敗因? いや、勝ったような気持ちだよ（笑）。（腕を極められそうな場面もあったが?）自分自身、柔軟性があるので極められるとは思わなかった。ただ、アオキは日本だけでなく、世界に通用するナンバーワンのグラップラーだと思うよ」

「3月の試合が終わって納得いかないことがいっぱいあったんだけど、いまこうやって笑顔でいられるのは、ここにいるスタッフや仲間のおかげだし、本当に感謝してます。いま、自分が幸せです。試合はやっぱり楽しくて、相手も凄く破壊力のあるパンチでした。楽しかった半面、どうなるんだろうという気持ちもありました。でも、最高です!」

カルバンのトレーナーにして通訳

マック高野

「まあ、いい試合をしてくれたのでよかったんじゃないですか。一応、本人はベストをつくしたみたいですし。作戦? JZはもう真のMMAファイターなんで、いつもコレっていう作戦は立ててないんですよ。そのときのフィーリングというか、シチュエーションというか。

（没収試合となった）3・15の試合後もとくに落ち込んだ様子はなかったですね。彼もああいうアクシデントは体験したことなかったですし、もうしょうがないという感じでした。今回は時間がない中でも調整はうまくいったみたいですよ。前回の試合後、1週間ぐらいブラジルに帰って休みをとって、そのあとまたすぐにフロリダのATTに戻ってトレーニングを始めたみたいですからね。

ま、とにかく彼は今回の試合はベストをつくしたので、彼としてはそんなにシチュエーション的にはやられたという気持ちはないみたいです【談】」

青木の練習仲間にしてDEEPウェルター級王者

長谷川秀彦

「青木は1ラウンドにカルバンのパウンドを食らったときは意識が飛んでましたね。試合後には顔が歯を抜いたみたいに腫れあがってましたよ。でも、彼は打撃を効かされても倒れないって試合前に決意表明するくらいの意気込みだったんで大丈夫だろうとは思ってました。まぁ、観てる側としてはヒヤヒヤしましたけどね（苦笑）。

1ラウンドで距離感がつかめたのか、2ラウンドは少し落ち着いた感じでした。青木は打撃もうまいんで、わりとカルバンも警戒してたんじゃないですかね。カルバンはグラウンドに持ち込まれたらヤバいと思ったのか、踏み込んだ打撃ができなかったように感じました。勝因としては相手の土俵で闘わずに、自分の強いところできっちり勝負できたからだと思います。三度目の正直ということもあってか、青木は殺気も凄かったですし。

次の試合は5月11日ってことですけど、頭をしこたま打たれてるし、医師の判断次第ですけど止めたほうがいいんじゃないですかね。選手の立場から考えても、練習仲間としても無理に頑張ってほしくはないですね【談】」

青木の練習仲間にしてDEEPフェザー級王者

今成正和

「（青木選手の完勝だったと思うが予想どおり?）予想はできなかったですけど、そうあってほしいなっていうのは思ってましたね。まあ、勝ってあたりまえでないと、いつも練習でやられてる立場がないんで（苦笑）。

次の試合はどうなるかわかりませんけど、（トーナメントで勝ち上がった選手に比べて）だいぶ差があるんじゃないですかね。でもホント、カッコよかった

し、青木氏は最高のスペルマンだと思いましたね【談】

青木正

「余分なことすんな！」でおなじみの青木の名物オヤジ

「試合後、真也はリングサイドにいた俺のところに来てくれたのはいいんだけど、汗だらけで抱きつかれて『オイオイ、ちょっと！』って感じだったね（笑）。結果はあとで周りの人に聞いたら圧倒的だっていう話でしたけど、自分の子どもがやってる話なんで、2割3割、割り引いて観ているもんですから、どうなのかなという感じは持ってたんですよ。まあ、負けはないなっていうような感触でしたけど。

でも、試合後に盛り上がってたのには驚きましたね。俺は一番前で観させてもらったので、自分一人で喜んでたのかなと思って、うしろを振り返ったら、うしろからの声で前に飛び出ちゃうぐらいの感じだったもんで、こりゃあ凄いなあって思って。

試合後なんて声をかけたかって？まあ、『ご苦労さま』っていうだけですよ。

まあでも、今回頑張ってくれたということで真也も一つ上のところへ行ったんじゃないですか。まあ、100円高ってところかな（笑）。いや、このあいだの試合は100円安だったから、今回はストップ高だな、ストップ高！

『kamipro』さんには、いつも息子のこと取り上げてもらって、ついでに俺も何回か出せさてもらってますけど（笑）、また次の試合が決まったら、アイツのこと応援してやってください【談】

スコット・ピーターソン

アメリカの格闘技情報WEBサイト『MMAウィークリー』主宰

「前の試合を観てたから、ボクはカルバンが勝つと思ってたんだけど、今回はアオキが試合をコントロールしていたし、彼はとてもスマートに闘っていたね。逆にカルバンはアオキのゲームプランの中で闘うべきじゃなかった。アオキがカルバンのゲームプランを圧倒していたってことだね。カルバンは、アオキがグラウンドにいるとき、何度もグラウンドの試合に付き合っていたし、なぜ彼がそうしたのかボクにはわからない。アオキは粘っこくて厄介だから、スマートな作戦とは言えなかったんじゃないかな。

今回の試合でアオキは、彼が最高の柔術ファイターであることを見せつけたと思う。彼は、現時点でMMAの中で最高の柔術マスターだろうね。だけど、ホナウド・ジャカレイの試合を観たら、彼が今後ハイレベルな相手と何試合かしたら、アオキのレベルにまでいくポテンシャルを持っているとも感じた。まあ、それは試合を観てみないとわからないけどね。なんにせよ、アオキはクレイジーグッドだよ！

アオキと闘ってほしい選手？やっぱりBJペンだね！もちろんライト級で。アオキの力が最大限に発揮できる71～72キログラいがいいな。選手によってはリングからケージへの適応がうまくいかなくて、苦しむ場合もあるけど、アオキはケージの中でもうまく適応できると思うしね。グラウンド&パウンドの強いショーン・シャーク（元UFCライト級王者）が相手でも、アオキなら、うまく闘えるはずさ！【談】

長谷川匡紀

公武道社長にして青木の全権代理人

「青木が今回の試合前に独り言みたいに『今日までのことを絶対に糧にするんだ』って繰り返してたのが僕の胸に凄く染みてるんですけど、しんどい思いをした期間を青木もよく辛抱したと思うし、よく結果を出してくれたなと思いますね。

まあ、今回の試合まで紆余曲折があって、いろんなプレッシャーもあったし、批判の声もありましたけど、逆に言えば、それを乗り越えた青木は半年前よりも、いろんな意味で絶対に大きくなってると思うんで、それに関しては、カッコよすぎますけど（笑）、ホントに〝試練に感謝〟って感じですね。

あとはJZという相手も、ただ単に勝った負けたじゃない部分も含めて、時代というか、このタイミングにいてくれてよかったなと思いましたね。でも、あらためて青木は化け物だと思いました（笑）【談】

佐藤大輔

煽りVアーティストにして青木のビッグスクーター同乗者（？）

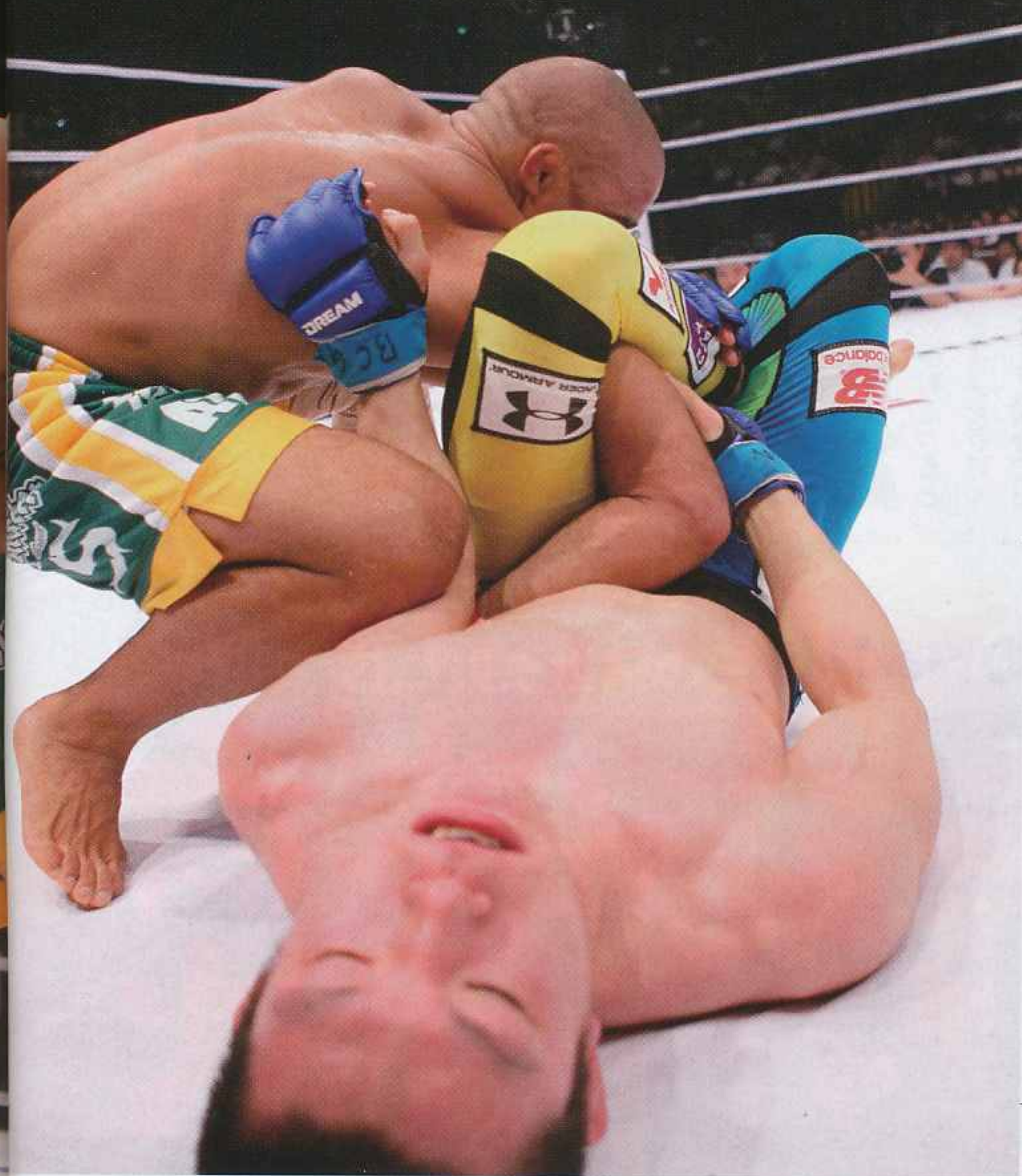
「（青木vsカルバンは）リングサイドの一番近い位置で観てたんですけど『DREAMだ！』と思いました。これがDREAMなんだ、と。ハイレベルでちょっと未来の格闘技を観ている感じ。こういう試合を地上波で放送して、『おもしろいスポーツだな』と思ってほしいですね。そうして広いファンを捕まえられたらいいなって。ようやく新しいものが見せられたって。

僕は試合前から青木真也のことをずっと追ってたんですけど、練習を見ても凄く吹っ切れた感じでした。大晦日も3月も硬かったのが、2回も試合が流れたことで、ヤケクソ的に吹っ切れたのがよかったんじゃないかな。だから、へんに背負った部分がなくて、『カルバン殺す！』っていうだけの、いつもの青木モードでいられたんじゃないかなって。

今回はホントによかった。だけど、これからが勝負ですからね。『調子に乗るなよ』とだけは言っておきます（笑）【談】

須藤元気

DREAM解説者にしてマルチタレント

「（判定で青木の勝利が告げられると興奮気味に）青木選手、やりましたね、ホントに。やはり、この寝技の技術は突出してますね。本当に凄いなあ。細かいところのディテールまでこだわってやってるのが、試合を観て伝わりましたね【PPV解説より】

寝技が好きでやってるようなヤツには、もう、たまらない試合だったでしょうね

DREAM解説者 髙阪剛が語る 青木vsカルバン

旗揚げ戦に続き、4.29『DREAM.2』でも須藤元気とともに解説を務めた“世界のTK”こと高阪剛。大会前には青木ともスパーリングを行ない、我々と同様、この一戦に大注目していたというTKを大会直後に直撃! 大熱戦となった三度目の青木vsカルバン戦の注目ポイントを徹底解剖してもらいました!

構成／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

いや〜、ホントにいい試合でしたねぇ……（しみじみと）。

今回の青木vsカルバン戦で大きなポイントになるのは、まずはカルバンのほうが自分からテイクダウンを取りに行ったことですね。カルバンはテイクダウン狙いの前にパンチも何発か出してたんですけど、3月の試合のときとは、距離とかパンチの伸ばし方も明らかに違ってましたね。完全に当てに行くパンチを出しながらも、組みに行ったりして、かなりやる気だなっていうのが、その時点でわかりましたね。

カルバンにしてみれば、テイクダウンして、そこからパウンドを連発するっていうのは頭の中にあったんだろうけど、予想以上に青木の寝技のねちっこさというか、イヤらしさっていうのを感じたと思うんですよ。

一回、青木はポジションを捨てながらアキレス（腱固め）を極めかけましたけど、カルバンにしてみたら、あの場面は取られながらも攻めるチャンスでもあるんですよね。実際、あそこからのパウンドカカト落としで青木は相当、ダメージを受けてましたし。

いま言った部分も含めて、この前の試合と明らかに違うのは、お互いに“ガッチリやろう”としてたところですね。距離を測ってとか、相手を誘い出してとか、そういうのはなく、お互いに“やってやろう”っていう気持ちが全開で。だからこそ、あそこまで、いい試合になったんだと思いますね。

青木が一番危なかったのは、さっきも言いましたけど、足関のあとのパウンドを食らった場面だと思うんですけど、あれはヒヤッとしました。一発、カカト蹴りが脇腹にガーンって入ってましたし。

やっぱり足関節っていうのはギャンブルなんで、取りに行こうとすると相手の攻撃も受けますからね。でも、それを耐えてしのげたっていうのも、青木の“取りに行くんだ！”っていう気持ちが凄く強かったからだろうし、あとは“絶対に取れる”っていう自信もあったと思うんですよ。

もう一つのポイントとしては、青木がスタンドでバックマウントになって、足を4の字ロックにした場面ですね。あれは青木の得意パターンなんですけど、バックマウントから今回、桜庭さんがナカハラ選手に出したかたちと同じようなフェイスロックを出したんですよ。あれなんかも相当痛いと思いますよ（笑）。自分もちょっと前に青木とスパーリングをしてみてわかったんですけど、青木って技術はもちろんのこと、絞る力が凄く強いんですよ。それで、腕が細くて長いじゃないですか。あの体型っていうのは、寝技に抜群に向いてる体型だなって、あらためて思いましたね。

最後も、しつこくラバーガードを使いつつ、足をからめてのストレートアームバーが極まりかけたじゃないですか。そのあと、技が解けてから、カルバンは（利き腕の）右のパンチを一発も出してなかったんで、よっぽど腕が伸びちゃってたんでしょうね。だから、カカト落としとパウンドを食らった以外は、青木がほぼ完封した試合だと思います。

カルバンも開始早々の寝技の攻防で、「このねちっこさはイヤだなぁ」って絶対感じてたと思うんで。だけど、それでも引かずによく攻めていったと思いますけどね。ホントに技というよりも、お互いの勝負に懸ける気持ちが噛み合ってたっていうか。そういう部分も込みで、今回の青木vsカルバン戦っていうのは、寝技が好きでやってるようなヤツにしてみたら、もう、たまらない試合だったんじゃないですかね（笑）。

青木は、カルバン戦の前にもPRIDEが消滅したり、ホント精神的にもいろいろツライことがあったと思うんですけど、結果的にはそれを乗り越えて『HERO'S』ミドル級二連覇のカルバンに完勝したわけじゃないですか。次の試合に出られるのかどうかは自分はわからないですけど、もし青木が今回のトーナメントで優勝したら、ホントに「俺はこの階級、世界一だ！」って言っていいと思いますね。

……とは言っても、自分も選手の気持ちもわかるんで、ちょっと休ませてあげたいなぁっていうのが正直なところですけどね【談】。

何がどうなっているのかわからないぐらい複雑な寝技を次々と披露した青木。TKも「青木の技術とかメチャメチャ濃く解説もしたいけど、地上波もあるんで、そのせめぎ合いが難しい（笑）」と頭を悩ませていた。

本文中でTKが語っているとおり、実際に青木を肌を合わせて驚いたのは技術はもちろんのこと、その“絞る力”だという。写真の前腕部を口の中に押し込むフェイスロックもカルバンでなければタップ必至だ！

このトーナメントで優勝できたら「俺は世界一だ」って言っていいと思う

秋山成勲の欠場はミドル級GPに何をもたらしたのか？

魔王がいない夜に

魔王が来なくて……ミドル級GP開催!! 大会開催直前、秋山成勲が練習中の負傷によってまさかの欠場！ 今回のGPでは"陰の主人公"と目されていた秋山だけに、そのニュースはアンチ秋山ファンにも大きな衝撃を与えたのである。そして肝心のGP、秋山のいない夜はどう見えたのか——？

DREAMミドル級グランプリが、いよいよ開幕した。数々のドラマを内包しているせいか、いわゆる〝最強決定戦〟とはまた違った色彩を放つこの大会。その主軸と考えられていた〝魔王〟秋山成勲の不在は、いったいどのような影響をおよぼしたのか？　4・29『DREAM・2』の焦点は、ここにこそあった。

大会開始前のルール説明において「クリームなどの塗布禁止」がアナウンスされると、またしても拍手喝采が巻き起こった。これは『DREAM・1』とまったく同じ流れであり、言うまでもなく秋山の〝ヌルヌル事件〟にかこつけた皮肉だ。このやりとりは今後、島田裕二レフェリーへのブーイングのような〝定番〟と化すのだろうか？　秋山憎しのファンによって、逆に秋山の存在感が高められている。そう感じた。

グランプリの口火を切ったのは、〝超人〟ミノワマンvs〝リアルパッチギ〟金泰泳戦。金泰泳は『HERO'S』時代に秋山と対戦しており、ミスジャッジによる不本意な敗北を喫したという因縁がある。あまりにも秋山とは対照的なキャラクターを持つミノワマンもまた、魔王討伐を強く望まれた選手の一人だ。二人の闘いはまったく噛み合わないまま終わったが、それぞれが〝対秋山〟という視点からは充分な物語を描ける選手であっただけに、どうにも〝もったいなさ〟が残ってしまう。早くも表われはじめた〝魔王不在〟の影響である。

続いて登場したユン・ドンシクは、〝韓国〟あるいは〝柔道〟という共通ワードから、イメージ的にどうしても秋山と切り離せない選手だ。試合では大山峻護を終始圧倒し、貫禄の判定勝ちを収めたユン。だが最も客席が沸いたのは、来場していた秋山がモニターに映った瞬間であったのだから皮肉なものだ。対戦相手や観客席と同時に〝魔王の影〟をも意識して闘わねばならない選手たちの苦悩が、ここにきてようやく浮き彫りとなった。

この後はいわばミドル級物語の〝外伝〟である外国人対決が続き、そのすべてが一本決着という好展開を見せる。会場もいよいよ温まり、本筋となる〝UWF物語〟への期待も高まってゆく。はたしてUWFの美しきドラマは、魔王の〝黒き影〟から観客を解き放つことができるのか？　恍惚と不安、二つ我々にあり。田村潔司と船木誠勝の試合は、そのような視点から観ることになる。

欠場会見では、来場しないことをにおわせていた魔王だが、当日はリングサイドでしっかり観戦。あいかわらずの魔王ファッション。リング上からの欠場挨拶すら求められないこの個性って、恐るべしだ！

UWFを残したい田村と、UWFを清算したい船木。その想いの差を明確に描きながらも、二人の存在を結ぶ〝線〟として前田日明を大きくフィーチャーし、それぞれの物語をセピア色にまとめた煽りVは出色の出来であった。

結果はやはりというべきか、田村の圧勝に終わる。大きな物語に決着がついたようでもあり、やりきれぬ結果のようでもある、なんともいえない余韻を感じさせてくれた試合であった。

しかし、なんと、このわずか57秒の深い深いドラマののち、モニターには「なんなの、これ？」とでも言わんばかりの秋山の表情が映し出されたのだ！　どよめく観衆。予想どおりといえばそうなのだが、二人の物語を秋山がまったく理解しなかったことは明白だ。〝黒き男〟の怪物的な暗黒性が、またしても露呈した一幕であった。

そして〝魔王〟の放つ暗黒瘴気を、この日、最も正面から受けてしまったのは、やはりメインを務めた桜庭和志であったろう。煽りVは桜庭の物語が終盤にさしかかっていることを切実に訴えるものだったが、そこに何度も挿入される秋山戦の凄惨な映像は、桜庭に対して「やり残していることがあるんじゃないのか？」と問いかけているようでもあった。

寸劇的な映像をはさみ、例のマスクマン軍団を結成して入場してきた桜庭。これはPRIDE時代を彷彿とさせるパフォーマンスであり、桜庭和志がさいたまスーパーアリーナに帰ってきたことをあらためて観客にアピールする粋な演出だ。もちろん声援をもって迎えられたが、個人的にはこれに少なからず違和感を覚えてしまったのである。

いま桜庭に最も求められているのは、はたしてこういったサービス精神なのだろうか？

対戦相手のアンドリュース・ナカハラは、純粋な極真空手家とは思えないほどMMAに適応した選手であった。しかし、組み伏せてしまえばIQレスラーの本領発揮、快勝をものにした桜庭だったが、危ない場面も少なからずあった。苦しんだわりにはカタルシスのない、桜庭にとっては厳しい勝利である。しかし、このような〝損〟をもあえて受け入れ、常に前へ前へと進んできた桜庭だからこそ、圧倒的に支持されている現在がある。

そんな彼の〝終章〟に巨大なしこりとして鎮座ましましている〝魔王〟が、闘いの場に不在であるという事実。それは桜庭を見守る者の中で、徐々に違和感として育ってゆくような気がしてならない。やはり桜庭は、もっとはっきり秋山と対峙すべきなのかもしれない。そのことを再認識させられた一戦であった。

こうしてグランプリ開幕戦を振り返ってみると、印象に残ったのは〝秋山不在の影響〟というよりも、むしろ〝不在でもなお失なわれぬ秋山の存在感〟だ。〝黒の力〟によって汚された、本筋の主人公であるべき選手たちへの違和感。この日、最も輝いた外国人選手、ホナウド・ジャカレイのようなニュースターに対する「秋山とどっちが強いのか？」という興味。やはりどこかで、秋山の存在を意識しながら試合を観てしまっている。

演出側もそのことがわかっているからこそ、たびたびモニターに秋山の姿を映し出していたのではないか。その適切なタイミングと表情選出は、あらゆる場面で効果的なアクセントになっていた。やはり秋山はDREAMの〝裏主人公〟なのだ。今後もわれわれは、あのルール説明時の〝儀式〟のたびに、そのことを実感し直してゆくのかもしれない。　（田中太陽）

57秒に凝縮された20年間——

一瞬のUWF

田村潔司vs船木誠勝

88年5月12日、後楽園ホールで旗揚げした新生UWF。このハード、ソフトの両面で、その後の総合格闘技の礎となった伝説の団体で、同じ時をすごした田村潔司と船木誠勝が、旗揚げ丸20年後となる今年、4・29『DREAM・2』で初めて相対した。はたして、そこにUWFは立ち上ったのか？　そしてUWFとは何だったのか？

構成／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

「過去にこだわらず、新しい価値観を追求したい」

DREAM旗揚げ時、笹原圭一イベントプロデューサーは、そう宣言した。

そんな中で組まれた〝レジェンド〟同士によるUWF対決は、DREAMのコンセプトの真逆ではないのか、と感じる人もいることだろう。

しかし、ある意味でいえば、この一戦ほどDREAMの理念と符合する試合もない。

なぜなら、かつてのUWFこそがまさに〝新しい価値観を作り上げる運動体〟であったからだ——。

田村と船木の入場前、佐藤大輔氏入魂の煽りVが流れる。この映像の中で、UWFの長たる前田日明は、UWF時代、船木誠勝に「真剣勝負の格闘技をやりたい」と直訴されたとき、「5年待ってくれ」と答えたことを正直に告白した。

プロレスとは違う、総合格闘技というマーケットを成立させるための過渡期だったUWF。まさに、新しい価値観を創造するために、様々な葛藤、衝突があった。

だからこそDREAMという新しい舞台で組まれた船木誠勝と田村潔司戦は、過去を懐古する闘いではない。プロレスから総合格闘技へ。新しい価値観を求めたUWFを、二人の20年間を通して確かめる一戦なのである。

最初に入場したのは船木誠勝。続いて田村潔司入場。テーマ曲はいつもの『FLAME OF MIND』。いつもと同じ曲なのに、田村のこの曲、対戦相手によって違って聴こえるから不思議だ。

リングに上がった田村は、いつものように四方に礼。そして、いつものように相

手を睨みつけるが、いつもよりほんの数秒、長く船木を睨みつける。このほんの数秒間の違いに意味がある。

かつての後輩、田村からリング上で睨みつけられた船木は、「わかった」とでも言いたげな表情。田村の思いを船木も無言で受け取った。

船木のセコンドには、パンクラス時代の盟友、山田学とともに、打撃のコーチでもある前田憲作がつく。対する田村には上山龍紀、中村大介のU-FILE勢のほかに、なんと立嶋篤史がついた。

立嶋と前田。K-1 MAXが誕生する10年近く前にキックボクシング界をおおいに沸かせたかつての宿敵同士が、いま田村と船木のセコンドとして両コーナーに分かれている。もちろん立嶋は、前田を意識してセコンドについたわけではないが、なんという巡り合わせか。ここにも格闘技界の歴史を感じずにはいられない。

そしてゴング。

船木の右フック、左ストレートの鋭さにどよめきが起こる。さらに中間距離では、まっすぐに蹴り上げるハイキックが田村のアゴをかすめる。

昨年、大晦日の桜庭戦では慎重になりすぎて、何も仕掛けぬまま試合が終わってしまったことを悔やんだ船木。この日は、攻める気持ちがおおいに感じられた。

完全に倒しにきた船木に対し、田村の顔色も変わる。接近戦を挑み、首相撲からのヒザ蹴り。さらにダン・ヘンダーソンのようなクリンチをしながらのアッパーとフックの連打で、船木の動きを完全に止めた。

この近い距離からの打撃こそ、田村がこ数年、とくに取り組んでいる攻撃。スパーリング・パートナーの中村大介は言う。

「あの動きは、ずっと練習してる動きで、組みついた状態でいかに打撃を入れるかという練習をいつも行なっています。レスリングとパンチ、レスリングとヒザを組み合わせた攻撃。そして相手が嫌がって離れたらミドルキック。それが、いまの田村さんのスタイルですね」

田村はUWFスタイルにのみ固執しているわけではない。クリンチアッパーのダメージが見える船木を、田村は内側から足をかけて浴びせ倒す。その勢いで後頭部を打った船木の顔面に、容赦なく鉄槌を撃ち落とす。そして、船木の意識が飛んだのを確認すると、自らレフェリーにKOにストップをアピールした。

田村潔司、船木誠勝にKO勝ち。

時間にして、わずか57秒。

1分にも満たない短い試合時間であったが、この試合を凝視した観客、そして何より闘ったリング上の二人にとってまったく短さを感じない、凝縮された時間だったに違いない。

「1年間が5年間に感じるほど長く凝縮された時間だった」

田村は新生UWFですごした時代をそう表現する。

田村が言うように第二次UWFが活動していた期間はわずかに2年半。しかし、そのわずか2年半が、のちの格闘技界に大きく影響を与えたのは、間違いない。

少なくとも田村潔司は、そのわずかな期間で抱いた理想をその後のプロレスラー生活でひたすら追いかけ続けた。

船木誠勝は、そのUWFで満たされぬ思いを抱いて、生き急ぐかのように、自らの信念に向かって走っていった。

そんなお互いの思いを確かめ合ったこの一戦。57秒の中にその思いが詰まっていた。

試合内容はUWFらしいグラウンドでの動きのある攻防や、シーソーゲームにはならなかった。勝負を決めたのは、スタンドでの顔面パンチと、グラウンドでのパウンドという、UWFにはなかった要素。

しかし、逆にかつてのUWFとは、かけ離れた試合になったことに意味がある。

なぜならUWFというのは試合スタイルのことではなく、強さを求め、真剣勝負を求めた運動体だったはずだからだ。

試合スタイルがUとかけ離れたのは、彼らがUの精神を持ち続けた証明である。

かつてUWFという狂った季節を経験した二人。

ただ強さを求め、理想を求めた日々。

あれから20年の月日が経った。もう青春の日々はとうの昔に過ぎ去った。

だが、彼らはいまも強さを追い求め、リングに上がっている。その精神こそがUWF。

一瞬にして終わったUWF対決。しかし、彼らのが若き日に抱いたUの精神は、いまもまだ生き続けている。

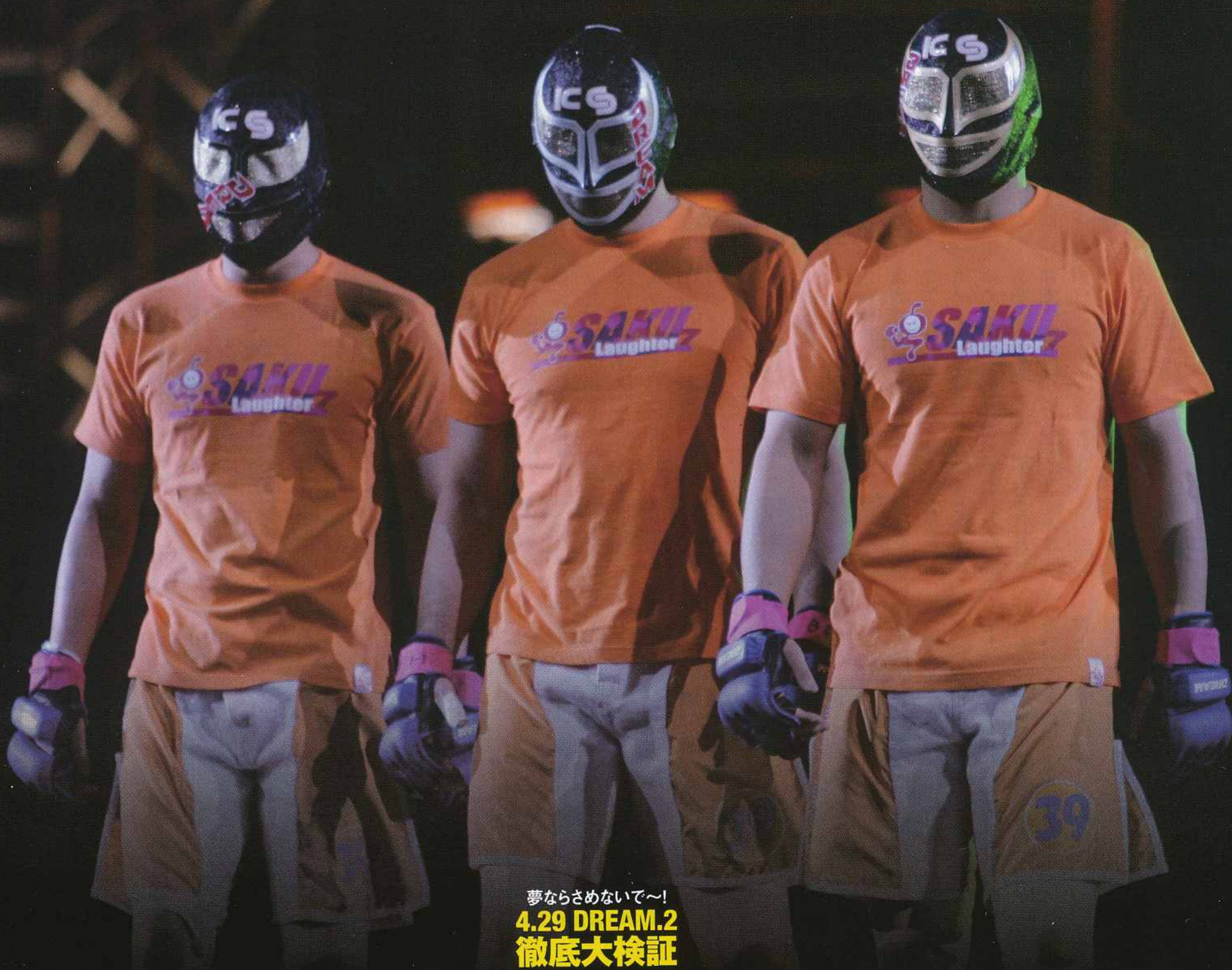
一瞬のUWF

田村潔司vs船木誠勝

[4.29 DREAM.3]
さいたまスーパーアリーナ

○田村潔司 vs 船木誠勝×
(1R 0分57秒 TKO)

序盤から鋭いパンチ、ハイキックで積極的に攻める船木だったが、田村の首相撲からのヒザとクリンチアッパーに動きが止まる。田村はそこで船木を浴びせ倒すと、鉄槌の連打でKO! 20年近い時を経た初対決は、57秒で決着をみた。

うわ〜ん、うわ〜ん、夢の続きがやっと見れたよ〜!

夢ならさめないで〜!
4.29 DREAM.2
徹底大検証

DREAM
『夢のはじまり』座談会

波乱の船出となった『DREAM.1』とは打って変わり、
青木真也の劇的勝利に好勝負揃いのミドル級GPと、おおいに盛り上がった『DREAM.2』!
ようやく夢の続きを見せてくれたこの舞台に広がる魅力、
可能性を大会終了直後に語りつくしちゃいました! 夢なら〜? さめないで〜ッ!

試合写真／乾普也

青木は次戦に出てこそ並の選手とワンランク差をつけるチャンス

——本誌の表紙にしたのにミドル級GPに出場しないなんて……魔王のバカヤロー！（DREAMのナレーション口調）。という愚痴は置いといて、DREAMマニアのお二人にお越しいただきました。
井上　2大会しかやってないのにもうマニア扱いなんだ（笑）。
ガンツ　いや、マニアもマニアですよ。2ちゃんねるではDREAMのマッチメイクは僕がやってることになってるみたいですから（笑）。
井上　え、そうなの⁉
ガンツ　今回の『DREAM・2』も「ガンツのわりにはいいカード組む」とか言われてるらしいです（笑）。
——ちょっとフランク・トリッグの件はどーなってるんですか⁉　あとなんですか、あのイアン・マーフィーは！（笑）。
ガンツ　いやあ、すいません（笑）。
井上　まあ、〝マッチメイカー〟のガンツくんに言いたいのは、遅ればせながら「旗揚げおめでとうございます」ってことですよね。
ガンツ　ようやくいいスタートが切れたというか。『DREAM・1』はボロボロだったけど、さすがDREAMだけに、早くもリフォームに成功したというか（笑）。
——♪住み慣れた、我が家に〜、って、それは吉幾三の『Dream』！（笑）。
ガンツ　まあ、やっといい夢見れたって感じですよね。だけど、第1試合が終わって、第2試合から前半ぐらいにリアルに夢見ちゃってる人が客席にチラホラいたのがちょっと心配だったけど（笑）。
——え？　ターザン山本さんはお亡くなりになったはずじゃ……。
ガンツ　まだ生きてるよ！　でも、今回はDREAMがあったことすら知らないと思うけど（笑）。まあ、大会通して非常によかったと思います！
——第1試合の青木（真也）vs（JZ）カルバンは今大会では一番勝負論がありましたね。なんで第1試合だったかといえば、これが終わらないと『DREAM・2』が始まらないということなんでしょうけど。
井上　第1試合っていうのがよかったね〜。いきなりケリつけるっていう。
——確かに会場に入るときに「あ、すぐ青木vsカルバン戦始まるんだ」って思ったら、ちょっとゾクッとしましたよね。普通はだんだんと〝日常〟から〝非日常〟の空間に慣れていくものなのにいきなりですから。
井上　桜庭（和志）vsホイス（・グレイシー）戦も第2試合だったんだよね。第1試合が（ゲーリー・）グッドリッジvs（イゴール・）ボブチャンチン戦で。あの日も第2試合でクライマックスがきて「ああ、ちょっとまだ心の準備が……」みたいな。あれをちょっと思い出しましたけど。
ガンツ　それとかミルコ（・クロコップ）vs（ヴァンダレイ・）シウバ戦とか。まあ、そういうときは大抵最初に爆発して、あとは●●●●の試合なかでクールダウンするんだけど（笑）。
井上　でも、第1試合からあんなに緊張感のある試合というか、終わった時点でいったん果てちゃうっていうのはなかなかないよね。

昨年大晦日以来続いた因縁の両者による決着戦。青木はラバーガードでカルバンを捕らえると、身体をズラしてカルバンの右腕をオモプラッタふうに捕獲！　この流れるような動きに場内は大興奮！

——今日はもうこれで終わりでいいんじゃないかぐらいの。
ガンツ　正直言うと試合前の予想では、カルバン優勢の声が多かったじゃないですか。だから、試合前は逆の意味で第1試合が終わったら帰りたくなるんじゃないか、と心配してたんだけど。というか、青木がカルバンに負けてたらライト級GPを中止してほしいと思ったよ（笑）。
一同　ガハハハハ！
ガンツ　でも、フタを開けたら、青木の強さと頑張りに「どうもすいませんでした！」みたいな感じでしたね。
——ホントね、青木真也を一番取材している『kamipro』が青木の強さを一番信じてなかったんじゃないかって（笑）。
ガンツ　でも、カルバンが思った以上に青木の関節技を警戒していたというか、〝青木幻想〟を持ってた気がしたね。逆に青木はカルバンの打撃にビビらず組んでいけたのがよかった。
井上　途中、永田克彦が何度も場内ビジョンに映ったんだよね。「あれ？なんで永田を映すのかな？」って思ったら、2回戦で当たる予定だったんだね。それをすっかり忘れちゃうぐらいトーナメント戦として観てなかったってことなんだけど。
ガンツ　いうなれば青木vsカルバンは永田さんへの挑戦権を懸けた試合っていう（笑）。
——今回、試合中に映像に抜かれた人がたくさんいたんですけど、永田さんが抜かれると自然と笑みがこぼれちゃいますよね（笑）。
ガンツ　緊張と緩和で（笑）。
——見事に勝利を収めた青木ですけど、けっこう打たれたんで次戦は出れないという話もありますね。
井上　青木は出ますよ！
——出ますか！
ガンツ　そこで出てこそ、並の選手とワンランク差がつくチャンスでしょ。これは本当に。桜庭和志だって、ホイス・グレイシーと90分間闘ったあと、イゴール・ボブチャンチン戦に出てきたからこそ、飛び抜けた存在になれたとも言えるし。これは青木真也本人には申し訳ないけど、彼のためにも、格闘技界のためにも、勝手なこと言わせてもらいたい。そこはもうバカになってほしいね。
井上　バカサバイバーよ、「バカになれ、夢を持て！」って感じだね（笑）。
ガンツ　青木はまだ底がわからないというか、どこまで強いかわからないからおもしろいね。
——あと今回をPRIDEの続きって考えれば、なかなか日本人が勝って気持ちよく帰れるケースってなかったですよね。
井上　ウチらも日本人がここまで強いってパターンに慣れてないよね（笑）。
——慣れてません。だから青木に「ほめてくださいよ！」って言われても、

座談会出席者

井上崇宏
有限会社ベールワンズ総帥。本誌好評企画・変態座談会の一員にして、〝座談会の鬼〟の異名を誇り、鈴木みのるばりにあちこちの席に出没する。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファンでならし、『週プロ』の『プレッシャー』会員という恥ずかしい過去を持つ。変態座談会主催者。

[司会]ジャン斉藤
本誌編集長。〝雀鬼〟桜井章一の内弟子を経て『Kamipro』編集部へ。永久電機など、アントニオ猪木の怪しげな事業の調査をライフワークとする。

携帯サイト『kamipro Hand』緊急アンケート

『DREAM.2』を Do The Judge!?

大会終了後から24時間の期間限定でアンケートを実施。

［有効投票数］ 1,038票

Q1 この大会をどんなかたちでご覧になりましたか？

会場で観た 44%
PPVで観た 56%

今大会は即日に地上波で放送された『DREAM.1』とは異なり、当日放送はPPVのみ。会場、PPV観戦ともに満足度は80パーセント超えと高く、これは大試合内容もさることながら前回の地上波で余儀なく変更を加えられてしまった佐藤大輔氏の煽り映像をそのまま楽しむことができたのも要因と考えられる。

会場観戦　不満 18%　満足 82%

PPV観戦　不満 16%　満足 84%

Q2 今大会のベストバウトは？

順位	試合	票数
1位	青木真也 vs J.Z.カルバン	732票
2位	田村潔司 vs 船木誠勝	104票
3位	ホナウド・ジャカレイ vs イアン・マーフィー	83票
4位	桜庭和志 vs アンドリュース・ナカハラ	78票
5位	デニス・カーン vs ゲガール・ムサシ	49票
6位	ミノワマン vs 金泰泳	28票
7位	ゼルグ"弁慶"ガレシック vs マゴメド・スルタンアクメドフ	12票
8位	ユン・ドンシク vs 大山峻護	8票

圧倒的1位となったのはやはり下馬評を覆して青木が涙の激勝を飾った第1試合！ 大会のつかみとしてこれ以上のものはないというくらいの熱を会場に生み出した。続いて2位はUの歴史を浮き彫りにする煽り映像がいやがおうにも試合への期待を高めた船木vs田村。3位に食い込んだのは鮮烈なMMA日本デビューをはたしたジャカレイの一戦。

Q3 今大会のワーストバウトは？

順位	試合	票数
1位	ユン・ドンシク vs 大山峻護	354票
2位	ミノワマン vs 金泰泳	313票
3位	田村潔司 vs 船木誠勝	210票
4位	桜庭和志 vs アンドリュース・ナカハラ	123票
5位	デニス・カーン vs ゲガール・ムサシ	41票
6位	ゼルグ"弁慶"ガレシック vs マゴメド・スルタンアクメドフ	30票
7位	青木真也 vs J.Z.カルバン	18票
8位	ホナウド・ジャカレイ vs イアン・マーフィー	3票

不名誉な記録となってしまったのは両者ともに決め手に欠いたユンvs大山の一戦。試合前の大山の煽り映像では『オーラの泉』でおなじみの美輪明宏さんが登場して場内も盛り上がったのだが……。2位には場内人気は屈指でありながらも、金に封じ込められ決定的なチャンスを作れなかったミノワマンの試合がランクイン。

ほめ方がわかんないんですよ（笑）。日本人だけじゃなくても、いつも勝ってほしい選手ってコケ続けてきたじゃないですか。

ガンツ 『kamipro』がイチオシするような選手ね。この感覚は髙田vsヒクソン戦のときからスタートしてるようなもんで、もう負けそうだなと思ったら乗りたくなるっていう。

――今回の青木の置かれた立場も〝大逆境〟だし、「ああ、これってやられちゃいそうだよなあ……」っていうような危うい雰囲気で。それがまたたまらないんですけどねえ……。

ガンツ 入場してる青木の顔も本当に悲壮感が漂ってて。緊張や気合いの入りすぎで、自分でもどんな感情だかよくわかってないような感じで。それに比べてカルバンは陽気に歌いながら出てくるでしょ。「♪JZカルバン、JZカルバン♪」ってさ。

――「♪バ〜ンバンビ〜ガロ♪」ばりの（笑）。

ガンツ そうそう。「作詞・作曲／JZカルバン」じゃねえだろうなっていう（笑）。せっかくここまで来たんだし、青木には優勝してほしいね。カルバンを倒して終わりじゃないから。まだまだ満足してほしくない。

井上 しかし、青木の泣き上戸はシーザー武志ばりだよね（笑）。

――カルバン欠場会見で涙ぐんで、『やれんのか！』のオープニングで泣いて、試合後の控室で泣いて、『DREAM・1』でも泣いて。

ガンツ ニックネームも〝バカサバイバー〟から〝涙のカリスマ〟に変えたほうがいいかもしれない（笑）。

――革ジャン着たら大仁田というよりユウキロックっぽいですけど（笑）。

井上 ホント、彼は警察官にならなくてよかったね。泥棒捕まえるたびに泣いてたら仕事になんないよ（笑）。

――青木の話ばっかりしてますけど、この試合って今大会ではいわゆるボーナストラック的なところがあるじゃないですか。一番肝心なのはミドル級GPがどうだったのかっていう部分なんですけど。

井上 単純に試合はおもしろかったけどね。

――ただミドル級GP全体として興味があるかっていうと。このまま秋山が出ないのは致命傷になりかねないですよね。

井上 正直、いるといないじゃ大違いでしょ。

ガンツ 大会オープニング映像だって、秋山が大フィーチャーされてたじゃない。やっぱり、単なるトーナメントじゃなくて、誰が秋山を狩るんだっていうね。そういうふうに転がしていったほうが絶対おもしろいよ。主催者推薦枠っていうのはこういうときに使うもんじゃないの？ 興行的にもファン的にもみんなが観たいと思ってるんだから。

主催者推薦枠には秋山ほどふさわしい人もいないはず

井上 実際、HERO'Sのチャンピオンなんだしね。

ガンツ 主催者推薦枠にこれぐらいふさわしい人もいないと思うけどな。少なくともライト級GPの宇野薫よりふさわしいでしょ（笑）。

――現時点だと秋山は主催者推薦枠での出場は厳しそうですね。

ガンツ お願いしに行こうか？

井上 俺、手紙書きましょうか？

――榊原（信行・元DSE社長）さんばりに。大変ですよ、バラさんなんて「♪ハッピバースデー、タムちゃん！」って田村潔司の誕生日を祝ってまで口説いたんですから（笑）。

ガンツ カラオケボックスで秋山と一緒にはいたくないなあ。

――まあ、魔王の美声がたっぷり聴けそうですけど（笑）。で、今回って大会内容は悪くないのに、どうしても大会前のドタバタのせいでイマイチ乗りきれないところもありますよね。『戦極〜第一陣〜』、『DREAM・1』、『DREAM・2』と立て続けにビッグイベントが開催された中では今回が一番おもしろかったのに。

ガンツ だから、ちょっと苦言を呈すと、試合前にあれだけ熱が感じられないPRIDE系の大会は正直、初めてだった。第1試合に青木vsカルバンがあるにも関わらず、そうだ

昨年大晦日の三崎戦で負傷した左膝と鼻骨を再び痛め、ミドル級GP欠場となった秋山。会場ビジョンに映ると一瞬でブーイングが巻き起こるほどのヒール人気は唯一無二。魔王待望論は増すばかりだ！

ったから。年明けの三崎vs秋山のノーコンテストから続くドタバタ、ズンドコのおかげで、ファンは想像以上に冷めてる。だからここからDREAMは信用を作ってかなくちゃいけないわけで。それはいい試合を重ねることもそうだし、刺激的なものを与えることもそうだし、ズンドコな部分をなくすことも必要だし。

――PRIDE時代にもズンドコはありましたけど、熱狂がそれを打ち消してましたよね。

ガンツ でも、その熱のなさがオープニング映像が始まったらドカーンと吹っ飛んじゃって。すぐ第1試合が青木vsカルバン戦だったこともあって観客もスイッチが入ったよね。

井上 あとミドル級GPだと田村vs船木戦がよかったよね。

ガンツ 試合もそうですけど、煽りVを観て、ひさびさに前田日明をカッコいいと思った。闇組織のボスというか、『プロゴルファー猿』のミスターXみたいな感じで（笑）。

井上 「猿くん！」みたいな（笑）。田村vs船木戦の煽り映像はホントによかったね。

――あの煽り映像の何がいいかって、単純にUWF幻想の対決だっていうわけでもなく、ちゃんといまにつなげるかたちでいろんな角度から迫ってるのが素晴らしいですね。単にノスタルジーに浸ってるだけじゃない。だから長めのVだったけど、それを感じさせなくて。

井上 ホントね、あの姿勢は変態座談会も見習わないと。

一同 ガハハハハ！

井上 我々も内々でキャッキャ言ってるんじゃなくて、直接本人に会いに行って話を聞かないと。変態として襟を正したいと思いましたね（笑）。

ガンツ で、煽りVにはUWFの映像を取り入れてたけど、よく考えたらTBSは新生UWFの映像をたくさん持ってるんだよね。

井上 ああ、TBSだからか！けっこう観たことあるような映像だと思ったよ。なるほどね。

ガンツ TBSはドキュメンタリーとかでUWFを何度も追ってたから。

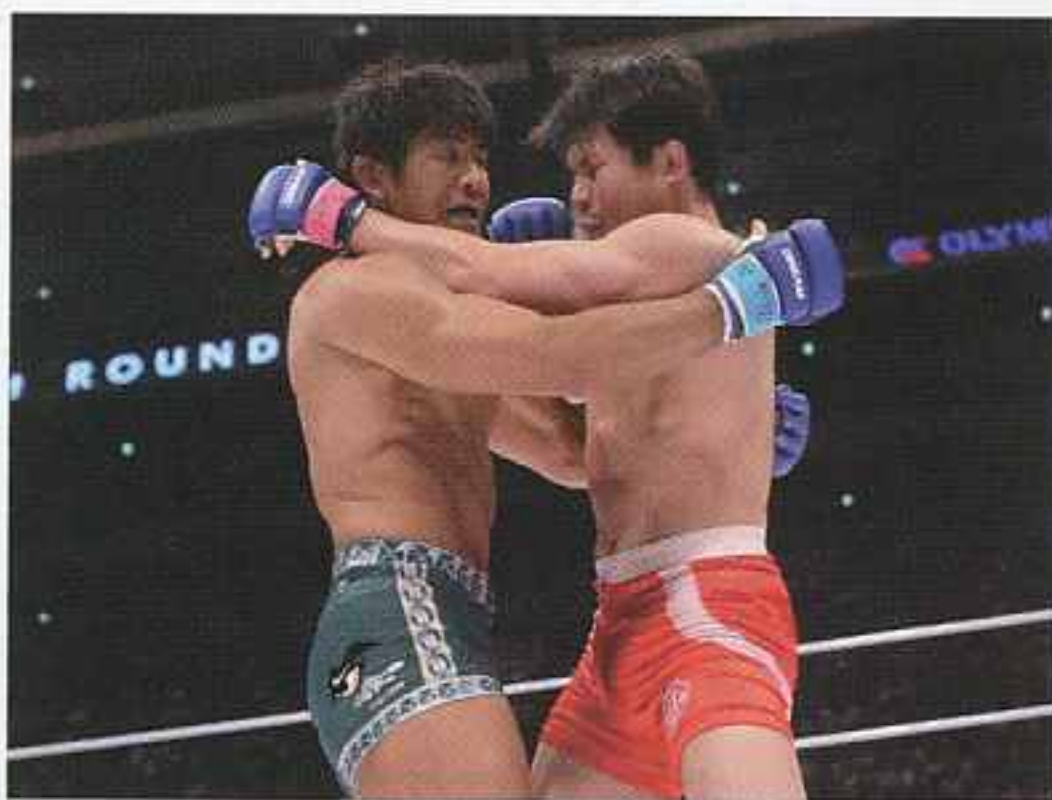
――あれは貴重ですよ。よく保存しておきましたよね。

井上 フジテレビはPRIDEの映像捨ててるのに（笑）。

ガンツ TBSは偉い！初めてTBSをほめたいと思います！（笑）。

――しかし、「ウチにはUWFの映像がある」って誰が言いだしたんですかね。今回のMVPモンですよ！

井上 MVPだよ！「佐藤（大輔）さん、じつはウチにいいのがあるんですよ」って耳打ちしたんだろうね（笑）。

――それを言った人は名乗り出てほしいですね。リング上のMVPが青

「UWF、ここに終結」という立木文彦のナレーションが印象的だった船木vs田村戦。接近戦の打ち合いを制した田村が船木をテイクダウン、さらに鉄槌連打でTKO勝利。衝撃的な幕切れに!

日本人は良くも悪くも体質的に不条理なものを受け入れてしまう

木ならリング下はその人です！勝手に表彰します（笑）。

井上 試合内容について、ガンツくんどうですか？

ガンツ あれは前田が「どちらかがカッコつけたらこれほどつまらない試合はない」って言ってましたけど、二人がカッコつけてなかったのがよかったですよね。田村はリングスで自身満々だった頃の「ぶっ潰しに行きます」ってときの顔つきだったし。

井上 うんうん。へんにカッコつけてなかったですよね。

ガンツ 船木もこの一戦に懸けてるっていうのが伝わってきて。あの煽り映像が効いたのか、UWFを源流とする二人の試合が、顔面パンチとパウンドというUWFにはない技で決まるっていうのが凄いよかったな。

井上 やっぱあの煽り映像でこの展開っていうのが素晴らしかった。

ガンツ だからUWFってスタイルじゃなくて、精神だと思うんだよな。そういった点で、20年経ったいまでも強さを求めてる田村も船木も、やっぱりUWFだったよ。そして試合後、負けた船木が手を振りながら凄い晴れ晴れとした表情で帰っていくんですよ。1分未満の短い中にちゃんと20年ぶんのドラマを感じましたね。

井上 船木いいでしょ？

ガンツ 僕も船木が好きになりましたよ。バス・ルッテン戦以来（笑）。

――単純な競技的なレベルが低い高いとかで語れない試合でしたよね。

井上 だからさ、昨今はすっかりアメリカが総合の本場みたいになってますけど、ボクにはやっぱり日本のイベントが一番肌に合いますね。青木vsカルバン戦で勝ったほうは2週間足らずで次の試合をやらなきゃいけないとか、そもそも今回の再戦も前回の試合から短いスパンだったりしたけど、こんな不条理なシステム、ネバダ州のアスレチック・コミッションは絶対に許しませんよ。スポーツとして成立してないもん。桜庭（和志）にしてもあれだけ今回のトーナメントを否定する理由っていうのは、あきらかに心当たりがある。それでもやっぱり最終的には青木も桜庭もリングに上がってくる。それってやっぱり日本人の心性なんだよね。

――それは日本人の美意識として？

井上 美意識だし、良くも悪くも不条理なものを受け入れてしまう体質っていうか。

――その中の一つの要素として興行を背負わなきゃならないってことですかね。

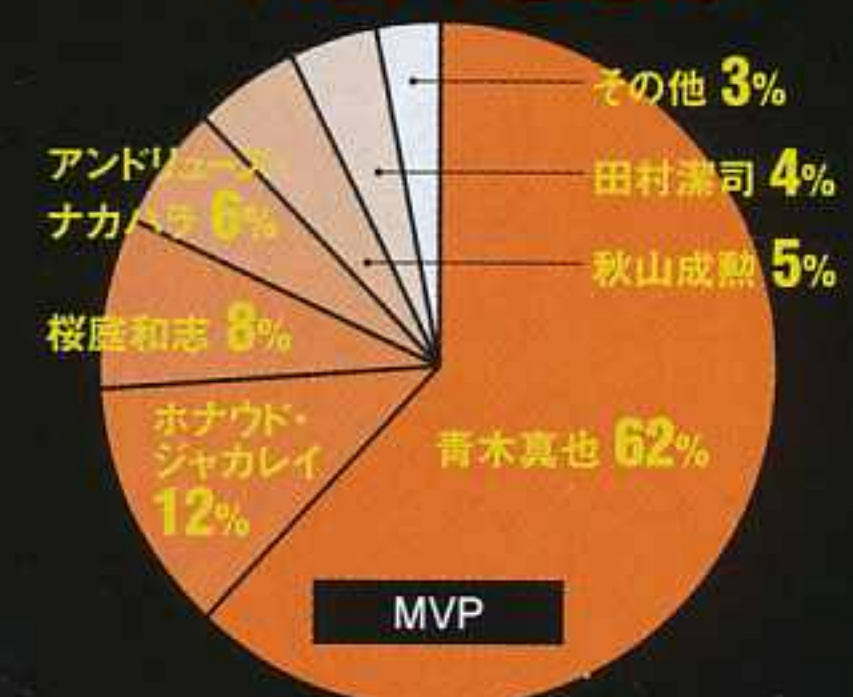
井上 そういう部分が非常にスポーツらしくなくて（笑）、俺は大好きなんだよ。

ガンツ 試合前に田村が言ってましたね、「メインイベンターっていうのはそういう時代を通ってきたから」って。

――田村とか桜庭の世代っていうのはそれを経験してるわけですよね。

Q4 今大会のMVPと大会の感想は？

MVP

選手	割合
青木真也	62%
ホナウド・ジャカレイ	12%
桜庭和志	8%
アンドリュー・ナカハラ	6%
秋山成勲	5%
田村潔司	4%
その他	3%

- メインをきっちりしめてくれた桜庭選手に感動。昔のPRIDEを思い出した。
- 青木が負けてカルバンが優勝したらDREAMはあっという間に終わったのではないか？　大晦日は青木vs五味で！
- 青木vsカルバンをしのいで船木vs田村がおもしろかった。試合の呆気なさがバーリトゥードの醍醐味を思い起こさせた。
- 初めてジャカレイの試合を見たが衝撃的！　間違いなく優勝候補の一人。
- 青木の最大限のワオワオを堪能した。あとはやっぱりPPVサイコー！
- 桜庭選手がきっちり極めて最後を締めたのがよかったです。スリーパー狙いからすぐフェースロックに切り替えるあたりさすがっ！
- 総合初参戦のナカハラにはキレのある打撃と腰の強さがあるので、第二のミルコになる可能性を感じた。
- 秋山がずっと気になった。なぜなら「誰か秋山に対戦表明（もしくは挑発）しないかなぁ……」ってことが頭から離れなかったから。
- 旗揚げ戦と比べると格段によくなった！この感じで続けて欲しい！
- 今日の大会に不満はないけど大爆発には遠かった。DREAMにはもっと凄いものをみせてほしい。
- メインは極真のシリアスな世界観とサクワールドとのコントラストが最高におもしろかったです！
- 桜庭はメインイベントを任せられる数少ない選手だと最認識させられた。
- ジャカレイの打撃のスキルに驚いた。パフォーマンスも含めて高いプロ意識もあると感じた。
- 青木選手は一本こそのがしたものの世界一のグラップラーだ！　全体的に前回よりも内容のある試合が多かった！
- PPVで観たが地上波と違いクオリティが高くて驚いた。
- 田村vs船木の煽りVが秀逸！　ドアーズの『ジ・エンド』の不穏な空気感をBGMにあさま山荘やUWFの映像、そして〝殺し〟なオーラをまとった前田日明……完全に鳥肌立った！
- ジャカレイは強くてキャラもあって久々にワクワクする選手が現れた感じ。次回も期待！

ズラリ揃ったミドル級GP2回戦進出者。2回戦進出最後の一枠は5.11『DREAM.3』での試合で決定。はたして桜庭vs田村の12年越しの対決は実現するのか？

“PRIDE復帰戦”の桜庭がイベントの座長を務めようとする姿がよかった

青木も口では「もう俺、こんなの耐えられないですよ」って言いながらやっている。

井上 それが日本人の心意気なんだよね。ネバダ州にはわかるまい。

――魔裟斗なんてまさしくそうですよね。ハッキリ言ってトーナメントに出なくていいじゃないですか。でも必ず出場するっていう。

井上 だから「NOと言えない日本人」って最高なんです。いくら体重差があろうがヒザ蹴りを認める文化ってのはネバダ州にはわかるまい（笑）。

――だからこそウチは負けそうなほうを応援しがちなところがあるのかもしれないですね。

井上 だけど青木に対してもさ、100パーセント勝ってくれっていう気持ちじゃなくて、ほんの数パーセント見事に玉砕してみせてくれっていう日本人の悲しい性というか欲求もあるじゃん（笑）。

――勝ってほしいと思いながらも、負けてもその現実を受け止めるから遠慮なく勝負してこいっていうところはありますね。そういう部分でいうと、魔王（秋山成勲）にとっての“負け”はその存在自体を否定されるっていうことだから、ギャンブルはしないですよ。ズバリ、今回だって出ようと思えば出れたと思う。

井上 だから共感できないし、逆にその心の有り様がすごく興味をそそられる部分でもあり。

――そうですね。魔王を追ってるとダークサイドに堕ちかねない黒い魅力がありますから（笑）。

井上 だけど田村が船木を秒殺することができたのは、スクワット2000回やらされたあとにもう1000回やって肉体も精神も鍛えられたという過去があるからですよ（笑）。

ガンツ そうですよ。理不尽なことを乗り越えてきたからこそってことですよ。前田日明に眼窩底骨折させられたのに、なぜか「欠場してすいません」って謝ったり（笑）。

井上 そうそう（笑）。そこで謝るのが日本の文化ですよ。だから宇野戦が決まったときに石田（光洋）も「嫌なんだけど、プロだからやります」って言ってたけど、あれはプロだったらべつに断っていいんだよね。あれはプロだからじゃなくて日本人だからやるんですよ。

――そうか……、一歩間違えると単なるお人好しですね（笑）。なるほど、いいこと言いますね！

井上 そう、変態はときにいいことを言う（笑）。

――あと語ってないのは……桜庭の試合か。

井上 試合に関してはナカハラのフィジカルな強さで救われたよね。チョン・ブギョンといい、最近は一杯食わせ者ってのがないのがいい。

ガンツ 最後の挨拶からしてもちゃんとイベントの座長をやろうと思ってるところはよかったですね。今回、桜庭にとっては意味合い的に“PRIDE復帰戦”だったんだよね。PRIDEファンの前で、PRIDEのスタッフが作った舞台で、PRIDEの熱の中で闘うという。だから、あの謎のマシンマスクだったのかなと思って。

井上 正装だよね。

ガンツ たぶん「自分にとってのPRIDE第二章のスタートです」ってことなんじゃないかな、と。

――煽り映像でも、桜庭の最終章を打ち出してましたが、どういうかたちの着地が一番理想なんですかね。

井上 本人の意思を無視すると、秋山とケリをつけること……かなあ。

――こっちの勝手な希望では観たいけど、桜庭本人やその周辺からするととんでもないっていうのがもの凄くわかるんですよね。夢というよりは悪夢という（笑）。

井上 でも、そこはさっきの話じゃないけど、最後は日本人だからやるんじゃないかっていう部分も……。

――そうか（笑）。

ガンツ 日本人だもの（笑）。かつて「プロレスラーは強いんです！」って言った桜庭には、今度は三崎和雄ばりに「日本人は強いんです！」って言ってほしいね（笑）。

――また波紋を呼びそうだなあ。

【08年4月29日／『DREAM.2』直後の『Kamipro』編集部にて収録】

Q5 今大会を欠場した秋山成勲選手と今後のDREAMに望むことは？

- 秋山は三崎と闘うまではときが止まったままだろう。DREAMには秋山vs三崎、青木vs五味のためにも『戦極』となかよくしてほしい。
- 秋山は嫌いじゃないけど生理的にムリ！　でもGPに出たら熱が生まれるとは思う。でもDREAM自体が最初からGPを無理してやる必要があったかなとも思う。まずはワンマッチからコツコツやった方がよかったのでは。
- 魔王が会場のビジョンに抜かれる度にみんなブーイングしながら喜んでました。結局主役がいなきゃはじまらないんですよ。
- 秋山選手は『DREAM・3』の一回戦に出るべきでしょう。批判の声に負けずにがんばってほしいです。
- 秋山は世界レベルの選手とガンガンやるべき。できればDREAMは大晦日に『戦極』と交流戦を実現してほしい。
- 主催者推薦枠で秋山には出てきてほしい。いまの日本の総合格闘技の主役は秋山だと思うし、秋山抜きでチャンピオンを決めてもGPの意味が薄れる。
- 秋山はトーナメント関係なしにワンマッチでもいいから観たい存在。
- 最高のヒールである秋山選手を誰が倒すのか楽しみです。個人的には嫌いですが魔王の復活は見たいです。
- 秋山はヒールとしてトーナメントに必要。二回戦からでも出てこいや！　DREAMにはTBS地上波の番組構成を総見直ししてほしい。
- 早く怪我を直して秋山には試合をしてほしい。DREAMには秋山が足りない。
- 秋山は欠場したことを本当に申し訳ないと思うならファンに挨拶すべき！　DREAMはとにかくカード発表を一日も早く！
- 怪我は仕方ないけど、秋山には二回戦からでも参戦してほしい。今の秋山に対するブーイングはPRIDEファンの過剰反応で気分が悪い。
- 秋山選手は韓国で歌手デビューをしたらいいんじゃないでしょうか。
- 秋山は永久追放にすべき。いくらヒールが必要だとしても、人間性までがヒールな人間を格闘技界に置いておく必要はない。
- 秋山は大晦日にミドル級GPの優勝者と闘えばいいと思う。そうすればかなり盛り上がるのでは。
- 興業的には秋山準選手にはぜひ出場してほしい。HERO'Sのチャンピオンだし推薦枠の資格はあると思います。

夢なら～、さめめないで～!!

4.29 DREAM.2 クロスレビュー

構成／真下義之
撮影／乾晋也
イラスト／北出裕貴

第1試合 ［ライト級GP 1回戦 再試合］

○青木真也
［2R終了 判定3-0］
J.Z.カルバン×

前代未聞、3度目の正直で実現した"決闘"は第1試合で実現！ 1R、青木は背中におんぶ状態でフェイスロックという不思議ムーブ炸裂。2R、ついに青木の脚がカルバンを捕獲！ 絶体絶命に追い込んで、涙の判定勝利。

第2試合 ［ミドル級GP 1回戦］

○金泰泳
［2R終了 判定3-0］
ミノワマン×

プロレスvs空手の"昭和異種格闘技戦"は、金の得意のローやヒザ蹴りといった打撃とミノワマンのタックルが交錯！ だが、同じ攻防がリピートされ、両者も観客もバテバテ状態。最後は打撃で上回った金が判定勝利。

第3試合 ［ミドル級GP 1回戦］

○ユン・ドンシク
［2R終了 判定3-0］
大山峻護×

現在、絶賛連勝中のユンと、煽りVにてあの美輪明宏さんに見初められていた(?)大山の柔道出身対決！ 試合は両者とも寝技のねちっこい攻防で膠着気味。一部の熱狂的な大山フリークの声援もむなしく、ユンが粘り勝ち。

第4試合 ［ミドル級GP 1回戦］

○ゼルグ"弁慶"ガレシック
［1R 1分40秒 腕ひしぎ逆十字固め］
マゴメド・スルタンアクメドフ×

「ミルコの再来」的な煽りVで登場した弁慶は、これまた「ヒョードルの再来」的に煽られたマゴメドフと激突！ 前回、「ユン・ドンシクに寝技でやられた」弁慶が強烈な腕十字をズバリ！ 一本勝利で2回戦進出。

"世界のTK" 会場観戦 髙阪剛

こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。94年にリングスに入団。その後、日本人初のUFCレギュラーとなる。06年に現役引退。現在、代表を務める『A-SQUARE』にて後進を育成。名解説者としても知られる。

第1試合：寝技好きにはたまらない

寝技が好きなヤツにしてみたら、ホントに鳥肌立ちまくりの、たまらない試合だったんじゃないですかね（笑）。技術はもちろんなんですけど、お互いに"ガッチリやろう!"って勝負に対する気持ちが噛み合ったなぁっていうのを凄く感じましたね（さらにこの試合を語った、13ページも参照）。

第2試合：もっと仕掛けないと

ミノワマンはテイクダウン取ってから、もっとパスガードをドンドン仕掛けていけば全然展開は変わってたと思うんですけどね。やっぱり、金さんみたいに寝技がちょっとできるぐらいになってきてる選手相手だと自分からもっと仕掛けていかないと、印象は悪くなっちゃいますよね。

第3試合：よくも悪くもまっすぐな男

大山はウチのジムによく練習に来てたんで、観てて力が入りました。大山って、よくも悪くもまっすぐな男でね（笑）。でも、試合ではイヤらしい攻めとかやらなきゃ勝てないんだけど、性格上それはできないだろうなって思ってたら、そのとおりの試合になってしまいましたね（笑）。

第4試合：天然さんなのかな？

ガレシックは試合後「前回ユンに寝技で負けたので、今回は自分も寝技で極めようと思った」って言ってましたけど、やろうと思ってできるようなもんでもないですからね。でも、それをやりきったっていうのは、コイツは天然さんなのかなって（笑）。試合で化けるタイプだと思います。

"事情通"スポーツライター 会場観戦 布施鋼治

ふせ・こうじ■1963年7月25日、北海道出身。格闘技を中心に活躍する、事情通スポーツライター。『Number』、『Sportiva』、『月刊PLAYBOY』、共同通信など幅広いフィールドで絶賛活動中。近著に『格闘技絶対王者列伝』(宝島社文庫)。

第1試合：いい意味で予想を裏切った

カルバン有利と見られた中、いい意味で予想を裏切った試合。カルバンはこの2年間負けなし。負ける姿が想像できない選手って一番攻略が難しいけど、青木くんは巧みにコントロールした。ただ5.11の出場は難しいんじゃないかな。そこまで大人の都合には合わせられないかも……。

第2試合：カミングアウトにビックリ

試合は予想どおりでしたね。金がローで攻めるのはわかりきったことだから、ミノワマンはもう少し策がほしかったところ。あと煽りVで金が10代で悪かったのをカミングアウトしたのに驚いた。昔、取材でヤバい話を聞いても自主規制してたから。DREAMを路上でやったら、金は最強でしょう（笑）。

第3試合：柔道視点では、楽しめた試合

お客さんは膠着に見えたろうけど、柔道出身の二人の主導権争いは緊迫していて個人的には楽しめました。どっちが先にテイクダウンを奪うかを競り合っていたし、リングサイドの秋山も楽しめたんじゃないか（笑）。ユンは総合の必勝パターンをつかんだ、それが勝ち星を呼び込んだ気がします。

第4試合：上積みがあったこその勝利

弁慶の電光石火の逆十字につきますね。いまの格闘技って、前の試合の自分だけだったら勝てない。弁慶はそこの上積みがあったからこその勝利でしょう。ただ、ミルコの再来みたいな煽りVはまだツラいかな。"妖刀"ならぬ羊頭狗肉（実質が見かけと一致しないこと）って感じで（笑）。

『kamipro事件簿』調査員 PPV観戦 高崎計三

たかさき・けいぞう■1970年2月20日、福岡県出身。本誌では元ボードッグ海外特派員として活躍、『kamipro Hand』の『kamipro事件簿』調査員としても活動中の格闘技ライター。ベースボール・マガジン社を経て、有限会社ソリタリオ代表。

第1試合：今大会のハイライト!

ほかの選手が同じ展開をやったら、ここまで緊張感を感じることはなかったはず。やっぱり格闘技の試合も"ストーリー"は大事なんだなあと思わせた一戦だった。青木の場合、修斗での菊地昭戦は似たような展開だったが、まったく評価されていなかったもんな。間違いなく、今大会のハイライト!

第2試合：金は"総合殺しの打撃"

金の反応の速さ、動きのキレがイイ！ 完全に"総合殺しの打撃"になっているのがよくわかる試合だった。シャープに絞って猪突猛進のミノワマンも悪くはなかったが……。金の次戦は、ジャカレイ希望。今回見えたあれが、柔術に対しても通じるのかどうか、いや通じるところを見てみたい。

第3試合：大山のVは行きすぎ感も

TKによる総合技術の丁寧な解説と、元気の「(ユンのパウンドは)釣りでいう"こませ"」というたとえが楽しめた中継陣。一方で「三輪明宏に見初められた」という大山のVはちょっと行きすぎちゃった感も……。試合内容はPPVだとそれなりに見えたが、会場観戦だったらちょっとダレてたかも。

第4試合：「空気読めてる」弁慶

判定決着が3つ続いたあとの外国人対決としては、100点満点の試合。まさに「空気読めてる」ってヤツですな。ま、お客さん的にはどっちが勝っても大勢に影響ないしね。しかしフィニッシュの十字はあれこそロシア人、サンビストがやらなきゃいけないものだったんじゃないのか！ たのむよ！(怒)。

大会総評	第8試合 [ミドル級GP 1回戦] ○桜庭和志 [1R 8分29秒 フェイスロック] アンドリュース・ナカハラ×	第7試合 [ミドル級GP 1回戦] ○ゲガール・ムサシ [1R 3分10秒 三角絞め] デニス・カーン×	第6試合 [ミドル級GP 1回戦] ○田村潔司 [1R 0分57秒 TKO] 船木誠勝×	第5試合 [ミドル級GP 1回戦] ○ホナウド・ジャカレイ [1R 3分37秒 裸絞め] イアン・マーフィー×
ミドル級GPのカードが決まらず、"魔王"秋山もケガで欠場、フランク・トリッグまでキャンセルとドタバタ劇が展開するも、21,397人の観客を集めた『DREAM.2』。笹原EPは「ここからがスタート」を強調した。	懐かしのサクマシン3人衆で出撃！ サービス満点の桜庭だったが、ナカハラは極真仕込みの打撃と異様な腰の強さを発揮。意外にも一進一退の攻防となる。なんとかフェイスロックで捕獲した桜庭が辛くも一本勝利。	押しも押されもせぬ"優勝候補"の一角、カーンがムサシと実力派ガイジン対決！ 序盤から押しまくるカーンの勝利は鉄壁と思われたその瞬間、ムサシが三角絞めをズバリ! 伏兵がまさかの大逆転勝利を飾った。	「格闘技を食えるようにしたのはUWF」と壮大かつ長編の煽りVには、あの前田日明までが登場！ 注目のUWF対決は壮絶な打撃戦で一気にラッシュ！ 最後は田村が押し倒しての鉄槌連打！ 衝撃の秒殺劇で幕を下ろした。	脅威のワニ野郎が夢舞台に上陸！ ワニポーズで入場したジャカレイはいきなり飛びヒザ！ グラウンドでも圧倒し、最後は必殺のチョーク一閃！ リングを這うワニムーブも披露して、余裕シャクシャクの満点デビュー。
同世代に期待したい 凄く中身の濃い大会でしたね。ミドル級GPも残った選手は同じようなタイプはいないし、どの組み合わせでもおもしろくなると思います。日本人は田村さんにしろ、GPには出ないって言ってたけど(笑)、桜庭さんも同世代なんで頑張ってほしいです。自分も解説席で頑張りますんで。	**さすがは極真世界王者** ナカハラ選手は総合デビュー戦でしたけど、簡単にテイクダウンされなかったりとか、さすがは極真世界王者だけあると思いましたね。最後はフェイスロックって発表でしたけど、相手の口の中に自分の前腕を入れてアゴを極めてると思います。あれはね、タップするしかないです(笑)。	**最後の三角絞めは見事** ゲガールがポジション取ったりとか、緩急つけた動きとかできるのは知ってたんですけど、最後の三角絞めは見事でしたね。まだ22歳ですけど、最近はインターネットとかで情報がすぐ手に入って、すぐやれるだけの環境があるんで、ああいう、なんでもできる選手が増えてきてますね。	**同い年として嬉しかった** 船木さんの動きは、ちょっと硬かったような気がしましたけど、田村さんはあえて真っ正面から受けて立って叩き潰しにいったんだと思いましたね。それは尊敬の表われだと思うんですけど、そういう気持ちを持った選手がリングに上がってるっていうのは、同い年として嬉しかったです。	**ノゲイラ並みに期待** 自分は柔術を活かした総合の選手で一番最初に成功したのは(アントニオ・ホドリゴ・)ノゲイラだと思うんですけど、ジャカレイは、またタイプが違うんですよ。相手がデビュー戦っていうのもありましたけど、大舞台でも普通に自分の試合をやれてたし、かなり期待できると思います。
2回戦は桜庭vs田村を! 『DREAM.1』の悪夢を払拭してようやくDREAMの「ド」の字くらいは見えたかな、と(笑)。これで「リー」くらい見えたら、またお客さんも戻ってくるでしょう。個人的に、ミドル級の2回戦は「ここで組まれなかったら、もう観れないかも」という意味で、ぜひとも桜庭vs田村をやってほしい!	**想像の10倍以上の頑張り!** ナカハラくんの頑張りにつきます！ 入場で緊張してたから、「すぐ負けるかな」と思ったけど、想像の10倍以上は頑張った。グラップラーと闘って簡単にテイクダウンを奪われない空手家って初めてじゃないかな。ただ、倒れないだけじゃ勝てないから、さらなる精進に期待したいですね。	**カーンは不用意すぎた** ミドル級GP一番のビッグ・アップセット！ ムサシ=打撃ってイメージだったけど、彼もプラス・アルファの技術を身につけたのが明暗を分けた。カーンは序盤、すべての攻撃で上回ったのに不用意すぎた。じつは、ムサシがわざとエサをまいていたとしたら、これは凄いけど(笑)。	**現実のむごさが際立った** 大きな幻想に半比例して、現実のむごさが際立ちました。リング上で田村は現役の身体に見えたけど、船木は無理矢理作った身体に見えたし、やり続けたら、彼の遺産を食い潰すことになるかも。でも船木は本気で勝つ気で田村対策をした姿勢は見えた。そのへんは嬉しかったです。	**ワニ人間の真価は次戦!** ジャカレイは動物が一匹迷いこんだ感じ。ホントにワニ人間！ ただ、ジャカレイは打撃の対応力が課題で、今回はアマレス出身でやりやすかったろうけど、真価は次戦でわかるんじゃないですか。それと最大の問題はMMAの最大の本場であるアメリカ代表がこのマーフィーだったこと(笑)。
及第点以上を希望! すっごくひどい大会ではなかったが、全体としてもの凄く感動するという内容でもなかった……というのが、この大会の最大の問題だと思う。いまのDREAMに求められているのは及第点ではないはず。脳裏に刻みつけられて離れなくなるようなエクストリーム感を持った大会を観たいのだ!	**最初と最後がつながった** 桜庭がせっかくマシン軍団ふうの幻惑作戦をやってるんだから、もっと実況で拾ってやれよ！(笑)。桜庭のフィニッシュは、第1試合で青木がやりたかったもの……というかたちで、うまーく最初と最後がつながったのでした。ナカハラは好素材。いずれ機会を見て、金泰泳との空手対決を希望!	**2回戦は"ムサシvs弁慶"で** 外国人の中心軸だったカーンがここで消えるとは……。かといって、勝ったムサシがニューヒーローになるわけでもないという悲しさ。しょうがないんで(?)、2回戦はぜひ"ムサシvs弁慶"でお願いします。内容的にもけっこうおもしろくなりそうでしょ? ただのダジャレというだけじゃなくて。	**前田の登場で全部やられた** V長すぎ！ UWFであんなに掘らないとダメなもんなの？ 逆に、そこまでしないといまのファンにアピールできない試合ってことなのか？ しかも前田の登場で全部やられたというか。結果的に秒殺だったが、船木の動きは決して悪くなかったと思う。できればリザーブでミノワマン戦実現を希望。	**ワニムーブに興奮!** ジャカレイが強いのはもはやあたりまえの話としても、あのアグレッシブさと明るいキャラクターなら、ひょっとするとノゲイラより人気が出る可能性もあるんじゃないか？ 試合後のワニムーブを、TKが実況アナに「見てください、これですよ」と言ってたのがミョーに微笑ましかった(笑)。

HEIWA

『DREAM.3』

ライト級グランプリ2008 2nd ROUND

埼玉・さいたまスーパーアリーナ

5月11日(日)　試合開始時間／16:00（予定）

決定分対戦カード

［ライト級GP 2nd ROUND］
宇野薫 vs 石田光洋
川尻達也 vs ルイス・ブスカペ
ヨアキム・ハンセン vs エディ・アルバレス
青木真也 vs 永田克彦（?）

チケット料金

VIP席100,000円（特典=専用入場ゲート・グッズ付）／
RRS席30,000円／スタンドS席17,000円／スタンドA席7,000円

チケット発売所

DREAMオフィシャルサイト◎http://www.dreamofficial.com/
DREAM携帯オフィシャルサイト◎iモード Yahoo!ケータイ EZweb
イープラス◎http://eplus.jp/battle/（パソコン&携帯）
チケットぴあ◎0570-02-9999［Pコード=594-790］
ローソンチケット◎0570-084-003［Lコード=33632］
CNプレイガイド◎0570-08-9999
レッスル池袋店◎03-3989-0056
書泉ブックマート◎03-3294-0011
フィットネスショップ格闘技◎03-3265-4646
チケット&トラベルT-1◎03-5275-2778　http://www.t-1.jp/
後楽園ホール◎03-5800-9999
さいたまスーパーアリーナ◎048-600-3037
相鉄ジョイナスプレイガイド◎045-319-2456
公武堂◎052-241-2511
バトルロイヤル◎03-3556-3223
新日本プロモーション◎http://www.shinnichi-pro.co.jp/
ときめきドットコム◎http://ringside.jp/

お問い合わせ

DREAM事務局／TEL.03-5775-5065

石田光弘vs宇野薫

出れんのか?

青木真也vs永田克彦

ヨアキム・ハンセンvsエディ・アルバレス

川尻達也vsルイス・ブスカペ

青木vsJ.Z.ばりの『やれんのか!』vs『HERO'S』対決再び!!

宇野薫vs石田光洋 "決闘"迫る!

5.11『DREAM.3』ライト級GP 2nd ROUND徹底詳報!
ほか、4.29『DREAM.2』の検証企画も満載!!

kamipro No.123

5月22日(木)発売予定!!

※地域によっては多少発売日が遅れます。

青木vsJ.Z.に続き、またまたDREAMで"真剣勝負"勃発! 大波紋を呼ぶ主催者推薦枠で登場する宇野薫と、その"待遇ぶり"に噛みつきまくった石田光洋がついに拳を交えることに!! カード発表会見では「偉大な人だと思ってましたが、それも過去形です」など、宇野に対して石田は言いたい放題。それだけこの事態に怒っているということだろうが、そこまで言う石田も負ければそれだけリスクを負うことになる。一方の宇野も、推薦枠という"重圧"に加え、J.Z.が敗れたいま、『HERO'S』という看板はますます己にかかってくるというリアルに"負けられない理由"がある状況。その背景をもってしても、ライト級"真剣勝負"第二弾は見逃せないのである! もう一つ気になることといえば、4.29の闘いを終えて、5.11への参戦が予定されていた"一人・真剣勝負"の青木真也は本当に出れんのか!? ということ。う～ん、その行方も含めて要注目ッ!!

DREAMヘビー級の軸はこれか⁉

ミルコ・クロコップに K-1包囲網!!

3.15『DREAM.1』から日本マット界に復帰したミルコ・クロコップ。その復帰第一戦では、水野竜也と対戦したが、7月にも予定されている第二戦では、K-1ファイターとの対戦が噂されている。現在のK-1には"MMA向き"の強豪がズラリ揃っており、しかも打撃vs打撃ということで、もし実現したら、ミルコもそうやすやすとは勝たせてもらえないだろう。そこで今回は、MMA出撃が噂される4選手にインタビュー。DREAM出撃の可能性について、それぞれうかがってみた。

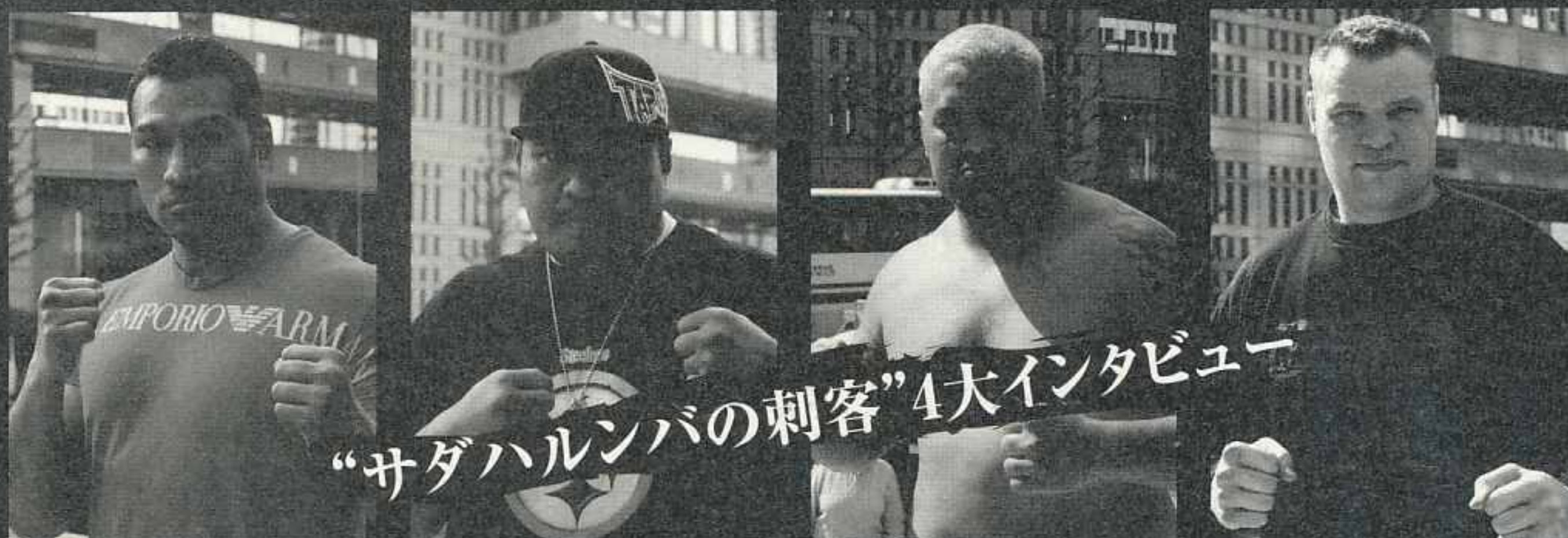
"サダハルンバの刺客"4大インタビュー

ミルコにK-1包囲網

…ンナかハリトーノフか!

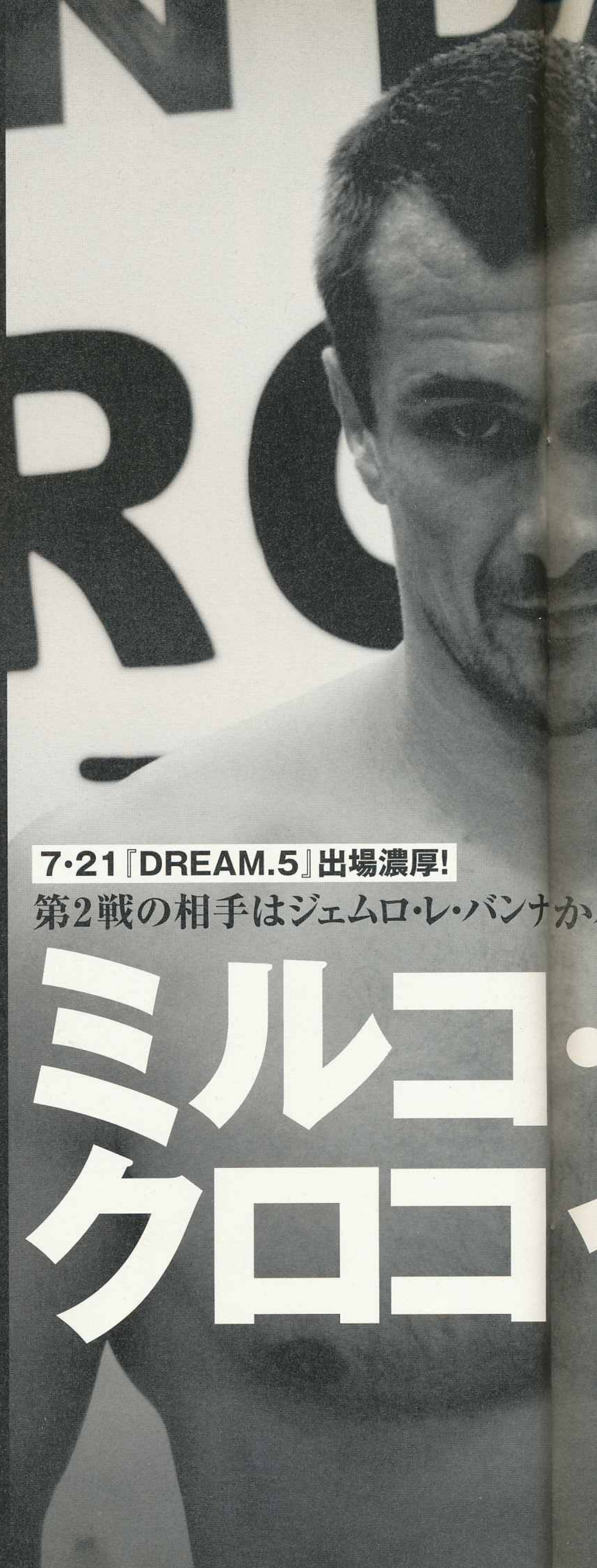
…ロ・…ップ

出直しロードを追跡!!

文・撮影／堀江ガンツ

　現在、ミドル級とライト級のGPが開催中のDREAM。そんな中でDREAMヘビー級のテーマといえば、もちろんミルコ・クロコップの復活ストーリーだ。
　ご存知のとおりミルコは、今年UFCとの契約を一時中断し、日本マット界へ電撃復帰。MMAファイターとしての原点回帰のため、かつて自分が命を削って闘ったリング、PRIDEの流れを汲むDREAMを出直しの舞台に選んだ。
　そして3・15『DREAM・1』で復活。急な出場決定だったため、相手がなかなか決まらず、日本人ルーキー水野竜也と対戦し、完勝。しかし、これは本当に復活への第一歩をとりあえず記したということだろう。
　そんなミルコのDREAM第2戦は、TBSの地上波ゴールデンタイム放送がすでに決まっている7・21『DREAM・5』にほぼ内定。その前にじつは、5・11『DREAM・3』でグラップリングマッチを行なうというプランも持ち上がり、ハレック・グレイシーらの名前が挙がっていたようだが、ミルコは現在、オランダのイワン・ヒポリットの下で打撃の猛練習中。そこでヒジの腱を少し痛めたため、大事をとって次の機会に、ということになったという。
　ということで、ミルコの次戦は7・21『DREAM・5』となりそうだが、そこでK―1ファイターとの対戦が持ち上がっているのだ。
　そこで今回、次のページからのK―1ファイターインタビューの前に、ミルコ側は今回のプランについて、どう考えているのか。ミルコの全権代理人である今井賢一氏に話をうかがってみた。
「まだ非公式ですが、K―1ファイターとの対戦がプランの一つとして上がっているということは耳にしました。ミルコ自身は『誰でもいいから、早く決めてくれ!』という感じで、完璧なパフォーマンスを見せるということのほうが大切なので、早く決定して戦略を考え始めたいというのが正直な気持ちです。基本的に対戦相手を決めるのは、ボクに一任していますが、これは正直なところ、とても悩ましい判断になりますね。大切なのは、いまのミルコが置かれている立場をはっきりと認識すること。ミルコはMMAファイターとしてもう一度、世界の頂点を目指すために『出直し』の第一歩をまさに踏み出したところ。K―1ファイターとの対戦は確かにおもしろいマッチメイクですが、MMAマーケットのグローバルな視点からすると、たとえ勝ってもミルコ自身が自らの慢心で傷つけてしまったMMAファイターとしての評価、名声の回復にはつながらないのでは……とも思える。もし、ダナ(・ホワイト)に相談をしたら、なんでそんな回り道をするのかと言われるかもしれない」
　ミルコの次戦の対戦相手候補最右翼として噂に上がっているのは、じつはジェロム・レ・バンナ。決してMMA未経験の〝素人〟ではないし、〝魔王〟秋山成勲をKOしたこともあるバンナであるが、確かにグローバルマーケットにおけるヘビー級MMAファイターとしての実績はほぼ皆無だ。
「しかし、日本の格闘技界を盛り上げるという視点から言えば、非常にDREAM的なマッチメイクであることは間違いないし、そこに貢献をしたいというのも日本復帰の理由の原点にあるわけですから、いまはその流れに身をゆだねる方向ではあります。ミルコにとってジェロムは、96年の日本デビュー戦の相手であり、12年の時を経て再び対戦するのは非常に感慨深いものがあるでしょう。いま、自分

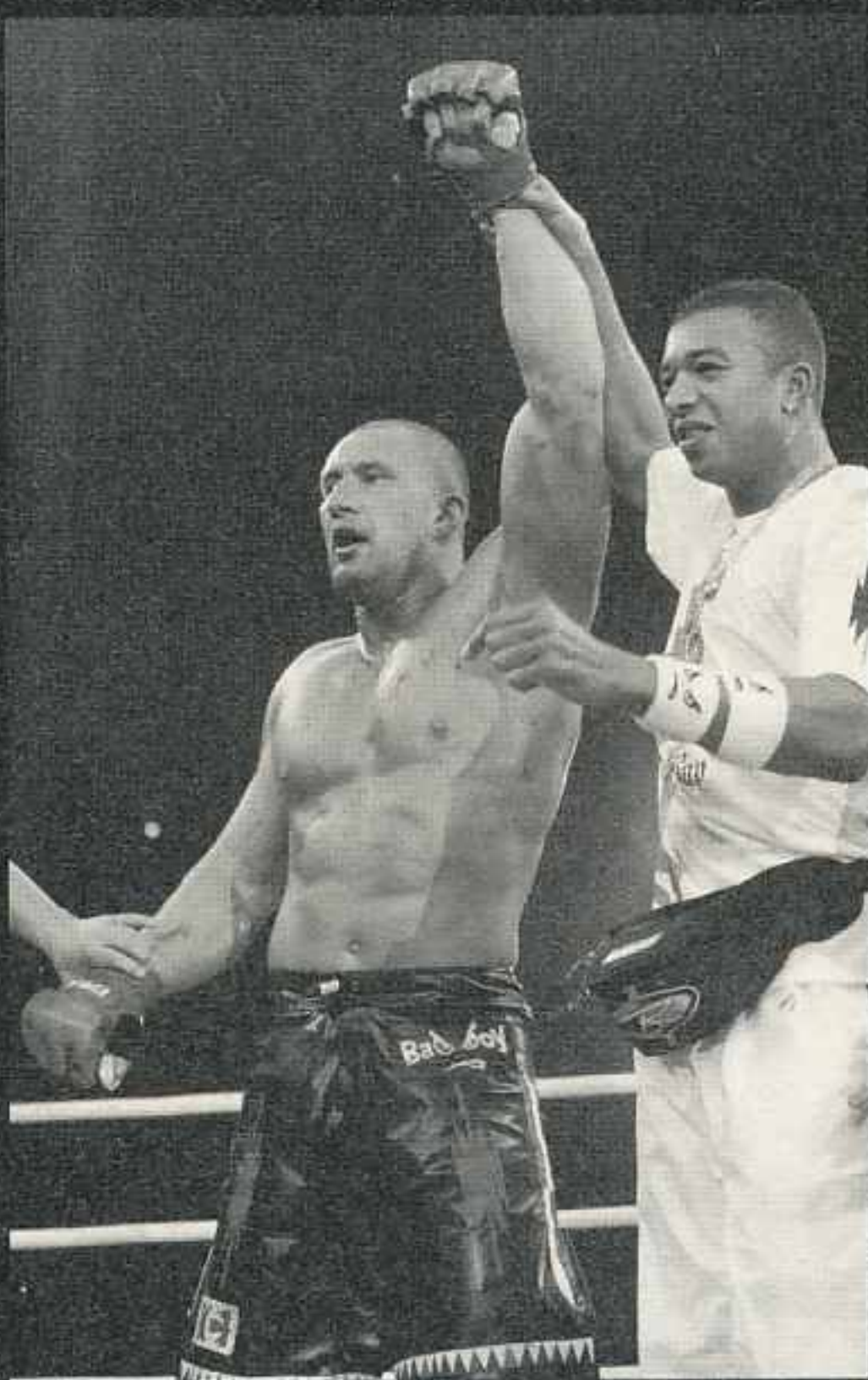
7・21『DREAM.5』出場濃厚!

第2戦の相手はジェムロ・レ・バンナか

ミルコ・
クロコ

がここにいるのは、あの試合がすべての出発点だったわけですからね」

一日も早くMMAのグローバルな世界で、名誉挽回したい気持ちはあるが、自分に復活の舞台を用意してくれたDREAMの力にもなりたいと思っているミルコ。いまはとにかく、一戦一戦、組まれた相手を確実に倒していくこと。それ以外には考えていないようで、本誌にもきっぱりと、ミルコの口から要望があった。それは

「格闘技メディアとして、いまの段階で、オレの近い将来の対戦相手としてヒョードルの名前を取りざたするのはやめてくれ。相手はしっかりと自分のポジションに君臨している無敗の王者であり、オレはまだ『出直し』の道をようやく歩み始めたばかり。こんな状態であたかもオレの口から何度もヒョードルの名前が出てきているように書かれるのは、彼に対して失礼。オレが逆の立場だったら、その前にやることがあるだろう、と当然思うだろうからね」

ミルコにとって、打倒ヒョードルは究極の目標の一つ。それだけに簡単にその名を口にしたくないのだろう。「ヒョードルの名前を出すのは、自分がそこまで復活してから」と、そういった思いがあることは間違いない。

MMAデビュー戦こそ安田忠夫に敗戦を喫したものの、その後はミックスルールでサップを血だるまにしてのドロー、秋山成勲にはKO勝ちしているバンナ。ミルコ戦は実現するか?

「現在ミルコは、オランダのイワン・ヒポリットのジムで、ヘビー級の若くて鼻っ柱の強いキックボクサーたちとガンガン、スパーリングを行なっています。そしてイワンからも『ミルコは打撃のキレと破壊力が戻ってきている。おかげでギルバート・アイブルがミルコの圧力に押されてふくらはぎの筋肉とアキレス腱を痛めてしまった。今週のK―1オランダ大会でアリスター・オーフレイムとの試合ができないかもしれない』と、電話でボクのところに報告が入ってきました（その後、アイブルの欠場が決定）。ギルバートとアリスターの因縁対決はオランダの格闘技ファンにとっては凄いカードなんですよね。4月26日の大会を控えて、プロモーターのサイモン・ルッツからも本気で、ミルコはアリスターと試合をしてくれないかと電話が来ましたからね。今回のミルコのオランダ遠征では、イワンも、目の前でレミーとがんがんとスパーリングをやっているミルコを目の当たりにして、これなら、いま試合に出しても、K―1ルールならギルバートの代わりにアリスターをKOすると踏んだのでしょう。もちろん、この段階で受けるわけはありませんけどね。そういうわけで、次の試合では相手が誰であれ、ギラギラしたミルコが戻ってくるんじゃないかと思います」

いまのミルコにとって大事なのは対戦相手ではない。いかに自分自身を厳しく鍛え直し、自分を取り戻すかだ。7・21『DREAM・5』、対戦相手がジェロム・レ・バンナになろうが、もう一人の候補であるセルゲイ・ハリトーノフになろうが、はたまた別の選手になろうが、〝強いミルコ〟復活に期待したい！

ミルコに
K-1
包囲網

「〝最強〟を名乗るためには、ヒョードルとはやらなきゃならないだろう」

K-1スリータイムス王者がMMA再出撃!?
狙うは“皇帝”の首一つ!!

セーム・シュルト
SEMMY SCHILT

聞き手・撮影／大川義之　試合写真／乾晋也、平工幸雄

キックボクシングの練習と並行して、じつは週に一回ジムでMMAを教えているんだよ

前人未到のK―1ワールドGP三連覇。さらに先の4・13横浜アリーナ大会では、元K―1王者マーク・ハントをも問題なくKOで下し、まさに向かうところ敵なしとなっているセーム・シュルト。

K―1では対戦相手を探すのにも一苦労という状態の中、真の最強を目指すべく、シュルトのDREAM出場、MMA再出陣が取りざたされている。

シュルトといえば、空手出身ながら、プロ活動をスタートさせたのは日本でのパンクラス。90年代半ばという総合格闘技黎明期に、毎月のようにロープエスケープありの試合を経験。船木誠勝、鈴木みのる、近藤有己、美濃輪育久らとしのぎを削ってきた。

その後、UFCにも出場し、PRIDEでも活躍。じつに40戦ものMMAを闘った総合格闘家でもあることは、ちょっとキャリアの長いファンはご存知のことだろう。

その才能はK―1で花開くことになるのだが、K―1絶対王者となったいまこそ、もう一度MMAで闘う姿を観てみたいというファンの声も大きい。MMAならシュルトが闘う相手も事欠かないだろうし、いまのシュルトなら、かつてPRIDEに出場していた時代以上の活躍を見せてくれるのではないか、という期待感もある。

また、K―1で最強の名をほしいままにするシュルトが、ヒョードルやセルゲイ・ハリトーノフ、ジョシュ・バーネットにやられたイメージをいつまでも引きずるわけにもいかないだろう。

はたしてシュルトのDREAM出場。そして夢のミルコ・クロコップ戦やエメリヤーエンコ・ヒョードルとのリマッチは実現するのか？

マーク・ハントとのK―1スーパーヘビー級タイトルマッチを二日後に控えたシュルトに、MMAの話ばかりを聞いてみました。

――シュルト選手は今年のはじめに、ひさびさとなるMMAの試合をしたらしいですね？

シュルト　うん。1月12日にセルビアでやったんだよ。ギュールミノ・ナドルという選手に1ラウンド、KOで勝ったんだ。

――それはなんというイベントなんですか？

シュルト　地元セルビアのプロモーターが主催した『ロード・オブ・ザ・リング』というイベントだね。

――また、ベタというか微妙なタイトルですね（笑）。なぜ、突然MMAの試合を行なったんですか？

シュルト　昨年末、K―1ワールドGPで優勝したあと、大晦日の『Dynamite!!』に出たかったんだけど、出られなかった。それで何か試合がしたいな、と思っていたら、マネージャーが組んでくれたんだよ（笑）。

――突然、マネージャーがMMAの試合を組んじゃいましたか（笑）。

シュルト　セルビアのプロモーターからの要請だったみたいなんだけどね。

――ひさびさのMMAでしたけど、総合の練習はずっと続けていたんですか？

シュルト　ボクのいまの"本職"はK―1だから、試合に向けてするようなMMAの練習というのはしていない。普段は、基本的にずっとキックボクシングの練習をしてるんだけど、ボクはジムでMMAのクラスを持っていて、週に1回、MMAを

足かけ5年間、主戦場にしたパンクラスでは、近藤有己を破り、無差別級王座も奪取。パンクラスがロープエスケープがありだった時代、シュルトが寝技ですぐロープに手が届くことが問題になったこともあるのだ。

セーム・シュルト PRIDE参戦以前総合格闘技全戦績

[2001.6.29 UFC 32]
×vsジョシュ・バーネット(1R 4分21秒 腕ひしぎ十字固め)

[2001.5.4 UFC 31]
○vsピート・ウィリアムス(2R 1分28秒 KO)

[2001.3.18 2H2H]
△vsアレクセイ・メドヴェーデフ(3R終了 ドロー)

[2000.10.22 It's Showtime]
○vsボブ・シュライバー(2R チョークスリーパー)

[2000.9.24 パンクラス]
○vs渋谷修身(8分55秒 TKO)

[2000.6.4 リングス・オランダ]
○vs山本宣久(1R 2分54秒 TKO)

[2000.4.30 パンクラス]
○vs髙橋義生(7分30秒 TKO)

[1999.11.28 パンクラス]
○vs近藤有己(2分28秒 チョークスリーパー)

[1999.9.18 パンクラス]
○vs美濃輪育久(15分時間切れ 判定)

[1999.9.4 パンクラス]
○vs稲垣克臣(8分23秒 KO)

[199.7.6 パンクラス]
○vs渋谷修身(12分6秒 チョークスリーパー)

[1999.6.20 リングス・オランダ]
×vsギルバート・アイブル(2R 4分58秒 KO)

[1999.4.18 パンクラス]
×vs近藤有己(20分終了 判定)

[1999.3.9]
○vs伊藤崇史(1分45秒 肩固め)

[1998.9.14 パンクラス]
○vs船木誠勝(7分13秒 KO)

[1998.6.21 パンクラス]
○vsガイ・メッツァー(13分15秒 KO)

[1998.5.12 パンクラス]
○vs髙橋義生(5分44秒 レフェリーストップ)

[1998.5.12 パンクラス]
×vsジェイソン・ゴドシー(1分47秒 ドクターストップ)

[1998.3.18 パンクラス]
×vs船木誠勝(15分終了 判定)

[1998.2.6 パンクラス]
○vs長谷川悟史(1R 4分46秒 三角絞め)

[1998.1.16 パンクラス]
○vs鈴木みのる(9分52秒 KO)

[1997.6.30 パンクラス]
×vs近藤有己(20分終了 判定)

[1997.5.24 パンクラス]
○vs冨宅飛駈(8分59秒 スリーパー)

[1997.3.22 パンクラス]
○vs髙橋義生(7分 レフェリーストップ)

[1997.2.22 パンクラス]
×vs船木誠勝(5分47秒 アンクルホールド)

[1997.1.17 パンクラス]
×vsガイ・メッツァー(20分終了 判定)

[1996.12.15 パンクラス]
○vs渋谷修身(10分終了 判定)

[1996.10.8 パンクラス]
×vs柳澤龍志(0分56秒 アンクルホールド)

[1996.7.22 パンクラス]
×vs近藤有己(10分終了 判定)

[1996.5.16 パンクラス]
○vs山田学(5分44秒 スリーパー)

教えてるんだ。おかげでMMAのスキルも保たれているって感じかな。

——シュルトさんが、MMAのコーチをやってましたか。では今年、DREAMというMMAイベントがスタートしましたけど、K―1と並行してMMAもやっていきたい考えはありますか？

シュルト　そういう機会があれば、やってみたい気持ちはあるよ。ただ、まだFEGからMMAをやってくれと言われてないからね。どうなるかはわからない。正式にオファーがあったら、マネージャーとも相談して考えるよ。

——かつてパンクラス無差別級王者で、PRIDEやUFCでも活躍したシュルトさんの総合の試合を観たいファンも多いですよ。

シュルト　そう言ってもらえると嬉しいね。ファンが望んで、K―1とマネージャーがボクのMMAマッチを組もうと考えたら、DREAMに出ることもあるんじゃないかな。

——DREAMにはミルコ・クロコップが出場していますが、彼のことはどう評価していますか？

シュルト　彼はK―1でもMMAでも素晴らしい選手だと思うよ。それは日本のファンが一番よく知ってるんじゃないかな。

——ミルコと闘いたい気持ちはありますか？

シュルト　カードを決めるのはボクじゃないからね。ただ、カードが組まれたらやるんじゃないかな。

——やるならやはりK―1ルールですか？　それともK―1絶対王者として、K―1ルールだったら楽勝だったりしますか？

シュルト　クロコップはK―1ルールでやっても強敵だと思うよ。彼だけじゃなく、ワールドGPに出てくるような選手はみんな手強い相手ばかりだ。ボクは三連覇できたけど、ちょっと気を抜いたら、誰にやられてもおかしくない。それぐらいみんな強い選手たちなんだ。

——では、MMAルールでやるつもりはありますか？

シュルト　いま現在は、あさってのヨコハマ、K―1ルールでマーク・ハントを倒すことしか考えてないから、なんとも言えないな（苦笑）。話が具体的になってから考えるよ。

——すいません、K―1の試合前にMMAの話ばかり聞いて（笑）。ただ、シュルト選手はK―1では無敵のイメージが定着しましたけど、その一方で、PRIDEでハリトーノフに敗れたイメージもまだ根強く残ってるんですよ。それを払拭するために、彼にリベンジしたい気持ちはありませんか？

シュルト　あまりないね。

——そうなんですか⁉

シュルト　自分は、ハリトーノフだけじゃなく、いろんな選手に負けたことがあるけど、負けたあと、それを糧に練習したことで自分はここまで強くなったと思っているし、負けた結果にこだわってはい

セーム・シュルト 日本におけるMMA全戦績

[2001.9.24 PRIDE.16]
○vs小路晃
(1R 8分19秒 KO)
シュルトのPRIDEデビュー戦。小路との身長差はじつに39センチ。シュルトは一度はテイクダウンを奪われるも、それ以上、小路に攻めさせず強烈なヒザ蹴りでKO勝ち。

[2001.11.3 PRIDE.17]
○vs佐竹雅昭
(1R 2分18秒 KO)
佐竹との空手家対決。戦前はK-1の最前線で長年闘い、パンチの技術に勝る佐竹有利かと思われたが、シュルトは佐竹の打撃をまったく問題にせず、打撃で圧勝した。

[2001.12.23 PRIDE.18]
○vs高山善廣
(1R 3分9秒 KO)
藤田和之とのド迫力の殴り合いで、PRIDEでも名を上げた高山との摩天楼対決が実現。シュルトは殴り合いに持ち込ませず、一方的に強烈なパンチをヒットさせKO勝ち。

[2002.11.24 PRIDE.23]
×vsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
(1R 6分36秒 三角絞め)
ヒョードルに敗れたシュルトが当時のヘビー級王者ノゲイラと対戦。しかし、テイクダウンされると寝技の実力差は明らかで、ノゲイラの芸術的な三角絞めの前にタップ。

[2002.6.23 PRIDE.21]
×vsエメリヤーエンコ・ヒョードル
(3R終了 判定 0-3)
じつはヒョードルのPRIDEデビュー戦の相手を務めているシュルト。試合は、終始パウンドを浴びせられての完敗だったが、PRIDE以降、ヒョードルとフルタイム闘ったのはノゲイラとミルコ、そしてこのシュルトだけ。立ち技で自分のスタイルを築き上げたいまのシュルトなら、ヒョードルにとっても強敵となるだろう。

ないんだ。だからハリトーノフに限らず、誰かにリベンジしたいという気持ちはない。ただ、ヒョードルに関しては、もう一度やりたいと思っている。

――ほう、ヒョードル戦ですか！

シュルト それはべつにリベンジしたいとかではなく、自分はK－1の世界王者だし、彼はMMAの世界王者、自分が世界一を名乗るためには、やらなきゃならない相手だと思っているからね。

――ヒョードルとやるとしたら、MMAルールでもかまいませんか？

シュルト どちらでもいいけど、ヒョードルはK－1ルールではやらないだろうからね（笑）。DREAMだったら、実現する可能性もあるんじゃないかな。まだ、可能性があるというだけだけどね。

――かつて2回上がったことがあるUFCは、現在ビッグビジネスになっていますが、アメリカで活躍したいという気持ちはありませんか？

シュルト 自分としては、MMAの練習さえしっかりやれば、UFCでも活躍できると思っているんだけど、UFCが自分をほしいと思っているかどうかわからないからね。プロモーターと選手の思惑は違うものだから、現実的じゃないかもしれないね。

――現実的には、日本と母国オランダで試合を続けていくということでしょうかね？

シュルト 1月にMMAをやったセルビアでは、また試合をするんじゃないかな。これからバルカン半島は格闘技の大きなマーケットになっていくと思う。オランダにはすでにたくさんのイベントがあって、大小ひしめき合っているんだけど、セルビアはまだ一つだけなんだ。これから、

[2006.8.5 HERO'S 2006]
○vsキム・ミンス
（1R 4分46秒 三角絞め）
唐突に実現したシュルトひさびさのMMAマッチ。シュルトはMMAのブランクを感じさせず攻めまくり、柔道銀メダリストのミンスからなんと三角絞めで一本勝ちを奪った。

[2004.6.20 PRIDE GP 2004 2nd ROUND]
×vsセルゲイ・ハリトーノフ
（1R 9分19秒 レフェリーストップ）
シュルトのPRIDEラストマッチとなったあまりに有名な一戦。シュルトがマウントを奪われ、鉄槌で顔面を血で染めドクターストップ負けを喫した姿は衝撃的だった。

[2004.4.25 PRIDE GP 2004 1st ROUND]
○vsガン・マッギー
（1R 5分2秒 腕ひしぎ十字固め）
PRIDEヘビー級GP1回戦で"UFC代表"マッギーと巨人対決に挑んだシュルトは、寝技で上になられ苦戦するも、後半、逆に上のポジションを奪い、腕十字で見事に一本勝ち。

[2003.12.31 INOKI BOM-BA-YE 2003]
×vsジョシュ・バーネット
（3R 4分48秒 腕ひしぎ十字固め）
この3年前にUFCで敗れているジョシュとの再戦。シュルトは総合格闘家としての成長を見せ、スタンドでジョシュを苦しめるが、3ラウンド、ついに寝技に捕まりタップした。

ミルコはK－1でもMMAでも強敵だ でも、カードが組まれたらやってもいい

どんどん発展していくんじゃないかな。セルビアだけじゃなく、ボスニアなんかも可能性がある。

――向こうはK－1の試合とMMAの試合を同じイベントでやっているんですよね？

シュルト そうだね。それでボクは「MMAでやってくれ」と言われたんで、MMAの試合をやったんだ。

――シュルト選手にとって、K－1から総合用のスタイルに切り替えることは、そんなに難しいことじゃないですか？

シュルト いや、それは簡単なことじゃないよ。やはりMMAのトレーニングとK－1のトレーニングはまったく違うものだからね。1月は急なオファーでもやったけど、やはりトップレベルの選手とやるのなら、試合前にかなり長い時間、そのルールに合った練習をしなきゃならないね。だから、もしDREAMに上がることがあるなら、最低でも2カ月前にはオファーがほしいね。

――一週間前にミルコの相手を探してるようなイベントなんで、なかなか難しいかもしれませんけどね（笑）。

シュルト べつにアルバイト気分で「負けてもいいや」って気持ちでMMAをやるなら、準備期間なんかいらないけど、ボクはやるならMMAでも世界チャンピオンを目指したいからね。そのためには、しっかり練習しないと。

――わかりました。では、今年のK－1での活躍と、もしかしたらDREAMへの出場、期待してます！

【08年4月11日／都内・某ホテルにて収録】

SEMMY SCHILT■1973年10月27日、オランダ・ロッテルダム出身。96年にパンクラスでデビューし、99年に無差別級王座奪取。UFC、PRIDEを経て、05年からK－1本格参戦。同年よりK－1ワールドGP三連覇の偉業を成し遂げる。現K－1スーパーヘビー級王者。212センチ、135キロ。

"世界のTK"高阪剛が語る
セーム・シュルト MMAでの特性

セーム・シュルトはK-1、総合問わず、もう自分の闘い方を完全につかんでると思うんですよ。

あれだけの身体の大きさと手足の長さがあり、前蹴りと左ジャブだけで相手を倒すだけのものが出せる。ああいった倒すパンチっていうのは、身体の中の軸が強くないと出せないんですよ。その軸がしっかりしていて、軸がブレないまま、突きの攻撃ができるんで、シュルトも自分自身に凄く自信を持ってるんじゃないですか。

だから総合でも、昔、パンクラスで何回か負けたりしてますけど、その頃はまだ自分の軸が見えてなかったと思うんですよね。最近はK-1をやりながらも、総合でも通用する軸が見つかってると思うんですよ。たとえばタックルを切るための重心移動をだったりとか、自分のバランスが崩れないためにはどういう立ち方をしたらいいかとか、そういうことが凄くよくわかってる状態だと思う。

だからこそ、ああいう相手を破壊するような突きの攻撃ができるんだと思うし、総合をやっても、まったく問題ないと思うんですよね。総合の細かい部分を覚えていくのではなく、いまできることに厚みをつけていくだけで、充分だと思うんですよ。

いまのシュルトならヒョードルとやっても、いい勝負になると思います。ヒョードルにとっても、いまのシュルトには簡単には勝てないと思うし、自分もそうですけど、みんなそのカードは観たいんじゃないですか（笑）。

『Number』から『メガトンGP』まで網羅するセーム・シュルト評論家、橋本宗洋が大分析!!

"存在自体が反則" セーム・シュルトが もしDREAMで闘わば

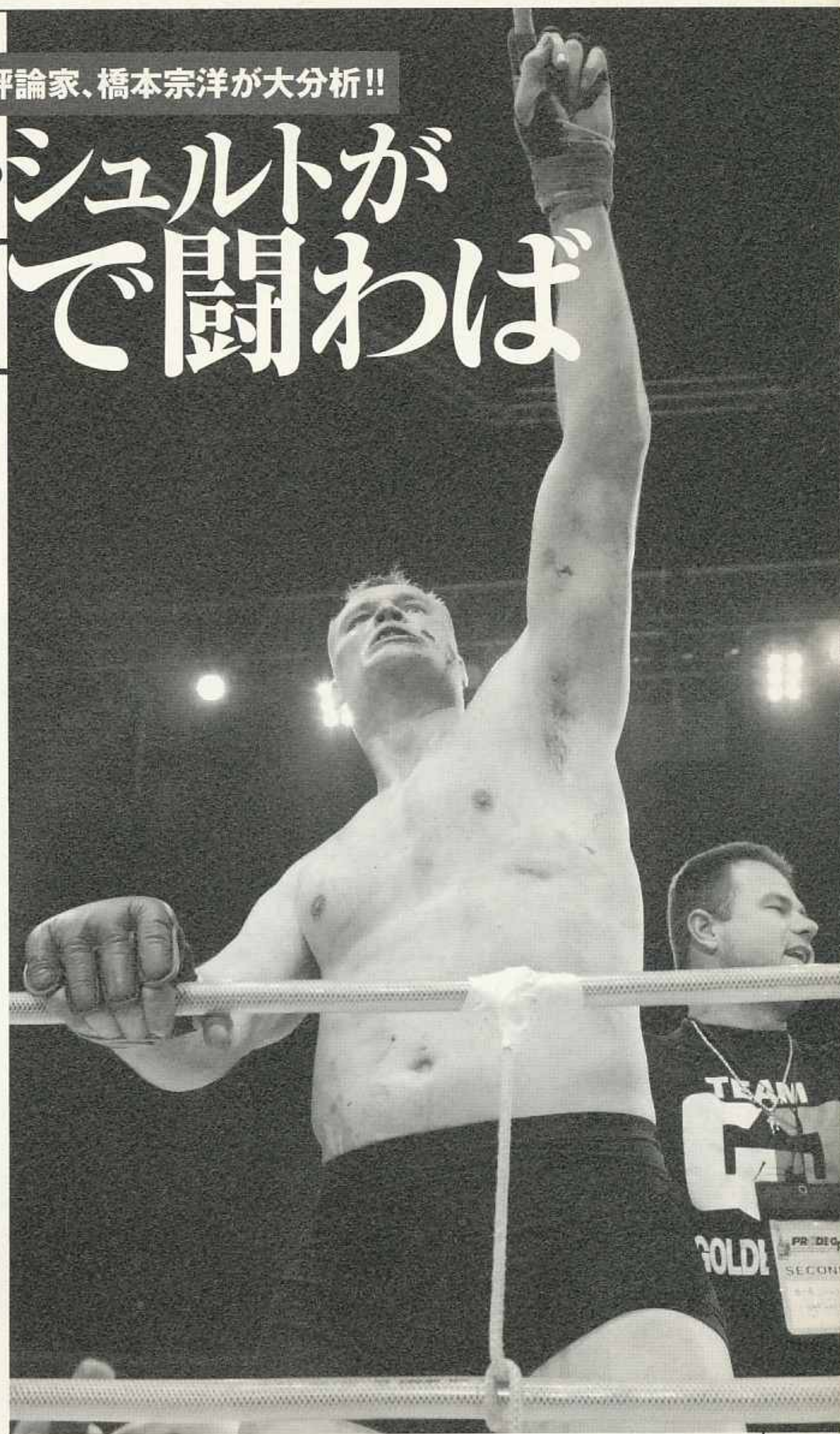
文／橋本宗洋

　セーム・シュルトの総合格闘技挑戦＝DREAM参戦の気運が高まっている。K－1ワールドGPを3連覇、4月13日の横浜アリーナ大会でも、マーク・ハントにまったくつけいる隙を与えずKO勝ちしてみせたシュルト。久しくK－1から離れていたハントが相手なら、かろうじて幻想が成り立っていたのだが、それも試合開始早々に破壊されてしまった。

　ここまできたら、もはや新たな挑戦を始めるのも当然といったところだろう。〝存在自体が反則〟であるシュルトのさらなる野望、その矛先として、DREAMは確かに魅力的な舞台だ。そして、いまのシュルトなら、K－1ワールドGPで優勝し続けながらDREAMのヘビー級チャンピオンにもなるなどという離れ業が、できてしまいそうなのだ。

　まず強調しておかねばならないのは、そもそもシュルトは総合で名を挙げた選手だということである。日本で脚光を浴びたきっかけは、空手でありながら投げ・寝技も認めた大道塾での活躍。

　その後パンクラスに参戦すると無差別級王座に就き、さらにUFC参戦、PRIDEと活躍の場をスケールアップさせていった。そう、彼は総合格闘家として、すでに一流の実績を残しているのだ。

　確かに敗北も経験している。ただしその相手はジョシュ・バーネットにアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、エメリヤーエンコ・ヒョードル、セルゲイ・ハリトーノフなど超一流の選手がほとんど。シュルトは総合での闘いにおいて〝負ける〟ことはあったが、それは決して〝弱かった〟ということではない。オランダでの試合ではギルバート・アイブルにKO負けを喫しているのだが、これは〝イメージの調整〟が必要になってくる。当時のアイブルといったら全盛期である。彼に打撃戦を挑んで勝てる人間など、そう多くはなかったはずだ。加えてあの時点でのシュルトは、まだファイターとして未完成だった。強い選手ではあったが、完璧ではなかった。

　かつてのシュルトは、とにかくそのサイズがすべてだったといっていい。規格外の長い射程距離をもつジャブと前蹴りで、相手を寄せつけないファイトスタイルである。KOはそのパワーと、パンチの〝痛さ〟によって生まれていた。ジャブと前蹴りで身を守っているうちに、相手が勝手に倒れている。そんな試合だったわけだ。

　だがK－1で連覇を重ねる現在の彼は、闘い方を変化させている。ジャブ、前蹴り（これはサイズに関係なく、打撃の試合での基本中の基本でもある）を使いつつ、ハイキックやヒザ蹴りを駆使して積極的に相手を倒しにかかっているのだ。

　サイズに頼った闘いから、サイズを活かした闘いへ。この変化は大きい。そして、この変化がなければ、いかにサイズのアドバンテージがあってもK－1で優勝することは不可能だっただろう。デカいだけで勝てるほど、K－1は甘くない。シュルトはK－1王者たるにふさわしいファイターとしての成長を、この数年で遂げているのだ。

　その成長ぶりは、総合のリングでも発揮されるはずだ。ただでさえ驚異的だった打撃はさらに猛威を振るい、つけいる隙はますます見当たらなくなるだろう。まして、いまの総合格闘技シーンでは〝テイクダウンされずにKOする〟ストライカーのためのファイトスタイルが進化・成熟している。かつてのシュルトは〝倒せばなんとかなる選手〟だった。同時に総合ファイターとして、グラウンドでも勝とうという意識が見えた。だが、K－1で3連覇を果たすほどに成長したシュルトが〝倒されない〟闘い方を極め、グラウンドでは防御に徹したら、果たしてどうなるか。ましていまの総合格闘技は、ブレイクが早くなる傾向にある。

　DREAMに定期参戦することになれば、シュルトは〝倒せばなんとかなる選手〟ではなく〝どうにも倒せない選手〟、〝倒したところでどうにもならない選手〟になっていくはずだ。もちろん、超一流の相手と闘えば苦戦を余儀なくされるだろう。だが、それも時間の問題ではないか。K－1ファイターとしてつけいる隙のないシュルトは、ほぼ間違いなく、総合でもつけいる隙のないファイターになる。ミルコ・クロコップやエメリヤーエンコ・ヒョードルでさえ、その地位を守れるかどうか……。シュルトの〝存在自体が反則〟であることは、舞台がDREAMであってもきっと変わらないだろう。

ミルコに
K-1
包囲網

「今年はDREAMで4試合ぐらいはやりたいね」

『ハッスル』、K-1、そしてDREAM参戦へ!?
サモアのミスター・マルチファイター

マーク・ハント
MARK HUNT

聞き手・撮影／大川義之　試合写真／乾晋也、平工幸雄

4・13K—1WGPでひさびさにK—1参戦をはたしたマーク・ハント。ハントといえば、01年K—1GP王者の肩書きを引っさげ、04年にPRIDEに初参戦。それ以降〝名勝負製造機〟として数々の好試合を繰り広げてきたMMA屈指のハードパンチャーは、PRIDEのリングでも高い人気を誇っていた。

07年春以降、PRIDEの活動休止によりトップファイターたちがUFCをはじめとするアメリカMMA界へ次々と流出する中、ハントはほかの舞台には上がらず、なぜかPRIDEの再開を待ち続ける(?)という状況に。さらには、まさかの『ハッスル』参戦もはたし、今後は「『ハッスル』も格闘技もやっていく!」などというやる気満々のコメントを出したりしていたのだが、今回はその『ハッスル』をキャンセルして、K—1参戦!

はたしてマーク・ハントの〝本命〟はどこなのか? 08年のファイトプランについて、4・13K—1WGPセーム・シュルト戦直前に直撃した!

ハント (唐突に)オハヨー!!

——おおっ、ハントさん! いきなり元気ですねぇ(笑)。ひさびさのK—1参戦で燃えてますかー!!

ハント 確かにK—1はひさしぶりだね。ま、ちょっとはナーバスになっているところもあるけど、オレはもともとK—1ファイターだから、全然大丈夫なんじゃないの?

——そんなハントさんにズバリ聞きますが、今年一年のファイトスケジュールを教えてください!

ハント 今年は日本で試合するよ(キッパリ)。シュルト戦が終わったら、DREAMで4試合ぐらいはやりたいね!

マーク・ハント MMA全成績

[05.12.31 PRIDE男祭り]
○vs ミルコ・クロコップ
(3R終了 判定2-1)
K-1出身同士のMMAとなったこの対決。序盤から積極的に前へ詰めるハントは、持ち前の打たれ強さでミルコのハイキックをも受け流し、圧力をかけてスタミナを奪い判定勝利。K-1時代のリベンジをPRIDEではたすこととなった。

[04.12.31 PRIDE男祭り]
○vs ヴァンダレイ・シウバ
(3R終了判定2-1)
桜庭欠場によりシウバの相手が宙に浮き、急遽実現したこの一戦は、ハードパンチャー同士の真っ向からの殴り合いとなり、壮絶な名勝負に。勝ったハントはもちろん、PRIDEで初敗北を喫したシウバもさらに評価を上げた。

[04.10.31 PRIDE.28]
○vs ダン・ボビッシュ
(1R 6分23秒 KO)
体重差40キロを覆し、MMA初勝利を飾った一戦。突進するボビッシュに、ハントは右アッパーでダメージを負わせると、四つん這いになったボビッシュめがけてヒザ攻撃、さらにサッカーボールキックでとどめを刺した。

[04.06.20 PRIDE GP 2nd ROUND]
×vs 吉田秀彦
(1R 5分25秒 腕ひしぎ十字固め)
ハントのMMAデビューとなった一戦。寝技で極めたい吉田は腕十字やアンクルホールドを執拗に仕掛けるが、ハントはことごとくこれを回避。最終的に一本取られはしたが、いきなり総合への適応力の高さを見せた。

もちろんUFCにも興味はあったけどオファーされた額は少なかったからなあ

——早くもDREAM参戦宣言! しかし、K—1からMMAに転向するときは、「新しいことをやるから、もうK—1はやらない」と言ってたような気がしますが……、今回またK—1の試合をやろうと思ったのはどうしてでしょう?

ハント DREAMとK—1の契約上のこともあるから詳しくは話せないけど、まあ、シュルトは有名な選手でチャンピオンだし、オレにとっても大きなチャレンジだと思ったからな。

——なるほど。今回はK—1ルールですが、MMAでシュルト選手と闘うっていうのはどうでしょう?

ハント MMAルールだったら勝つ可能性はもっと上がるよ。いや、シュルトには確実に勝てるね。だから、今回はK—1ルール、次はMMAでやるってのもいいかもな。

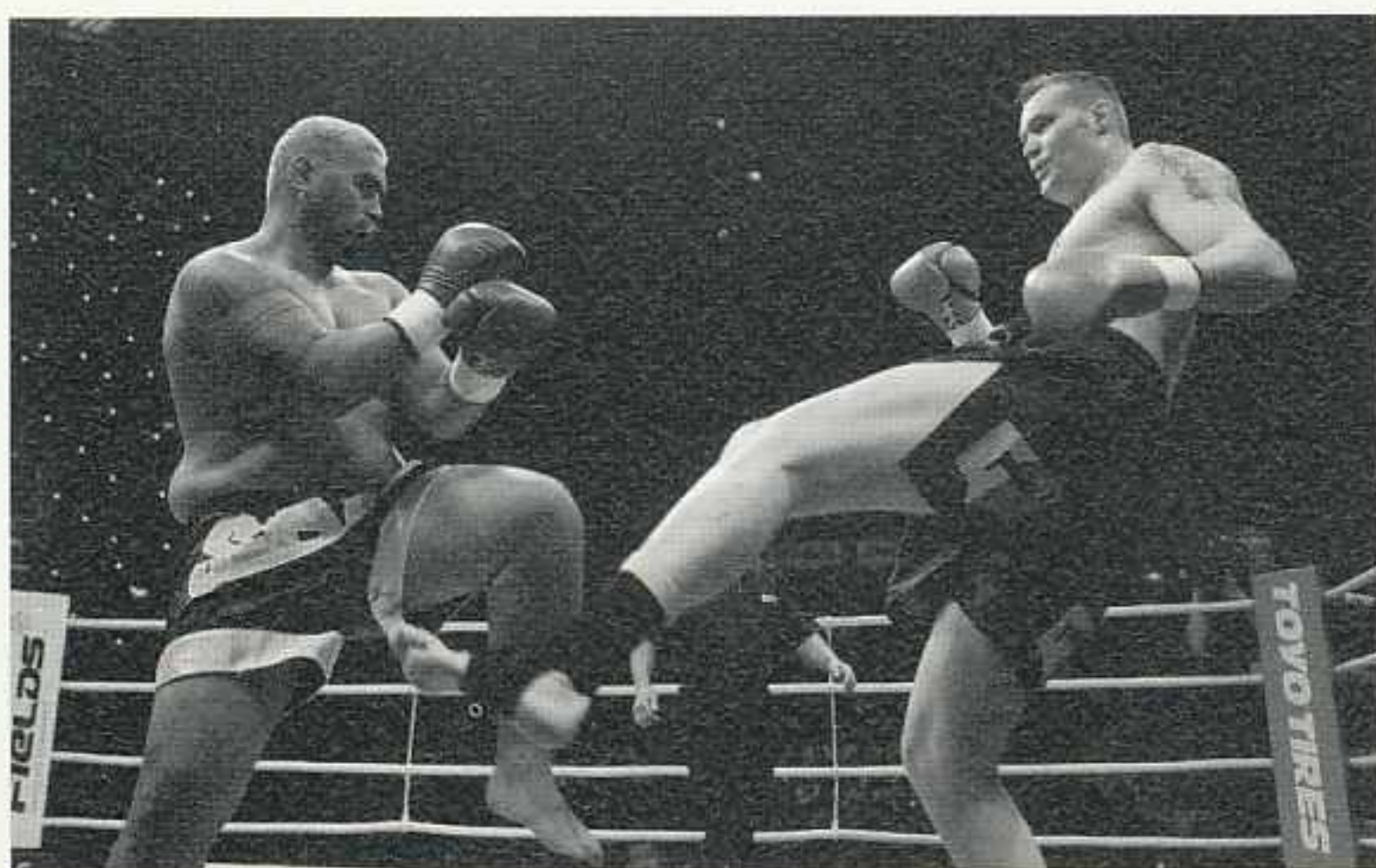
——自信満々ですねぇ。もちろん、シュルト選手がMMA経験者だということも知ってる上での発言ですよね?

ハント もちろん。オレがK—1をやってるときにシュルトはMMAをやってて、オレがMMAに転向してからシュルトはK—1に専念するようになった。ただ、オレはPRIDEのチャンピオンにはなれなかったけど、ヤツはK—1のチャンピオンになったからね。ま、オレもK—1チャンピオンにはなったことあるけどさ!

——K—1出身選手といえば、ミルコ・クロコップ選手もDREAMのリングに上がりましたが、ミルコ選手とはK—1でもMMAでも対戦してますよね。現段階では、K—1ではミルコ選手、MMAではハントさんが白星を挙げていますが、その決着戦をやりたいという気持ちはありますか?

ハント ま、やるんならもう一回やってもいいぜ。MMA、K—1、どっちでもいいけど、ヤツはどのルールでもオレには勝てないだろうな! ガハハハハハ!

——自信はある、と(笑)。そのミルコ選手ですが、UFCでの試合はご覧になりましたか?

ハント ああ、観たよ。彼がいいファイターだっていうのはよく知ってるから、負けてしまったのは残念だったな。ゴンザガとやったときは、ヒジをもらってたし

4.13K-1WGPのタイトルマッチで王者セーム・シュルトのベルトに挑んだハント。ひさびさのK-1復帰で期待が持たれたが、シュルトの前蹴りでハントは徐々にパワーダウン。最後はコーナーに追いつめられ、とどめの後ろ回し蹴り葬! 元K-1王者ハントを前にしても、やっぱりシュルトは強い!!

ねえ……。

――ちなみに、ハントさんはアメリカのMMAイベントで試合をしてみたいとは思わないんですか？　いまアメリカのMMAビジネスは、UFCをはじめとして非常にビッグになっていますよ。

ハント　もちろんそっちにも興味はあったけど、UFCからオファーされた額はあまりにも少なかったからなあ。オレはK―1チャンピオンでPRIDEでも活躍してたってのに、あんな額じゃやってられねぇよ。それにUFCのヘビー級には体重のリミット（120・2キロ）があるから減量しなきゃいけないし。

――ハントさんは減量とか、できなさそうですもんね。

ハント　（無視して）まあ、ミルコはバカ高い額でオファーされたからUFCに上がったんだろうけどなあ。……K―1も悪いギャラじゃないんだけど、凄くいいというほどではないし。ま、いつだって完全に満足できるオファーなんてないもんだよ。ガハハハハ！

――やっぱり、お金が大事ですか！　では、条件次第ではまたK―1ルールで試合をする可能性も？

ハント　ああ。DREAMとはすでに試合の契約は結んでいるけど、マネー次第ではK―1で闘ってもいいよ。たとえばミルコ戦とかな（ニヤリ）。

――おっ！　逆にミルコをK―1のリングに呼び込む、と。ところで、DREAMで試合をするとなると、いつ頃を狙ってます？

ハント　できれば5月の大会に出たいね。相手は、そうだなあ、ヒョードル、ミルコ、シュルト……、まあ、オレは誰だっていいんだけどな。

[06.12.31 PRIDE男祭り]
×vs エメリヤーエンコ・ヒョードル
（1R 8分16秒 アームロック）
自慢の豪腕パンチを叩き込み、なんとアームロックで皇帝ヒョードルを窮地に追い詰めたハント。結果的には“怒り”のヒョードルが逆転一本というかたちになったが、“まさかの一瞬”はおおいに観客をどよめかせた。

[06.07.1 PRIDE 無差別級GP 2nd ROUND]
×vs ジョシュ・バーネット
（1R 2分02秒 アームロック）
打撃で勝負したいハントだったが、テイクダウン→腕十字→アームロックと、見事にジョシュのペースに引きずり込まれてしまうことに。勝負はあっという間の1ラウンド決着となり、ここで無念にも無差別級GP敗退となった。

[06.05.05 PRIDE 無差別級GP 開幕戦]
○vs 髙阪剛
（2R 4分15秒 KO）
「負けたら引退」宣言をしてGPに挑んだTKを相手に、容赦なく壮絶な殴り合いを展開したハント。流血しながらも幾度となく立ち向かってくるTKを、ハントは真っ向から迎え撃ち、ドラマチックな試合を繰り広げた。

[06.02.26 PRIDE.31]
○vs 西島洋介
（3R 1分18秒 KO）
ヘビー級プロボクサーの西島を相手に、またしても極上の殴り合いを展開した試合。朦朧としながらも立ち向かってくる西島だったが、ハントは打撃で粉砕。この見事な攻防から“名勝負製造機”としての評価が決定的なものとなった。

――そのあたりの強豪を倒せば、当然DREAMヘビー級のベルトを手にすることになりますよね。

ハント　ベルトはいいね！　K―1ではチャンピオンになったけど、MMAは何もベルトを持ってないからな。オレは両方でチャンピオンになりたいんだよ。それだけじゃないぜ。プロレスでも、俳優でもチャンピオンになるぜ！　それで大儲けさ！　ガハハハハハ！

――素晴らしい夢をお持ちで（笑）。プロレスといえば、『ハッスル』参戦がかなりの話題を呼びましたもんね。

ハント　ああ。あれはめちゃくちゃ楽しかったね！

――短いですが、セリフもありまし。

ハント　オレは役者だからな（ニヤリ）。でも『ハッスル』のレスラーはいいヤツが多かったな。ああいう世界もおもしろいと思ったし。

――エンターテインメントの世界にも興味があるんですね。そういえば、ボノちゃんともお友だちになってましたもんね。

ハント　でも、ボノちゃんとは電話番号を交換するほどの仲じゃないけどな。

――あら、それは残念。

ハント　……そういえば、日本のリングに上がってるヤツらって、意外とサモアンやハワイアンが多いよな。アケボノ、レイ・セフォー、それにマイティ・モーもだ。……サモアン・ネットワークでチームを作るってのもおもしろいかもなあ。どう思う？

――ど、どうなんでしょう？（苦笑）。みんな豪快なプロレスラーっぽい感じはしますけど。

ハント　まあ、モーやセフォーとは、これから試合をする可能性もあるしな……。チームになると、ギャラの問題とかで揉めそうだしな。面倒はゴメンだから、やっぱやめとくか！

――ぜひ、オール・チャンピオンになって、大富豪になってくださーい！（笑）。

【08年4月11日／都内ホテルにて収録】

MARK HUNT■1974年3月23日、ニュージーランド出身。01年にK―1WGP王者に君臨。その後、自慢の豪腕を引っさげてPRIDEに参戦。ヴァンダレイやTK、西島洋介らと壮絶な殴り合いを展開し、名勝負を繰り広げる。08年はDREAMへの参戦が期待される!? 178センチ、126キロ。

“世界のTK”髙阪剛が語る

マーク・ハント MMAでの特性

自分も闘ってみて思ったんですけど、マーク・ハントはね、もちろん打撃は強いし重心も低いんですけど、総合に関して言えばちょっとしたモロさがあるんですよね。たとえば、いまのセーム・シュルトにタックル入っても倒せる気はしないんですよ。それだけの反応のよさとかブレない軸を持ってるし、自分の身体のこともよくわかってると思うんで。だけどハントだったらなんとか倒せるかもなって。一個一個、強いものは確かにあるんですけど、そのあいだに凄くモロい部分っていうのもあるなっていうのは感じます。もっと言うと、総合の選手は「けっこう強い」じゃなくて「まあまあ強い」部分がどれだけ揃ってるかが重要なんですよね。理想的なのは、底辺にある「まあまあ強い」がどれだけ揃ってて、それプラス、ファイナルウェポン的なものが3つとか4つぐらいあることなんですよ。ハントは倒す技術や必ず勝てるという技術は3つ4つあるんですけど、「まあまあ強い」という部分はデコボコなんですよね（笑）。要はムラがあるというか。そのデコボコのへっこんだ部分をみんな狙ってる感じですよね（笑）。いまの総合って、穴がないのがあたりまえになってきてて、底辺にある「まあまあ強い」のレベルが昔に比べたら上がってきてるんですよ。そういう意味で言うと、マーク・ハントって、ちょっと不安定かなっていう気はします。ミルコ・クロコップやヴァンダレイ・シウバに勝ったりはしてますけど、そのボコって開いてる穴が目立ちますよね。

ミルコにK-1包囲網

「ジョシュとも練習してるし、今後はMMA中心にやっていきたい」

4・13K-1横浜大会では新鋭ファイター前田慶次郎に判定負けを喫し、このところK-1ルールで5連敗中と精彩を欠いているマイティ・モー。しかし、得意のフックでホンマンをはじめ数々のトップファイターをKOしてきた、この男の爆発力はただごとじゃない。学生時代はレスリングに打ち込み、これまでMMA戦績全勝のモーが、ついにMMA本格進出を宣言！

サモアの“猪突モー進”男がMMA本格出撃宣言！

マイティ・モー
MIGHTY MO

聞き手・撮影／大川義之　試合写真／乾晋也

――今回はK-1はもちろん、MMAでの活躍も期待できる選手の特集ということで、モー選手にも話を聞かせていただければと思ってます！

モー　それはいい企画だな。オレは、とりあえずK-1で負けた連中に片っ端からリベンジして、そのあとはMMA中心に闘っていこうと思ってるんだ。

――それはナイスタイミングですね。さしあたって、いま一番リベンジしたい選手は誰になりますか？

モー　どいつもこいつもブッ飛ばしたいところだけど、一番倒したいのは、やっぱりチャンピオンのセームだな。

――昨年6月にスーパーヘビー級のタイトルマッチで激突して、残念ながら判定で敗れてますからね。

モー　次に闘ったら同じような結果にならない自信はあるよ。あと3年前に負けている（ピーター・）アーツもそうだな。セームとアーツ、この二人には必ずリベンジしたいと思ってるんだ。

――ここ最近はUFCを中心にアメリカのMMAシーンがかなり盛り上がってますけど、試合とかはご覧になってます？

モー　よく観てるよ。さっきも言ったように、K-1でリベンジが終わったらMMAをやりたいと思ってるからな。

――具体的にはDREAM参戦を考えているんですか？　それとも、ほかのMMAイベントへの出場も考えています？

モー　いや、まだ具体的には何も考えてないけどな。

――3月のDREAM旗揚げ戦のミルコの相手に谷川貞治FEG代表は「モーとやったらおもしろいじゃないかなぁ」と話してましたけど。

モー　それはグッドアイデアだ。オレとミルコが闘ったらエキサイティングな試合になっただろうな。

――いまもMMAの練習は定期的にしているんですか？

モー　もともとオレはハイスクール時代はレスリングをやってて、大きな大会にもたくさん出ているし、そういう意味ではナチュラルなグラップラーだからな。最近はK-1の試合があったから立ち技の練習がメインだったけど、今回の試合が終わったら、MMAのトレーニングの比率も増やしていこうと思ってたんだ。

――具体的にMMAのオファーはいろいろと来ているんですか？

モー　いや、自分がFEGと契約しているっていうのは知られているから、ほかのイベントから声がかかることはないんだ。自分がMMAをやるとしたらFEG

を通してやることになるだろうな。

―いまは誰か有名なMMAファイターと一緒にトレーニングをしたりとかは？

モー　ジョシュ・バーネットと練習してるよ。ジョシュはMMAファイターとしては世界のトップレベルだからな。

―ジョシュからグラウンドとかを教わってるんですか？

モー　そうだね。もちろん、代わりにオレは打撃を教えてやってるけどな。

―モー選手のプロフィールを見ると、MMAの試合は3試合してると書かれていますが、それ以外にもMMAの試合に出たことはあるんですか？

モー　プロフィールには書かれてないかもしれないが、マーク・コールマンとも闘ったことがあるんだ。

―えっ、それは初耳ですね。

モー　闘ったのは事実だけど、コールマン戦は2003年に公開された映画の中の話なんだ（笑）。

―あ、そういうことでしたか（笑）。それは当然、お芝居の中での闘いだったんですよね？

モー　いや、その映画の中で闘ったときは、ほぼリアルファイトだったんだ。

―あ、そうなんですか？

モー　コールマンにテイクダウンされたんだけど、オレの下からのパンチでコールマンの顔が腫れてしまったんだ。コールマンは「下のヤツからこんなに強いパンチを打たれたのは初めてだ」って驚いてたよ（笑）。まだK―1で有名になる前の話だけどな。

―そんなことがありましたか。いまアメリカではキンボ・スライスというストリートファイト出身の選手がブレイクしてるみたいですけど、ご存知ですか？

プロフィールに書かれてないかもしれないが、コールマンとも闘ったことがあるんだ

モー　ああ知ってるよ。なんだよ、オレとキンボの試合が観たいっていうのか？（笑）。

―噛み合いそうな気はしますけどね。

モー　問題じゃないね。だいたい、ヤツはオレみたいな強烈なパンチを持ったファイターと闘ったことがないだろ。パンチで軽くKOしてやるよ。ガッハッハ！

―余裕しゃくしゃくですね（笑）。ここ最近、MMAで活躍していたマーク・ハントがK―1に戻ってきましたけど、意識する部分はありますか？

モー　彼は自分と同じサモアンだし、これまで強い選手と闘ってきて勝っているので凄くリスペクトしているよ。ただ、実際にオレと闘うことになったら話は別だ。リスペクト抜きで、ただブッ倒しにいくよ。

―やるとしたらK―1ルールでもMMAルールでも、どちらでも問題ないと？

モー　ルールはなんでもかまわない。プロモーターから望まれたルールで闘うっていうのが自分の仕事だと思ってるし、強いファイターと闘うのがオレの生きがいだからな。

―なるほど。具体的にMMAルールで闘ってみたい選手は誰かいますか？

モー　強いファイターと闘いたいって意味では、ミルコ・クロコップもトップの一人だし、エメリヤーエンコ・ヒョードルも最強と言われているファイターだし、闘いたいと思っている。まあでも、そういった選手と闘って確実に勝つためには、もう少しMMAのスキルを上げなければいけないだろうな。そのへんはしっかりと自覚しているつもりだ。

―では、今後はK―1でのリベンジロードと、MMAの二刀流でやっていく感じなんですかね？

モー　そうだな。FEGからどういうリクエストが来るかはわからないが、自分としては今後はMMAを中心にやっていきたいと思ってるんだ。まあ、ファイトマネーとか条件次第だけどな（笑）。

―それも大事なことですからね（笑）。では、今後の活躍を期待してます！

【08年4月11日／都内ホテルにて収録】

MIGHTY MO■1973年10月8日、アメリカ出身。04年2月のK―1デビュー後はGP覇者のボンヤスキーやホンマン、グッドリッジを下すなど活躍。K―1登場前の03年にはアメリカの金網MMA大会で勝利。06年にはボクシングでプロデビューもはたしている。185センチ、135キロ。

05年9月のK-1ワールドGP1回戦でピーター・アーツと激突したモーは強烈なローキックを食らいKO負け。MMA本格進出前にK-1の象徴的な存在のアーツとシュルトへのリベンジも狙うモーは「次にやれば勝てるし、逃げたと思われたくないからな」とニヤリ。

8日前にK-1ルールでチェ・ホンマンをKOしたモーは07年3月12日、自身2度目となるMMAマッチをキム・ミンスと行ない、得意のフックで1ラウンドKO勝利。同年6月の『Dynamite!! USA』でのウォーパス戦と、モーは、これまでMMAは3戦全勝！

“世界のTK”高阪剛が語る

マイティ・モー MMAでの特性

モーの総合の試合は『Dynamite!! USA』でウォーパスとやった試合しか観てないんですけど、技術的な話をすると、モーの構えはオーソドックスなので、ウォーパス戦で組み合ったときに左手が前に出てたんですよ。そのまま組み合っちゃうと左四つになるんですけど、そのまま投げようとしたり、崩そうとしたりしてたんで凄くやりづらそうでしたね。モーは高校までレスリングをやってたみたいですけど、テイクダウンの技術をしっかり持っていて、それを使おうとするんであれば、モーは右利きだと思うんで、試合では右組みに変えてたと思うんですよ。でも、実際の試合ではそこまで身体が反応してくれなかったって感じがしましたね。要は総合の試合をやろうとしたんじゃなくて、K-1の延長でやって勝てたっていうか。あの試合を観るかぎりは、そのへんは全然できてなかったですね。打撃からスタートしてる人が、オーソドックスの構えのまま、構えを変えたくないから組み技も左でいくよっていうふうにするんであれば、いまのままでいいと思うんですよ。ただ、本格的に総合をやっていくつもりがあるなら、いまのままだと通用しない場面も出てきますからね。大まかな枠組みの部分を自分でどれだけ練習の中でつかんでいけるかっていうところが総合では大事なんですけど、その枠組みの一つにスタンスであったり、構えをどうするかっていうのは含まれるんですよ。そこをどう克服しようとしているのかが気になりますね。

「ミルコやハントとはそのうちMMAで試合することになるんじゃないか?」

あのランディ・クートゥアーが練習パートナー!? MMAの牙を研ぐ南海の黒豹!

レイ・セフォー RAY SEFO

聞き手・撮影／大川義之　試合写真／乾晋也

今年でK—1に参戦してから12年目を数え、すっかりベテランの域に達したレイ・セフォー。MMAの試合経験は一戦ながらも、そのポテンシャルの高さは谷川プロデューサーをして「MMAに専念したらミルコより強くなる」と言わしめるほど。そんなセフォーがどうやらMMA再出陣を虎視眈々と狙っているらしい。ブーメランフックがMMAのリングで火を噴く日も近い!?

——今回はMMAで活躍が期待されるK—1ファイターということでセフォー選手にお話をお聞きしたいと思います!

セフォー　そいつは嬉しいね。とは言っても、オレはまだMMAは一戦しか経験してないんだけどね（笑）。

——確かにセフォー選手のMMA実戦はキム・ミンス戦（2005年7月6日）のみですね（笑）。でもあの試合はハイキックで見事なKO勝ちでしたし、MMAでもセフォー選手のポテンシャルが高いのを感じました。

セフォー　オレもMMAの試合をもっとやりたかったけど、あのときはFEGからK—1に専念してほしいっていう要求もあったからね。でもMMAにはずっと興味を持ってるよ。

——なんでもいまはランディ・クートゥアーのジムでトレーニングしてるとか?

セフォー　そのとおり、一緒に練習してるよ。ランディとは親友なんだ。

——UFCヘビー級王者がスパーリングパートナーとは素晴らしい環境ですね!

セフォー　でもランディも忙しいから満足がいくほど練習はできてないんだけどね。最近だと日本に来る前にスパーリングしたな。いまオレの主戦場はK—1だから、あまりMMAの練習はしてないけど帰国したらまた取り組もうと思ってるよ。

——アメリカではMMAがビッグビジネスとなってますが関心はありますか?

セフォー　UFCは毎回観てるよ。ただ、自分がMMAをやるとなるとタイミングとかいろいろな条件が出てくるけどね。

——もし契約上の問題がなければMMAにも挑戦したいと思いますか?

セフォー　FEGもDREAMというMMAイベントをプロモートしてるし、それに出場するのもおもしろいだろうね。

——それは観たいです! 今年はUFCに主戦場を移していたミルコ・クロコップが日本に戻ってきたり、MMAで活躍していたマーク・ハントがK—1に里帰りしましたが、セフォー選手はミルコやハントとMMAで闘いたいと思いますか?

セフォー　ミルコでもハントでも問題ないよ。オレは相手は誰でもかまわない。MMA参戦を想定してランディと練習してるんだしね。そのうちどっちかと試合することになるんじゃないかな（笑）。

——実現したら注目のカードですね! キム・ミンス戦からは3年近く経ちますが、自分ではどのくらいMMAの技術が進歩してると思います?

セフォー　あの当時に比べれば練習も積

んだし、かなり上達してると思うよ。

――谷川K―1プロデューサーは「もしセフォー選手がMMAに専念したらおそらくミルコより強くなるんじゃないか」と言ってましたが？

セフォー　そいつは本当かい？（嬉しそうに）。

――黒魔術ではないと思います（笑）。ちなみにUFCでのミルコの一連の試合ぶりについてはどう思いました？

セフォー　ミルコは普段の力が出せてなかったね。ただそれは彼だけではなく、ほかの日本を主戦場にしてたファイターもUFCではいい結果を残せてないから、やはりルールの問題やアメリカの環境に慣れていないことが原因だと思うよ。

――MMAがらみの話でいうと、セフォー選手は（ヤン・ザ・ジャイアント・）ノルキヤと親交が深いんですよね？

セフォー　もう2年以上一緒のチームで練習しているよ。ちなみにチーム名は「チーム・セフォー」だよ（笑）。

――マイ・チームだ、と（笑）。2月のノルキヤとボブ・サップの試合は観ましたか？

セフォー　もちろん。だってオレはその試合のためにノルキヤの練習パートナーを務めたんだから（笑）。

――ノルキヤの圧勝劇の裏にはセフォー選手の力がありましたか！

セフォー　試合は作戦どおり。ハードトレーニングをこなしたかいがあったよ。

――サップはどうでした？　かつてビースト旋風を巻き起こした頃と比べると見る影もないほど無惨な負け方でしたけど。

セフォー　ほかの選手の悪口は言いたくないけど、もうサップは本当のファイターじゃないね。彼が有名になったのは強さというよりはバラエティタレントとしてだからね。オレもサップには勝ってるけど（2004年6月26日）、彼は身体の大きさとは対照的に気持ちが小さいんだよ。

――逆にセフォー選手はK―1ファイターの中では大きいほうではないのに、どんな大男相手にも気迫負けしませんよね。

セフォー　そう言ってもらえるとありがたいね（笑）。

――セフォー選手というとその試合スタイルからクレバーなイメージがあるんですが、リング上にかぎらず普段の日常生活でも変わりはないんでしょうか？

セフォー　一緒じゃないかな。リング上も日常生活もどちらもクレバーな考え方は当然必要だと思うし。いろんなシチュエーションに対して適切な判断をしなければいけない。たとえば日常生活でいうならばこういう人と付き合って、こういう人と付き合わないほうがいいとかさ。

――なにごとも冷静な判断が必要だ、と。

2005年7月の『HERO'S』で行なわれた、セフォー唯一のMMA経験となるミンス戦。試合はセフォーが得意のフックをベースに打撃でプレッシャーをかけて終始ペースを握る。最後は突っ込んできたキムにカウンターを合わせてダウンを奪うと、さらに追い打ちのハイキックで劇的勝利！

オレはリング上でも日常生活でもつねにクレバーでありたいと思ってる

セフォー　オレは常にクレバーでありたいと思ってる。たとえばほかの国に行ったときも、その国の人々や文化とかに適合するように心がけているよ。

――セフォー選手は日本に長期滞在したりアメリカに生活の場を移したりと、環境適合能力に長けてますよね。

セフォー　根がポジティブだからね（笑）。

――そういう意味ではいまはK―1が主戦場で、今後はMMAの世界にも適合していきたいという気持ちは持っている、と。

セフォー　もちろんモーリス・スミスやランディのようにベテランになっても活躍している選手もいるわけだし、自分自身のMMAへの挑戦も何度も考えたことはあるよ。ただ、いまはK―1ファイターとして目の前の試合に集中したいね。まぁ、タイミングに合わせてベストな選択をしていきたいと思うよ。

――なるほど。セフォー選手がこれからファイターとして目標とすることは？

セフォー　マッチメイクされた試合に一つ一つ勝っていくことだね。あまり先のことを考えると足元がすくわれるからさ（笑）。とくに去年は負けが続いて自分のキャリアの中でも最悪の年だったからな。

――今年は仕切り直しということですね。

セフォー　すぐ目の前にあることに対処できないとどこにもたどり着けやしないよ。だから着実に勝ちを重ねていって、最終的には誰にも届かないような遠くに達したいな。もちろんその道のりの中にはMMAの試合も含まれるだろうし。

――期待が持てる発言ですね！　今後のご活躍に期待してます！

【08年4月11日／都内ホテルにて収録】

RAY SEFO■1971年2月15日、ニュージーランド出身。レイ・セフォーファイトアカデミー所属。死角から飛んでくるブーメランフックを武器にK―1初期から活躍。K―1GP2000では準優勝を飾った実力者。DREAMでのMMA登場が期待されている。183センチ、103・1キロ。

“世界のTK”高阪剛が語る

レイ・セフォー MMAでの特性

レイ・セフォーはいまのところMMAの試合経験がキム・ミンス戦だけってことですけど、その試合を観るかぎりではかなり総合でもやれるんじゃないかなって思いましたね。K-1でのセフォーを観てると打撃を右にも左にもスイッチできるし。基本的に器用な選手なんだと思います。それと、ミンス戦で組み合ったときに最初は右手を差さなかったんですけど、次に組んだときには自分から右手を差して右四つの状態に持っていったんですね。そこから相手のバランスを崩すために、捨て身技のように自分が寝ながら相手を崩して、そこから素早くバックに回るという動きをスムーズにやっていて。総合デビュー戦で、しかも柔道のメダリストを相手にそんな動きができるっていうことは相当練習もしてるんだろうし、もともと優れたバランス感覚を持ち合わせてるんだと思いましたね。正直言って、シュルト、ハント、モー、セフォーの4人の中だったら、自分はセフォーが一番総合向きだなって思います。じつは自分はセフォーとは昔から付き合いがあって、よく話したりもしてるんですよ。そういうときに思うのが、セフォーは一点にとらわれないものの見方をしてるなっていうことなんです。そういう柔軟な思考を持ってる部分からもMMAにも対応できるんじゃないかなっていうふうに思います。

kamipro books

死んだら、大好評!!
大増刷ですよ!

生前
追悼 ターザン山本!

浅草キッド
いしかわじゅん
堀辺正史
更級四郎
松本晴夫
杉山頴男
谷川貞治
山口日昇
金沢克彦
市瀬英俊
小島和宏
菊地成孔
Oka-Chang
原タコヤキ君
椎名基樹
井上崇宏
堀江ガンツ
古関夢香

追悼
ターザン山本!

緊急出版 ターザンは死んだ!!
○月×日、ターザン山本!(本名・山本隆)さんが、万馬券を当てた興奮のため都内の場外馬券売り場でショック死した。払い戻し額は10,300円。所持金は325円。最後の言葉は「俺は天才だ!!」。山本さんは「週刊プロレス」の編集長を務め、90年代のプロレスブームの牽引車の一人であったが、その晩年は……。ピエロ、トリック・スター、ジョーカー、稀代の変人の"死"を通じて、プロレスという底が丸見えの底なし沼を覗き見る——!!

定価=1470円(本体1400円+税)
B6変型判 304ページ

輝きを増すUFC巨大帝国――!!

未来のMMAがいま見れる!!

日本は迷うがアメリカは進む――!!　エリートXCやストライク・フォースの全米地上波放映が決定し、ますます巨大化するアメリカMMAだが、中心はいまでもUFCだ。試合のクオリティ、規模、戦士のカリスマ性。未来の闘いというべきものが、UFCでいま見ることができる!

撮影／ Josh Hedge（UFC）

アメリカの
ヴァンダレイ・シウバ
WANDERLEI SILVA

“ミスターPRIDE”の現在——!!

取材／フェルナンド・ラモス
構成／謎のホワイトマスク

ヴァンダレイ・シウバ、再びオクタゴンへ——!! アメリカはラスベガスに居を構えるヴァンダレイ・シウバは、5・24『UFC84』に向けてハードなトレーニングを積んでいる。彼の42試合目の相手は、キース・ジャーディン。ヴァンダレイが『UFC79』で敗れたチャック・リデルから、判定勝利をモギ取っている中堅ファイターだ。サバイバルレースが激化するUFCでの"連敗"は、ファイターにとって事実上の"死"を意味する。ヴァンダレイにとっては早くも正念場が訪れているわけだが、新天地アメリカでのファイター生活はスタートしたばかりでもある。

今回のインタビューは、UFCだけではなく、DREAMやシュートボクセなど、話題は多岐に渡った。

——ずいぶん前の話になりますが、昨年末のチャック・リデル戦のことから聞かせてください。

シウバ ああ、かまわないよ。

——まず、ひさしぶりにオクタゴンで闘った感想はいかがですか?

シウバ とにかく最高だったよ。UFCファンのエネルギーには本当にビックリしたし、オクタゴンから満員の会場を見渡したときなんて、もの凄く気分がよかった。

——あんなに熱気あふれる会場はちょっと記憶にないですよね（笑）。オクタゴンとリングの違いは感じませんでした? PRIDEからやってきたファイターはみんなその違いに苦戦してるじゃないですか。

シウバ 違いというか、なんというか。リデル戦に備えてオクタゴンでのトレーニングはかなり積んできたが、実戦と練習は別ものだったよな。もっとうまいスペースの使い方や、フェンスを利用するやり方など、これから自分自身の試合ができる方法を見つけていくしかないだろうね。

——あのリデル戦はUFCの歴史の中でも、最も素晴らしい試合のうちの一つとの評価を受けてますね。

シウバ ありがとう（ニッコリ）。自分でも非常にエキサイティングなファイトができたと確信している。UFCヒストリーの中で大きな名前を残すことができたんじゃないかな。

——では、判定負けという事実をどのように捉えていますか?

シウバ たしかに判定はああいう結果になったが、俺がリデルに勝っていた局面もあった。2ラウンドにヒジを食らってかなり効いてしまったし、3ラウンドではスピニング・パンチを食らってしまった。あの二つの攻撃で彼が勝利をモノにしたと思う。でも、最も重要なのは、あの試合がファンをエキサイトさせ、大きな話題の対象となったということさ。それが俺にとっては一番大事なことなんだよ。

——ダナ・ホワイトからは何か言われましたか?

シウバ 彼は非常に満足していたよ。ヴァンダレイ・シウバという存在が「UFCに大きい未来をもたらす」と言ってくれたし、彼はリデル戦という素晴らしいマッチメイクを用意してくれた。だから俺はダナに「いかなるプロテクトも俺には必要ない」と言ったんだ。UFCには素晴らしいファイターがいるから、「俺は誰とでも闘う用意はできている」と伝えたよ。

——ランディ・クートゥアーやチームメイトからはどんな言葉をかけられましたか?

シウバ ランディはこう言ってくれたんだ。「これからの試合のために、レスリン

「多少の敗北は、負けとして考えるべきではない」と書かれた本を読んだよ

輝きを増すアメリカ
未来のMMAがいま見れる!!

ラスベガスのヴァンダレイ邸におじゃましました!! ブラジルの豪邸も凄かったが、こっちもあたりまえのようにプールつき。UFCでヴァンダレイのアメリカンドリームはふくれあがるのか? 夢なら醒めないで〜!（by阿修羅チョロ）。

07年12月29日『UFC79』でついに実現したリデル戦! 判定で敗れはしたが、決して怯まずに前進するヴァンダレイの姿に会場は大爆発! 終了後も激闘の余韻は消えず、メインのマット・ヒューズvsGSPは静まりかえったままのスタートだったほど!!

グやMMAの練習をたくさん協力するよ」ってね。だから俺は信じてるのさ。クートゥアーの協力を得て練習を積むことで、俺はリデルを打ち負かすことができるとね。もちろん、自分の犯してしまったミステイクについても話し合ったし、俺は俺で、次の試合でその部分を改善するためにハードに練習している。

――環境は万全なんですね。あの試合後、ブラジルにいったん帰られましたよね。

シウバ　クリチバにいる俺の娘や両親のところに行ったり、ブラジルの北東にあるナタルで、息子やワイフと一緒に20日間ぐらいすごしたよ。ナタルでは小さなMMAイベントに行く機会があった。リッチなベガスでも、みすぼらしいブラジルの北東部でも、みんな一生懸命トレーニングをしてるんだよ。ファイターのフィジカル面では違いはあったけど、テクニック自体はかなり近いものがあったね。

――ブラジル滞在中、今後のことをゆっくり考える時間はありましたか?

シウバ　そうだな……。ブラジルでは「多少の敗北は、負けとして考えるべきではない」と書かれた本を読んでいたよ。うん。同感だね。

――師でもあるシュートボクセのフジマール会長と会う機会はありましたか?

シウバ　いや、なかった。ブラジルには休暇で寄っていたわけだし、シュートボクセのメンバーからも連絡はなかったよ。

――でも、ショーグンとニンジャに会ったそうですね。

シウバ　ああ、二人のことは見かけたよ。ショーグンとは電話で話すことができた。

――シウバ選手に続いて、シュートボクセを離脱したショーグンとニンジャについてどう思いますか?

01年3月25日『PRIDE.13』桜庭和志戦。スーパースターだった桜庭を倒したことから、ヴァンダレイ・シウバのサクセスストーリーはスタート! 田村潔司、金原弘光、近藤有己、吉田秀彦ら主要日本人ファイターを"養分"にし、その価値はどんどんうなぎ登りとなった。

03年11月9日『PRIDEミドル級GP』Q・ランペイジ・ジャクソン戦。同日の準決勝で吉田秀彦に判定の末、勝利。リデルをKOして勝ち上がってきたランペイジとのGP決勝戦。ヒザ蹴り連打で圧勝! このGP優勝でその人気を不動のものに。ミドル級世界最強に君臨した。

04年10月31日『PRIDE.28』Q・ランペイジ・ジャクソン戦。再戦はチャンピオンシップ。アローナとの挑戦者決定戦を制したランペイジの勢いは侮れないという声も挙がっていたが、ヴァンダレイ・シウバ史に残る激闘の末、ホラー映画並のラストシーン!

俺のキャリアの中で最も重要な瞬間は、日本でやったこの3つの試合だ

シウバ　それは彼らの個人的な選択だったんだ。それぞれのファイターは、自分のチームを作る理由があるのさ。彼らが自分の道を行き、彼ら自身がチャンピオンになるうえで、いいタイミングだったと思う。ファイターは皆、自分の未来において、何がベストなのかを知る必要はあるだろうね。

――ショーグンはシウバ選手と同じくUFCと契約中です。これから協力し合うことはありえますか?

シウバ　じつは彼らと練習する機会を持ちたいとは思っているんだ。実際に、クリチバで彼らと練習を始めたかったんだが、俺はラスベガスに帰ってこなければならなかった。将来、俺がクリチバに行ったとき、あるいは彼らがベガスに来たときに、一緒に練習できればいいなと思っている。彼らは俺の素晴らしい友人だし、それに彼らは素晴らしいチームを作っているからね。ニンジャ、ショーグン、アンドレ・ジダ。彼らとは素晴らしいトレーニングができるはずだよ。なによりニンジャとショーグンは、俺にとっては兄弟のような存在なんだ。

――シウバ選手やショーグン、ニンジャがいないシュートボクセの未来についてどう考えますか?

シウバ　なんの心配もないよ。シュートボクセは才能を輩出するファクトリーなんだ。そこには、まだダニエル・アカーシオ、ルイス・アゼレード、エヴァンゲリスタ・サイボーグ、ファブリシオ・ヴェウドゥムといった非常に経験豊かなファイターが数多くいる。そのほかにも、多くの才能のある若くて活きのいい選手がいっぱいいるよ。近い将来、シュートボクセはすぐにMMAシーンに新しいチャンピオンを誕生させるだろうね。

――シュートボクセはシュートボクセだ、と。シウバ選手の次の対戦相手であるキース・ジャーディンはチャック・リデルに勝っています。彼の印象は?

シウバ　『YouTube』で彼の試合を検索して、1試合だけ見つけたよ(苦笑)。これからUFCに彼の重要なポイントについて聞くつもりさ。彼のスタイルは変わっているけども、非常に効率的で危険だ。彼の蹴りには注意が必要だし、彼がグラウンドを得意としているのも知っている。近々ジャーディンの研究を始めるつもりだよ。

――いまはどんなトレーニングをしてるんですか?

シウバ　基本的に一日2回のトレーニングだよ。朝10時からの練習では、有酸素運動、午後4時からの練習では、クートゥアーのアカデミーでMMAのトレーニングだな。とくにレスリングのスパーリングやボクシング、ムエタイなんかをやってるね。おかげでグッドシェイプになったな(笑)。

――絶好調というわけですね。ところでエリートXCは5月後半にCBSで地上波放映されます。メインストリームにたどり着いたMMAについてどう思います

WANDERLEI SILVA

MMAのドアは世界に開かれた。アメリカでの爆発的な人気を止める方法はない

か？

シウバ　これは凄いことだし、もうアメリカでMMAの爆発的な人気を止める方法はないよ。今日（4月6日・日曜日）も、スパイクTVの『MMAファイト・ナイト』を観たよ。UFCはMMAのドアを世界に開いた。MMAは非常にエキサイティングなスポーツだ。キミが公園にやってきたと想像してほしい。一方では野球をしているグループがいて、もう一方ではサッカーをしているグループがいる。そして、もう一方ではMMAのトレーニングをしているグループがいるんだ。そこで最も注目を浴びるのはファイターたちなんだよ。こういう現象は、人間性の一部だと言ってもいい。このスポーツはそれほどまでに大きく成長し、プロダクション、選手のレベル、ルール（選手の保護）など、すべてのレベルは、よりよいものとなっている。MMAは未来のスポーツであり、そして、それがすぐに世界中に広まっていって、成長していくと信じて疑わないよ。

――MMAの中心はアメリカに移りましたが、シウバ選手が主戦場にしていた日本も大きな変化が訪れてます。DREAMという新イベントについてどう思いますか？

シウバ　あいにくまだ試合は観ることはできていないが、ウェブでの評判を聞くと、イベント規模はK―1やPRIDEと同じスケールだったみたいだね。なんにせよ成功を願っているよ。また日本のMMAマーケットが大きくなっていることを聞いて、俺も嬉しいな。

――旧PRIDEとFEGのパートナーシップをどう見ますか？

シウバ　いままで二つのプロモーションは対立していた。MMAの常識においては、信じられないケースだと思う。日本は大きなマーケットがあるし、MMAファンのためにも、そういう努力をすることはいいことだと思う。

――日本でまた試合をしたいですか？

シウバ　そうだね。ぜひ日本でUFCをやってほしい。日本で試合をするときは、自分のホームにいるような気になるんだ。俺のキャリアの中で最も重要な瞬間は3つある。一つ目は俺がサクラバに勝った試合、二つ目はミドル級GPの決勝でクイントン戦での勝利、そして3つ目はランペイジとのリベンジマッチで彼をKOした試合だ。どれも日本での試合。つまり、俺は日本で育ったわけだ。俺はいつかその日本に帰って、みんなのために闘うよ。俺にとって日本は第二の故郷であり、それはずっと変わらないものだからね。

【08年4月6日／ラスベガスのヴァンダレイ邸にて収録】

WANDERLEI SILVA■1976年7月3日、ブラジル出身。元PRIDEミドル級チャンピオン。どんな逆境でも立ち向かう攻撃的精神を持つことから"ミスターPRIDE"と呼ばれていた。現在はUFCに参戦中。MMA戦績41戦31勝。182cm、93kg。

ヒョードル vs クートゥアーは実現するか？

大注目のファイトをヴァンダレイが語った!!

【噂されるヒョードル vs クートゥアー】

クートゥアーはヒョードルの相手にふさわしいファイターだし、これは興味深い試合だ。たぶん、この試合が彼の引退試合になるだろう。ゴンザガとの素晴らしい試合をやって、クートゥアーが最強のヒョードルとやるのにふさわしいと確信したよ。もしこの試合が実現するとしても、勝負の予測は不可能さ。五分五分だろうね。事実として、オクタゴンの試合では常にクートゥアーが対戦相手を自分のペースに引き込んできた。ヒョードルがどのように自分のゲームに持ち込むのかを見てみたいね。凄い試合になることは間違いないよ。

【5月24日『UFC84』LYOTO vs ティト・オーティズ】

LYOTOが2ラウンドでティトをKOするだろうね。みんながティトは1ラウンドだけのアスリートだとわかっているし、LYOTOはスピードがあるからね。彼の奥さんは妊娠してるから、プライベートでもいまのLYOTOは非常にモチベーションが高いと思う。

【7月5日『UFC86』フォレスト・グリフィン vs ランペイジ・ジャクソン】

かなりエキサイティングな闘いになるだろうね。フォレストは、並外れたファイターであるショーグンを破った。彼がタイトルを懸けて闘う価値のあるファイターであることを証明した。両方に勝つチャンスがあるし、勝負は五分五分だろう。

輝きを増すアメリカ
未来のMMAがいま見れる!!

ヴァンダレイの対戦相手

キース・ジャーディン Keith Jardine とは何モンだ?

輝きを増すアメリカ 未来のMMAがいま見れる!!

特徴は人気のなさ!?

撮影／Josh Hedges（UFC）

格闘技最大の魅力はアップセットにつきるだろう。

打倒エメリヤーエンコ・ヒョードルへの道をひた走るミルコ・クロコップの噛ませ犬と思われていたケビン・ランデルマンは、下馬評を覆してミルコをＫＯ。ＰＲＩＤＥヘビー級ＧＰの台風の目となり、連敗が続くいまも日本のファンのあいだで大きな人気を誇っている。

また、チャック・リデルに連敗して引退していたランディ・クートゥアーは、復帰戦で不沈艦ティム・シルビアと対戦。シルビア有利の下馬評を覆して勝利し、全世界の燻っているオヤジたちの希望の星となった。

そして今回、我らがヴァンダレイ・シウバがライトヘビー級タイトル戦線への生き残りを懸けて挑むＵＦＣ第2戦の相手は、キース・ジャーディン。このジャーディンという男は、普通の選手なら人生に一回あるかないかという大逆転劇を繰り返して、生き馬の目を抜くＵＦＣの戦場を生き残ってきた厄介極まりないファイターなのだ。

ジャーディンは大卒のくせに借金の取立人、炭坑労働者、バウンティハンター（指名手配犯や保釈中の逃亡者を捕らえる賞金稼ぎ）、アメフトのコーチといったさまざまな職を転々とし、草レスリングのトーナメント荒らしで生計を立てていた。その頃にＭＭＡの師匠となるグレッグ・ジャクソンと出会ってこの世界に足を踏み入れた。もともと腕っぷしに自信があったジャーディンは、キング・オブ・ザ・ケージなどのローカル大会で経験を積み（その頃パンクラスにも出場し、ＫＥＩ山宮と対戦してドロー）、『ＴＨＥ ＵＬＴＩＭＡＴＥ ＦＩＧＨＴＥＲ』（リアリティショー番組、通称ＴＵＦ）の2期生としてリッチ・フランクリンチームに参加したという変わり種。

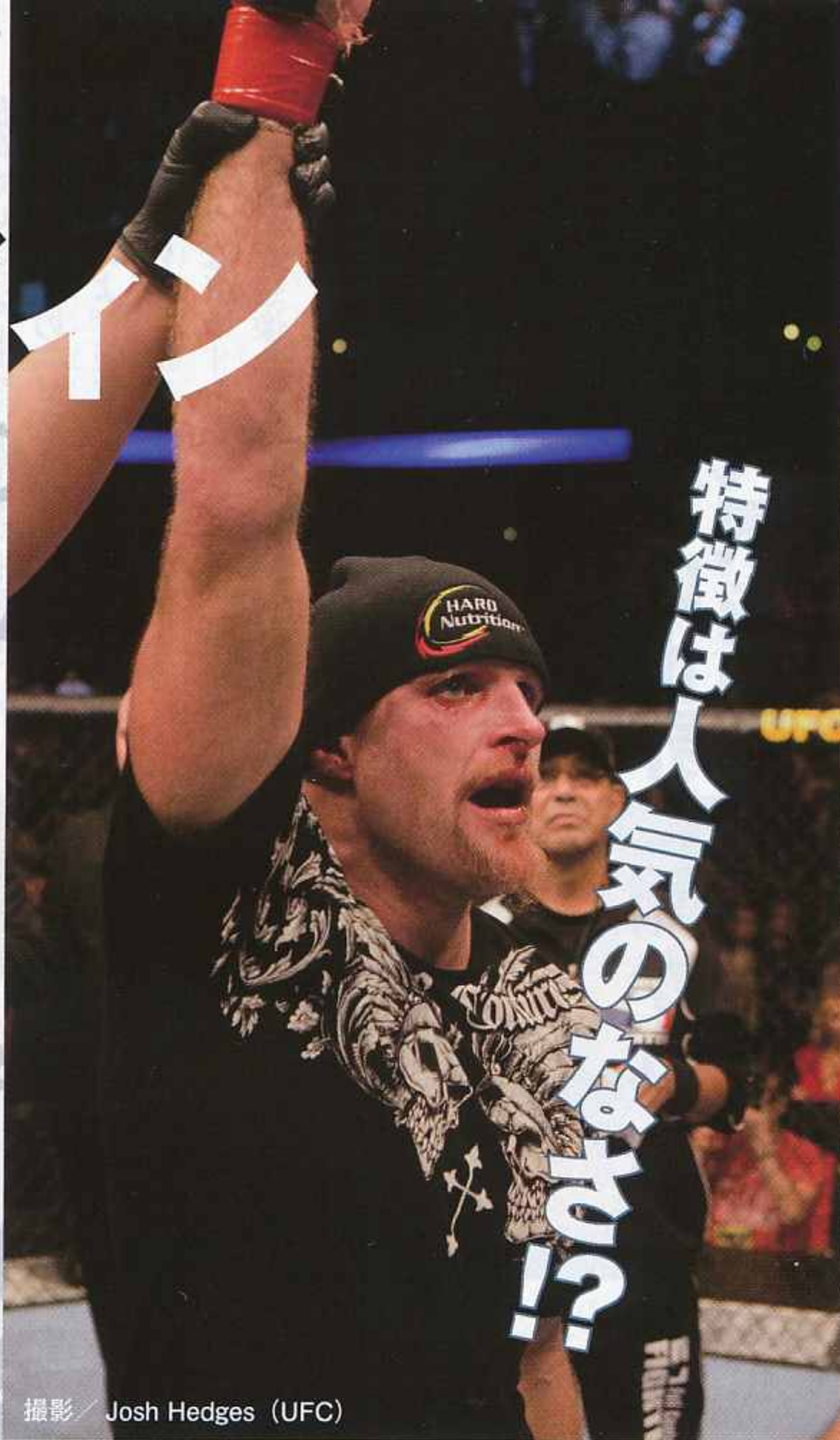
ＵＦＣ本戦登場後は判定試合が続き、連敗こそしないものの誰もがジャーディンは二線級の選手としてフェードアウトしていくと思っていた。しかし、フォレスト・グリフィン戦で運命は大きく動きだす。

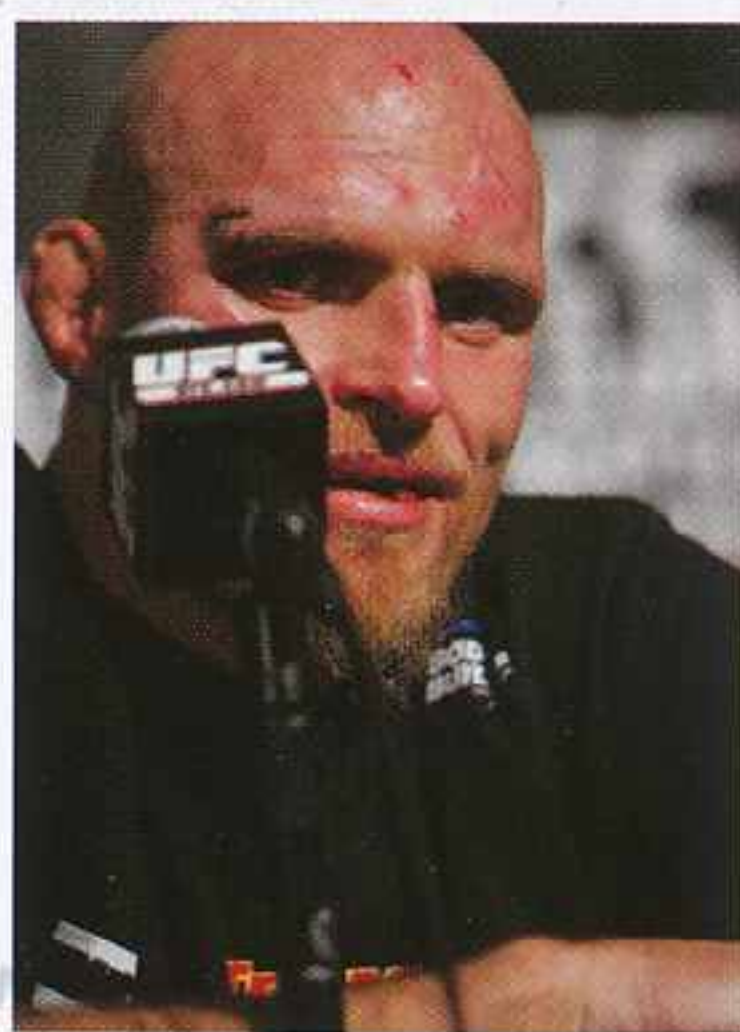
この試合はグリフィンにとって、当時のライトヘビー級王者チャック・リデル戦に向けての最終調整だったが、ジャーディンはパウンドでＴＫＯ勝ち！ グリフィンをリング上で号泣させた。

だが、続くヒューストン・アレキサンダー戦ではクリンチからの連打で秒殺負け。やはりグリフィン戦はフロックだったと皆が思っていたとき、ランペイジに敗北してベルトを失なったリデルの調整試合の相手として抜擢される。これはグリフィンに勝ったジャーディンにスカ勝ちを収めてもらい、リデルを再びタイトル戦線に復帰させようというダナ・ホワイト黒魔術。しかし、リデルが絶不調だったこともあってグダグダな展開ではあったが、なんとジャーディンは前王者からスプリットの判定勝ちを収めてしまったのだ！

レスリングのバックボーンを持ちながらも徹底的に打撃で勝負するアグレッシブなファイトスタイル、勝っても負けてもわかりやすい試合が多いジャーディン。それだけにアメリカでも大人気かと思われるが、南部のレッドネック（肉体労働者）そのまんまな風貌と、勝ち負けを繰り返す微妙な戦績から固定ファンも付きづらいらしく、『ＴＵＦ』出身でリデル、グリフィンというライトヘビー級の二大スターを撃破するという勲章を持ちながら、その人気が爆発するそぶりがまったくもってないというのはあまりにも悲しい。ダナとしてもそんなジャーディンをプッシュしてよいのか決めかねている模様。ＵＦＣ最大のスポンサーの一つであるハーレーダビッドソンの企画イベントに出演させるなど、ＵＦＣの看板を背負ってのプロモーションにも参加させてはいるが、一般層への浸透度はまったくゼロのままだ。

そんな勝てども勝てども王座挑戦にも届かず、人気も爆発しないジャーディンの次なる獲物は、元ＰＲＩＤＥミドル級の絶対王者ヴァンダレイ・シウバ。現ＵＦＣライトヘビー級王者のランペイジを二度も破ったヴァンダレイとの闘いに勝利すれば、悲願の王座挑戦の権利が転がり込んでくる可能性も、ないと思うがまったくないとまでは言えないだろう。この試合ではＰＲＩＤＥ出身のヴァンダレイだけではなく、悲哀あふれる異形のＵＦＣファイター、キース・ジャーディンの闘いっぷりにも注目だ。

（高橋ターヤン）

ちょっと、なんてことすんの!! リデルの復帰戦に抜擢されたジャーディンは、周囲の期待をブチ壊す判定勝利。これにて連敗を喫してしまったリデルは自信喪失、引退をにおわす緊急事態になってしまったからたまらない。まあ、これが勝負の世界なんだけどさぁ。

KEITH JARDINE■1975年10月31日、米国モンタナ州出身。リデル、グリフィンを倒す実力者だが、人気が出ない理由はこのビジュアルのせいなのか!? 目の前のマイクがジャマだが、まともな写真がなかったんだからしょーがない。188cm、93kg.

日本でおなじみのファイターが続々登場!!

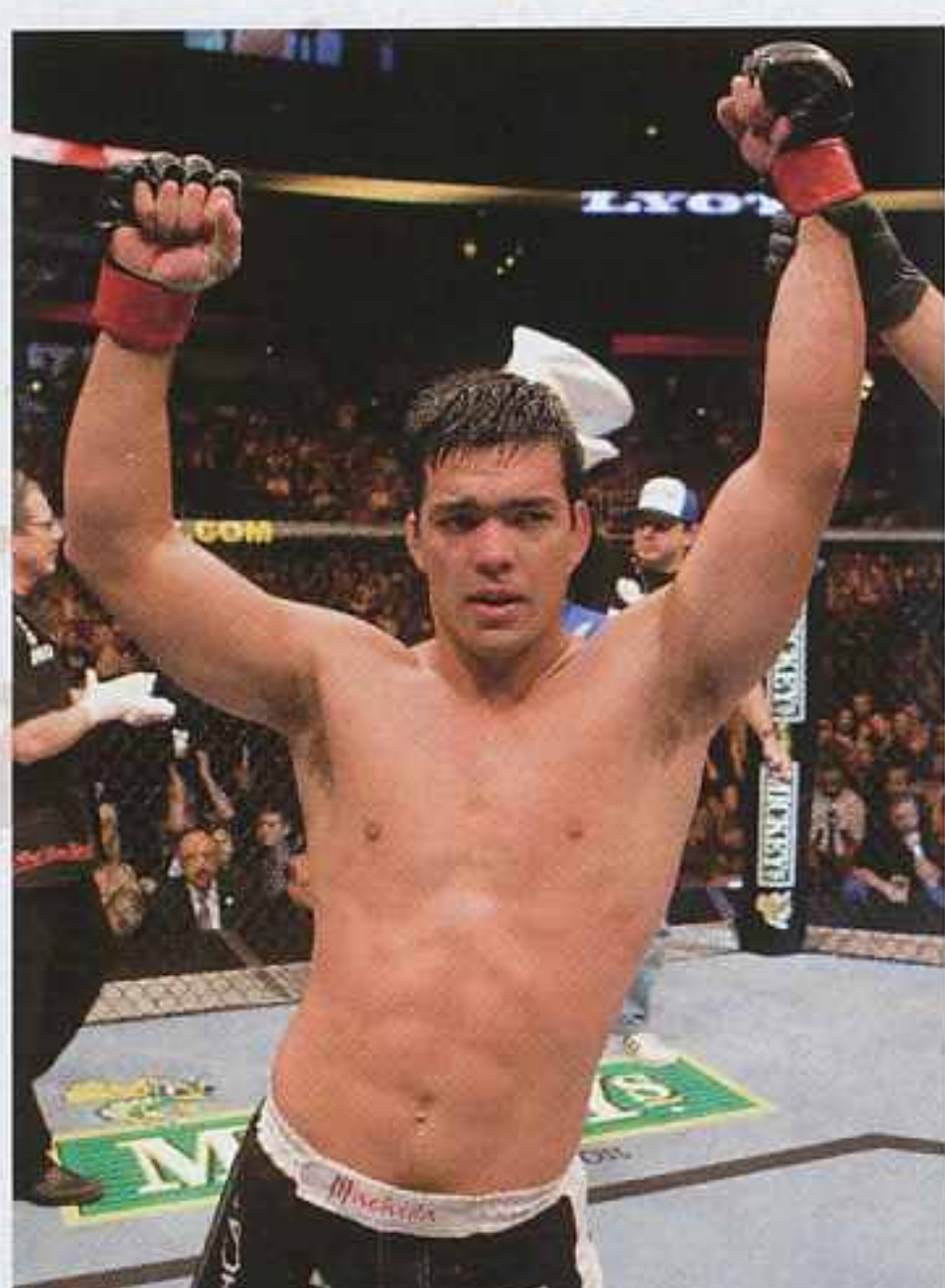
UFC84

5月24日(現地時間)ラスベガス・MGMグランドガーデンアリーナ

ヴァンダレイ・シウバだけじゃない!!『UFC84』には日本での知名度も高いあんな選手やこんな選手もやってくる!『DREAM.3』、『戦極』ときたら、5月の最後はUFCで締めるしかない!!

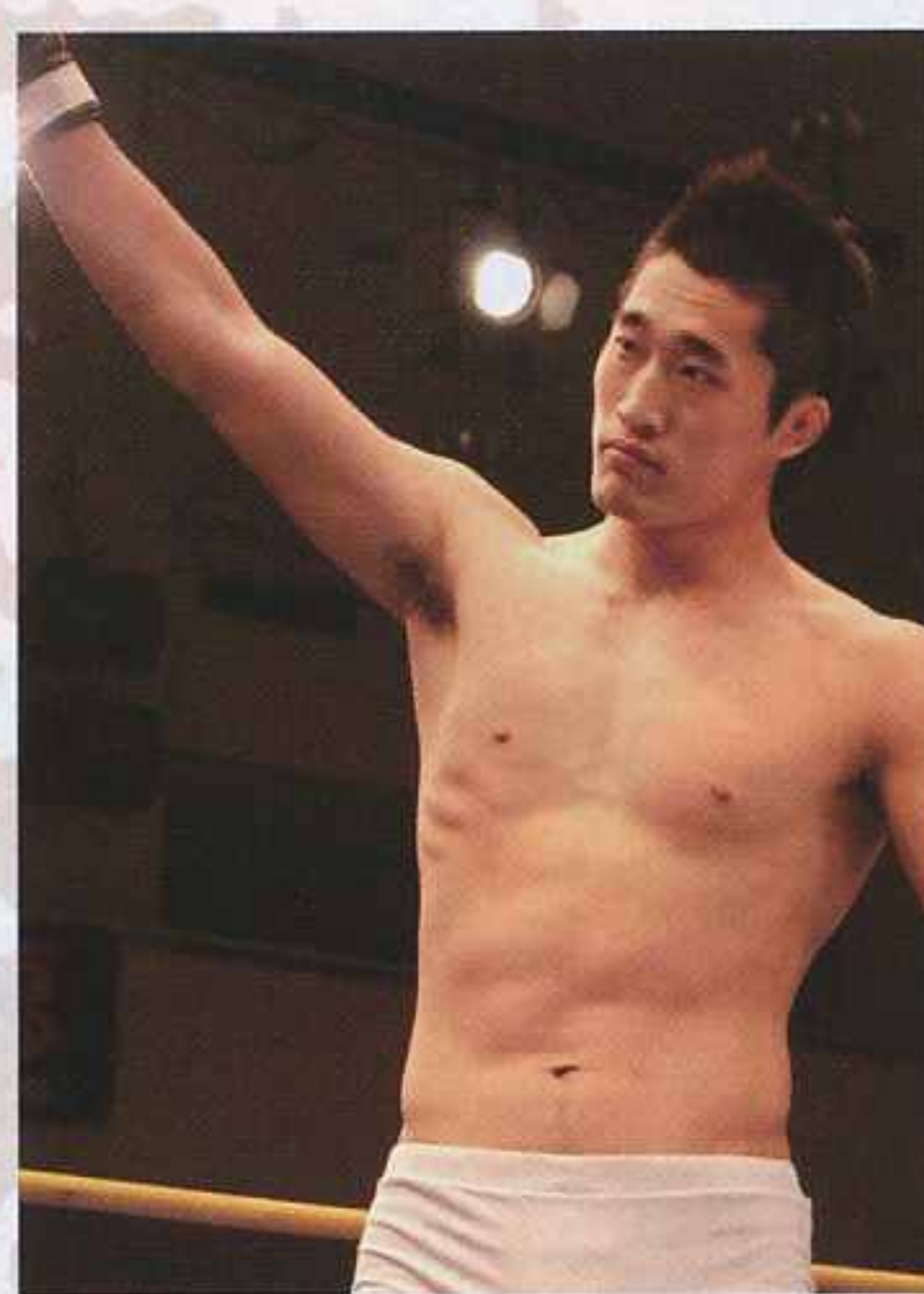
おもしろいBJペンvsつまらないショーン・シャーク!?

エルメス・フランカとのライト級王座防衛戦で、両者ダブルステロイドという前代未聞の結末によって王座を剥奪された前ライト級王者ショーン・シャークが、1月のジョー・スティーブンソンとの王者決定戦の勝者BJペンと対戦。永田克彦の闘い方がフラッシュバックする塩試合の帝王シャークを相手に、おもしろい試合をやらせたら天下一品のBJがどのような闘いを繰り広げるのかに注目。

バッドボーイのUFCラストマッチ!? ティト・オーティズvs LYOTO

バッドボーイとしてUFC最大の人気者の一人であるティト・オーティズが、現在のライトヘビー級で闘いたくない相手ナンバーワンのLYOTOと対戦。ひたすらダナ・ホワイトを罵倒し続けるティトに対する制裁マッチとの噂もあるが、 じつは金網の強豪とはまだ対戦経験のないLYOTOにとっても本戦は実力査定の試合となる。すでに塩試合確定との評もあるが……。

ケージ・フォース→UFC行き 吉田善行 vs ジョン・コッペンハーバー

日本のケージ・フォースの元ウェルター級王者の吉田善行初登場。対戦相手は『THE ULTIMATE FIGHTER 6』出身のジョン・コッペンハーバーということで完全にアウェーな雰囲気での試合となるだろうが、ケージ・フォースで菊地昭をボコボコにしたヒジを炸裂させてほしい!

韓国人初のUFCファイター キム・ドンヒョン vs ジェイソン・タン

韓国人として初めてオクタゴンに入るキム・ドンヒョンは、レギュラー参戦していたDEEPでもウェルター級王者長谷川秀彦をKO葬にしたことでおなじみの選手。対戦相手のジェイソン・タンはローカル大会を中心に活動してきた選手だけに勝機は充分。格闘技熱が高まる韓国の期待を背負い、DEEPの日本人を撃破しまくった豪腕で、UFCでもコリアン旋風を巻き起こせるか?

ライトヘビー級サバイバルマッチ ソクジュ vs 中村和裕

「生き残るPRIDEライトヘビー級選手は一人だけで充分!」というダナ・ホワイトの声が聞こえてきそうな試合。長期戦になれば経験に勝るカズの勝ちは動かないものと思われるが、ソクジュの爆発力がひさびさに見たい! 両者ともUFC二連敗は避けたいだけに、意地でも勝ちにいく姿勢が見られる試合となるはずだ。

『YAHOO!』アメリカでUFCをライブ観戦しますかーっ!?

MMAの最高峰が観られないなんて! ……と、お嘆きのあなた! UFC公式サイトでしか観られなかったUFCのネットPPVが『YAHOO!』に進出! よりクリアな映像で満喫できるようになった! その料金は49.95ドル (=約5000円)。PPVにしては"クソ高い"が、現地観戦するよりはだいぶマシ! こうなったらアクセスするしかないよ!
下記のURLから! あとは根性でなんとかしろ!
http://sports.yahoo.com/mma

え? 7月のカードもすでに決定しているなんて!

今年最大の大一番!!
7.5『UFC86 JACKSON vs GRIFFIN』
アメリカ ネバダ州ラスベガス/マンダレイベイ・イベントセンター

UFCライトヘビー級タイトルマッチ
(王者) クイントン・ランペイジ・ジャクソン vs フォレスト・グリフィン

ヒカルド・アルメイダ vs パトリック・コート

ジョシュ・コスチェック vs クリス・ライトル
ほか

リデル負傷欠場!!
6.7『UFC85』
イギリス ロンドン/O2アリーナ (PPVなし)

主要対戦カード
フォブリシオ・ヴェウドゥムvsブランドン・ベラ
長南亮 vs ホアン・ジュカオン・カルネイロ、ほか

※メインイベントで予定されていたチャック・リデル vs ラシャド・エヴァンスは、リデルの右大腿屈筋損傷により中止!! もともとリデル vs ショーグンがショーグンのケガにより消滅した経緯があったが、いったいどうなる!?

ヴァンダレイのUFC第2戦!!
5.24『UFC84 ILL WILL』
アメリカ ネバダ州ラスベガス/MGMグランドガーデンアリーナ

UFCライト級タイトルマッチ
(王者) BJペン vs ショーン・シャーク
ヴァンダレイ・シウバ vs キース・ジャーディン
ティト・オーティズ vs LYOTO
ソクジュ vs 中村和裕
吉田善行 vs ジョン・コッペンハーバー
ジェイソン・タイ vs キム・ドンヒョン、ほか

[4.19 UFC83]

カナダ・モントリオール　ベル・センター

[メインイベント UFC世界ウェルター級タイトルマッチ 5分5R]

○ジョルジュ・サンピエール vs マット・セラ×

（2R 4分45秒 TKO）

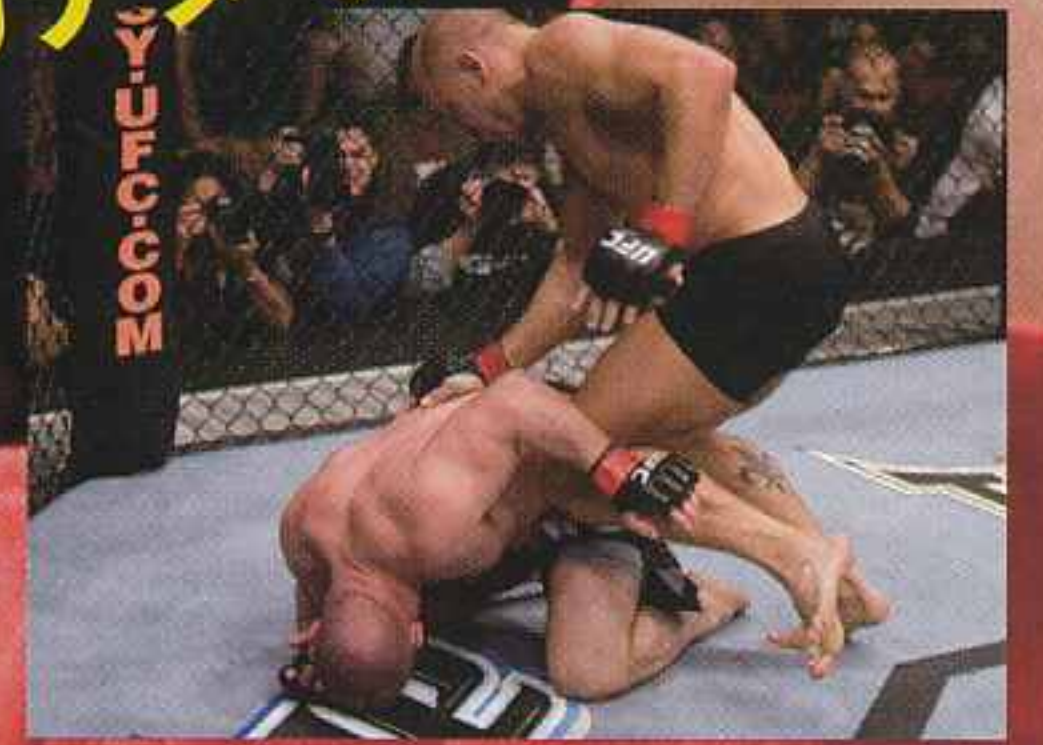
UFC世界ウェルター級正王者・セラが防衛に失敗。
暫定王者のサンピエールがタイトルを統一。

桜庭やミルコの輝きをこの男は持っている！

GSPはなぜスーパースターになりえたのか

輝きを増すアメリカ
未来のMMAがいま見れる!!

撮影／ Josh Hedges（UFC）

地元カナダで凱旋大勝利！

まったく危なげない試合運びで完勝!! なにしろ亀状態のセラの脇腹にヒザを連発したところをレフェリーがストップ。珍しいフィニッシュだが、それくらいGSPがヤバかったってこと!!

アメリカのエンターテインメント業界での成功の法則の一つに「ガール・ネクスト・ドア」という発想がある。

これは女性タレントを「隣に住むお姉さん」的な売り出し方をするという意味であり、たとえばブリトニー・スピアーズはこの売り出し方で世界のトップアイドルシンガーとなったし、キャメロン・ディアスのようにハリウッドのトップ女優にも、この手法で大々的に売り出されてきた者は非常に多い（そのまんまなタイトルの映画も存在している）。

いま、世界の格闘技シーンの中で最もホットな存在であるジョルジュ・サンピエール（以下GSP）が秘めている可能性とは、「総合の進化を10年早めた」や「UFC最激戦区のチャンプ」といった格闘技的な切り口だけではなく、総合格闘技界の「ボーイ・ネクスト・ドア」となりえる点なのだ。

この26歳の天才格闘家は、端正なルックスと抜群の運動神経、そして礼儀正しく真面目で、いじめられっ子から抜け出すために格闘技を始めたという全世界の大衆が共感できるわかりやすいバックグラウンドも持っている。GSPはアメリカのMMAを、競技としてだけでなく、エンターテインメントとしてもさらなる高みに上らせる可能性を秘めた最初の逸材だ。

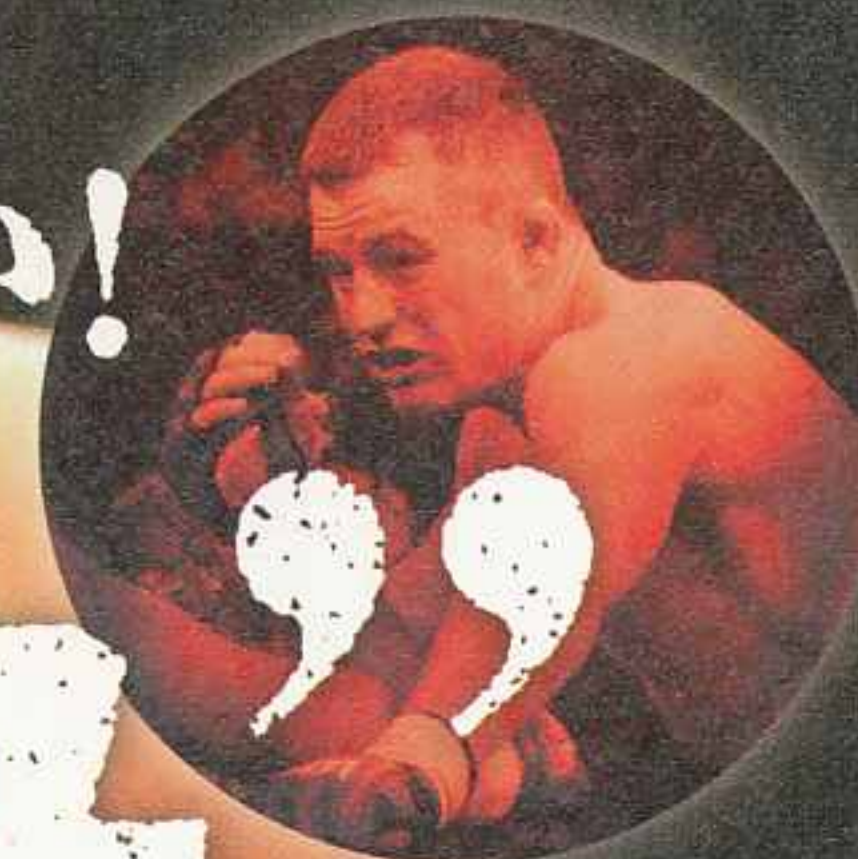
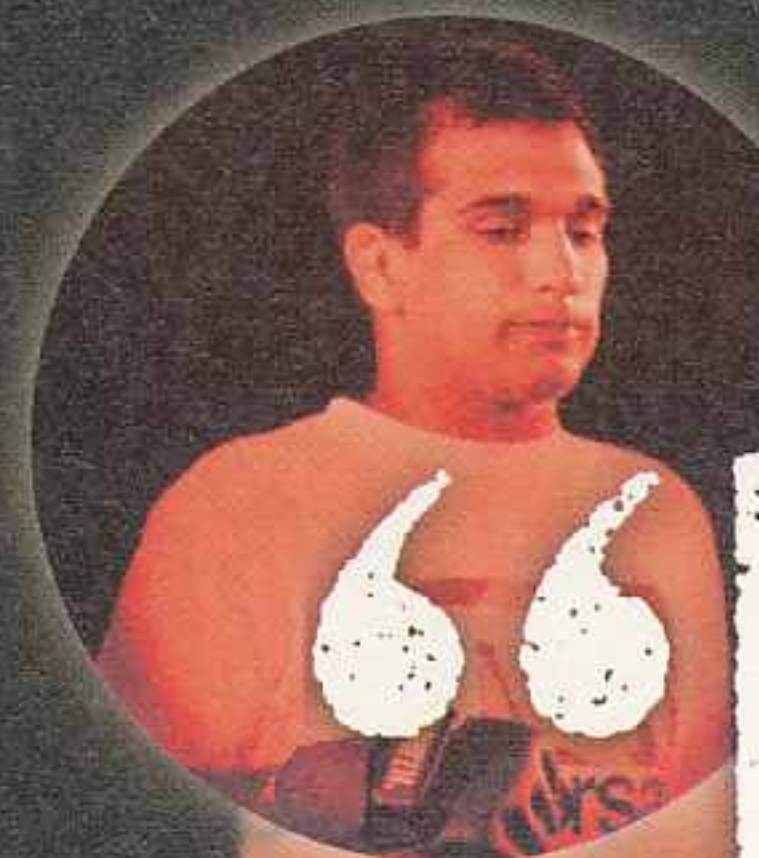
具体的に話を進めよう。そもそもUFCは勝者の戦場である。UFCにおいて〝勝利〟はその構成要素の「すべて」ではないが、「必須」の要素であることに変わりはない。そこには「負けてなお強し」という考え方は存在せず、UFCという戦場に身を置く者たちは勝つことでしかその存在意義をアピールすることができない……はずであった。GSPはそんなUFCの常識をも覆した最初のファイターでもある。

総合無敗のまま挑んだウェルター級チャンピオンシップでは王者マット・ヒューズに完敗。GSPが通常のUFCファイターであったなら、彼はここで勝者ヒューズの物語に飲み込まれていたはずだった。しかし、その後の2年間でフランク・トリッグ、ショーン・シャーク、BJペンといったウェルター級のトップ選手を次々と撃破。ついにたどり着いたヒューズとの再戦では、ヒューズに何もさせないままKOを奪ってみせて涙のウェルター級王座戴冠となった。

その数ヵ月後、『TUF』を勝ち残ってGSPへの挑戦権を得たマット・セラとの試合で、出会い頭の強烈なフックを浴びてTKO負けを喫してしまう。しかし、GSPはここでも驚異的な復活劇を見せる。『TUF』出身の強豪ジョン・コスチェック、さらにヒューズとのラバーマッチを制して今回のセラとの雪辱戦に臨み、柔術黒帯の現王者にグラウンド戦を挑んで圧倒的な実力差で勝利をもぎ取ってみせたのだ。

このようにGSPの歩んだアップダウンの激しいチャンピオンロードは、我々がPRIDEで共感してきたミルコ・クロコップや桜庭和志の物語に非常に近しいものに感じないだろうか？ GSPの登場によって、観客が選手の進む険しい道のりを共に歩む感覚を共有するというPRIDE的価値観の萌芽が、UFCにも生まれつつあるのかもしれない（しかも煽りVなしで！）。

GSPは『TUF』出身選手のようにプライベートの切り売りをすることなく、まさに試合だけで観客を魅了するスーパースターとなった。そして今後もGSPの歩む道程が、そのままMMAの未来となるのは間違いないだろう。

（高橋ターヤン）

この階級、マジでヤバい!

“KID級”

フェザー&バンタム級大戦争 ついに開戦!!

“山本KID級”の闘いがついに始まる!
現在、DREAMではライト級(70キロ以下)GPが開催中だが、
それとは別に山本“KID”徳郁が、
かねてから提唱してきた70キロ以下の新階級が、いよいよDREAMでも新設される。
すでにアメリカではWECのフェザー級(約65.8キロ以下)、
バンタム級(約61.2キロ以下)としてスタートしているこの階級。
KIDが最も力を発揮しそうな“KID級”とも言うべきこの階級は、
どんなドラマを生み出すのか?　この新階級のキーマンたちを直撃した!

撮影/菊池茂夫　試合写真/乾晋也、平工幸雄、Josh Hedges

――この新しいジム、KRAZY BEEには初めて来させていただいたんですけど、凄くいいジムですね。

KID　ありがとうございます。オシャレでしょ？

――オシャレですね（笑）。そして、これだけの広さと設備のジムを持ってる選手って、なかなかいませんよね。

KID　どこにもないです。少なくとも東京にはないですね。

――アメリカなんかだと、土地の値段も違うんでしょうけど、有名選手はみんな立派なジムを持ってるじゃないですか。

KID　デカいですよね。

――日本とアメリカでは練習環境自体に差があるので、これでは差が広がる一方だな、とか思ってたんですけど、このジムだったらいいですよね。

KID　設備だけじゃなくて、トレーナーも揃ってるんですよ。フィジカルを担当してくれる金子トレーナーがいて、キックボクシングはずっと前から見ていてくれたタイ人のイーっていうトレーナーがいて、あと寝技はベッチーニョっていうブラジルの選手。で、レスリングは自分が教えられる感じで。

――その道のプロフェッショナルが揃っている、と。

KID　そうですね。完璧です。やっとスタートできる土台ができたんで、これから自分も強くなっちゃうし、いまジムにいる選手も、これから来る選手も、絶対みんなトップレベルにいっちゃうなって。

――今日も先ほどまでトレーニングされてましたけど、次の試合に向けて動き出した感じですか？

KID　そうですね。

――試合はいつぐらいをメドに？

KID　まあ、夏になる前までには一試合やりたいなと思ってます。で、そのあとも今年中に何試合かやりたいなって。

――その舞台はDREAMですか？

KID　もちろん、DREAMですね。

――そのDREAMのオープニングイベントが3月にありましたけど、ご覧になってみていかがですか？

KID　うん、凄いよかったと思うし。（PRIDEと『HERO'S』）どっちのファンも観たかったものが、これからどんどん観られると思う。

――会場のムードはどうでした？

KID　（『HERO'S』とは）やっぱ違うよね。PRIDEの客層だった。でもこれからはDREAMの客になるから。俺にとっては新鮮だったし、やっぱりみんなにも認めてもらえるような試合をしていきたい。PRIDEの客にも、俺のファンになってもらうし。

――PRIDEファンに「すげえ！」って思わせる自身もある、と。

KID　もちろん。

――演出とかってどうでした？

KID　もうバッチリじゃないですか？　テロップもバーッて出て、ハッピー・バースデーもやってもらったしね（笑）。ちょっと恥ずかしかったけど。

――リング上で誕生日を祝われるのは、聞いてなかったんですか？

KID　聞いてなかった。冗談で言ってたんですよ。谷川さんに「俺の誕生日だからなんかやってくださいよ」って。そしたら「じゃあ、あとでリング上がってよ」って言われたけど、いざとなったらちょっと照れちゃって（笑）。「いやいや、ちょっ

“神の子の階級”ついに開設へ！
夢の所英男戦、今成正和戦は実現するか

山本徳郁

「俺らの新しい階級がDREAMをおもしろくするから」

『HERO'S』最大のスターである山本“KID”徳郁が、いよいよDREAMで始動する！
これまで『HERO'S』で闘ってきた70キロ級から、自分の適正体重である60キロ代前半に階級を落とし、
日本格闘技界に新たなマーケットを作り出そうとしているKID。
この新階級で同じく階級を落としてくるであろう、所英男や今成正和との夢の対決は実現するのか？
DREAM参戦への意気込みを聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

この階級、マジでヤバい！
“KID級”
フェザー&バンタム級大戦争
ついに開戦!!

Norifumi "KID" Yamamoto

とやめて、冗談だから。やめてホントに。恥ずかしい」みたいな。

——あんなデカい会場で、みんなに誕生日を祝われるわけですからね（笑）。

KID　まあ、でも……ありがとうって感じですね。嬉しかったです。

——DREAMの試合はいかがでしたか？

KID　よかったんじゃないですか。ただ、この前は、カルバンと青木の試合がちょっと……「ん～～」ってなったけど。

——最後、決着がつかずに終わっちゃいましたよね。

KID　うん、あれじゃあねぇ。「ホント？」みたいな感じだったし。次はちゃんとやったほうがいいよ。でも、あの興行自体はおもしろかった。いままでのどっちのファンも観たかった、待ってた興行だと思うから、これからまたさらに総合格闘技が盛り上がってくると思う。

——ただ、『HERO'S』の日本人スター選手があまり出てなかったのが、ちょっともの足りない部分ではありましたけど。

KID　やっぱ俺が出なきゃダメだな。

——そう思いましたか（笑）。

KID　思いました（笑）。でも、いまはまだ俺の階級がないから、これからまた作っていきます。

——KID選手が『HERO'S』の70キロ級でやってたとき、ほぼ同階級であるPRIDEのライト級（73キロ）って意識してましたか？

KID　いや、べつに意識してないですよ。70キロで闘ってたときも、普段の体重は63キロとかだったんですけど、あのときはギャンブルだから、自分の闘いに集中してた。ポーンと上にいくか、デカい相手にグッチャグチャにされて消えていくか、賭けでやってたから。

——一試合一試合が賭けだった、と。

KID　うん。それでベルトも獲れたし。だからいまは、自分の階級を作って盛り上げたい。自分の階級はアメリカの135（ポンド）、日本だと61・5キロだけど、この階級は日本人に強い選手いっぱいいるんですよ。アメリカにもいい選手いるけど、絶対、俺らのほうが強い。たぶん、これからどんどん強い日本人が出てきますよ。それを見せたいです、日本のお客さんにも世界にも。

——バンタム級に日本人あり、という感じですか？

KID　そうそう。やっぱり俺らの階級はおもしろいと思うし、70キロよりもっと速いしね。ボクシングなんかだと、KOがあんまりない階級だけど、総合だったら3ラウンドでも、普通にKOあるから。速くて、テクニックもある。だからDREAMっていう新しい興行になって、俺らの新しい階級ができるっていうのは、バッチリだと思いますよ。

——自分たちの階級こそ、新しい世界が見せられる、と。

昨年9月に柔術世界王者ビビアーノ・フェルナンデス、大晦日にはアブダビ王者ヤヒーラをそれぞれ破ったKID。ビビアーノ、ヤヒーラともに実力者であり、KIDへの関門としてはかなりの強敵といえる。

今成くんと所ちゃんは、ビビアーノ、ヤヒーラに勝ってから俺とやろうよ

KID　そうそうそう。お客さんがほしいものをね、俺は絶対に見せられると思う。

——格闘技界って、いま若干停滞してる感があるじゃないですか。

KID　だから俺が出ない期間は停滞しちゃうんですよ。

——ガハハハハ！　なるほど（笑）。

KID　しょうがない、それは。

——山本KIDが出ると、また波風が起きて。

KID　そうです。俺が格闘技界、おもしろくするから。だから、もし俺が引退したら、日本はちょっとマズいかも。まあでも、俺らの後輩がいるし、もうちょっと待てば俺の子どもがいるから。

——引退後は山本KIDジュニアが出てきますか！（笑）。

KID　俺の子どもはヤバいですよ。俺よりヤバい、絶対。

——K-1ワールドユースよりももっと若いうちからヤバいですか（笑）。

KID　あんなのと比べものにならない。俺の子どもがあの歳になったら、あの子たち殺されちゃいますよ、ホントに。俺の甥っ子だって、まだ11歳なんですけど、俺と一緒の身長で、体重も一緒で、身体もできてますからね。あいつもヤバい。

——そんなにヤバいですか（笑）。

KID　ヤバい。手も足も俺よりデカいしね。だから、俺は山本家のホントにヤバいヤツらを出すための、ただの火つけ役ですから（笑）。

——山本KIDは、山本ファミリーのイントロダクションみたいな感じですか。

KID　そうそう、イントロイントロ（笑）。本番はもうこれから見せる。俺の甥っ子もいるし、ガキもいるし。これから俺も、もっと子ども作るし。

——日本格闘技界のためにも子づくり宣言（笑）。

KID　俺も格闘技界のこと考えてるんですよ。格闘技界のために、70キロで闘ってきたし、これからは61～62キロ級を作ろうと思ってるし。

——70キロから一気に61キロにいく前に、65キロの試合も観たいな、なんて思ったりするんですけど。

KID　でも、重いのでやってくと、選手生命が短くなっちゃうから。そうすると、みんなも困るでしょ？

——まあ、そうですね。

KID　やっぱ自分に合った階級で、おもしろい試合をしていきたい。俺があと5歳ぐらい若かったら、70キロでも全然できたけど。5～6年前なんか、100キロのヤツとやっても負けねえって自分の中で思ってたから（笑）。

——ヘビー級でもOKでしたか（笑）。

KID　実際、ヘビー級のヤツとスパーリングやってたから。PUREBREDグアムに超デカいヤツがいたんですよ。

——ジョン・カルボとか、アンソニー・ネツラーとか。

Norifumi "KID" Yamamoto

KID　そうですね、何人かいたんですよ、超デカいヤツ。そいつらともやってたから。

――ミノワマンどころじゃない、と。

KID　だからたぶん、マジ俺の子どもたちは……（グラップラー）刃牙みたいになると思う。

――ガハハハハ！　刃牙ですか。

KID　俺よりは大きくなるだろうし、超デカいのをボッコボコにしますよ。ホントに漫画みたいなことやると思います。

――いまからレスリングや格闘技の練習をしてるわけですもんね。おいくつでしたっけ？

KID　男は5歳と3歳。あと1歳の娘がいるんですけど、それが一番ヤバい。

――娘が最強ですか（笑）。

KID　一番強くなるね（笑）。

――娘さんもレスリングとかはやらせるんですか？

KID　前までは絶対に女の子にはやらせないって思ってて。やっぱり姉ちゃん（山本美憂）と妹（山本聖子）がやってて、ケガしたりしてるとこ見てるんで。やっぱ女の子が痛がってたりケガしてるとこ見ると、弟とか兄ちゃんの立場としてはあんまり見たくなかったから。

――ましてや娘だったら……。

KID　見てらんないと思ったけど、どんどん大きくなるにつれて、やっぱり俺の血だなって。姉ちゃんたちと変わんねえやと思って。

――これはしょうがない（笑）。

KID　俺はやれやれ言わないけど、やっちゃうならしょうがないなって。基本、自由にやらせようと思ってます。

――では、ちょっと話を戻して、KIDさんと所英男選手や、今成正和選手との試合が観たいという声がありますけど、この二人との対戦なんかいかがですか？

KID　あ、なんか『kamipro』でも出てましたね。まあ、やってもいいけど、とりあえず俺がやってきたのいるじゃないですか。ビビアーノ（・フェルナンデス）とか、ハニ・ヤヒーラ。そこらへんとまずやってみなさい、と。で、勝ったら「わかった」と。

――まずは自分が倒した相手を倒してみろ、と。

KID　そうですね。俺はそれよりWECのチャンピオンたちとやりたいから。

――カリフォルニアKID（ユライヤ・フェイバー）とかですか？

KID　いや、あれは65キロじゃないですか。そうじゃなくて、61・5キロのチャンピオン、なんとかトレス。

――ミゲール・トーレスですね。WECバンタム級王者。

KID　あとはチェイス・ビービとかいうヤツ。あそこらへんのWECのトップ5ぐらいのヤツらとやりたいなって。ハニ・ヤヒーラは、その二人の次ぐらいでしょ？　だから、今成くんとか所ちゃんは、俺がやった選手とやって、それからやろうよ、と。ちょっと俺、アメリカのチャンピオンクラスとやって、アメリカでも俺の名前を売りたいから。

――アメリカに進出したい気持ちもあるんですか？

KID　向こうでやってみたいけど、俺はWECに行けないでしょ？

――まあ、いろいろ障害はあるでしょうね。

KID　日本のみんなが悲しむでしょ？

海の向こうで“KID級”はすでに始まっている!

WEC軽量級、爆発寸前!!

いよいよ、DREAMにも“KID級”とも言われる70キロより下の階級が設立される見込みだ。現時点では、何キロ級に設定されるかは不明だが、ここでは軽量級の人材の宝庫WECについて紹介しよう。

WECはUFCと同じズッファが運営する団体で、こと70キロ以下の階級では世界最高峰と呼ばれ、そこにはホントに“KID級の実力者”が何人も存在するのだ！

■バンタム級（61・23キロ以下）

まず、62キロの階級を希望するKIDの最大のライバルと目されるのが、WECバンタム級王者のミゲール・トーレスだ。その戦績、なんと32勝1敗！　唯一判定で敗れた相手にも、一本勝ちでリベンジ済みであり、まさしくこの階級の最強王者だ。

とにかくトーレスは打撃もグラウンドもしなやか。ムチのようにしなるスタンドの打撃に加え、カーウソン・グレイシー直伝の魔術のようなグラウンドワークは必見！　その技術は、レスリングの猛者相手に自ら懐に飛び込み、相手にまったくパウンドを打たせず、いとも簡単に三角絞めを極めるなど、いったいどこまで強いのか底知れないほど。6・1WECで前田吉朗の挑戦を受けることが決定しているが、KIDともぜひ対戦してほしい選手だ。

同階級の前王者、チェイス・ビービも全米アマレス選手権を4度制覇した猛者。しかし、ただのグラウンド&パウンダーではなく、判定以外はすべて絞め技で極める（一本率も80パーセント超！）という筋金入りの“フィニッシャー”だ。昨年の大晦日、谷川貞治FEG代表がKIDの相手に担ぎ出そうとしたが、当時ビービはWECの王者であったため実現できず、ビービに敗れているハニ・ヤヒーラをブッキングした経緯があるなど、サイドストーリーにも事欠かない。

■フェザー級（65・77キロ以下）

バンタム級の上のフェザー級には、あの“カリフォルニアKID”ユライヤ・フェイバーが君臨している。無尽蔵のスタミナと爆発力を武器に、グラウンドでもスタンドでも非凡な才能を持つ超アグレッシブなトータルファイター。すでに数年間にわたって同階級でトップに君臨し続け、各団体のタイトルを総ナメにした最強戦士！　天才的な格闘センスは、KIDと相通ずるものがあり、実現すれば歴史に残る名勝負になることは必至！　両者の全盛期を終える前に、ぜひとも実現ほしい一戦だ！

©Josh Hedges

現WECバンタム級王者ミゲール・トーレス（右）と、同級前王者チェイス・ビービ（左）。この二人とKIDの闘いははたして実現するか!?

ミゲール・トーレスとかチェイス・ビービ あそこらへんのＷＥＣのトップとやりたい

――悲しみますね（笑）。

ＫＩＤ　だから、ＷＥＣのトップクラスを日本に呼んでもらってやりたい。ＵＦＣの重い階級は難しいかもしれないけど、俺らの階級だけでもアメリカと交流できたら、格闘技自体、たぶん凄くよくなると思う。世界的に。

――いま、アメリカにはレベルが高い選手がウジャウジャいますもんね。

ＫＩＤ　いますね。この前、ＤＲＥＡＭの70キロに出たヤツでも、いたじゃないですか。

――エディ・アルバレスですか？

ＫＩＤ　そうそう。あれなんか今回のトーナメント、凄くいいとこまでいくんじゃないですかね。

――一躍優勝候補ですよね。あれでも、アメリカのトップじゃないわけですもんね。

ＫＩＤ　凄いですよ。

――その上にＢＪペンとかいるわけですからね。

ＫＩＤ　ＢＪはヤバい！　俺、ハワイとかでＢＪと練習したんですけど。あれはもう……ヤバかった。あれには誰も勝てない、70キロクラスでは。もう別格。誰も勝てません、あいつには。

――ＰＲＩＤＥに上がる前の五味隆典選手にも勝ってますからね。

ＫＩＤ　五味くんは凄い仲いいから、頑張ってもらいたい。

――『戦極』ってご覧になりましたか？

ＫＩＤ　全部は観てないけど、五味くんの試合は観ました。鼻の上がパックリ切れたやつ。あれは（パンチが）おもいっきり入ってましたね。あれ続けてたらちょっと悲惨なことになってたね。顔面真っ二つになっちゃう。

――パックリ切れて、しかも鼻がペチャンコでしたもんね。

ＫＩＤ　あれ「止めてくれてありがとう」って感じでしょ。

――ＫＩＤ選手もそうですけど、ああいうパンチがある試合って、軽量級でも迫力ありますよね。

ＫＩＤ　だからみんな五味くんを応援してるってことでしょ。やるかやられるかの試合をしないと。

――じゃあ、ＫＩＤ選手は自分の階級でそういう試合をやっていきたい、と。

ＫＩＤ　そうですね。テレビで観たら、身体の大きさは70キロも61キロも変わらないし、それでスピードの違いはわかるから。いいんじゃないですか。視聴率も俺が出たほうがいいだろうし（笑）。

――そこまで考えてますか（笑）。では、ＤＲＥＡＭを盛り上げるためにも期待してますんで。

ＫＩＤ　わかりました。頑張ります。俺の子どもたちがデビューするまでのイントロとして（笑）。

【08年4月17日／大田区・ＫＲＡＺＹ ＢＥＥにて収録】

Norifumi "KID" Yamamoto

やまもと・きっど・のりふみ■1977年3月15日、神奈川県出身 。01年3月修斗でデビュー。04年 、K-1 WORLD MAX2004～日本代表トーナメント～で、K-1初参戦ながら優勝候補の村浜武洋をKOし、ブレイク。同年大晦日には魔裟斗とも対戦し、判定で敗れたものの、魔裟斗からダウンを奪ってみせた。総合ではHERO'S 2005～ミドル級世界最強王者決定トーナメント～を、決勝で須藤元気を破り優勝。現在まで総合ではステファン・バーリング戦のカットによるTKO負け以外は無敗を誇る。163cm、63kg。

■KRAZY BEE
所在地／東京都大田区中馬込2-8-1 日経エスプラナード1F
TEL／03-5742-2906　営業時間／10:00～23:00
HP／www.krazybee.jp

「KID戦?足関取れそうな気はしますねえ(ニヤリ)」

KID狩り最右翼は足関(&変態)十段のこの男か!?

DEEP & ケージ・レージフェザー級王者

今成正和

卑猥なポーズで不気味な笑みを浮かべる、この男の名は“足関十段”今成正和。いざ、試合になれば得意の足関でバッタバッタと極めまくるこの男。山本KIDが“神の子”なら、こちらは“仙人”といった感じの風貌だが、その実力は本物だ。現在、DEEP&ケージ・レージのフェザー級二冠王の今成とKIDの一戦は、まさに“DREAM”カードとして実現を望む声も多い。来たるべき一戦を前に本人を直撃!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/平工幸雄、乾晋也

三島戦に勝たないことには、DREAMから話も来ないと思うんで

――おひさしぶりです！

今成　おひさしぶりです。

――『kamipro』登場はひさしぶりになりますけど、そのあいだにイギリスのケージ・レージで世界フェザー級王者になっただけじゃなく、結婚して、お子さんも生まれたみたいですね。

今成　そうですね。

――結婚したのは公表してましたっけ？

今成　いや～、誰からも聞かれなかったんで。べつに隠してたわけでもないんですけどね（笑）。

――いまお子さんは、おいくつなんですか？

今成　いま半年ですね。

――やっぱり、子どもはかわいいですか？

今成　普通にかわいいですねぇ。

――パパになって何か気持ち的に変わりました？

今成　う～ん……まあ、やっぱり責任がちょっと。

――「この子のために」というか。

今成　そうですね。

――ちなみに奥さんは『kamipro』の読者投稿出身で、いまは格闘家としても活躍中の村田卓実くんのお姉さんということみたいですけど、どうやって出会ったんでしょうか？（笑）。

今成　いや、たっくん（卓実）から「これ、姉ちゃん」って写メが送られてきて「おう、いいねえ。ちょっと紹介してよ」って言って、それからですね。

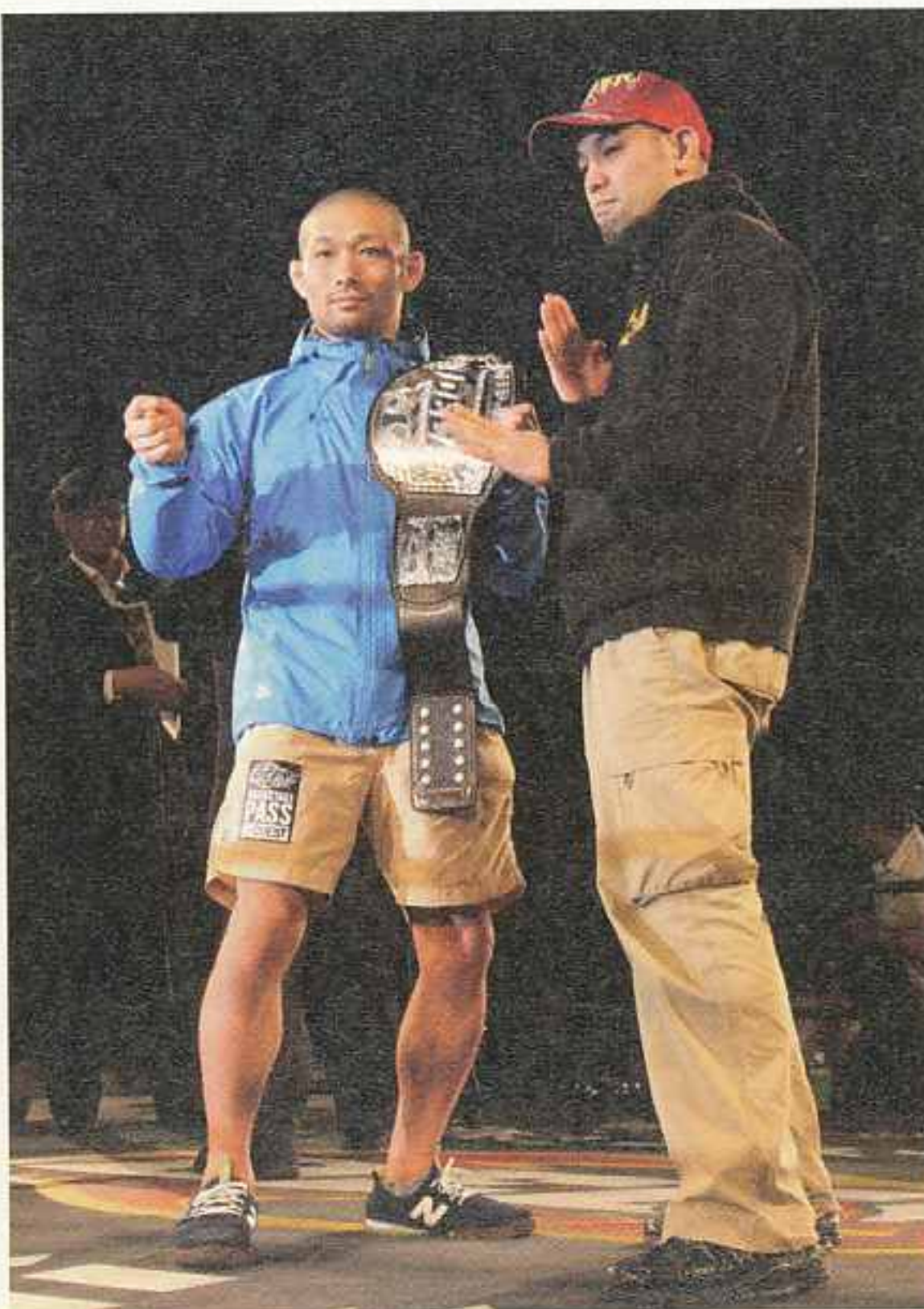
――ガハハハハ！　それはまたわかりやすいというか、即物的というか（笑）。

今成　まあ、そうッスね（笑）。

――じゃあ、いまは非常に充実してるんですね。

今成　う～ん、してるんじゃないですかね。

――ただ、そうこうしてるあいだにPRIDEがなくなって、DREAMという大会が新たに始まったわけですけど、旗上げ戦をご覧になっていかがでした？

今成　まあ……なんかPRIDEっぽいっていうか。『HERO'S』にいた選手が出て、より人が多くなってますよね。テレビ関係とか外部の人も。

3.29 club DEEP新宿大会の休憩前、5.19 DEEP後楽園大会で今成が持つフェザー級王座に三島☆ド根性ノ助が挑戦することが発表された。5年前に対戦している両者だが、このときは69kg契約ということで、通常体重が65kg程度の今成は体格差にも苦しみ完敗を喫しているが、立場が変わっての再戦はどうなる!?

Masakazu Imanari

――今成さんも、そろそろ出番かなって思ってるんですけど。

今成　う～ん……どうですかねえ？　まあ、次勝たないと。

――DEEPで三島☆ド根性ノ助さんとのタイトルマッチが控えてますからね。

今成　その試合で勝たないことには、DREAMから話も来ないと思うんで（笑）。

――『kamipro』では『HERO'S』と『PRIDE武士道』が始まる直前に、所（英男）さんと今成さんの対談をやらせていただいたんですが、軽量級が始まったらこの二人がブレイクするだろうということで。

今成　ああ、ちょっと自分は外れちゃいましたね（苦笑）。

――今成さんもいい試合はしてたんですけど、よくよく考えてみたら軽量級っていっても『武士道』は73キロ以下でしたし、今成さんの体重よりも8キロぐらい重かったわけですよね。

今成　そうでしたねぇ。

――やっぱりキツかったですか？

今成　キツさはよくわかんなかったですけど、いろんな強くて有名な選手とできるならラッキーかなって。

――それでも65キロぐらいの本来の階級ができたらなっていう気持ちもあったんじゃないですか？

今成　いや～、べつに思わなかったですね。

――ちなみに、イギリスの大会に出るようになったのは、どういうきっかけだったんですか？

今成　よくわかんないです（笑）。……たまたま空いてたんじゃないですかね？

――枠が空いてましたか（笑）。いまやDEEPとともにケージ・レージのフェザー級王者ということで〝世界の今成〟ですからね。

今成　そうなんですかね？　遠くの島国にいると、あんまり実感ないですけどね。誰も知らないんじゃないですか。

――いやいや、そんなことないですよ。今成さんって、それこそDREAMみたいにテレビでやってる大会に出て有名になりたいとかっていう願望はあるんですか？

今成　有名にならないで、凄く金持てたらいいですね（笑）。

――ガハハハハ！　面倒くさくなくて。

今成　そんな感じですかね。

――とりあえず、DREAMには出たいですか？

今成　まあ、出れれば出たいですね。

――ゆくゆく、KID選手との試合がDREAMで実現すればいいなと思ってるんですけど、本人的にはいかがでしょうか？

今成　それは素晴らしい話ですねぇ。

――今成さんも望んでいる、強くてプロとして有名な選手という意味ではKID選手はバッチリはまりますよね。

今成　まあ、凄い選手ですよね。どの試合もおもしろいし。なんか不思議な強さも感じるし。

――まさに〝神の子〟というか（笑）。闘ったらどうなるかって意識したりします？

今成　う～ん……まだしてないですね。

――でも周りからは、かなり期待されてるんじゃないですか。

今成　よく言われたりはするんですけど、べつにそういう発表があったわけでもないし、向こうがどう思ってるのかもよくわからないし。

――実際に試合をシミュレーションすると、やりやすい相手だと思います？

今成　どうッスかねえ？　まあ、柔術家よりはやりやすいですね、たぶん。

――柔術家がやりにくいっていうのはどう

いう部分ですか？
今成　なんか手が合いすぎちゃって、やったら完封されるんじゃないかって（笑）。
――積極的に極めに来ない選手じゃないと、柔術家ってガッチリ押さえ込んでくる選手が多いですからね。
今成　そうなんですよね。
――KID選手が相手ならそういうことはないだろう、と。
今成　やったら、ブッ飛ばされるか、極めてブッ壊すかって感じですかね（笑）。
――寝技に引き込めたら、極められる可能性は、それこそ柔術家相手よりもはるかにあるわけですよね。
今成　まあ、足関とか取れそうな気はしますけどねぇ（ニヤリ）。
――おっ、自信がありそうですね。
今成　でも、ビビアーノ（・フェルナンデス）とかとやったときってうまく逃げてましたからね。まあ……取れるかもしれないな、ぐらいですかね（笑）。
――KID選手から一本取ったら、間違いなく会場は爆発するでしょうね。
今成　まあ、そうでしょうね。
――二人が向かい合ったところを想像するだけでもおもしろいですからね。画的にもそうですし、打撃vs寝技というか、今成さんは基本的にはタックルとか行かないじゃないですか。
今成　タックルできないんですよね（笑）。練習したことないんで。
――そうなんですか（笑）。まあでも、いままでにない緊張感のある試合になると思うんですけど。
今成　まあ、緊張感はあるでしょうね。
――真剣を持って、どっちが斬るか、みたいな感じで。
今成　そんないいもんじゃないですよ。まあ、自分の場合はうしろ向いたときにブン殴るような感じの手ですからね（笑）。
――ああ、なるほど。正攻法だけだと思ったら大間違いだ、と。
今成　自分は正攻法ができないんで（苦笑）。正攻法でいったら弱い！（キッパリ）。
――ガハハハハ！　いま通常体重は何キロぐらいなんですか？
今成　66～67キロじゃないですかね。
――今度の三島戦とかは65キロ契約みたいですけど、ほぼ減量なしでいけるんですね。
今成　そうですね。
――たとえば62キロまで減量してくれって言われたら、全然OKですか？
今成　いい相手だったらそれぐらいは。
――KID選手は62キロでやりたいって言ってるんですよ。
今成　あ、そうなんですか。なんか63キロで階級作るっていう噂を聞いたような……気のせいですかね？（笑）。
――徐々に減っていってるみたいで（笑）。
今成　62キロ……お腹減っちゃうな（笑）。
――お腹減らせるぐらいの、いい試合を組んでくれ、と。
今成　まあ、そうですね。
――KID選手が言うには、今成さんや所さんと闘ってもいいけど、やるからには自分が勝ってる（ハニ・）ヤヒーラかビビアーノを倒してこい、と。
今成　ああ……それは難しいですよね。その二人はホントに強いッスからねぇ。
――ある種、KID選手を倒すよりもキツいかもしれない？
今成　だいぶキツいと思いますけどね。組み技でいったら、その二人には歯が立たない感じなんで（苦笑）。
――うしろからボカッと殴るような（笑）。
今成　まあでも、どっちにも勝ってるって

今成正和 MMA全戦績&プレイバック大一番！

[2002.5.6 プレミアムチャレンジ]
東京ベイNKホール
○vs岩間徳三郎
（1R 3分24秒 ヒールホールド）

[2002.9.29 パンクラス]
横浜文化体育館
○vs大場裕司
（判定3-0）

[2002.11.23 ZST]
ディファ有明
○vsレミギウス・モリカビュチス&ミンダウガス・スタンコス
（2-0）パートナーは矢野卓見

[2003.3.9 ZST]
Zepp Tokyo
○vsエリカス・ペトライティス
（判定3-0）

[2003.4.5 BUSHIDO]
リトアニア
△vsレミギウス・モリカビュチス&エリカス・ペトライティス
（時間切れ引き分け）パートナーは矢野卓見

[2003.6.1 ZST]
Zepp Tokyo
○vsダニー・バッテン
（1R 0分43秒 腕ひしぎ十字固め）

[2003.7.13 DEEP11]
グランキューブ大阪
×vs三島☆ド根性ノ助
（2R 2分58秒 TKO）

[2003.11.23 ZST] Zepp Tokyo
〈ZST GP1回戦〉
○vsジョルジ・グージェウ
（1R 0分32秒 ヒールホールド）

[2004.1.11 ZST] Zepp Tokyo
〈ZST GP2回戦〉
×vsマーカス・アウレリオ
（判定1-2）

[2004.10.14 PRIDE武士道 其の伍]
大阪城ホール
×vsルイス・ブスカペ
（判定0-3）

[2004.12.18 DEEP17]
ディファ有明
○vsレナート・タバレス
（2R 2分36秒 ヒールホールド）

[2005.2.12 DEEP18]
後楽園ホール
△vs前田吉朗
（3R終了ドロー）

[2005.7.17 PRIDE武士道 其の八]
名古屋レインボーホール
×vsヨアキム・ハンセン
（1R 2分34秒 KO）

[2005.10.28 DEEP21] 後楽園ホール
〈フェザー級王者決定トーナメント1回戦〉
○vsファビオ・メロ
（判定3-0）

[2005.12.2 DEEP22] 後楽園ホール
〈フェザー級王者決定トーナメント準決勝〉
○vsマイク・ブラウン
（2R 3分38秒 ヒールホールド）
〈フェザー級王者決定トーナメント決勝戦〉
○vs前田吉朗
（3R 1分31秒 アンクルホールド）

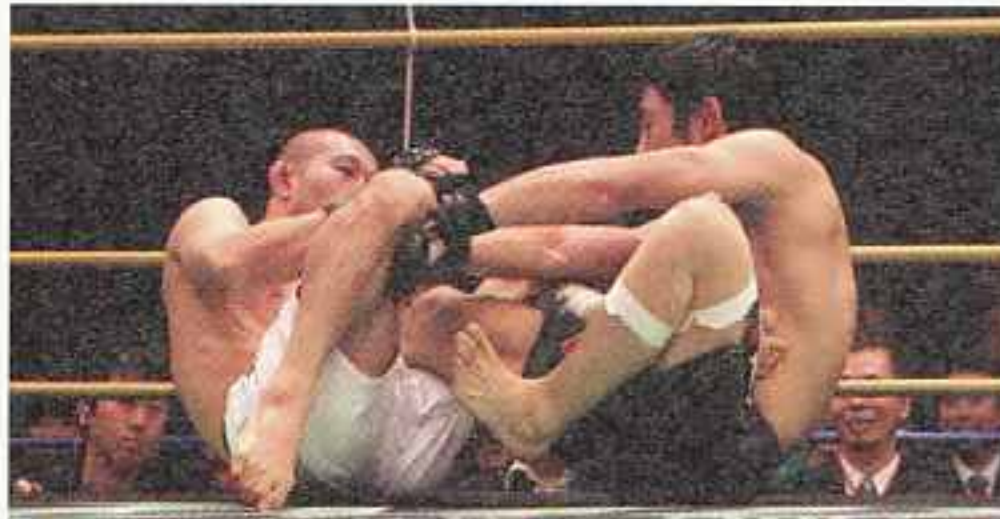
[2006.8.4 DEEP25]
後楽園ホール
×vsフレジソン・パイシャオン
（3R終了 判定0-2）

[2006.10.10 DEEP26] 後楽園ホール
〈フェザー級タイトルマッチ〉
○vs山崎剛
（3R 1分49秒 KO）

[2007.2.10 ケージ・レージ20] ウェンブリーアリーナ
〈フェザー級王者決定戦〉
○vsロビー・オリヴィエ
（1R 0分27秒 腕ひしぎ十字固め）

[2007.8.5 DEEP31]
後楽園ホール
○vsキム・ジョンマン
（1R 3分28秒 腕ひしぎ十字固め）

[2007.10.9 DEEP32]
後楽園ホール
○vs阿部裕幸
（3R 4分32秒 アンクルホールド）

[2008.3.8 ケージ・レージ25] ウェンブリーアリーナ
〈フェザー級タイトルマッチ〉
○vsジーン・シウバ
（1R 2分30秒 ヒールホールド）

2005.12.2 DEEP22 後楽園ホール
○ vs 前田吉朗
（3R 1分31秒 アンクルホールド）

05年2月の初対決は引き分けに終わった両者が、約10ヵ月後、DEEPフェザー級初代王者決定トーナメントの決勝で激突。互角の展開で迎えた最終ラウンド、前田の三角絞めを脱出した今成が得意の足関で見事、初代王者に！

2003.4.5 BUSHIDO リトアニア
△ vs レミギウス・モリカビュチス&エリカス・ペトライティス
（10分2R 時間切れ引き分け）パートナーは矢野卓見

メインにはヒョードルが登場したこの大会。矢野卓見とのタッグで出場した今成は、アウェーということもあり、厳しいレフェリングやセコンドの執拗なクレームにブチキレ、中指を立てて挑発。軍隊も出動する大乱闘に！

2006.10.10 DEEP26 後楽園ホール
○ vs 山崎剛
（3R 1分49秒 KO）

DEEPフェザー級王座獲得から約10ヵ月。GRABAKAの山崎相手の初防衛戦は、最終3ラウンド、下からの蹴り上げで山崎を失神させるという衝撃フィニッシュに場内は騒然。"足関十段"は蹴っても凄いんです！

2003.7.13 DEEP11 グランキューブ大阪
○ vs 三島★ド根性ノ助
（2R 2分58秒 TKO）

5.19 DEEP後楽園大会でのタイトルマッチが決定している両者。5年前の対戦時は、本来ウェルター級の三島とライト級の今成ということで、体格差もあり期待された足関合戦とはならず、三島がパウンドで手堅く勝利！

© Lee Whitehead/MMA WEEKLY

2008.3.8 『ケージ・レージ25』ウェンブリーアリーナ
[フェザー級タイトルマッチ]
○ vs ジーン・シウバ
（1R 2分30秒 ヒールホールド）

『武士道』で五味を苦しめたシウバ相手にケージ・レージ世界フェザー級王座の初防衛戦を行なった今成。開始からわずか150秒、今成は得意の足関を炸裂させ見事一本勝ち！"足関十段"を世界に証明した。

2005.7.17 PRIDE武士道 其の八 名古屋レインボーホール
× vs ヨアキム・ハンセン
（1R 2分34秒 KO）

強烈なヒザ蹴りでのフィニッシュシーンがいまだ記憶に新しい今成の『PRIDE武士道』二戦目のハンセン戦。序盤から得意の足関を仕掛け、あわや一本勝ちか？という場面も作り出したが、カウンターのヒザでKO負け！

KID戦の前にヤヒーラとビビアーノ？ それはキツいなぁ

いうのも凄いですよね。

——そうなんですけどね。でも、それぐらいの階級ができたら、今成さんも本領が発揮できるんじゃないですか。今度、WECでタイトルマッチが決まった前田吉朗選手とか選手も揃ってますし。

今成 本領発揮できるといいですけどね。でも、だんだん歳取ってきましたしねぇ（苦笑）。

——でも、今日も取材前は青木真也選手とかとバリバリにスパーリングやってたじゃないですか？

今成 青木くんとかには普通にやられますからね。全然歯が立たないんで、練習にならなくて申し訳ないです。

——そんなこともないでしょう。まあでも、今度のDEEPでの三島戦っていうのはDREAM参戦前の大一番になりますよね。

今成 まあ、そうなりますよね。

——前回闘ったときは69キロ契約で、パワーでやられちゃったって感じましたが。

今成 デカかったですよね。だから、今回は減量でヘロヘロになってほしいですけど。

——ガハハハハ！ 最近の三島選手の試合はご覧になってます？

今成 UFCかなんかでやられてるのは観ましたけど、それ以降は知らないです。まあ、観てもしょうがないかな、と。強いのは強いですからね。

——じゃあ、とくに作戦とかはなく？

今成 作戦は「頑張ること」じゃないですかね。まあ、頑張ってダメだったほうが負けじゃないですか。

——でも、前回闘ったときと比べて、総合のスキルもかなり上がってるっていう自信はあるんじゃないですか？

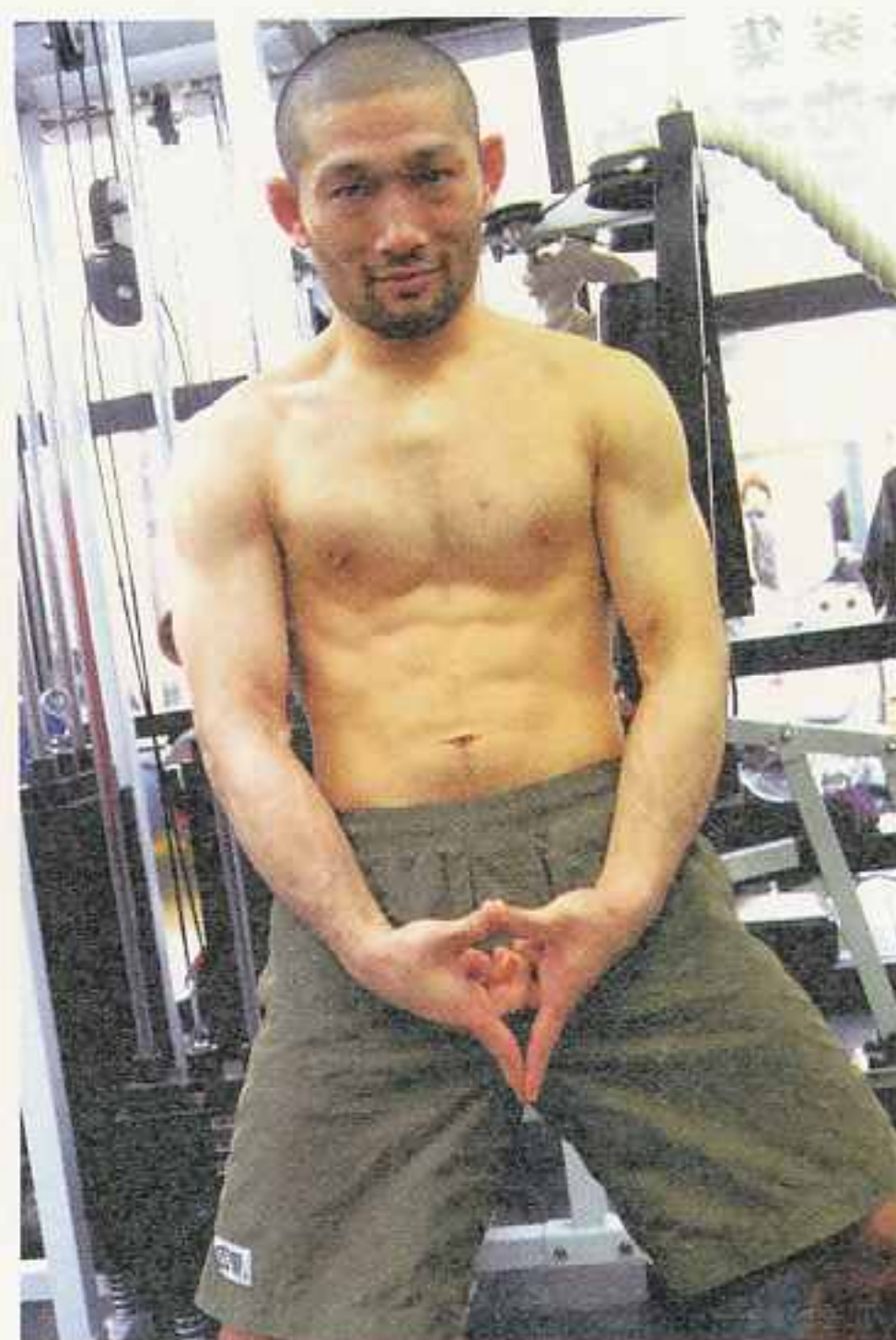
今成 多少は上がってるでしょうね。

——殴られ慣れもしてるでしょうし（笑）。

今成 そうですね。殴られ慣れて、すぐ効いちゃうようになってきてるんで（笑）。

——ダメじゃないですか！（笑）。

今成 ダメージの蓄積があるんで、ちょっと殴られたらもうフラフラになるんで。まあでも、あのときよりは強くなってると思うし、勝ちたいですね。

——三島戦をクリアしたら、夏ぐらいにKID戦って感じですかね。

いまなり・まさかず■1976年2月10日、神奈川県出身。アントンが旗揚げしたUFOの練習生を経て、入江秀忠率いるキングダム・エルガイツでプロデビュー。その後はZST、パンクラス、武士道などで活躍し、05年にはDEEPフェザー級王者に。07年2月にはケージ・レージ世界フェザー級王座も奪取。165cm、66kg

Masakazu Imanari

今成 まあ……そうッスね。でも、そんなこと言ってて次の試合で殺されちゃったりして（苦笑）。

——生きて帰ってきてください（笑）。"煽りVアーティスト"の佐藤大輔さんも今成vsKID戦は、相当煽りたいマッチメイクって言ってましたからね。

今成 あ、そうなんですか。でも、どんな煽り映像になるんですかね？

——TBSの定番の「家族のために」って感じにはならないとは思いますけど（笑）。

今成 でも、それもいいんじゃないですかね（笑）。普通に子どもを保育園に送っていったりとか。

——そういう意味ではKIDさんも子どもがいますし、パパ対決になりますよね。

今成 自分も家族のために稼がなきゃいけないんで。でも、その前にヤヒーラとビビアーノを倒さなきゃいけないんですよね？

——なんかそうみたいです（笑）。

今成 それはキツいッスよねぇ。まあ、それ抜きでなるべく考えたいですね（笑）。

【08年4月14日／都内某所にて収録】

"跳関十段"青木真也が占う KID vs 今成戦

"足関明王"が"格闘技の神の子"に負けるわけないです！

KID vs 今成戦ですか？ やるんだったら観たいですけど、まだ早いんじゃないですかね。十段（今成）はDREAMで一発、名前売ってからのほうが盛り上がると思うんで。まあ、もしやったとしてもハッキリ言って相手にならないんじゃないですか。だって、KID選手は"格闘技の神の子"なんて言ってますけど、十段（今成）は"関節技の神の子"ですから。つーか、"神の子"っていうより、"足関明王"だな！ "足関明王"が"格闘技の神の子"に負けるわけないですよ。

実力的には十段の圧勝だと思いますけど、唯一、難を挙げるとしたら、社会性とかの部分でしょう。十段は基本的にバカっつーか、変態ですからね。そこは負けるかもしれない（笑）。

ただ、63キロとか、それぐらいの階級だったら十段は間違いなく世界的にトップだと思うんで。KID選手もいい選手だと思いますけど、問題にならないと思います。合掌。

悩めるヒーローが〝階級を下げて〟最後の挑戦へ！

「KIDさんに挑戦したいというのがボクの中で一番大きいですね」

所英男

07年『Dynamite!!』田村潔司戦以降、沈黙していた所英男がひさびさに本誌に登場！ 新たに立ち上がったDREAMでの方向性は、いまはまだ正式発表はされていないが、所本人は新しい目標に向けてすでに心を固めていた。悩めるファイター・所英男が次に進む道とは!? さらに、いままで語られていなかった田村戦についても口を開いてくれた。

聞き手／松下ミワ　撮影／菊池茂夫

試合が続けられたか続けられないかは青木さんが一番わかってるんじゃないですか

——所さん、おひさしぶりです！

所　よろしくお願いします！

——いきなりですけど、『DREAM・1』の会場では、見事にカメラに抜かれてましたね！

所　そうなんですけど……、一回は抜かれてましたよねえ（戸惑いながら）。

——一回どころか、けっこう抜かれてましたよ。さいたまスーパーアリーナで所英男が抜かれるなんて新鮮だし、なぜかドキッとしたんですけどね（笑）。

所　ハハハハハ。ボク、もともとPRIDEは好きで前は会場にも行ってたんですけど……、ちょっとしばらく行ってなかったんですよねえ。でも、ひさしぶりにさいたまスーパーアリーナに行って試合を観てたら「あ、なんかPRIDEみたいだなあ」って。

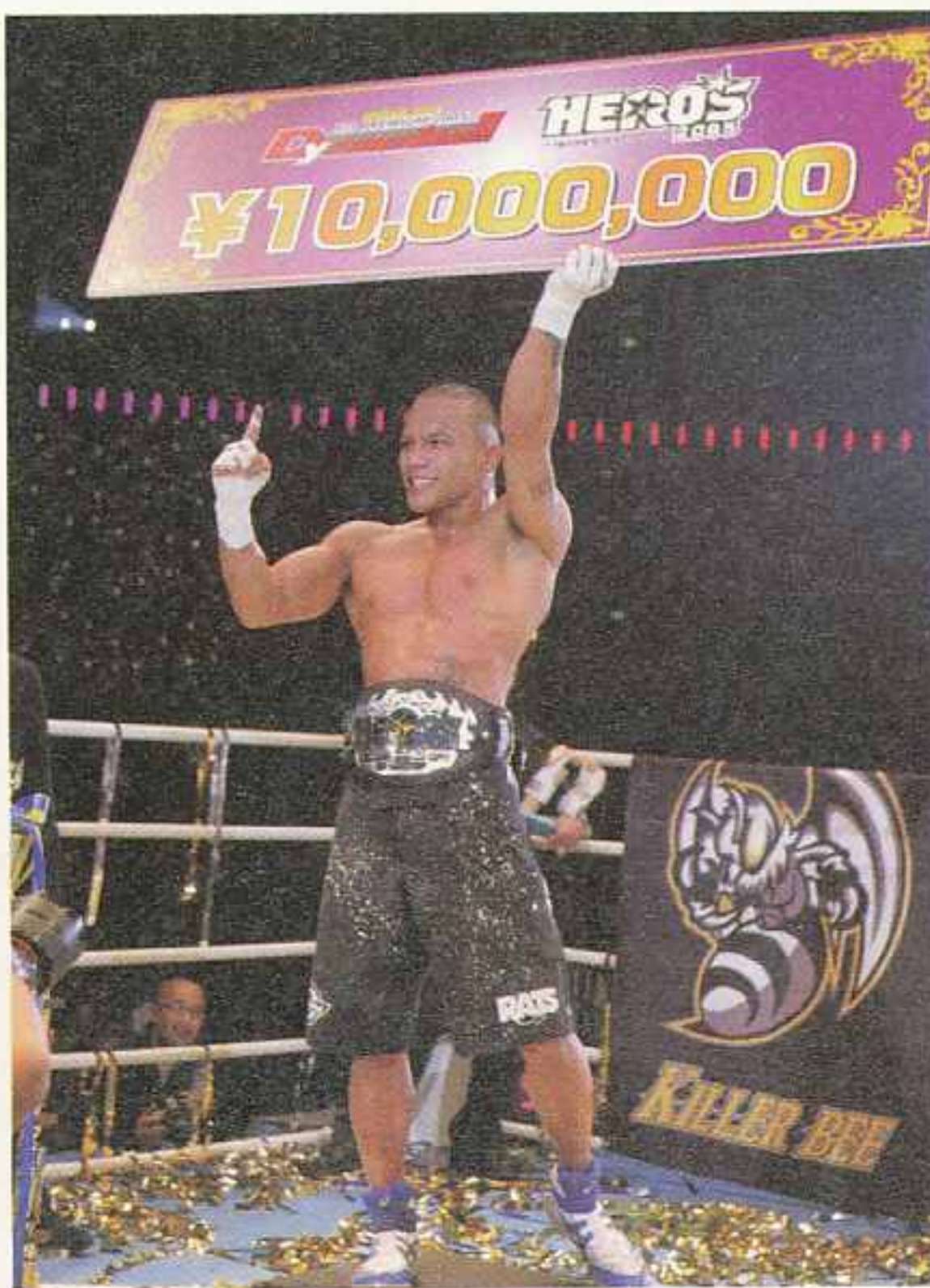
——所さんが観たDREAMはPRIDEっぽかったですか。

所　はい。やっぱレベル高いなって思いましたし、あとは煽り映像が凄いですよね！　昔からPRIDEとかの煽り映像も好きだったんですよね。

——ほう。具体的にどの煽り映像が印象的でした？

所　ええっと、やっぱドン・フライとかよかったですよねえ（しみじみ）。

——相当昔に飛びましたね（笑）。

所　でも、このあいだの『DREAM・1』の映像もなんか映画みたいだなって。そういうのを観て喜んでるファンもいるんで、それだけ影響力があるんだなって思いました。でも、煽り映像はよかったですけど、最後がちょっと残念だったっていうか……、アクシデントがねえ。

70キロ契約だった05年『HERO'S』ミドル級トーナメントで見事優勝を飾ったKID。「ヤベえ、俺、カッコよすぎる！」などの発言が我々をワクワクさせてくれるKIDだが、それはもちろん言うだけの"権利"を持ってしてのことなのである！

——メインの青木真也vsJZカルバンが没収試合になった件ですね。あれは所さんはどう思いました？

所　（真顔で）単純に痛そうだなって。

——なんですか、その感想は（笑）。

所　いや、自分のこの筋のところにカルバンのあのヒジが当たったと考えたら、ちょっとキツいですよ。ボク自身はあそこまでのアクシデントに遭ったことっていままでにないんでわからないですけど、自分が青木さんだったらいたたまれないだろうなって。

Hideo Tokoro

——ただ、あの試合はDREAM旗揚げ戦のメインイベントだったわけじゃないですか。一部では「メインイベンターがあそこでやれないのは……」なんていう厳しい意見もあるみたいなんですけど。

所　でも、あそこで試合を続けられたか続けられないかというのは、それは青木さんが一番わかってるんじゃないですかね。青木さんは普通の人より痛みに耐えられる人だと思うので、その人が痛いって言ってるんだったら、もうしょうがないというか。あそこで青木さんが壊れてしまっても、これからの日本を背負って立つ人なんで、ボクはとくに問題はないかなと思いましたけど。

——ちなみに、所さんはこのカードに対する興味ってどのくらいあるんでしょう？

所　いや、めちゃくちゃ興味ありますよ！　だって、いいカードだなと思いますし、ボクもどんな決着になるのかちゃんと観たいですからね。

——ただ、『やれんのか！』ではJZのケガで飛んで、今回もこういうかたちになりましたし、もう縁がないんじゃないかという意見もあるにはあるみたいなんですよ。

所　そんなことはないと思うんですけど。まあでも、今回じゃなくてもよかったような気はしますけどねえ。

——今回というと『DREAM・2』じゃなくても、ということですか？

所　だって、あの二人はもう半年間ずーっとお互いのことを考えてるわけでしょ？　それはさすがにツラくないですか？　それに、『DREAM・3』で勝者が2回戦を闘うというのは、かなりハードだと思いますし。

——なるほど。で、もう一つうかがいたいのが、『DREAM・1』には『HERO'S』に上がっていた日本人スター選手がいなくて、ちょっともの足りない感もあったのかなと思ったんですけど。まあ、KID選手だったり、須藤元気さんだったりは……。

所　（急にさえぎって）まあでも、華というか、KIDさんとか元気さんとかは特別ですよねえ。あの方たちは本当に必要な存在だと思いますよ（遠くを見つめて）。

——急に他人任せですか（笑）。でも、所英男を執拗にカメラで抜いていたのは、じつはそういった部分を考慮してのことだったのかなって思ったんですけど。

所　（おもいっきり謙遜して）いやー、そんなことないでしょう！　あとは、DREAMにはこれから今成（正和）さんとかも出るだろうから、やっぱり華……とはちょっと違うんですけど、魅力的という意味ではいいんじゃないかなって。

——その、KID選手だったり今成選手だったりというのはまだDREAMでは階級ができてないですけど、今成選手は65キロ、KID選手は62キロか63キロでやりたいと言われてるみたいなんですよ。その点、所さんはもう70キロには出ずに、完全に階級を下げて闘おうという感じなんですか？

所　そうですね。それで挑戦したいと思ってますし、それが最後の挑戦になると思うんで、そこは本当に死ぬ気でいかな

きゃなと思ってます。
—おお！　ちなみに、所さんの理想的な体重はどのくらいなんでしょう？
所　どうなんですかねえ……。まだ、自分で自分の理想の体重ってわからないんですよね。
—まだわかりませんか！（笑）。
所　ちょっと、さまよってます。70キロではないことは確かだなって。
—70キロで闘ってたときは、ちょっと無理してたなという感じですか？
所　（考え込んで）うーん、無理してはないですけど……、言うほど無理してないですね！
—どっちなんですか。でも70キロ契約でも、70キロまで達しないで試合をしてたこともあるんですよね？
所　でも、KIDさんはそこで優勝してるわけじゃないですか。だから、それは言い訳にはしたくないですね。だから、70キロがやりにくかったというのはボクの中では全然ないです。ただ、最後の挑戦として、階級を下げてやってみたいという思いがあるって感じです。
—ただ、KID選手しかり、今成選手しかり、その階級もかなり侮れないというか、強豪がひしめいてますよね。そんな中で気になる選手を挙げるとしたら誰になりますか？
所　本音を言えば、やっぱりKIDさんと闘えたらいろんな意味でボクにとって大きいと思うんですよ。
—おお〜。KID vs所英男はかなりの好カードですよね。
所　本当に、KIDさんに挑戦したいというのが、ボクの中で一番大きいですね。でも、KIDさんにOK出してもらうには、そこまでの道のりをちゃんとクリアしないといけないと思うんで、ちゃんと提示された人に勝っていくっていうのがいまボクがやることかなって。
—でも、KID選手までの道のりがあるとしたら、その過程もかなりイバラの道ではありますよね。ハニ・ヤヒーラだったり、ビビアーノ・フェルナンデスだったり、ヘタしたらWECからユライヤ・フェイバーが来たりとか、海外勢もどんどん参戦してくる可能性もありますし。
所　でも、それはいいことじゃないですか。アメリカとか海外にKIDさんが単独で行ってしまうよりは全然いいですよ。
—ちなみに、そうなると今成選手とも対戦の可能性は出てきますよ。
所　（顔をしかめて）今成さんはやりづらいですよねえ。
—アハハハハ！　今成選手は所さんの兄貴分ですし、一緒に練習してる仲ですもんね。
所　それに、今成さんはボクの恩人というか、なんというか。去年の大晦日から、ボクまったく試合がない状況だったんですけど、ボクの周りに今成さんと和田（良覚）さんがいなかったら本当に練習さぼってゴロゴロしてたと思いますね。
—ニートみたいな話になってますけど、大丈夫ですか（笑）。
所　でも、和田さんとか今成さんがメールで「明日の練習は○○時からです」というのを送ってくれるんで、モチベーションが保ててるような感じなんですよ。
—青木選手などが練習している〝NTT（ニホン・トップ・チーム）〟でも練習をされているようですが、所さん的にはどうですか？

Hideo Tokoro

本音を言えばKIDさんと闘えたらいろんな意味で大きいと思うんですよ

所　いや、本当に日本最高峰が集まってますよね。だからボク、なんにもできないです！（堂々と）。やられ癖ばっかりついてツラいですねえ。
—でも今成選手によると、所さんは本番にめちゃくちゃ強いんで、試合になると勝てるかどうかわからないみたいなことを言われてたらしいですよ。
所　そんなこと、今成さんが言ってくれたんですか!?　ホントですか!?（身を乗り出して）。
—は、はい。自分はそう伝え聞いたんですけど。
所　へえー。でも、そうやって今成さんに評価してもらえるのは凄く嬉しいですね。
—じゃあ、今成選手と拳を交えるときは……。
所　（さえぎって）やっぱ、試合前はまずビンタ張ります！
—田村潔司戦で披露したビンタをもう一回やりますか！
（笑）。また、お行儀が悪い人みたいに思われちゃいますよ。
所　いや、今度こそ伝わるように！　でも、実際は対戦するなんてちょっと考えられないですけどね、尊敬する人なんで。
—あと練習環境でいうと、いまボクシングの練習をかなり熱心にやってるんですよね？
所　でも、ボクサーに比べたらホントにたいしたことないんですけどねえ。去年の3月ぐらいからちょこちょこ通い始めたんですよね。それがここ1ヵ月ぐらい、凄く楽しくなってるんですよね。
—すでに1年以上もやってるんですね。どうですか、成果のほうは？
所　ようやく3ラウンド逃げ続けることができるようになりました！（堂々と）。
—ど、どういうことでしょう!?
所　いや、いままでは練習生とかでもボディ食らったら倒されたりとかしてたんですけど、最近はその逃げ方を覚えてきたんで。だから、ようやく3ラウンド逃げられるようになりました。
—ええっと、要はディフェンスを学ばれているわけですね！
所　これは、ボクにとっては凄いことな

「これからブレイクするファイター」と勝手に断言し、『kamipro』No.86号で対談しているこの二人。〝神の子の階級〟で二人がKIDを苦しめないと、ズバリこの階級はおもしろくない！

んです。でも、いまって教えてもらうことに飢えてるというか、道場がないからずっとスパーリングだけでやってきたんで、スパー中に「ジャブ出せ！」とか「ワンツー出せ！」とか言ってもらえるのが凄く嬉しいんですよね。

――そういう意味では、いまの練習環境はいいですよね。

所　はい。だからボクもチャンピオンを目指すならもうこれが最後だと思ってるんで、まあ、頑張んないとなって。で、もう一回ボクとレミギウス（・モリカビュチス）が『HERO'S』に上がったときみたいに盛り上げて、それをZSTに還元できればなって。

――そのZSTの話ということで、5月18日の大会で試合が決まったことをうかがいたいんですけど、ちょっとその前に年末の話を聞いてもいいでしょうか？

所　あ、そうですよね。じつはどの媒体でもまだしゃべってないんですよね。

――そうですよ。あらためて『Dynamite!!』の田村潔司戦はどうでしたか？

所　田村さんには試合を受けていただいた時点で凄くありがたかったなって。

――受けていただいた!?　ということは、田村戦は所さんからの希望だったということですか？

所　ボクは田村さんか武蔵さんと闘いたいという希望があったんですよ。

――そうだったんですか！

所　大晦日なんで、僕の中での夢のカードが実現できたらなって。でも、田村さんとの試合はいろいろ勉強になりました。

――たとえばどんなところが？

所　あのー、細かく言うとわからないんですけど……。そのあと、田村さんには雑誌を通してちょこちょこアドバイスをしてもらったりしてて、それが凄く嬉しいなって。

――もっと具体的にお願いします！

所　ええっと、それは内緒にしておきたいですね。秘密です。身体で教えてもらったという感じだから言葉にしづらいというのもありますし。あとは、ボクはただ一生懸命だったんで、単純に「強いなあ」って感じましたね。

――試合後、田村さんとお話しはされましたか？

所　会見でも話しましたし、試合後も控室に挨拶に言って「ありがとう」とか、「一緒に練習しよう」とか声かけてもらったりしましたね。

――そういえば、あの日はプレゼンターだった前田（日明・元『HERO'S』スーパーバイザー）さんが田村さんに勝利者トロフィーを投げつけたりと、いろいろありましたよね。

07年『Dynamite!!』田村潔司戦は自らが望んだ試合だったと明かした所英男。日明兄さんのトロフィー授与含め、いろんな意味で波紋を呼んだ試合となったが、所はこの試合から何を学んだのか!?

軽量級ファイターを輩出し続ける

ZSTの次なる"所英男"とは!?

軽量級を語るならば、所英男のホームリングであるZSTも要チェックである！　ZST本戦、そして『SWAT!』も含めると、去年からもの凄い勢いで格闘技イベントを開催しているこのリング。格闘技界の底辺拡大のために若手の選手を中心にバンバン試合の機会を提供しており、とくに軽量級ファイターの活躍が目立っている。

中でも、ここ最近、好勝負を連発している"所英男の弟分"奥出雅之は、ZSTウェルター級チャンピオンである内村洋次郎に得意のグラップリング戦のみならず、総合ルールでも一本勝ちを飾っており、5・18『ZST・17』でも注目外国人の対戦相手に抜擢されるほどの成長ぶりを見せている。また、"ZSTの金ちゃん"金原正徳は『HERO'S』の大舞台で勝利を飾っており、試合のおもしろさもさることながら、安定した強さを見せつけ、今年は"マイ階級"である65キロに照準を絞ると宣言！

さらに忘れてはならないのが、我らがGKスペシャルプロレス探検隊でも探検させていただいたZSTの高校生コンビ・横山大輔（現在は、高校を無事卒業）＆山田哲也の二人だ。受験のために試合を控えていた横山クンは『ZST・17』で復活！　……というものの、4月24日時点では「相手がいなくて困っている（上原広報談）」という悲鳴が上がっているほど。

『ZST・14』にてベテランの矢野卓見を窮地に追い込むほどの活躍を見せてしまったため、選手が"ビビっている"状況だという。一方、山田クンにしても横山クンが受験勉強に励んでいるあいだに、アグレッシブでいて星を落とさない試合を続けているのだ。

ほかにも軽量級ファイターがしのぎを削っているZST。強いだけでなく"おもしろい"試合を要求されるそのリングで純粋培養されたファイターが、突然大舞台でブレイクする可能性も大！　次なる"所英男"を青田買いしたい人は、まずZSTのリングに注目せよ！

奥出雅之（右上）、金原正徳（左上）、そして高校生ファイターの横山大輔（右下）＆山田哲也（左下）ら、若手軽量級ファイターが目覚ましい活躍を見せているZST。DREAMで創設されるであろう"神の子の階級"に彼らがどう挑んでいくのかは、一つの大きな見どころでもある。

所　あっ、ボク全然気がつかなかったんですよね。怒鳴り声がするからパッとリングのほうを見たら、もう和田さんとか上原さん（ZST広報）とかが中に入ってて。だから何が起こってたのかあとで聞くまでわからなかったですね。とにかく前田さんの顔と声が怖かったというのは覚えてますけど。

——そのあと、前田さんと話したりしましたか？

所　雑誌に書いてあるとおりのことを話されてました（苦笑）。ボクは試合に一生懸命だったんでよくわからなかったんですけど、前田さんは田村さんを育てた人じゃないですか。やっぱ田村さんのことを凄くわかってる方なんで、そういう怒りだったんだろうなって。……あとはホントによくわからないですね。

——なるほど。で！　いよいよ5・18『ZST・17』参戦の話ですが、今回は所さんの大嫌いな小谷さんとタッグを組んでの試合（所&小谷vs矢野卓見&エリカス・ペトライティス戦）ということになりましたけど。

所　大嫌いじゃないですよ！　むしろ、ボクは凄く好きなんですけどねぇ。

——本当ですかぁ!?　小谷さんは所さんの言動にいちいち噛みついたりしてますけど。

所　だから、好きなんじゃないですかね、ボクのことが（アッサリ）。

——そこは自信満々なわけですね。ということはタッグもちゃんと成立しそうですかね？

所　疲れたら代わるって感じじゃないですか。

——そんな簡単な話なんですか!?（笑）。

所　あとは、どっちが矢野さんと闘うかでしょうね、たぶん。矢野さんとはやりづらいですからねえ。

——しかし、タッグマッチって所さん的にどうなんでしょう？　ワンマッチとは違うプレッシャーもあるんでしょうか？

所　ワンマッチは勝てばいいですけど、

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。本拠地である『ZST』には旗揚げから参戦し、『ZST-GP』で優勝。7・6『HERO'S』ミドル級トーナメント1回戦で地上波デビュー。ここで現修斗ライト王者ベケーニョから劇的な勝利を収め、一躍、時の人に。08年はDREAMの"神の子の階級"でKID戦目指し、大暴れする予定。170cm、65kg。

Hideo Tokoro

『Dynamite!!』では田村さんか武蔵さんと闘いたいという希望があった

タッグマッチでZSTの中心選手と対戦するとなると、やっぱりおもしろい試合をして納得させないとですよね。このカード見て「お茶を濁しやがって」とかいう人もいると思うんですけど、そういう人が観ても「おもしろかった」と思ってもらえる試合にしないといけないなっていう緊張はありますよ。

——ある意味、プロの部分が問われる試合ってことですね。

所　そういうのもありますし、それはもしかしたらリングによっても変わってくるのかもしれないですけど。DREAMみたいなリングだと、まず強くないと始まらない世界なんで、まず強くて、次におもしろさがないとダメっていうか、そういうのが理想的ですよね。

——それができたら最高ですけどね。

所　ボクはボクで思う理想型がありますし、ほかの選手はほかの選手で思う理想の闘い方があると思うので、DREAMなんかはそれがぶつかり合うからおもしろくなるんじゃないかというのも思います。もちろんZSTでも全力でやりますし。

——わかりました。では「これがホントの格闘技だ！」というものを、ぜひ所さんに……。

所　いや、そこらへんは今成さんがやってくれます（アッサリ）。ボクはひとまず目の前のZSTを頑張ります！

——えー、どちらも他人任せにせずにお願いします！

【08年4月18日／リバーサルジムにて収録】

ZST.17

東京・ディファ有明
5月18日(日) 開始17:30
※ジェネシスバウトは16:40開始

決定対戦カード
所英男&小谷直之 vs 矢野卓見&エリカス・ペトライティス
奥出雅之 vs マクシム・ニェヴォリア
太田裕之 vs 山田哲也
小島一朗 vs 鳥山洋一
船越あゆみ vs 合庭未記（※グラップリングルール）

出場予定選手
藤原敬典、西坂タツヒコ（以上、SB-Xルールでの出場）、長井憲治、横山大輔

チケット料金
◎VIP席 15,000円／SRS席 8,000円
S席 6,000円／A席 4,000円　※当日券は一律500円増し

チケット販売所
チケットぴあ／TEL.0570-02-9999（Pコード594-7709）
後楽園ホール／TEL.03-5800-9999

お問い合わせ
ZST事務局／TEL.03-5388-0808

所英男らZST戦士と一緒に次なるヒーローを目指そう！

【リバーサルジム】
時間　毎週金曜日（月曜～土曜 利用可能）19:00～21:30
場所　リバーサルジム
月謝　10,000円（入会金:10,000円）
指導員　所英男 奥出雅之 太田裕之

【ZFC 大井町】
時間　毎週水曜日 20:30～22:30　毎週土曜日 19:30～21:30
場所　ゴールドジムサウス東京
月謝　5,250円（入会金:5,250円）
指導員　所英男 奥出雅之 太田裕之 小島一朗 他

【ZFC原宿】
時間　毎週火曜 20:30～22:30
場所　ゴールドジム原宿東京
月謝　5,250円（入会金:5,250円）
指導員　勝村周一朗・黒澤信也・太田裕之

【ZFC府中】
時間　毎週金曜　19:00～22:00
場所　ゴールドジム府中東京
月謝　5,250円（入会金:5,250円）
指導員　大石真丈 平山敬吾 他

【お問い合わせ】ZST事務局／TEL.03-5388-0808

5・24『ハッスル・エイド』では3年半の
インリン様の集大成をお見せします

インリン様の作り方

“愛と美と闘いの女神”さよなら記念特集

『ハッスル』の世界観構築において大きな役割をはたし、日本プロレス界に数々の衝撃を与えたインリン様が、ついに『ハッスル・エイド2008』でファイティング・オペラの舞台から去ることに。そこで本誌ではインリン・オブ・ジョイトイさんとその3年半にわたる軌跡を振り返りながら、知られざるインリン様の裏側を徹底検証！ インリン様はどのように作られていたのか？

聞き手／坂井ノブ　試合写真／平工幸雄、山口久佐夫　撮影／平工幸雄

――今回、『ハッスル』の世界では初めてインリン・オブ・ジョイトイとして会見したわけですが、まさかそれがインリン様の引退発表の場になるとは……寂しいかぎりです！

インリン　私も寂しいです……。ちょっとシンミリしちゃいましたねぇ（しみじみと）。

――会見のムードもいつもと違っていたじゃないですか。プロレスマスコミ以外にも報道陣がいっぱい来てましたし。

インリン　そうですね、ビックリしました。あと『ハッスル』の会見はいつもアン・ジョー司令長官や島田二等兵と一緒だったのに（笑）。

――ハハハハ！　いつもはヒマでモテないプロレスマスコミばかりなのに（笑）。今回の引退発表は、何かインリンさんの中で、インリン様をやりつくしたという部分はあったんですか？

インリン　あ、それは全然ないです（笑）。まだまだモチベーションは高いですし。ただ、3年半やってきていったんちょっと離れて、客観的にハッスルとインリン様を見つめ直したいと思ったんですね。

――インリンさん、聞きにくい質問なんですけど……一連の交際発覚報道と今回の引退は、やっぱり関係あるんですか⁉

インリン　フフフ。それはまったく関係ないです！　私の中ではあんまり今回の騒動と『ハッスル』を一緒に絡めたくないんですよ。だからインリン様をやりつくしたということもないですし。

――インリン様として3年半近くやってきたわけですが、なりきるうえで難しさもあったんじゃないですか？

インリン　ありましたね。普段の自分が使わないような言葉使いとか。だからインタビューもインリン様としてのオファーだったらできるだけ断ってきて（笑）。

――ハハハハ！　それくらいインリン様という個性を大事にしていた、と。

インリン　そう取っていただけると嬉しいです（笑）。あくまでインリン様は別キャラということで、自分の素は出しちゃいけないという気持ちでしたね。これが私に与えられた仕事だと思って。

――でも、最初はインリン様になりきるために、いろいろ苦労されたと思うんですよ。

インリン　最初はやっぱり自分が思ったインリン様像を表現するように心がけました。もともと私は高田総統のカッコよさにひかれて『ハッスル』の世界に憧れを持ったんです。総統の横にセクシーでカッコいい女王様みたいに君臨したいっていうイメージが自分の中にあって。

――え、インリン様になるオファーがある前にですか？

インリン　勝手に妄想にかられてたんです（笑）。もちろん実際やってみたらいろんな難しさを感じました。演出の方の指示やアドバイスは毎回勉強になりましたね。とくに難しかったのはインリン様が母親になったときかな。

――高飛車な女王様キャラとはまた一味違うキャラになるわけですもんね。

インリン　そうなんですよ。母親っていうのはどういう気持ちなんだろうって思って。強い女性の象徴だったインリン様が、今度は強さと同時に母の優しさを持たないといけなかったので。

――母親になったときは内面部分から考えました？　それとも衣装や外見から？

インリン　まず外見ですね。私の場合は衣装のイメージを自分なりに考えて、雰囲気作りをしたあとに初めて気持ちが出てくるんですよ。だから先に外を固めると「自分はこういうものなんだ」って何かが降りてくる感じで。それは、ドレスメーカーのEMIさんへアスタイリストのRYOさんと一緒に考えてきたんですけど。

――へえ～。その3人で〝インリン様作り〟が始まるんですか？

インリン　たとえば「次の試合は誰々と対戦」と決まってから次の衣装はこうしようって考え始めるんです。それから過去に自分が撮影で着た衣装やファッション誌をEMIさんのところに持っていって。それで「こうしたほうがさらによくなるよ」ってアドバイスをもらいながら、二人で決めていく感じですね。

――なるほど、なるほど。

インリン　RYOさんもプロの視点から「この髪型よりこっちのほうがシャープに見えてインリン様っぽいよ」とかアドバイスくれて。一緒に作り上げていく過程がおもしろかったですね。だから、私を含

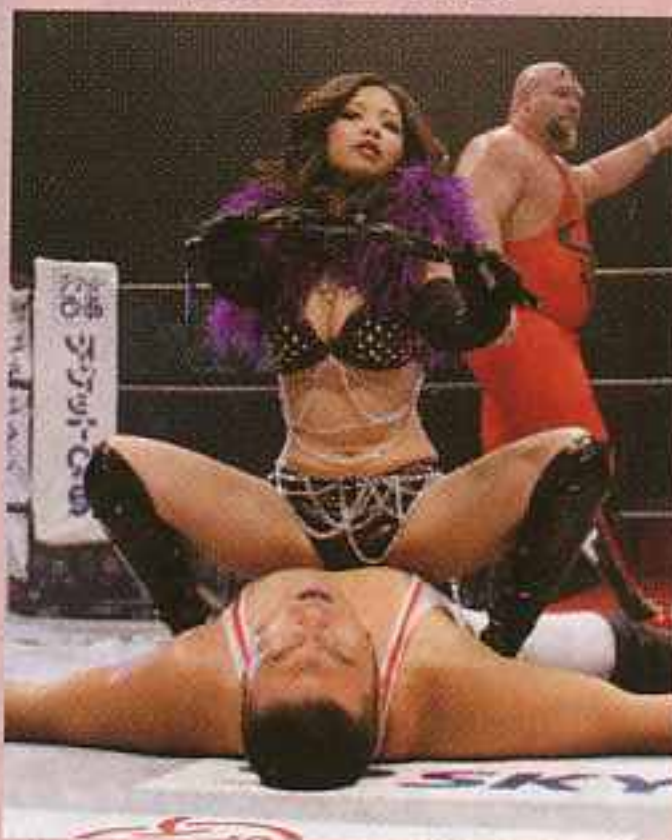
インリン様をやりつくしたという気持ちはないです いったん離れて客観的な目で見つめ直したくて

インリンさんは会見で「二人三脚だったインリン様にお疲れ様でしたと言ってあげたい」と、活動休止を発表。同席した山口日昇ハッスルエンターテインメント社長は「ファイティング・オペラという未知なるジャンルの礎を築き、その扉を開いたのはインリン様の活躍が発端だったと思う」と語った。

心に残る名シーンの数々 インリン様ヒストリー

ハッスルハウス ～クリスマススペシャル 12.24～
04年12月24日（後楽園ホール）

記念すべきハッスル初登場。となれば当然M字ビターンも初お披露目！「そんなに洗脳されたいのぉ？」のなまめかしい声とともに放たれた見事なM字開脚の前にはただひれ伏すしか術がない！

ハッスル7
05年2月11日（愛知県体育館）

満を持してのデビュー戦では小川直也と対峙したインリン様。最後は「行くわよーーっ！」のかけ声からのM字フォールで小川から完全勝利！日本プロレス界に大きな衝撃が走った一瞬だった。

ハッスル・マニア2005
05年11月3日（横浜アリーナ）

HGのデビュー戦の相手を務めたインリン様。しかし結果は「掟破りの逆M字固め」でフォール負け。M字パワーが尽きたインリン様は黄泉の国へと旅立っていったのだった。

インリン様の作り方

ピンヒールを履いていたからこそ インリン様をカッコよくできました

めた3人がインリン様の生みの親ですね。

――外見だけじゃなくて動きも凄く優雅で。まず観る側としてはピンヒールを履いて試合をやる姿に驚きました。

インリン　もともと私はスニーカーとか底がペッタンコの靴はまず履かないんですよ。だから一番怖かったのがペッタンコの靴を履いたときの自分のモチベーションの低下だったんです（笑）。

――ダハハハ！　ペッタンコの靴ではモチベーションが下がる！

インリン　ピンヒールじゃないとインリン様じゃなくなっちゃうんじゃないかなという思いが強くて。やっぱりピンヒールを履いてるからこそカッコよくできたっていうのはありますね。

――あれ？　ニューリン様のときはピンヒールじゃなかったような……。

インリン　ええ。ニューリン様のときは攻撃的で、インリン様と比べると動きも速いっていうイメージがあったので、あえてペッタンコの靴を履いて動いたほうが大人っぽい色気じゃなくて子どもっぽい色気が出るかなって思って。

――はあ～。そんな細かいところまで深く考えていたなんて。

インリン　そうですね。で、実際にニューリン様のときはピンヒールを履いて試合したんですけど……凄い動けましたね（笑）。

――ダハハハ！　確かにインリン様とはスピードが違いましたねぇ。

インリン　そうなんですよ。いままで靴がよくなかったのかなって初めて思っちゃいました（笑）。

――わりとインリン様はM字フォールやM字固めとか、ゆったりした動きが多かったじゃないですか。

インリン　はい。そこは優雅さを意識してましたね。

――ニューリン様の試合ってミドルキックだったり、ラ・マヒストラルで丸め込んだりとか動きがあって。

インリン　そうですね、全身を使うような技をいっぱい取り入れてましたね。

――あれは充分練習したんですか？

インリン　もちろん！

――ミドルキックなんてキックボクサーばりのフォームでしたし。

インリン　練習中にTAJIRIさんが「強すぎだよ……」ってボソってつぶやいてましたね（笑）。

――ダハハハ！　そうやって試合をこなすうちにファイトスタイルも変わっていきました？

インリン　最初の頃に比べるとかなり変わりましたね。動きにバリエーションがでてきて。私の中では『ハッスル・マニア2007』の印象が強いですね。

――確か……、天龍源一郎&RG&TAJIRI vsインリン様&アン・ジョー司令長官&モンスター・ボノでしたっけ？

インリン　そうです！　あの試合がベストバウトかな。試合後に「今日の試合は完璧だった！」っていう感触がありました。一つもミスがなかったんですね。

――ノーミス！

インリン　ほかの試合は「あれをちゃんと決めればよかったのに……」って反省点が残るんですけど。

――確かにあの試合はTAJIRI選手との攻防も見事でしたね！

ハッスル・ハウス ～クリスマススペシャル～ 涙のラストM字ビターン
05年12月25日（後楽園ホール）

ハッスル軍との激闘により限界が訪れたインリン様は、モンスター軍を去ることを決意。最後に残ったM字パワーを振り絞って、"イン卵（いんらん）"を産み落とした。

ハッスル16
06年4月20日（大阪府立体育会館）

イン卵から誕生したのはNEWインリン、略してニューリン様！　その凶暴性むき出しのファイトの前にHGは初のフォール負け。M字遺伝子のポテンシャルの高さを見せつけた。

ハッスル・エイド2007
07年6月17日（さいたまスーパーアリーナ）

インリン様と"魔界の住人"グレート・ムタの運命の初遭遇。試合終盤、ムタが毒霧をインリン様の股間に噴射！この想像を絶する攻撃によってインリン様は新たな生命を宿すことに。

大みそかハッスル祭り2007
07年12月31日（さいたまスーパーアリーナ）

年の瀬に奇跡の親子3人揃い踏み！しかしムタは試合後に家族を残して魔界へと帰ってしまう。この父親の不在がインリン様とボノちゃんに溝が生じる発端となるのであった。

インリン様の世界は変態がテーマでした（笑）それを真剣にやっているのがいいんですよね

インリン　最後はTAJIRIさんに蹴られてインリン様が失神したんですよね。その蹴られた瞬間にお客さんの「えぇ～っ！」って悲鳴を感じて、「あ、嬉しい！」って思ったんですよ（笑）。

――「いい仕事した！」って感じですかね（笑）。ほかにもプロ意識を感じる試合や、みんながアッと驚くようなシーンが常にありましたよね。股間に毒霧を吹かれたときは下肝を抜かれましたよ！

インリン　股間……ありましたね～（笑）。

――インリン様の世界って一歩間違えば変態的というか（笑）。

インリン　変態ですよね（笑）。こんなの普通じゃないですよね。でも、むしろ私自身が変態をテーマにしてて。

――変態がテーマですか！

インリン　はい（笑）。作ってるときに「こっちのほうが変態かな？」ってよく合い言葉のように言ってましたね。衣装の打ち合わせでも「こっちのほうが変態だね！」なんて話をルノアールとかでやって。

――ルノアールでそんな会話が（笑）。

インリン　周りにはほかのお客さんもいるんですけどね（笑）。しかもテーブルに出してる資料がけっこう過激で。たぶんアブない人たちだと思われてたかも（笑）。

――インリン様は卵を産んだり毒霧で妊娠したり、やることも浮世離れしてたというか変態っぽかったですよね。

インリン　そういうことを真剣にやってるのがいいんですよね（キッパリ）。スタッフを含めて、そこはもの凄く感じます。

インリン様の作り方

――そういえば、髙田総統の古くからの友人で『ハッスル』をよく視察している髙田延彦さんが、インリン様が最初に卵を産んだ瞬間がハッスルの雰囲気が変わるターニングポイントだったんじゃないかって言ってましたよ。

インリン　……どういう意味ですかね？

――あのときはインリン様がこの世から去ってしまうというようなイメージになって、観客席がシーンと静まり返って。

インリン　あぁ、あの雰囲気は覚えてます！　確かにあのときはなんかシンミリなっちゃいましたよね。あそこまでの雰囲気になるとお客さんも「え、本気なの？」って思っちゃいそうですね。ふざけてるように見えるけど、真面目にやっているからああいう一体感のある空間を作れるんだと思いますね。

――さて、ラストマッチとなる『ハッスル・エイド2008』ではボノちゃんとお互いの存在を懸けて対戦することになりました！　観る側にとっては今回の会見を踏まえると、どうしても負けるのはインリン様なのかなっていう……。

インリン　普通はそう考えますよね。

――そこは素朴な疑問で、聞くのも野暮なんですが……、どうなんですかね？

インリン　どうなんでしょう？（笑）。でも試合に勝ってカッコよく去っていくのもありなんじゃないかなとも思います。

――母は強し！と（笑）。

インリン　ストーリーのクライマックスですし、どんな結末が待っているのか期待してほしいですね！

――これが最後っていうのは本当に残念ですね。インリンさんはいつかこういう日が訪れるっていう想像はしてました？

インリン　そうですね……やりがいのある仕事ですけど、ずっとおばあちゃんになってもインリン様をやってたらおかしいですし（笑）。こういう日が訪れるっていうのは、想像も覚悟もしてました。でも、最後に『ハッスル・エイド2008』という大きな大会でインリン様の試合を組んでもらえるのは本当に嬉しく思います。そういう意味では悲しいとかそういうことじゃなくて、3年半のインリン様の集大成をお見せしたいですね。

――では最後にファンへのメッセージをお願いします！

インリン　『ハッスル』を愛してる人ってたくさんいると思うんです。その中で私も一人のハッスラーとしてリングに上がらせてもらって、皆さんに応援してもらえたことを凄く感謝してます。インリン様は最後の試合になってしまうけど、みんなの心の中にインリン様がずっと残れば嬉しいなと思います。

――ラストマッチを期待してます！

【08年4月19日／ハッスルエンターテインメントにて収録】

いんりん・おぶ・じょいとい■1978年2月15日、台北出身。10歳より東京で生活、95年よりヒラオカノフスキー・クタラチェンコのマルチメディアユニット「JOYTOY」に参加。現在はグラビア、テレビ、音楽活動など幅広く活躍中。公式ホームページ http://www.most-sexy.net 公式ブログ「愛のエロテロリズム」 http://blog.livedoor.jp/yinlinofjoytoy

インリンとkamipro

kamipro Specoal 2006 SPRING
ヴァンダレイ・シウバ×
インリン・オブ・ジョイトイ

©松本崇

同級生である二人がジャンルを越えて対面！日本、エロス、表現をテーマに語り合った。インリンの美貌を前にシウバは大興奮！そのはしゃぎぶりはHGばりに腰をカクカクさせるほど。

kamipro Specoal 2006 SUMMER
インリン様×ニューリン様×
インリン・オブ・ジョイトイ

©乾晋也

美女3名がまさかの集結！途中でインリン様とニューリン様が親子ゲンカを始めると、インリンさんが仲裁に乗り出す場面も。もう何が何やら状態だが豪華このうえないのでNO問題！

kamipro No.111
GKスペシャル プロレス探検隊
インリン・オブ・ジョイトイ&インリン様

©山口比佐夫

インリン様の神秘解明にプロレス探検隊も乗りだした！しかし小松隊員はインリン様のムチ攻撃の痛みがだんだんと快感に変化、すっかり洗脳されてしまったのだった。

kamipro No.114
武藤敬司×
インリン・オブ・ジョイトイ

©山口比佐夫

ボノちゃんのご両親（?）である二人が対談！インリンさんの健康的なお色気と武藤のあからさまな下ネタがスウィングして大盛り上がりのプロレスLOVEトークとなった。

これで本当に見納め!? インリン様 collection

インコレ'04~'08

ハッスルの世界に咲き誇った妖艶な花、インリン様に洗脳されたヒマでモテないプロレスファンは数知れず。その思想と哲学の詰まった魅惑的なコスチューム姿を一挙に公開! あぁ、もっと洗脳されたかったYO!!

ニューリン様から唯一エントリーしたのは攻撃的な制服風エロカワコスチューム。小娘ながらもお色気ムンムンなそのたたずまいは"セレビッチ"といったところ。

『ハッスル・エイド2007』で着用した戦闘服。一年半ぶりの戦線復帰、さらに母親となってから初めての試合ということもあり、強さとともに母の優しさも同居したイメージ。

ハッスルの男性スタッフからも人気ナンバーワンだったという花魁姿。その衣装のはだけ具合は「着たいの? 脱ぎたいの?」状態、まるでファンの心を弄ぶかのようだ。弄ばれたい!

EricaとのM字ビターンマッチで着用したチャイナふう。世にチャイナ服は数あれどここまで深い切れ込みのスリットはなかなかお目にかかれない。おまけに胸元にも深い切れ込み!

純白ドレスのプリンセスふう。エレガントな身のこなしだが胸元にはきちんとチラリズム。清楚とエロスが混在したまさに「インリン様~!」と絶叫したくなるようなたたずまいだ。

05年の『ハッスル12』で髙田総統におねだりしてプレゼントしてもらった戦闘服。金色に輝くビキニは古代王朝の女王を思わせる豪華さ。肌の露出部分の多さは歴代の中でも随一。

ミル・マスカラスばりのゴージャスな頭飾りがとにかくインパクト大。全身ゴールドを基調としたこの上なく高級感あふれるもので、選ばれし者しか着こなせない逸品だ。

『大みそか! ハッスル祭り2007』は警帽が印象的なポリスふう。その決まり具合は思わず逮捕されてお仕置きして欲しくなるほど。強さと美しさの絶妙なブレンド具合、これぞインリン様主義!

小川直也からピンフォール勝ちを収めた試合で着用したオールレザー製の戦闘服。隠し技的な紫のファーが首もとを小悪魔的に演出、観る者を挑発しているかのような印象だ。

『紙のプロレスRADICAL』No.91の表紙にもなった衣装。横はヒモ状に編み込まれており、一体その中身はどうなっているんだろうと妄想が暴走する仕上がりになっている。

『ハッスル・マニア2007』での戦闘服は着物をアレンジした中森明菜の「DESIRE」の衣装を彷彿とさせるもの。金色の帯がその優雅さをさらに強調している。

ヘアメイク&ドレスメーカーに直撃!

インリン様はどのように作られるのか?

インリン様が美しいのは肉体はもちろん、衣装やメイクまで完璧だから。ほかの選手や演者とは違い、インリン様には専属のヘアメイクとドレスメーカーがついている。インリン様の美しさの源流を『ハッスル』のバックステージで異彩を放っているお二人に話を聞いてみた。

聞き手／坂井ノブ 撮影／山口比佐夫

（右）EMERALD EMI-LAND(えめらるど・えみらんど)■職業=ドレスメーカー。05年2月からインリン様のコスチュームを担当。以前からインリン・オブ・ジョイトイのグラビア撮影の際にコスチュームを担当していた。ニンジャマンやランキンタクシーなどレゲエアーティストの衣装を担当。じつはセルグ"弁慶"ガルシックのコスチュームも作成した。

（左）RYO(りょう)■職業=ヘアメイク。05年3月からインリン様のヘアメイク担当。雑誌の撮影でインリンを担当した際にハッスルの仕事を誘われて参加。ファッション雑誌、広告、ミュージシャン、ファッションショーなど幅広く活躍中。ナチュラル系女優からインリン様まで幅広く活躍しているが、「一番濃い仕事は間違いなくインリン様ですね」とのこと。

——インリン様のコスチュームやメイクはどのように作られているのかというのはずっと謎に包まれていたわけですが、お二人で作っていたんですね。

EMI 私たちとインリンですね。

RYO みんなで話し合って作ってましたね。試合コスチュームの場合は、まず対戦相手ありきですけど。

EMI いろんな状況を想像して、みんなで話してイメージを作ってましたね。最初はプロレスってことを念頭に置いて作ってましたけど、あまりプロレスのことはわからないから（笑）。

RYO そう、二人ともプロレスのお仕事はやったことなかったんで。

——まあ、そうですよね（笑）。

RYO まず全体的なイメージをEMIさんとインリンが決めてから、ヘアメイクを決めるんですけど、じつはぶっつけ本番なんです。コスチュームが完成するのはギリギリなのでイメージに合うようにその場で作っていく感じで。

EMI ヘッドドレスも着けるからね。それで全体のバランスも変わってくるんですよ。

——インリン様のコスチュームはだいたい面積が非常に少ないですが、作るときはどんなことを重視してるんですか？

EMI デザインはもちろんなんですけど動きやすさ。あと、コスチュームがずれたりしないように（笑）。試合を観てるときはハラハラしてますよ。

RYO そういう部分のガードはインリン自身もしっかりしてたよね（笑）。

EMI 完成までには試着しては作り直してっていう作業を3回ぐらいやりますから。

RYO 練習のときに試合のコスチュームを着て、動きやすさとフィット感を確かめてるんですよ。

EMI 初めて着るコスチュームのときには私まで緊張しちゃいますからね（笑）。

——ちなみに、衣装を作るときには何かモチーフはあるんですか？

EMI 最近よく着てる黒髪と和服の組み合わせはは「中森明菜の『desire』でしょ」って言われるんですけど、違うんですよ。最初は『極道の妻たち』を意識してたんです。

RYO そう。日本髪にするつもりだったんですけど、前にも和服で日本髪をやったことがあったから、ちょっと変化がほしいと思ってボブにしたんです。

ハイファッションとゲームとアニメの過激な変態っぽさを取り入れました

EMI 横が網状になってるドレスは男性には受けがよかったですね。

——横から見たら完全に裸でしたよ！　あれは凄かったですね。

RYO セクシーさはもちろんなんですが、ハードさだったり、かっこよさだったり、強さのイメージも必要なんですよね。

EMI 安っぽくなるのは嫌だったから、衣装の素材はどれもいいものばっかり使ってました。生地とか羽根とかラインストーンとか質のよいものばかり選びました。

——ゴージャス感を出すには大事な要素ですね。

EMI あとファッション性も重要ですね。流行の最先端のファッションをチェックして取り入れてましたからね。本人が「こういう感じがいいよね」って持ってくるのはハイファッションな雑誌だったり。オートクチュールの雑誌ってかなり過激で変態っぽいんですよ。

RYO あと、マニアックなゲームとかアニメの本も買ってきてましたね（笑）。ニューリン様のときに着ていた赤いコスチュームは、かなりそっちの要素が強かったんじゃないかな。

——やはり「変態」がキーワードでしたか！　ちなみに控室でのインリン様はどんな感じなんですか。

RYO Mペランサー（※注＝『ハッスル18』に登場したエスペランサーのような動きとコスチュームのニューリン様）のときはずっとへんな動きでカクカクしてましたよ。

EMI なんかブツブツ言ってるなぁと思ったら、急に「ボノちゃん？」って話しかけられたり（笑）。

RYO いつも完璧に入り込んでたよね（笑）。

——さすがだなぁ。さて、いよいよインリン様は最後のリングに立つことになりましたが、いままで感謝の言葉をかけてもらったことはありましたか？

EMI あったっけ？（笑）。

RYO ないかもね（笑）。でも、いつもコスチュームを着てるときはインリン様になりきってますから。

——確かにインリン様はあまり感謝しちゃいけませんね（笑）。

RYO でも、コスチュームには100パーセント納得はしてたよね？

EMI ええ。100パーセント納得しないと着ない人なんで（笑）。

【08年4月16日／東京・後楽園ホールにて収録】

文中で語られているニューリン様が特殊メイクを施された大会は『ハッスル・エイド2006』（ニューリン様＆川田利明vsTAJIRI＆大谷晋二郎）。この試合でTAJIRIがニューリン様のマスクを剥ぐと、そこにはSF映画顔負けのなまなましい傷跡の特殊メイクが！

インリン様はドMなプロレスラーとプロレスファンのご主人様であり、『ハッスル』の世界観の〝母〟だった

インリン様がいない『ハッスル』の風景は、ちょっと想像しづらい。それぐらい完璧に定着していたし象徴的な存在だった。「ヒマでモテないプロレスファンの諸君」とインリン様が語りかけるとき、会場に集まったいわゆる〝変態〟たちはいつもゾクゾクしていたはずだ。

本誌の連載企画「プロレス探検隊」でおなじみの小松隊員は、インリン様がハッスルを離れるという事実を聞かされたとき、「えっ⁉ 『ハッスル』は終わりじゃないですか！」と吐き捨てるようにつぶやいたという。

彼のように、インリン様から直接ムチで叩かれて洗脳された〝変態〟はインリン様というご主人様を失なって路頭に迷ってしまうことになる。不憫なのは小松隊員だけではない。取り残される者すべてが不憫だ。

「プロレスラーはの方は肉体を痛めつけられたりする仕事だから根本的にMだと思う。だから、私は徹底的にドSでいこうと思ったんです」

そう語ったのは『Gリング』誌上でレスラーにSか？　Mか？　を聞く夏目ナナさん……、ではない。インリン・オブ・ジョイトイさんの言葉である。真理を見抜いてしまったインリン様のドSぶりは終始一貫して、一度もブレることはなかった。変態だけでなく女性からの共感も多く、眞鍋かをりさんは「強いし、キレイだし、女を捨てずに女を武器にして男の中で闘っている」と絶賛していた。

また、TAJIRIやアン・ジョー司令長官といった一流のプロレスラーもインリン様の立ち居振る舞い、ただずまい、動き、間の取り方を絶賛している。安生洋二は本誌91号で「最初に聞いたときは〝そんな簡単なものじゃないだろ〟って思ったんですよ。（中略）僕らが高いと思ってたハードルなんてひょいひょい乗り越えて、もうダントツで光っちゃいましたからね」と語っている。

リング上で光り輝くインリン様に触発されて、誰にもおいしいところは取られたくない川田が弾けるきっかけにもなった。そういった目に見えない部分でもインリン様の存在感はかなり大きかったのだ。極論すれば『ハッスル』の世界観の〝母〟はインリン様だった。

インリン様のいない『ハッスル』にはたして、どんな風景が広がるのか？　それはまだ誰にもわからない。いまはただ、『ハッスル』のリングで最後に輝くインリン様を目に焼きつけるしかない。

（坂井ノブ）

インリン様の撮影で個人的に最も思い出深いのは高田総統とのゴージャスなバスルーム特写！　過去のあらゆる取材の中でも最高に緊張した撮影だった。
撮影／松藤浩之

kamipro SHOPPING

艶やかなこの姿ももうすぐ見納め！
M字は永遠に不滅です!!

インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[M･L･XL グレー]¥3,990(税込)

インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト×ブラック]¥3,990(税込)

インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[M, L, XL ホワイト]¥3,990(税込)

インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト]¥3,990(税込)

高田総統パロディTシャツNO.3
[M･L･XL ブラック]¥3,990(税込)

高田総統パロディTシャツNO.2
[M･L･XL グレー]¥3,990(税込)

高田総統パロディTシャツ(ヴァーガンディ)
[M･L･XL ワインレッド]¥3,990(税込)

インリン様女神「LOVE」バッグ[☆]
[ベージュ]¥1,980(税込)

Kamiproマスクシャツ[☆]
[S･M･L･XL ホワイト×レッド]¥3,990(税込)

青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M･L･XL ブラック]¥3,990(税込)

マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S･M･L･XL イエロー]¥3,150(税込)

I編集長"殺し"Tシャツ[☆]
[M･L･XL ブルー]¥3,990(税込)

マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M･L･XL ブラック]¥3,150(税込)

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください)

★代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00～19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

ケータイサイトでセール実施中!
いますぐアクセス!!
非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo ※もしくは「kamipro」で一発検索
iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶

au
トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

vodafone
メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

WILLCOM
趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV･メディア･本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

※価格はすべて税込みです

HG COMEDIAN

PROFESSIONAL WRESTLERS

邪道 外道

TEACHER

馳浩

大反響企画第3弾!! プロレス衰退の元凶は誰だ!?

バック・トゥ・レスリング

〜生き残るためのプロレス〜

バック・トゥ・
レスリング

90年代
新日本プロレス
とは何か？

よく考えたら俺も5年ぐらいしか
新日本プロレスではコーチしてないから

90年代新日本プロレス道場のコーチ

馳浩

今回もやってきました「バック・トゥ・レスリング」特集。
プロレス界の重要人物が目白押し。その中でもトップバッターを飾るのは
衆議院議員、自由民主党副幹事長の馳浩！ 国会議員として
「センセイ」と呼ばれる馳は、90年代新日本プロレス道場においても
プロレスの「センセイ」（というかコーチ？）だったことは広く知られている。
聞きたいことは山ほどあるが、とにかくすべての疑問をぶつけてみた。

聞き手／井上崇宏　構成／坂井ノブ

古くからの新日本プロレスのファンの中には馳浩が台頭して、若手を指導するようになってから「新日本は変わった」と嘆く人もいる。本誌の前身である『紙のプロレス』でも「ファミコン・プロレス」と定義して大技が連発される風潮を斬ったこともあったが、そのときも槍玉に挙げられていたのは馳だった。

では、なぜ馳なのか？　当時、馳は新日本プロレスの選手兼コーチとして現在のトップレスラーの数多くを育て上げた。当時、世界最高峰と呼ばれた90年代新日本プロレスのジュニアの闘いも馳の影響を抜きに語ることはできないはずだ。

現在は衆議院議員として活躍中の馳が、プロレス界に残したものとはなんだったのか？　馳のプロレス人生とプロレス哲学を通して、プロレスそのものが大きな変質を遂げることになった90年代という時代をもう一度考えてみたい。

——この『バック・トゥ・レスリング』という特集企画では、これまでにＴＡＪＩＲＩ選手やウルティモ・ドラゴン選手などにお話をうかがってるんですけど、この二人が主張するのは「90年代の新日本ジュニアの闘いから日本のプロレスのフォーマットがおかしくなってきた」と。あれ以降、日本のプロレスの多くは「セオリーがない、理にかなってない、受けがない」と言うんです。そこで90年代の新日本っていうと、やっぱり馳先生にたどり着いちゃったわけなんですけど。

「受けがない」というのはね、要は「切り返しをしろよ」ってことなんです

馳　なるほどね。

——当時、新日本の中間管理職として選手のコーチをされていたのが、ほかならぬ馳先生ですから。

馳　あのー、「受けがない」というのはね、ちょっと誤解もあるかもしれないんだけども……、要は「切り返しをしろよ」っていうことなんです。たとえば『ベスト・オブ・ザ・スーパージュニア』のときってほかの団体の選手とかも入ってきたけども、これが新日本内でやってるぶんには、技の切り返しがずっとできる。こうやったらこう切り返される、こう来たらこう切り返す。その切り返しがないと、一方的な展開になっちゃうんですね。

——かいつまんで言うと、「新日本には新日本のやり方がある」ということですか。

馳　でも、よそから来た選手にはアドバイスしてたんですね。「やられっぱなしじゃダメだよ。相手に任せるのがプロレスだけども、切り返して自分からもやっていかないと。任せっきりじゃダメ」と。

——その切り返しをする上で一番大事なことってなんですか？

馳　それは〝タイミング〟なんです。新日本の選手は普段から道場で極めっこの練習をしたりしながら、切り返し方も一緒に覚えてるから。そこにパッとほかの選手が来たら、もしかしたら対応できなかったかもしれない。そのタイミングっていうのは、やっぱり教えた人、教えられた人によって違うかもしれないですね。

——馳浩流のタイミングというのは？

馳　簡単なことですよ。相手の技をマットレスリングで受けたら、腰を中心にして軸をずらしてスペースを作る。そのスペースに内側から入るのか、外側から入るのか、そうやって切り返していくわけです。ひねって切り返す、立って切り返す、回転して切り返すというやり方。そして切り返しながら相手の手首を取る、ヒジを取る、あるいは足首をすくう、ヒザを取る。そこからまた身体を寄せていって自分の圧力をかけて切り返す。これはすべて理屈に合った切り返し方で、新日本の選手同士はみんな知ってるから。永田（裕志）にしても石澤（常光）にしても大谷（晋二郎）にしても、そういう練習を普段からやってたからね。その呼吸が合わないと、一方的にやられちゃうっていうことはあるかもしれないですね。

——その呼吸というのは、団体間という交流戦の流儀として、たとえば新日本に上がった場合は新日本のタイミングに合わせなきゃいけない、みたいな決まりごとのようなものってあるんですか？

馳　いや、そこはセンスなんだよなぁ。相手に遠慮して合わせせっぱなしでもダメだし、合わせなさすぎてもダメだし、そこは微妙なところなんです。ただ、技の切り返しというのは何千種類、何万種類ってやり方はあるわけですよ。そこにまた、アメ

新日本プロレスのジュニアの第一人者として他団体の選手との対抗戦では常に激しいファイトを繰り広げている金本。現在はZERO1・MAXとの対抗戦で田中将斗や日高郁人と激しいファイトを展開している。他団体の選手への対抗意識と熱い試合を求めることから激しい試合が多かった。

ＴＡＪＩＲＩの発言とは

08年1月発売の『kamipro Special 2008 SPRING』に登場したＴＡＪＩＲＩが「○○○の○○選手」の試合について「もう完全に引いた！　なんじゃこれ!?って。もう試合構築の基本の『き』の字も知らないんですよ」と批判。「いまのプロレスって、とにかく技をどれだけスピーディに繰り出すか、どれだけ当たりが強いか、どれだけ危険かみたいなことを勝負してるという現在のプロレス界の風潮の源流を聞くとやっぱり90年代の新日本プロレスのジュニアになるのかな」と語っている。ただ、もちろんＴＡＪＩＲＩはそこを批判しているわけではない。「もちろん、当時の新日本プロレスは素晴らしかったですけどね」とリスペクトを示している。「やっぱり日本はね、土地柄なのか閉鎖的な社会で、奇形な進化を遂げているような感じがするんですよ」と、その後のプロレスの進化の過程について言及しているのだ。

『kamipro.com』からエンターブレインのショッピングサイト「eb!ストア」へのリンクが貼ってあるので、そこで購入しよう！

リカンスタイル、もしくはメキシカンスタイル的な切り返し方があるわけです。

――そこは個々のルーツの違いというか。

馳　受ける技術の違い、タイミングの取り方、受けてからどう切り返すかの技術、バリエーションはいっぱいあるから。その違いだけであって。だけど……、そういう意味では、新日本でのやり方のほうがまだバリエーションが少なかったと言えるかもしれないですね。

――確かに新日本の選手のスタイルというのは画一的な印象があります。

馳　でも、「アメリカンスタイル的な切り返しの仕方もあるんだよ」ということは最初に教えちゃダメなんですよ。俺はそう思ったんです。

――それはなぜですか？

馳　まず基本的なマットレスリングっていうのは〝密着〟ですから。その中での微妙な体重移動を覚え、そしてスペースを作って切り返すということが理解できていないと。

――これは昔からよく言われていることですけど、かつての新日本と全日本の違いっていうのは、全日本のプロレスは理詰めで、相手の足を攻めたらとことん足を攻める。だけど新日本のスタイルは、足を攻めてたかと思ったら、いきなり首にいったり腕にいったりするという、それこそ「理にかなってない」という。このへんの違いに関してはプロレス界に入ってから感じたことってありますか？

馳　新日本に行ったときに、新日本の人の試合を見てね、俺も「おかしいな」と思ったよ。

――あ、やっぱり思ったんですか。しかし、そこは前向きな解釈をすればレスラーに対して「試合は選手個人がデザインするんだよ。要は自分のセンス次第だよ」というような余地を与えてると言えるんですかね？

馳　いや、理屈を教えられる人があんまりいなかったんじゃねえのかな（あっさりと）。よく考えたら俺自身も5年間ぐらいしか新日本ではコーチしてないから。でもたった5年間で全部教えきれるものではなくて、自分でこれは教えたほうがいいなと思ってる部分の4分の1ぐらいしか教えていないから。

――要は〝馳プロレスの未完成バージョン〟ってことですね。

馳　そうですね。あの頃の若手たちが中堅になったり、あるいはメインイベンターになったり、東京ドームで大事な試合をするときにどういうふうにしなきゃいけないかっていうところまでは教えてないんですよ。中途半端に、途中で議員になっちゃったもんだから、教えきれてないところがありますけどもね。

――その唯一〝馳プロレスの完成版〟を持っている馳先生が、次に全日本に上がりましたけど。

馳　だから俺自身がそれで全日本に入ったとき、ピタッとハマったんですね。そもそもの考え方を馬場さんに教えてもらってるから、三沢選手や川田選手、小橋選手や秋山、大森なんかと対戦するようになって、ピタッとハマりましたよね。

――よく言われるのは、馳先生と武藤選手は最初から全日本系だったんじゃないかっていう（笑）。

馳　要は俺、考え方がアメリカンスタイルからスタートしてるからね。プロレスのベーシックな部分はこうあるべきだっていうものを、馬場さんからとか、アメリカやカナダに行って教えてもらって日本に帰ってきてるから。

これは教えたほうがいいなと思ってる部分の
4分の1ぐらいしか教えていないから

――ちょっと話は変わりますが、新日本って往々にして個人的な感情を試合に出すっていう場面も多々あったと思うんです。橋本真也選手がその代表みたいな部分がありましたけど、先輩レスラーや会社に対する不満やストレスを試合でぶつけるっていう。個人的にはそういった試合は、セオリーがなくても理にかなってなくても大好きなんですけど（笑）。

馳　それは簡単な話なんだよね。〝デコボコ〟でですね、とんがってる人がいれば、それを受け入れる、そのとんがってる部分を埋める人がいればいいだけの話です。とんがってばっかりだったら試合って壊れちゃうし。けれども、とんがってる人がいないと試合は流れていかないんですよ。でも、あえて言えばね、金本（浩二）はうまかったね。ホントに金本はセンスがよかった。とんがってる部分を常に出しながらも、必ず自分が穴を埋める作業ができる。そういう意味では金本は抜群によかったね。

――〝ひとりデコボコ〟ですか（笑）。

馳　金本はある意味完成されたものを新弟子の頃から持っていた。あれで身長が190センチぐらいあったら、スーパースターになってただろうなっていうぐらいのものを持ってましたね。

――最近では永田選手があまり受けないっていうスタイルで、けっこう下の世代から不評だという話を聞きますけど。

馳　まあ、それは相手が悪いんだろうね。

――相手のセンスですかね。

馳　プロレスラーは常に相手のことを考えてやってかなきゃいけないものだからね。試合相手のスタイルを見ながら、自分をどうアジャストさせていくのかってい

馳浩の波瀾万丈な歩み

専修大学卒業後、アマレス・グレコローマン90キロ級で84年ロサンゼルスオリンピックに出場。2回戦敗退。フリースタイル90キロ級で出場した太田章（現・早稲田大学助教授）は銀メダルを獲得。85年、大学の先輩である長州力率いるジャパンプロレスに入団。

若手時代にはカルガリーで修行を積んで、ミスター・ヒトもそのプロレスセンスを絶賛した。新倉史祐と組んでタッグチーム「ベトコンエクスプレス」として大暴れした。日本デビュー戦で新日本プロレスで小林邦昭のIWGPジュニアヘビー級王座に挑戦して奪取。

長髪&ヒゲというおよそ若手らしくないインチキ臭い風貌だった馳だが、実績も実力も同世代の闘魂三銃士とは違う独自路線を歩んでいた。〝インドの狂虎〟タイガー・ジェット・シンとの抗争ではアントニオ猪木vsマサ斎藤以来の巌流島決戦を行なった。

バック・トゥ・レスリング
90年代新日本プロレスとは何か？

う。だから「考えてやれよ」と。

——新日本の歴史っていうのは、旧UWFが戻ってきたり、Uインターと対抗戦をやったりした過去があるじゃないですか。あのあたりの一連の闘いが繰り広げられた中で、さっきおっしゃった〝デコボコ〟が〝デコデコ〟になっちゃったというか、またちょっとフォーマットが変わっちゃったのかなって思うんですけど。

マイティ井上といえば最近のファンにとってはノアのレフェリー＆解説者というイメージしかないが、国際プロレス時代からいぶし銀のテクニシャンとして知られている。

馳　ああ。あれで若手が混乱したのかもしれないんだけども、俺から言わせればね、高田（延彦）選手や山崎（一夫）選手は、プロレスが抜群にうまかったな。いまで言えば鈴木みのるも抜群にうまい。ホンットに彼らはうまいですよ、プロレスが。そこをやっぱりね、若い当時はどうしても自己顕示欲が強かったり、負けん気が強かったりするから、なかなか若い者同士はうまくできないかもしれないんですけどね。

——ドン荒川さんのような、陰で焚きつける悪い先輩もいましたし（笑）。

馳　なぜ高田選手と越中（詩郎）さんが合ったかっていうと、それは越中さんよりも高田選手のほうがうまかったよね、プロレスは。越中さんは実際には馬場さんの影響も強かったからか、すべて相手を受け止めるというような部分があったんですよ。だからへんに試合のうまい高田選手と、馬場さん的な常に相手をなんでも受け止めると越中さんがピタリと合った。あのとき、新日本の中でそういう馬場さんの教えを理解して試合ができるのは越中さんぐらいしかいなかったからね。まあ、そういう意味で言えば、お互いキャラが立ったから、それでよかったんですよね。基本的にプロレスラーは相手を理解すること、相手がどう来てそれをどうするかっていうことを試合の中で瞬間的に

俺から言わせればね、高田選手や山崎選手はプロレスが抜群にうまかったな

考えられる選手じゃないと、お客さんに一定のレベル以上のものを提供できないんじゃないかなと思いますね。

——要するに、馬鹿じゃプロレスはできない。

馳　どうなんですかね？　そこまでは言いたくないですね（笑）。でも、一つ言えることは、プロレスのことを好きじゃないとね。「プロレスの哲学とは何か？」っていったら、「相手を受け止める」っていうこと。相手がこう来たらこう行くっていうことを常に考えていられる選手じゃないといけない。試合に間が空いちゃうと、お客さんの緊張感が途切れちゃうからね。『ハッスル』なんかでもそうですけども、ちょっと笑いが起きるような場面があったときでも、緊張感は途切れちゃいけないよね。

——馳先生は『ハッスル』もご覧になってるんですか？

馳　観たことはないけど。

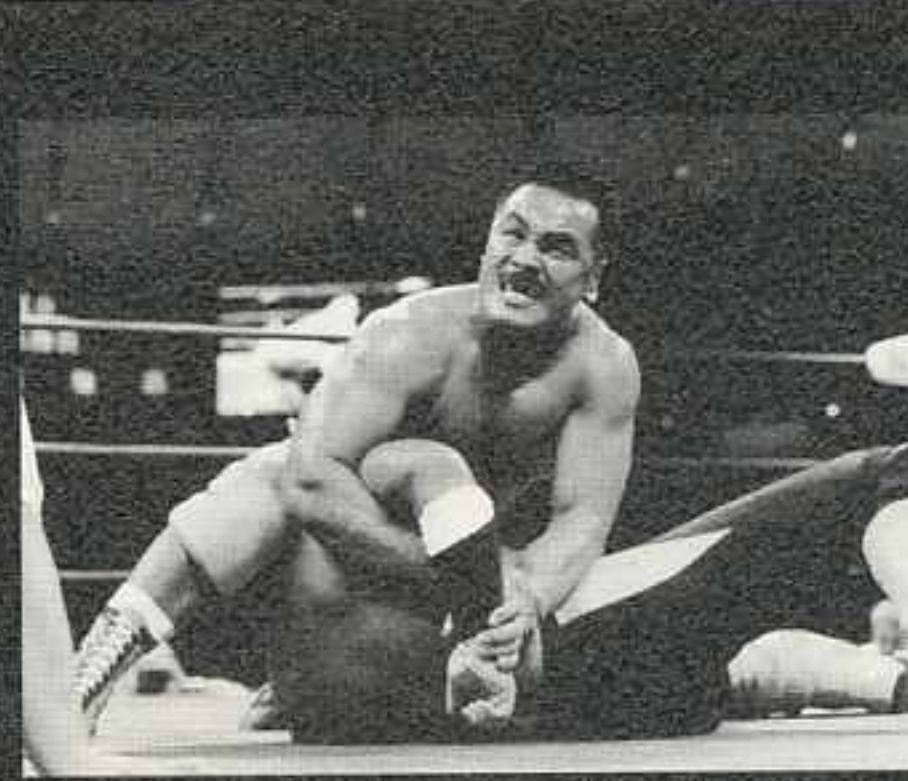
——アハハハハ！　観なくてもわかりますか（笑）。

馳　なんとなくわかりますよ。あうんの呼吸の中にですね、そういった緩みがあってもいいと思うんですけど、やっぱり試合全体のストーリーが途切れちゃダメですね。

——ちゃんと流れのある試合ですね。

馳　だから、俺が新弟子時代に大好きだった寺西勇さんやマイティ井上さんの試合はストーリーが途切れないんだよね。あるいはデーブ・フィンレーやマレンコ兄弟もそう。試合がブツ切りにならないんですよ。それでも、ときどき「しょっぱい試合してるなあ」と思うと、だいたい相手がわかってない選手。若手、中堅、ベテラン関係なしに相手のことをちゃんと理

PWFはハワイに本拠地を置く全日本プロレスのタイトルを認定する団体で長くロード・ブレアースが会長を務めていた。世界最強タッグ決定リーグ戦や三冠ヘビー級戦のときにはよく来日していた。二代目会長はスタン・ハンセン。07年8月の両国大会からは馳が三代目の会長に就任。

05年9月の衆銀選挙の選挙演説でプロレスラーの引退を表明した馳。正式な引退試合は06年8月27日の全日本プロレス・両国国技館大会で行なった。馳が所属する清和会のボス・森喜朗元首相がリングサイドで観戦中に場外乱闘でbrother "YASSHI" と一触即発になった。

デビュー前にジャイアント馬場の教えを受けていた馳にとって、むしろ"故郷"と呼べるのは全日本プロレスのほうだったのかもしれない。ちなみに、アントニオ猪木は馳について「俺は触ってねえですから」とバツグンな発言を残している。さすが！

95年の参議院選挙で石川県から出馬。自民党の推薦を受けて立候補。ちなみに、このときの選挙でスポーツ平和党・アントニオ猪木とさわやか新党・高田延彦は落選。96年11月に全日本プロレスに移籍した。00年に衆議院選挙で当選。現在は衆議院で当選3期目。

バック・トゥ・レスリング
90年代新日本プロレスとは何か？

解し、尊重して試合をしてないワガママなヤツ。「やりづらいだろうなあ」っていうのはありましたね。

――新弟子時代から寺西さんとかマイティ井上さんの試合にパッとフォーカスが合っちゃうっていうのが、馳さんのセンスですよね。いわゆるテクニシャンに目を奪われる、みたいな。

馳　寺西さんvsマイティ井上さんじゃなくても、寺西さんやマイティ井上さんがタッグマッチの中に一人入ってると、その試合のストーリーがうまく流れていくんですよね。

――いわゆる仕事師じゃないですけど、職人タイプに憧れました？

馳　いや、そこがまずベーシックな部分だなと思ってね。どんな相手とだってマッチメイクをされたら、試合しなきゃいけないんだから。そのときどうやって試合を成立させるかっていうこと、どうやってお客さんに対してプロレスのおもしろさを伝えていくかっていうことを考えたときに、自分の成すべきポジショニングっていうのは自ずと出てくるんですよ。それが瞬間的に出てこなきゃダメだし、試合しながら出てこなきゃダメだし。で、お客さんの反応を引っぱっていかなきゃいけないし。客の野次に乗せられて試合をするプロレスラーになっちゃダメですよね。逆に客に野次を出させるような、あるいはどよめきとか感嘆の声を上げさせるような試合にしなきゃダメじゃないですか。

――やっぱり馳先生は生来の教師型っていうか、ものごとを掘り下げるタイプなんですかね。ところで馳先生は、ハイスパート・レスリングっていうスタイルに関してはどう思われます？

馳　あれはあれでいいんじゃないかな。あれもプロレスのフォーマットの一つだということですよ。

――そもそもハイスパート・レスリングは、長州さんたちが維新軍時代に発明したものなんですかね？

馳　いや、もともとのプロレスのフォーマットの一つですよ。それを強調したことが問題であってね。まあ、あれも一つの時代性だからね。

――しばしばプロレスの悪い例として揶揄されるのが、ハイスパート・レスリングっていうスタイルと、ラリアットプロレスというとにかくラリアットをガンガン打ち合うみたいなスタイル。いずれも馳先生からすれば、フォーマットの一つとして肯定をされますか？

馳　だってそれは人によって体型とか筋力、体格とかが違うんだからさ。だから、たとえばラリアットが得意な選手を相手に試合するときの組み立て方っていうものを自分でも考えて試合しなきゃいけないですよ。

――だから、ハイスパートにはハイスパート、ラリアットにはラリアットで試合を組み立てるスタイルが〝奇形〟なんですよね。ここまでお話をうかがってきて、馳先生自身は受けを大事にしていること、そして新日本では不完全な教えしかできなかったという話がよく理解できました。

馳　相手に合わせること、それが自分のペースだっていうのがまず俺の基本的なスタイルですよね。基本的に相手を活かしてやろうという姿勢、これはそもそも馬場さんやアメリカンスタイルの姿勢なんですね。そのへんが理解できないとダメですよね。

猪木さんはやっぱり瞬間的にその場の空気をつかめるところが得意分野

――ボクはプロレス未開の地であるロシアや北朝鮮でやる猪木さんのアメリカンスタイルの試合が大好きなんですね。あそこの局面ではおそらく馬場さんがやっても同じ試合展開になるんじゃないかなっていう。

馳　あれは猪木さん流、馬場さん流というより力道山流だよね。プロレスとはそもそも何かっていうと、その表現方法は馬場さんと猪木さんは違うかもしれないけど、俺から見たらやっぱり根っこは同じですよ。

――力道山スタイルですか。力道山もアメリカンスタイルですよね。

馳　基本的に猪木さんってそんなに器用じゃないんですよね。意外と馬場さんのほうが器用ですよね。けっして器用ではない猪木さんだけども、猪木さんの得意分野はあるんです。そういったものを試合の中で出してるだけであって。

――猪木さんの得意分野っていうのは具体的にどういう部分ですか？　力道山と猪木さんは怒りの感情を表現することに非常に長けてたと思うんですけど。

馳　やっぱり瞬間的にその場の空気をつかめるところが得意分野。それに尽きますね。やっぱり猪木さんって一日中プロレスラーなんだなと思うのは、試合会場の空気とか、そのイベントの空気とかを瞬間で察知してるんですね。「いま自分は何を出さなきゃいけないんだろう？」っていうことを考えなくてもスッと出せるところが天才ですね。

――ところで馳先生のベストバウト、「これは満足したものが作れた」っていう試合はなんですか？

馳　いま思うと、大阪府立体育会館で橋本選手と29分ぐらいやった試合。IWGPのタイトルマッチで負けちゃったけど。俺、あの一試合しかタイトルマッチやってねえんだよ。

――えっ、そうでしたっけ？

馳　IWGPのシングルはね。あれが自分ではベストだね。

――そのベストの基準はなんですか？

馳　俺はファンの目線でプロレスやってるからさ、いちプロレスファンとしてベストの試合だね。自分としてはあの時点で出しうる肉体的な部分、技術的な部分、気持ち的な部分をね、あの試合では橋本選手に引き出してもらったし、逆に橋本選手のいいところも引き出せたと思ってるね。……ヨシ、今日は終わり！　時間がないから、あとは自分で考えといて（と言って立ち上がる）。

――あっ、こういうノリで、新日本のコーチも途中で辞めたんでしょうね（笑）。

馳　（無視して）今日はありがとうございました！

【08年4月9日／千代田区・衆議院議員会館にて収録】

はせ・ひろし■61年5月5日、富山県出身。ゴジラ松井を輩出した星陵高校出身。専修大学で教員免許を取得。母校で古典の教師を務めた。ジャパンプロレス、新日本プロレスを経て全日本プロレスで引退。武藤敬司が全日本プロレスに移籍した際の黒幕とも言われている。現在は自由民主党の衆議院議員として公務に大忙しの日々を送る。妻はタレントの高見恭子さん。

バック・トゥ・
レスリング
プロ意識とは
何か？

いまのままだとプロレスが
違うものになっていく気がする

日本で最も"仕事"のできる
タッグチーム

邪道外道

インディーの底辺からスタートし、業界最大の新日本プロレスで
確固たるポジションを築いた邪道外道。
いかにして二人は日本を代表するタッグチームにまで登りつめたのか？
生き残るために数々の修羅場をくぐり抜けてきた邪道外道のプロレス観とは？
邪道外道がなぜ日本で最も仕事ができるタッグなのか？
その哲学を語ってもらった。

聞き手／鈴木 佑　試合写真／平工幸雄

マット界の不況が叫ばれるのと反比例するかたちで団体・レスラーは増え続け、まさに玉石混淆状態のプロレス業界。クーリーSZ（邪道）、ブルドッグKT（外道）としてファイトしていたユニバーサル時代、ファイヤーデスマッチをはじめとして傍若無人のかぎりを尽くしたW★ING、そしてWARでの冬木軍結成を経てメジャー新日本に殴りこみをかけた叩き上げの二人は、この現状をどのように考えているのだろうか？　流浪のプロレス人生を歩んできた邪外だからこそ語れる仕事に関するプライドとは？

リングネームとは裏腹にそのレスリングスタイルは基本を決して外さない〝王道〟を貫き、自分の仕事を忠実にまっとうする希代のヒールタッグは、日本プロレス界にどのような危機感を持っているのだろうか？　二人が語るプロ意識とは何か？

――今回は『バック・トゥ・レスリング』という企画で、伝説のTPG（たけしプロレス軍団）からキャリアをスタートして新日本プロレスまでたどり着いたお二人に、その成り上がり人生で身につけたプロレス哲学をお聞きしたいと思います。

邪道　なんかややこしそうな話だな。（本誌の秋山成勲の記事を見ながら）あ、「秋山見学者」だ。

――ダハハハハ！　そんなレアな「たけし軍団」の元軍団員の名前が出てくるとはさすがTPG出身（笑）。お二人は格闘技もご覧になるんですか？

邪道　観ないね、『kamipro』も全然見てないよ。プロレスも扱ってんの？

――総合格闘技よりは少ないですね。お二人は上がるリングを選ぶうえでこだわりみたいなものはありましたか？

邪道　そんなのないよ、〝仕事〟だから。ただそれだけ（キッパリ）。

外道　こだわりなんかなんにもねえな。趣味じゃねえんだし。

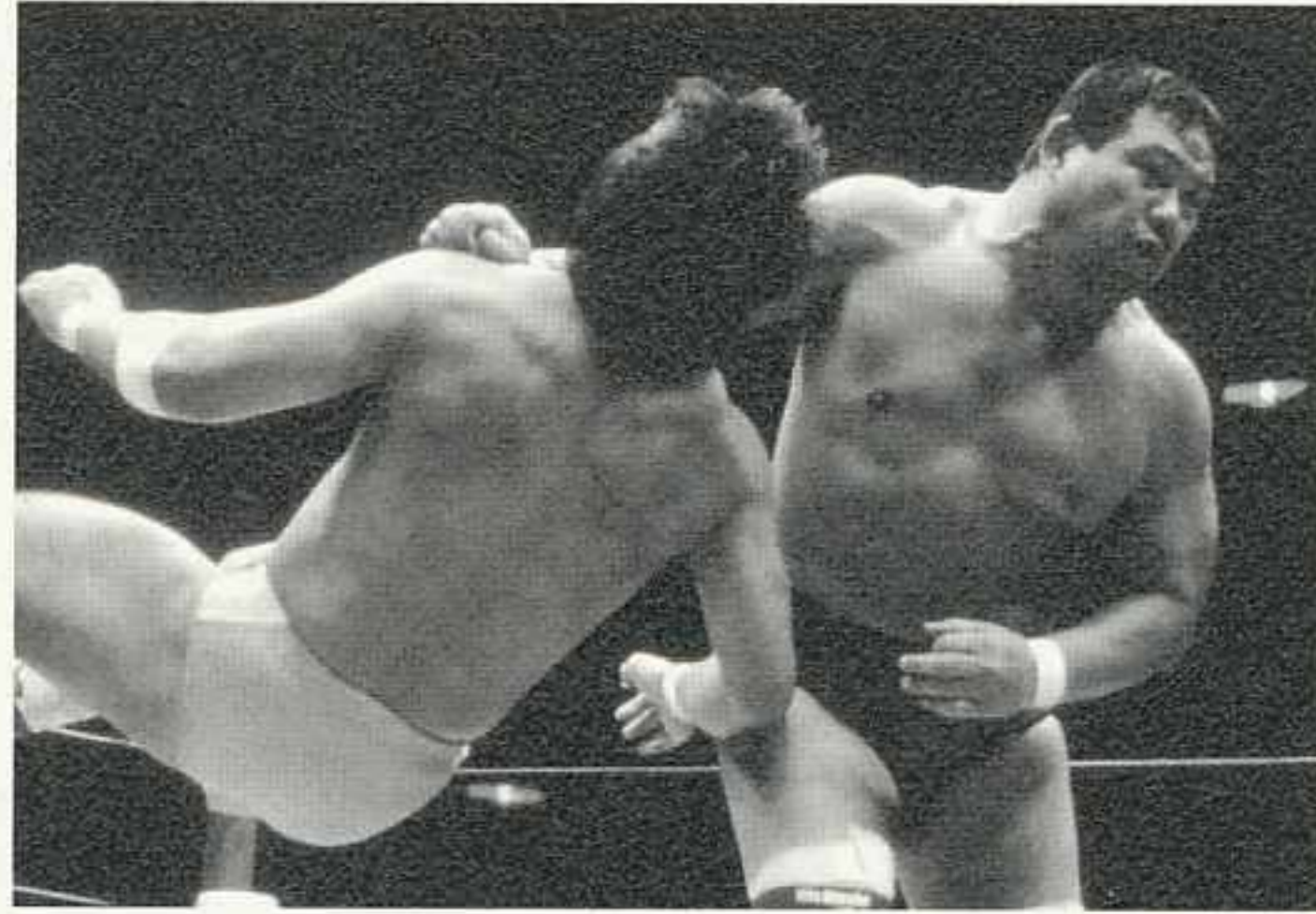
――なるほど、あくまでも仕事だ、と。お二人が一番いろんなことを吸収した団体というとどこでしょうか？

外道　それはやっぱりWARだな。

――故・冬木弘道さん率いる冬木軍で活躍されてた頃ですね。

外道　もちろん冬木さんから多くのことを学んだけど、ほかにも（阿修羅）原さんや石川（敬士）さん、（ザ・グレート・）カブキさんに天龍（源一郎）さん……。本当のプロレスラーがいたよ、あそこには。

――錚々たる面々ですね。その時期にお二人のプロレス観が構築されたと？

邪道　そうだな。それまではずっとインディーでやってきたけど、WARに出てからは名前のある選手と対戦したりいろんなコネクションもできたしな。クリス・ジェリコとも出会ったし。

天龍源一郎とのコンビ“龍原砲”があまりにも有名な阿修羅・原。妥協のない痛みの伝わるプロレスで人気を博し、1994年にWARで引退。ちなみに原も所属した天龍同盟には邪外のボスである冬木（当時のリングネームはサムソン冬木）も所属していた。

冬木さんや原さんは、フライパンの上で跳ねる油みたいな試合をするいまのレスラーとは違ったよ（外道）

外道　冬木さんや原さんたちは、フライパンの上で跳ねる油みたいな試合をするいまのレスラーとは違ったよ。オレらはインディーのレスラーをイヤっていうほど見てきたからそれがよくわかった。

――具体的にどういったところにそれを感じましたか？

外道　やっぱりプロとしての基本が違うんだよ。それは技術だったりサイコロジーだったりな。

邪道　たとえば原さんの〝受け〟の凄みとかね。リング上だけじゃなくリング外のこともいろいろ学んだし。素人からナメられないためにレスラーとしてどうあるべきかとかさ。

外道　試合に関して言えば、あの人たちは自分のスタイル以外の無駄な動きは一切しないんだよ。それを何年もやってるのに客を飽きさせない。ただ大技をやみくもに出すのとは違う、じっくりと構えた渋めのプロレスを学ばせてもらったよ。やっぱりそのへんがサイコロジーってやつなんだろうな。

邪道　デビュー直後はメキシカンとかプエルトリカンとばっかやってたから。本当の日本人の大物レスラーとは、WARに上がるまでは試合することはなかったしな。

外道　それまでは有刺鉄線バットを持って試合してたから。

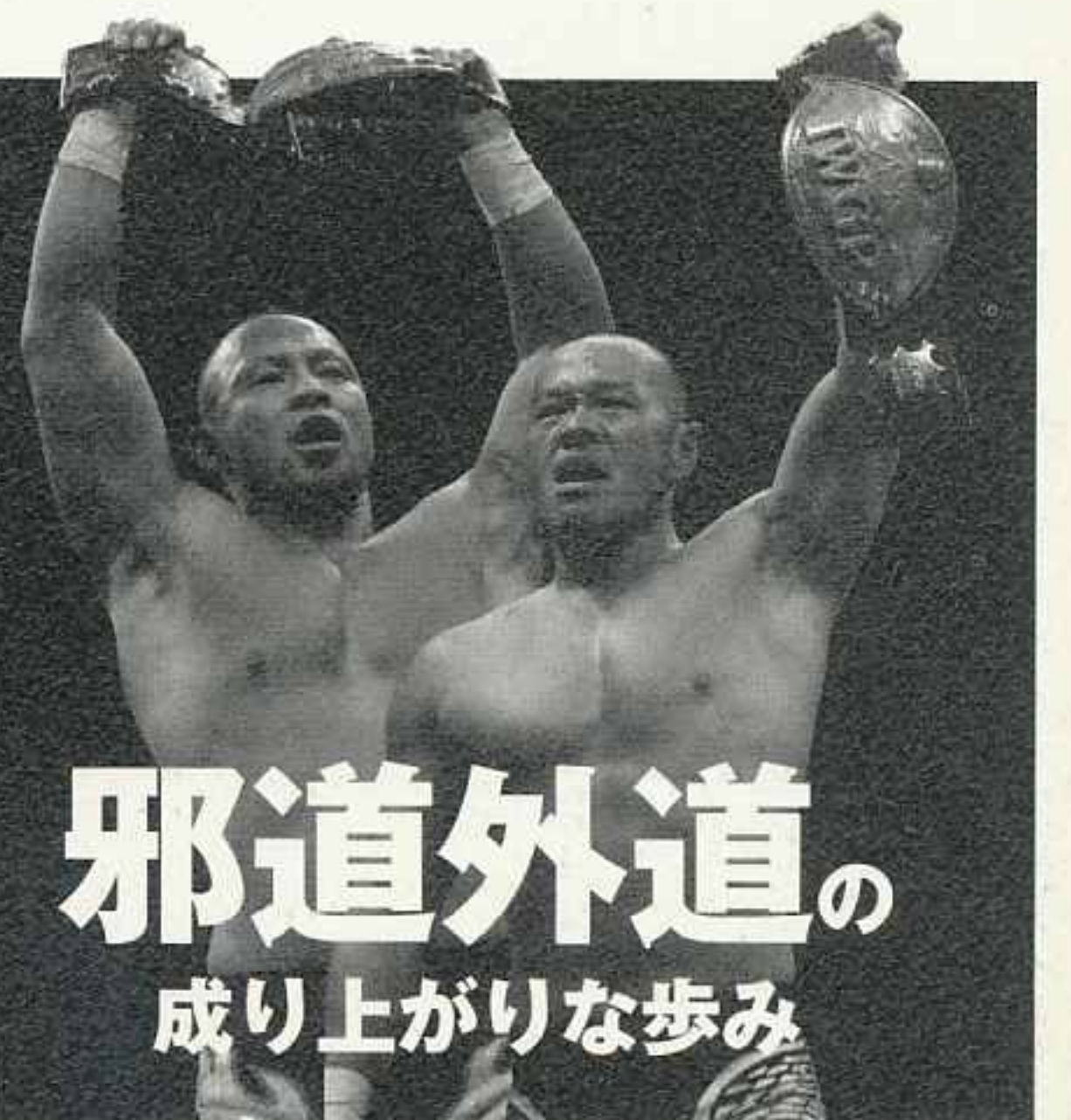
邪道　セクハラ大王を燃やしたりな。あのまま死んじゃえばよかったのに（笑）。

外道　ハハハハハ！　あのままチャーシューになればよかったんだよ（笑）。

――W★INGでデスマッチをやってたときも、プロレスのベーシックな技術とかは意識されてました？

外道　あのときはケビン・サリバンが来

邪道外道の成り上がりな歩み

92年11月にユニバを離脱した二人は、海外転戦後にW★INGにフリーとして参戦。93年のスクランブル・ファイヤーデスマッチでは邪道が金村キンタローを炎の海の中にパワーボム！　この荒技で金村は大火傷を負って長期欠場。この試合はいまでもマニアのあいだで語りぐさとなっている。

TPGでキャリアをスタートさせた二人は、国内で上がるリングもなくオランダでデビュー。その後、ユニバーサルの旗揚げに参加。じつはこの時期に二人は一時タッグを解消、外道がバッド・タナカ＆ビジャノ3号と「バッドカンパニー」を結成し敵対したことも。

てたんだよ。あの人が試合を観てて、終わってからいろいろアドバイスをくれたよ。

邪道　頑固なオッサンだったけどな。

――なるほど。すぐそばにプロレスのなんたるかを教えてくれる人がいた、と。

外道　TPGのときは（アポロ）菅原さん、FMWだと大仁田（厚）さん、ユニバーサルでは（グラン）浜田さんとか。

――行く先々で勉強だったわけですね。

邪道　いろんな団体を渡り歩いたからこそ、いろんな人たちから吸収できたんだよ。だからあらゆるスタイルに対応する自信もあるし。

――お二人が生き残ってきた秘訣は？

外道　オレらは自分を商品としてアピールするために、ずっと〝空き家〟を探し続けてきてんだよ。言ってみりゃ隙間産業みたいなもんでさ。

――お二人の一番の売りはタッグ屋を貫き通してることだと思います。

邪道　もう結成して18年か。日本でオレらほど長いチームもないんじゃない？

――ちょっと思い当たらないですね。何か手本としたタッグチームはありました？

外道　ミッドナイト・エキスプレス（即答）。

――おお、渋い！ 80年代にNWAで活躍したボビー・イートンとデニス・コンドリーのチームですね。

邪道　ミッドナイトの試合運びは飽きがこないんだよ。オレらはアメプロを語らせたらいくらでも出てくるよ。

バック・トゥ・レスリング
プロ意識とは何か？

――なるほど。ほかに具体的なタッグはありますか？

邪道　……極悪コンビとかさ、全日の。

――えーと、おそらくそれは〝極悪コンビ〟ではなく〝極道コンビ〟（大熊元司＆グレート小鹿）のことですかね？（笑）。

外道　しかもアメプロじゃねぇだろ、コテコテの日本人だよ（笑）。

邪道　うるせぇな、極悪同盟と混ざったんだよ（笑）。

――女子プロも混ざってますね（笑）。アメリカのほうが日本よりタッグチームっていう文化が根づいてそうですね。

邪道　（ロード・）ウォリアーズ、ラシアンズにロッカーズ。日本にはタッグの専門屋が少なかったってのは確かにあるな。

――どこかでタッグ屋としてやっていこうというきっかけはあったんですか？

邪道　いや、べつに（アッサリ）。申し合わせたわけじゃないからね。

外道　自然のなりゆきだよ。それこそ食っていくための。まぁ、バランスがよかったんだろうな。

――長く続いてる理由は相性の良さなんでしょうね。

邪道　そうだな、プロレス観が合ったんだよ。

――ヒールを貫いてきたのもお二人のセールスポイントだと思うんですが。

外道　ヒール……、すべてはそこにつながるんだよ。

――生き抜くためにヒールを選んだ、と。

外道　日本のマット界に本当の意味でのヒールなんてのはいないんだよ。

邪道　違いない。

外道　（アブドーラ・ザ・）ブッチャー、（ザ・）シーク、（タイガー・ジェット・）シン以来、ヒールは出てきてないな。あ、一人いたわ、安田忠夫（笑）。

――それはまた違うベクトルのヒールですね（笑）。

外道　安田はともかく、観客の憎悪を一心に集めてヒートアップさせるヒールっていうのはいまはいないよ。

ヒールを貫くっていうのは難しいことだよ。それこそ究極のサイコロジーだ（邪道）

邪道　シークは凄かったな（シミジミと）。ヒールを貫くっていうのは難しいことだよ。それこそ究極のサイコロジーだ。

――ヒールとして何か信念みたいなものはありますか？

外道　やっぱいい人間になっちゃダメだ。

――普通はやりたがらない憎まれ役のヒールをやるレスラーほどいい人が多いなんて通説もありますが？

邪道・外道　そんなことはない（異口同音に）。

――え、そういうもんなんですか？

外道　いいヤツにヒールはできねえよ。

邪道　根っからのワルじゃないとダメ！

外道　たとえば小橋（建太）選手にはできないと思うよ。ウチなら井上亘とかな。

――何度かヒールターンしてる天山（広吉）選手も私生活ではいい人だなんて聞きますけど。

外道　だからヒールでブレイクしねえんだろ（笑）。そういうことだよ。

――お二人はリングネームが何よりのヒール志向を表わしてますよね。

外道　この仕事を始めたときから好んでヒールをやってるからね。

邪道　誰かが「試合をドライブにたとえたらヒールが運転手でベビーフェイスが同乗者」って言ってたけど、オレらの試合を観てもらえばわかるんじゃない？

――そういえば邪道選手は「ブレーキの壊れたファミリア」って異名もありましたね（笑）。お二人がほかにこだわっていることといえば……？

外道　肉体改造だな。やっぱりそれはア

94年からWARに参戦した二人は"理不尽大王"冬木弘道と冬木軍を結成、初代WAR世界6人タッグ王者に君臨するなど同団体を席巻する。ちなみに冬木軍はクリス・ジェリコ（ライオン道）やビッグ・タイトン（ビッグ・タイ道）なども加わる国際色豊かなユニットだった。

96年にWARを離脱した二人は冬木と行動をともにしてFMWに参戦、ミスター雁之助や金村らとTNR（チーム・ノー・リスペクト）を結成する。その後、「ブリーフブラザーズ」として、ブリーフ姿でリングに上がりコントも披露するなどエンタメ方面でも開眼！

全日本の開国路線に乗って邪外も王道マットに参戦！ 98年10月の武道館大会ではG・馬場と6人タッグで遭遇。外道は戦前に「急所蹴りを狙う」を宣言するも足が股間に届かず……。ちなみに邪外はこのときのパートナーである金丸（山梨県出身）を「甲州街道」と命名する。

01年からはいよいよ新日マット上陸！ 同年には『東スポ』制定プロレス大賞の年間最優秀タッグも受賞。新日マットではTEAM2000、C・T・U、G・B・Hなど数々のヒールユニットに参加していぶし銀の実力を発揮。IWGP Jr.タッグにも4度君臨するなど、いまや新日本Jr.戦線に欠かせない存在となっている。

メリカのレスラーの影響が大きいな。

――よくプロレスはある程度の脂肪がないと受け身ができないとか言われてましたよね。受け身の達人である外道選手を前にこんなこと言うのもなんですが（笑）。

邪道　そんなの言い訳でしかないよ。日本のプロレスは相撲社会から影響を受けてるから、その悪しき流れだろうな。

外道　やっぱりフィットネスの知識にしろみんなアメリカからくるんだよ。日本人はそういう意識面で遅れてるよな。カール・ゴッチが言ってたろ、「レスラーは自分の身体を自由にあやつれるようになれ」って。やっぱり自分の身体をあやつれない人間は相手のこともあやつれないよ。

――いかに自己管理が大切と。

外道　WCWに出たときに、クリス・ベノワやディーン・マレンコが徹底的に食事にこだわってるのを見たら、ロクにそういうことも考えてなかった自分が恥ずかしくてしょうがなかったよ。

――プロ意識とはいえそうやって節制を続けるのも大変なことですよね。

邪道　これがオレらの仕事。リング上のものはすべて四方の観客から観られる商品なんだから。自分のウリを考えないと。

外道　（語気を強めながら）いいか、オレらはインディーから出発してずっとスレスレのところを生きてきたわけだ。生き残るためには他人と違うことをしなきゃいけない。自分の生きてきたこれまでの道のりやこれから目指すもの、プロレスとはこうあるべきだっていう信念も含めてずっと必死にやってきた。必死って言葉で片づけられるのも嫌なくらいに。落ちるか落ちないかの瀬戸際をずーっと綱渡りしてきて、ようやく落ち着いてきたのは最近だよ。先のことなんかわからない、気を抜くヒマもねえよ。どこの業界も一緒だと思うけど仕事で生き残るってのは大変なことなんだ。そこでどれだけいろんなものを犠牲にして……

邪道　（さえぎって）おい、若者に説教してるジジイじゃねえんだからよ（笑）。長ぇよ、話が！

――い、いえ、プロとしていかに真剣に取り組んでいるか伝わりました！

邪道　兄弟の話を訳すと、プロレスをやるうえでいろんな代償を払ってるってことだよ。

――だからこそここまで成り上がったと。

外道　いまインディーはたくさんあるよな。オレらの頃に比べればレスラーになるのは簡単だけど、それで生計をたてていこうと思ったらこれは大変なことだよ。

――確かにレスラーの数は増えましたが、それだけで食べてる選手がどれだけいるかとなるとあやしいですね。

外道　真剣にやっていく気があるならもっとどうやったら売れるのか考えなきゃ。それをオレらは考えに考え抜いた。これで190センチあれば話は簡単だよ、でもオレらは身体がデカくないんだから。

――ハンデがあったからこそいろいろ考え抜いてきた、と。

外道　肉体的なものだけじゃなく技術的なものもそうだし。リング外の交渉事とかにだって頭を使うし。

邪道　WWEで言うなら『RAW』に出てる連中なんて凄いよくやってると思うよ。

――それこそ自分の命を犠牲にして。

邪道　俺たちだって命を縮めてるようなもんだからな。

外道　本当にそうだよ。プロレスはそのくらいの仕事だって。受け身を取り損ねてケガすりゃ終わりなんだし。

プロレスをやるうえでオレらはいろんな代償を払ってるんだ（邪道）

邪道　何がどうなるかわからないよ、一寸先は闇だから。将来の保証もないし。

外道　長生きしようと思ってできる仕事じゃないんだよ、寿命削ってやる仕事。そのわりには実入りは少ないけどな（笑）。

――そこまでの覚悟、プロ意識がないとやっていけない、と。プロ意識でいうと、お二人はFMWでブリーフブラザーズをやったり、レッスルランドでもスキットに登場したりと試合以外でも芸達者なところを見せてましたが、いわゆるエンタメ的なプロレスはどう思いますか？

邪道　エンタメ的なもんはやってもいいんだけどさ、リングの中はちゃんとしたことをやらないと。WWEはそれが成り立ってるだろ、反則はレフェリーが目を離してるスキにやるとかね。日本もちゃんと徹底してほしいよね。

――たとえば『ハッスル』はどう思いますか？

邪道　観たことないんだよ、ハッスルは。

外道　うーん……、そのあたりはあんまりしゃべりたくないな。

――お二人の中でエンタメ的なものを否定される気はないんですよね？

外道　エンタメとかそういう言葉自体がオレは好きじゃない。プロレスじゃないって言ってんだろ、ハッスルは？

――そうは言ってないですが、ファイティング・オペラっていう別の呼び方を使ったりしてますね。

外道　そうなるとオレらの中では違うものになるんだよ。

邪道　プロレスって言葉を使わないんであればな。

――たとえばハッスルにはお二人と同じくインディーからメジャーにまで到達したTAJIRI選手が参戦してますが。

邪道　オレはいいレスラーだと思うよ。

――TAJIRI選手もお二人のことを「本当のプロレスをやってる」って評価されてました。

その狂人キャラで恐れられた“アラビアの怪人”ザ・シーク。77年の世界オープンタッグ選手権ではアブドーラ・ザ・ブッチャーと凶悪コンビを結成、ザ・ファンクスを凶器攻撃で大流血戦に追い込み日本のファンを震撼させた。03年1月18日死去（享年78）。

バック・トゥ・レスリング
プロ意識とは何か?

邪道 本物は本物を知るんだよ(笑)。TAJIRIはメキシコで苦労してるしね。オレたちがECW行ったときも向こうで頑張ってたし。試合は抜群に巧いよ。
――ほかに評価する日本人レスラーは?
外道 オレが最高だなって思うのはディック東郷。
――ユニバ時代の後輩で、一時期はファーイーストコネクションとして、みちのくプロレスで一緒に行動してましたね。
邪道 あと、ヒロ斉藤さんも凄いと思う。
――ヒロ選手もよくレスラーから巧いって評価される選手ですよね。
邪道 東郷は試合を観てるだけで勉強になる。凄いな、こういうときにこう動くんだなって。動きが理詰めで無駄がない。
――東郷選手はレスリングスクールもやってましたが、お二人は?
外道 いまは考えてないな。やるとしても引退してからだな。
――教えることには問題はないと?
外道 オレらに教えてほしいヤツがいればね。オレらも古い人たちに教えてもらったものは残していきたいよ。まがりなりにも18年かけて築いてきたものがあるし。やっぱりいまプロレスは変わりすぎちゃってるからな、オレらが習ったものと。
――何が一番違うんですかね?
外道 これは言葉では表わしにくい感覚的なものなんだよ。
邪道 あえて言うなら全部だよ。練習方法からたたずまいからタイミングから。
――たとえばドラゴンゲートに代表される、アクロバチックな試合展開で人気を博している団体をどう思います?
外道 べつに苦言を呈す気はないけど、やっぱりオレらが習ってきたものとは違うなって思うところはある。このままだとプロレスが違うものになっちゃうなっていうおっかない気持ちもあるし。
邪道 あれはあれでオレらは評価してんだよ。だけど、あれはオレらのレスリングじゃない。
外道 メキシコがルーツだからベースがちょっと違うのかもしれないけどな。あいう団体の選手も昔からあるベーシックなレスリングを習ったらもっとよくなるんじゃないかな。だからそういうのを残していかないとって思うな。
――基本的な技術・サイコロジーがいまはおろそかになってきてるんですかね。
邪道 本当にそういうものを残していかないと、プロレスじゃなくなっちゃうよ。基本的なものがプロレスであって、進化したとされるプロレスはプロレスじゃないよ。違う競技になっちゃってるんだよ。
――お二人はいまのプロレスに対して危機感を持ってるみたいですね。

ヘッドロックとか巻き投げもロクにできないヤツがムーンサルトできたって本末転倒だよ(外道)

外道 ヘッドロックとか巻き投げもロクにできないやつがムーンサルトできたって本末転倒だよ。一つ言えるのは運動神経のいい悪いと、プロレスのセンスはまったくの別モンてこと。
――なるほど。いまこそプロレスも原点回帰が必要なんですかね。
外道 こういう基本は本当はレスラーを名乗る全員が知らなきゃいけないんだ。
邪道 たとえば腕の取り方一つ知らないで試合して、柔道家がそれを観たら「こんなの簡単だ、俺にもできる」ってなるじゃん? そう思われたらリングに上がる資格はないよ。
――いまはほかのジャンルからプロレスに参戦するケースもありますよね。
邪道 そういうのがまかり通りすぎてるよ、芸能人を上げたりさ。その時点でほかのところも同じプロレスだと思われるし。
――お二人はあくまで基本に忠実にいままで培ってきたものを見せていきたいと。
邪道 それは絶対にこだわりたい。どんな柔道家が観ようがボクサーが観ようが納得できる試合をする自信もあるし。
――それができてないレスラーが増えてきたわけですね。
外道 そういうのを客に見せてるとプロレス自体がダメになるよ、本当に。
邪道 プロレスは「なんだコイツでもできんのかよ」って客に思わせたら終わりだよ。プロレスがナメられないためにもっとレスラーが真剣にプロレスを考えないといけないと思うよ。セクハラなんかやってる場合じゃないんだよ(笑)。
――そうですね(笑)。お二人がいまの地位を築いた理由がよくわかりました。

【4月4日/都内・新日本プロレス道場にて収録】

誰もがその実力を認めるディック東郷。07年には同じユニバ出身のTAKAみちのくと組んで邪外の持つIWGPタッグに挑戦、見事に王座奪取をはたしている。メジャー新日本のリングでユニバ出身者だけでタッグ王座戦が行なわれたのは、いまのところこの一戦のみ。

じゃどう■1968年9月28日生まれ。東京都出身。88年、TPGの入団テストに合格。翌年3月19日、オランダのアムステルダムでモンキーマジック・ワキタを相手にデビュー。その後、FMW、ユニバーサル、WARなどを数々の団体を渡り歩き、2001年から新日本に本格参戦。得意技はクロスフェース・オブ・JADO。178cm、99kg。
げどう■1969年2月20日生まれ。東京都出身。邪道と同じく88年、TPGの入団テストに合格。翌年3月19日、オランダのアムステルダムでモンキーマジック・ワキタを相手にデビュー。その後も邪道とのコンビで各団体を転戦。05年の『ベスト・オブ・ザ・スーパーJr』では準優勝に輝いた。得意技はスーパーフライ、外道クラッチ。172cm、86kg。

バック・トゥ・レスリング 説得力とは何か？

いまの僕が身体の大きい相手に
投げ技を使っても説得力はない

苦悩するハードゲイ
HG

今回の「バック・トゥ・レスリング」特集でトリを飾るのは、
いまや『ハッスル』だけでなく現在の
プロレス界を代表する存在となったHGだ。
お笑い芸人として大ブレイクした05年にデビューして以来、
『ハッスル』では常にエースとして活躍してきたが、
ここにきてHGにはある変化が表われてきている。
プロレス界と芸能界の狭間で揺れるHGの葛藤から、
あらためてプロレスの難しさを浮き彫りにします！

聞き手　坂井ノブ　試合写真／山口比佐夫、平工幸雄
写真提供　ハッスルエンターテインメント

覚悟が重くなっているということは観てる人に伝わらんでええと思います

「『ハッスル』はプロレスじゃない」「芸能人をリングに上げるな」そんな声はいまだに根強く残っている。このインタビューの前のページにあるように邪道・外道も「俺たちのプロレスとは違う」と明確に差別化を要求している。では、現在の『ハッスル』のエースであるHGはプロレス界からの批判とどのように闘っているのだろうか？

芸人でありながら堂々たるデビューをはたした05年、快進撃を続けた06年、天龍源一郎からシングルマッチでフォール勝ちを挙げた07年を経て、現在のHGはどのような心境で『ハッスル』に取り組んでいるのかを聞いてみた。ここでHGが赤裸々に語っているのは、そこらのプロレスラーの若手以上に壮絶な重荷を背負ってしまったお笑い芸人のプロレスラー宣言、そこで生じる苦悩と葛藤である。プロとして要求される〝説得力〟とは何か!?

――今回は「バック・トゥ・レスリング」というテーマでHGさんにお話をうかがいたいんですが、そもそもの話をすると『ハッスル』はプロレスじゃない」と批判されることが多いですよね。

HG　ほう。それで僕のところに？

――芸能人であるHGさんは批判されやすい立場だと思うんですが、率直なところプロレスをどう考えているのかを聞きたいと思います。ただ、HGさんは「『ハッスル』こそがプロレスなんだよ」ということを言いにくい立場だとは思うんです。

HG　ああ……なるほど。

――もともと純粋なプロレスラーではない。芸人として入ってきたという経緯もある。ただ、プロレスラーに対するリスペクトもあるじゃないですか。

HG　はい、もちろん。

――でも、いざプロレス業界から「プロレスじゃないよ」って言われたら、HGさんはどう感じるんですか？

HG　僕は小さい頃からプロレスを観てきて、好きだったんです。でも、最近はプロレスファンがかなり少なくて、それがどんどん減ってるじゃないですか。

――新規開拓は少ないし、卒業していく人も多いですからね。

HG　そういう状況にセイ！　な感じもあって。『ハッスル』を窓口にしてプロレスというものを知り、そこからまた日本のプロレス界、「ほかにプロレスラーはこんな人もおるよ、こんな団体もあるよ」っていうのを知ってもらえたらなっていう気持ちはあります。当然120パーセントのリスペクトもありますからね。それで「プロレスじゃない」と言われちゃうと非常に悲しいですよ。

――で、HGさんは『ハッスル』のリングで川田利明や天龍源一郎という大物プロレスラーとも対戦してるわけじゃないですか。

HG　川田さんとか天龍さんとかのハードなプロレスキャリアっていうのは必要で、ああいう人たちがいるから『ハッスル』に重みが増すんだと思います。

――去年の『ハッスル・エイド』でHGさんが天龍さんからフォールを取ったのは業界的にはかなり衝撃が大きかったと思うんですが。

HG　賛否両論……、というか否がかなり多かったですよね。天龍さんのほんまに素晴らしいプロレスキャリアがあって、いまも凄い地位にいる方ですよ。そんな凄い人が一芸人である僕がデビューしてからの試合をずっと見てきてくれはって、シングルマッチを了解してくれたっていうのは非常に誇りにも感じますし、天龍さんの覚悟も感じましたよね。デビューしたときに、タダでは帰れんなという気持ちもありましたけど、天龍戦で、これはちょっと（言葉を選びながら）……棺桶……棺桶じゃないですね……。

――棺桶は入っちゃまずいですけどね（笑）。引き返せないとこまで来ちゃいましたよね。

HG　中途半端なことはできないな、という覚悟はさらに強まりましたよ。あれから練習量も増えたと思うし。

――あ、勝ってから増えましたか。

HG　そうですね、身体もしっかり作っておかなダメですし。たとえば、いまのRGは芸人ということによってハードルがちょっと下がるじゃないですか。リングに立てば芸人のほうが弱い人間として扱われる。そういう力関係があるから、たぶんRGも活きると思うんですよ。そのギャップがおもしろい。それはレスラー同士が試合をやるのとは違いますよね。よりRGに感情移入しやすいですよね。僕も最初の頃はたぶんそういう位置だったと思うんですよ。だから成立してた部分もあるし、助けられた部分もあるんですけど、それが試合を重ねるにつれて、どんどんその幅が狭まってきて、天龍さんに勝ったことによって、いよいよそういうハンディキャップを利用できない状況になったような気がしますね。

――言い訳ができない状況になってしまった、と。

HG　覚悟もせなあかんし、激しい試合も増えるし。それに耐えうる身体を作っていかないけないなという考え方になってきましたね。

――つまりレスラーとリング上で対等に向き合って闘えるだけの自分になろうと決意したということですか。それもう芸人とは言えないですよね、『ハッスル』のリングにおいては。

HG　そうですねぇ……。

痛みが伝わるプロレスの両巨頭といえばこの二人。全日本プロレス時代にはREVOLUTIONとして行動をともにした。天龍はジャンボ鶴田やスタン・ハンセンと、川田は三沢光晴や小橋健太（現・建太）と激闘を繰り広げた。

――芸人といえない、かといってほかの選手と同じようにプロレスラーを名乗るというわけにもいかないし。
HG はい。だからプロレスもやっている芸人じゃないですよね。芸人レスラー。レスラーというのがあとにくる感じなんですよね。RGはレスラー芸人で、肩書は芸人なんですね。
――なるほど。そういうHGさんの心境の変化だったり、覚悟が重くなってる感じは観てる人も感じてると思うんですよ。ただ、それって凄く伝わりづらいじゃないですか。とくにHGさんはマスクマンだし、ハードゲイだし。
HG いやいや、それは伝わらんでええと思うんですよ。
――あっ、そこは伝えるつもりはないんですか？
HG 伝えるつもりはないですね。最近、僕はシリアスな感じの試合が多いじゃないですか、天龍戦もそうですし、川田さんや大谷さんと試合することが多いんで。僕はキャリアでいうとまだ2年半ぐらいなんで、やっぱりそういう方々と試合すると、ダメージもデカいですし、痛みの伝わる試合になっていくんですよね。僕は全日本の四天王プロレスを観て育ったから、そういう試合ももちろん好きなんですけど、やっぱりWWF（現WWE）時代からアメリカンプロレスのファンでもあるんで。全日本でいえば明るく楽しい部分っていうのも出していきたいなっていうのがあるんですよね。
――なるほど。
HG もちろんWWFにも激しい試合があって、ケガも凄いあって。でもやっぱりカッコいいと思えるし、ヒーローですよね。華もあって。そういうのが理想なんですよ。

リック・フレアーといえばゴージャスな金髪、きらびやかなガウン、優雅なレスリング・スタイル、そして入場曲『ツァラトゥストラはかく語りき』だ。NWA王者として数々の栄光を築いてきたが、今年3月の『レッスルマニア2008』で惜しまれながら引退した。

曲が流れて入場したら凄いことになる そういうのが憧れですね

――WWEもバックステージに回るとケガを抱えてのたうち回ってる人が、表に出るとニッコニコしながらやってるような舞台ですよね。
HG そういうバックステージの部分は見せるべきではないじゃないですか。芸人が必死にネタ合わせしてるところは見せるべきじゃないというのと同じ考え方だと思うんですけど。
――そういう重たいものは表に出すべきではない、と。
HG そうですよね。やっぱり天龍戦の前にアバラを痛めて、痛み止め打ってやったりしたんですけど、それはべつに言ってなかったですし、言うべきじゃないじゃないですか。
――ちなみに、HGさんが観ていたWWFっていうのはいつ頃の時代ですか？
HG レーザーラモンがいてブレット・ハートが抜けるぐらいですかね。一時期WCWに越されちゃうんですよね、nWoブームがあって。でもストーンコールドで盛り返し、みたいな。凄く楽しみでしたね。
――あの頃はいまも語り継がれる名勝負がけっこう多いですよね。
HG そうですね、ショーン・マイケルズとレーザーラモンのラダーマッチとか、ブレッド・ハートの60分アイアンマンマッチとか。いろいろおもしろい試合ありましたね。そういうのに憧れもあって育ってきただけに……、もちろん天龍戦っていうのは凄い自分の中でも覚悟を決めてやってましたし、やったあとのなんとも言えん充実感っていうのを感じてたんですけどね。その一方で、そっちばっかりになっちゃうのもどうかなっていう思いもあるんです。
――シリアス方面に針を振りきるということへの不安というか。
HG そうですね。そうじゃない試合、たとえば次の鬼怒川三人衆との試合では別の面も見せたいですね。
――明るく楽しい試合で、HGさんが主導権を取って進めていけるわけですよね。
HG 主導権を九分九厘奪われて、最後の一瞬で勝つっていう試合もありますけど、主導権を奪い合ってるような感じが見える試合もおもしろいですからね。
HG そういう試合が最近なかったんですよね。
――リング上ではいろんなことが表現できると思うんですけど、HGさんの理想とするスタイルはあるんですか？
HG ショーン・マイケルズしかり、リック・フレアーしかり、レーザーラモンしかり、入場で鳥肌立つような興奮があるじゃないですか。曲が流れてあの人が入ってきたら凄いことになる、みたいな。そういうのが憧れですね。入場でテンション上がっちゃうような選手が好きです。日本の選手だと蝶野（正洋）選手や武藤（敬司）選手もそうですし。
――HGさんも入場にはじっくり時間かけますよね。
HG そこで引き込まれていくような感じというか。『ハッスル』全体においても、邪念を捨てて、ファイティング・オペラというファンタジーの中に入ってもらいたい人ですよね。「プロレスじゃない」とか「ほかのリングでは別キャラでやってるじゃねえか」とかってことは無粋な感じしますよね。まあ、自分のことで言うと「ハードゲイじゃないだろう」とか。

バック・トウ・レスリング
説得力とは何か？

――そこは髙田総統にもツッコまれてましたけど。

HG　そういうイジりとしてはいいんですけど。「インリン様はプライベートでどうの」とかいうことはあるんですけど、そういうことを抜きにして、この世界に引き込めたらいいなっていうのはありますね。それこそ『ハッスル』ならではのファンタジーの部分じゃないですか。

――ただ、やっぱりファンタジーを仕掛ける側にも、それ相応の隙のなさというか完成度が求められると思うんですよ。

HG　どれだけ引き込めるかというのは大事やと思いますね。そういう意味では、まだまだ頑張らなあかんと思いますよ。髙田モンスター軍はうらやましいですね。髙田総統がいて、インリン様がいて、軍団としては非常に魅力的だと思いますよ。ああいう大きな存在感があるから立ち向かっていくハッスル軍っていう絵も成り立ちますし。

――逆にあの存在感に立ち向かっていくにはもの凄いもがき苦しまないといけないわけですよね。で、もがき苦しむ主人公がいまHGさんとボノちゃんですけど、たぶんRGさんは主人公ではない。もちろん輝いてるしもがき苦しんではいるんですけど、脇のほうで輝くタイプなので。

HG　そうなんですよね……。

――ただ、主人公って凄くしんどいじゃないですか。観客の期待も全部背負わないといけないし、上の立場から攻めてくる相手に耐えてはね返していかなきゃいけないし。はね返す様を見せることによってお客さんも感情移入できるし。プロレス界では若手が這い上がっていく姿を描くじゃないですか。たとえば四天王プロレスでいえば川田さんが秋山（準）さんをボコボコにして、それに秋山さんが立ち向かっていくという姿を描いてたわけですけど。

HG　そうですね。

――ハードヒットをあまり推奨してない『ハッスル』において、若手側がやり返すにはどうしたらいいんだろう、って考えてしまいますよね。凄く難しいと思うんですよ。

HG　ああ、確かにそうですね。WWEはそういう日本っぽい世代闘争はないですもんね。どこまでいっても個人対個人ですもんね。

――そうなんですよ。HGさんの場合、ボコボコやられるんだけど、ボコボコにやり返すっていう感じでもないですよね。これって出口を見出すのが凄く難しくないですか？

HG　芸人というのもありますし、まだ身体も細いですし。そういう意味では説得力もないですしね。

――ああ、なるほど。WWEの場合は身体の説得力っていうのは結構大きいですよね。

HG　そうなんです。だから僕が身体の大きい相手に投げ技を使っても説得力はないですし、できるのもおかしいじゃないですか。そこには正直言って、自分の中でも壁を感じてますね。

――でも、そうやってもがき苦しんでる姿をHGさんって絶対に言葉では説明したくないわけですよね。

HG　はい。そういう意味で、僕は身体をもっと大きくしてレスラーになろうとしてるんですけど、まあ、ハードゲイとしても完成形に向かうという意味ではいいのかな、と。

住谷とHGは使い分けてますけど、芸人とプロレスラーという線引きは意識してないですよ

――なるほど。マッチョな身体を手に入れることでキャラとしてもレスラーとしても完成に近づく（笑）。

HG　そういう意味ではハードゲイとしてもまだ完成してなかったということですよ。理想のハードゲイというのを思い浮かべたら、まだ全然なんで。

――ちなみに理想のハードゲイってどんな感じですか？

HG　男子相手にハードな肉体でハードなぶつかり合いをすることに喜びを感じてるという男ですね。

――突き詰めれば突き詰めるほどプロレスラーっぽいですね。

HG　そうですね、意外と共通してたんですよね、ハードゲイという存在が。いまはまだソフトゲイなんですよね。

――ソフトゲイ（笑）。いま、話をじっくり聞いてようやく腑に落ちましたけど、大半の人がHGさんが何をやりたいのか、わからないんだと思うんですよ。なんとなく身体はデカくなってるし「レスラーとして川田を超える」ってHGさんはリング上で挑発してますけど、「それ、本気？」って思ってる人も多かったと思うんですよ。

HG　そうでしょうね。芸人の仕事を辞めてないですからね。でも、まあ、クリス・ジェリコもロックバンドやってるし、AKIRAさんも俳優をやってるじゃないですか。

――まあ、そうですね。「レスラーとして」ということでいうと、先日吉本芸人プロレス『GOKKO』を観させていただいたんですけど、マッスル坂井さんと「3カウント、ギブアップ、大喜利で3ポイント先取」というルールで対戦しましたよね。

HGのハードな歩み

ハードゲイブームの真っ最中である05年7月、『ハッスル』に初めて登場したときの記者会見。いまでは『ハッスル』のリングで観られない人たちばかりなのが時の移ろいを感じさせてくれる。この頃より身体はずっと巨大化してレスラーに近づいている。

05年11月、『ハッスル』初のビッグマッチとなる『ハッスル・マニア2005』を開催。6人タッグマッチで激突したインリン様とHGは単なる芸能人ではなく、また単なるプロレスラーでもない異次元の闘いを繰り広げた。

07年6月、『ハッスル・エイド2007』において天龍源一郎とシングルマッチで激突。大方の予想に反して、HGが"リビング・レジェンド"天龍からフォール勝ちを奪うという快挙を達成。HGにとっては大きな1勝だ。

08年は2～3月でHG&RG vs 川田利明&大谷晋二郎というハードな2連戦が組まれた。HGは「プロレスラーとしてあなたを超える」と川田に宣戦布告。プロレスラーとしての道を激しく追求している。

バック・トゥ・レスリング
説得力とは何か?

HG　試合どうでしたか?

—お笑いファンが多かったから最初はHGさんがベビーフェイスでしたけど、やっていくうちに捻れてく感じがあったじゃないですか。試合で派手なぶつかり合いをやっているときはHGさんに歓声が集まってたんですけど、大喜利が始まった途端にそれが逆転していくっていう。

HG　まあ、僕はあえてスベッたということだけは言っておきます。

—ハハハ！　最後はHGさんがスケッチブックで一撃してフォール勝ちっていう、ホントにコテコテのヒールで。あれはじつにおもしろかったですね、実験的だし、プロレス的だし、お笑いもあるし。

HG　でも意外と僕にブーイングは来なかったですよね。

—プロレスファンがブーイングするのはわかるんですけど、お笑いのお客さんって芸人さんにブーイングするんですか?

HG　しないですね(笑)。僕らはプロレス的な感覚でそのへんは作ってましたけど。

—試合前には「芸人として勝負します」みたいなことを会見で言ってましたけど、HGさんの中でそういうのは使い分けたりはしてるんですか?

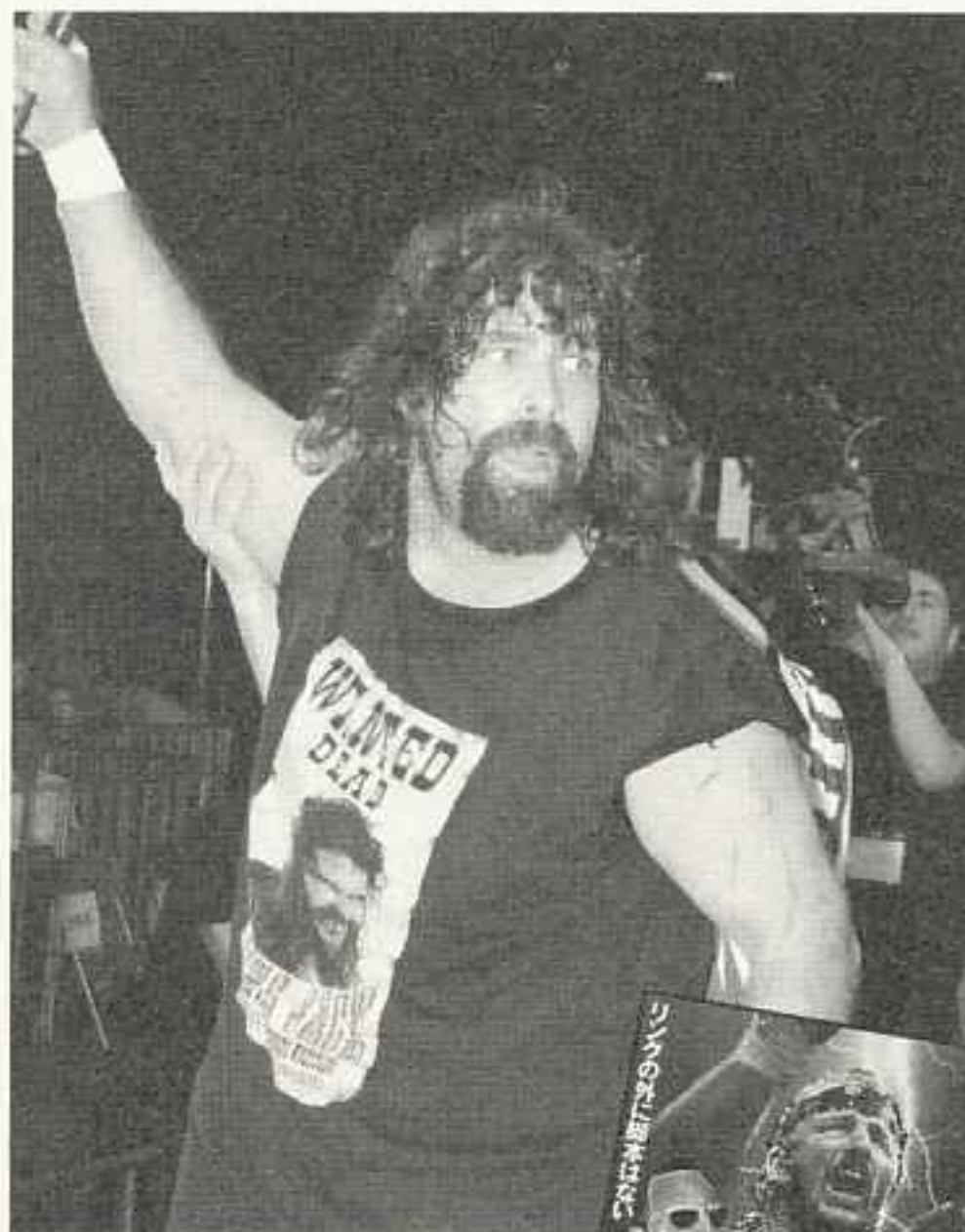
HG　住谷とHGは使い分けますけど、芸人とプロレスラーという線引きはあまり意識してないですよ。芸人としてのおもしろさも追求しつつ、プロレスラーとしてのハードな面も追及しつつ、ハードゲイとしての華やかさも追求してるんですけど、それがたぶん一つの方向に向かってるような気がしますね。それはきっとレスラーっていう括りじゃない。ハッスラーっていういい言葉があるじゃないですか。

—なるほど。そのへんはお笑いとプロレスが共存する学生プロレスがルーツにあるというのも大きいんですかね。学生プロレスと『ハッスル』の違いはどのへんに感じますか?

HG　学生プロレスには全体の流れなんてないですね。個人個人がその試合でやりたいことをやるから1試合目からムーンサルトやったりだとか、やりたいことやるって感じなんですよ。だから大会がメッチャメチャ長くなります。1試合で20〜30分いくわけですよ。それがもうポンポンポンって続くんです。でも僕はそんな風潮に異を唱えてた時期もあるんですけどね。

—これじゃダメだ、と。

HG　ええ。「興行全体のこと考えなあかん」「1試合目はシンプルにやろう」って。でも、みんな「なんでやねん?」ってなるんです。だから、オナニーの連続みたいな感じでしたね。『ハッスル』とは全然違いますよ。

—なるほど。誰かが音頭をとって統制をとらないとちゃんとした興行にはならないわけですね。

アメリカンプロレスの舞台裏に迫ったドキュメンタリーの傑作『ビヨンド・ザ・マット』。この中で試合を作っているロックとミック・フォーリーの映像はおおいに波紋を呼んだ。

芸人、プロレスラー、ハードゲイ、それが一つの方向に向かっている。

HG　そういう考えを持ってたのはごく少数派でしたね。まあ、確かにやりたいことをやりたいから学生プロレスやってるんであって、プロじゃないんだからっていうのも一理あるんですけど。

—その頃の経験はプロのリングに上がったときにも活きてますか?

HG　おもいっきり活きてますね。そういう考え方になったのも、僕はWWFを観てからですよ。プロレスがうまくなりたいという気持ちにもなりましたね。『ビヨンド・ザ・マット』で裏側が描かれてるじゃないですか。そこでミック・フォーリーとザ・ロックが試合を作ってるシーンがあるんですけど、「ここで俺にこれをやってくれ、そこで俺にこれをやってくれ」って、やられることを全部指示してるんですね。あれを観てすげえなと思って。当時はずっといろんな技の受け方を研究してましたからね。

—そうなんですか(笑)。

HG　ケブラドーラ・コンヒーロの受け方を自分でビデオをスローで観て「こうやって受けてんねや」って研究してましたよ。誰も教えてくれないですから。

—それはもう立派な変態ですね(笑)。

HG　『ハッスル』でプロの技術を学ぶことで「うわ、すげえな！　こうやって受けんねん」と感動しっぱなしでしたよ。奥が深いなとあらためて感じました。

—じゃあ「いずれは俺がミック・フォーリーみたいな立場に」という思いもあるわけですよね。

HG　そうですね。ただ、最近は主導権を取れる試合がなかったんでね。

—たとえば川田さんを相手にした場合は、受けながら試合を進めていくとかいう次元じゃないですよね(笑)。

HG　そういう意味では、個性負けしてるってことですかね。

—個性というかプロとして要求される説得力の部分じゃないですか。

HG　そこはね、何十年というキャリアの差がありますから、なかなか太刀打ちできないですよね。

—ただ、そういうキャリアとか格の差に真っ向から挑もうというHGさんの気持ちはよくわかりました。

HG　とにかく身体を大きくして打破したいんですよ。真っ正面から挑むんじゃなくて、ハードゲイ殺法を強化することで勝ちたいんです。

【08年4月11日／都内・ハッスル道場にて収録】

えいちじー■正体、というか本名はお笑いコンビ・レイザーラモンの住谷正樹。75年12月18日、兵庫県出身。同志社大学時代に学生プロレスを始めて立命館大学のRGと出会う。同期には棚橋弘至がいる。現在『ハッスル』のリングでハッスル軍のエースとして活躍中。185センチ、88キロ。

身体よ、自然に帰れ――

強い男とは自然の中で生き残れる男である！

ネイチャー頂上対談ついに実現!!

……モン×三崎和雄

——今日は格闘技界とお笑い界の〝ネイチャー〟頂上対談ということで、三崎和雄選手とネイチャージモンさんにお集まりいただいたんですけど、お二人は初対面ですか？

ジモン　試合は何度も観てたけど、こうしてお会いするのは初めてですね。ただ、俺は試合を観ながら感じてたよ、ネイチャーの波動を！

——三崎選手からネイチャーの波動が出てましたか！（笑）。

ジモン　出てたね〜。三崎選手は、ただ単に合理的なトレーニングをしてるだけじゃないな、と。これはネイチャー同士にしかわからないものなんだけど。

三崎　おっしゃるとおりですね。僕もジモンさんの自然に対する姿勢や、山ごもりのお話を聞いたとき、「この人は自分と同じ感覚を持ってる人だ」と思いました。格闘家だろうがタレントさんだろうが、それは関係ないんですよね。

ジモン　そうなんだよね。格闘家や芸人である前にネイチャーなんだよ。普段は海や山には行かれるんですか？

三崎　海と山はどちらも行きますね。もともと僕が生まれたのは山と田んぼに囲まれたド田舎なんですよ。だから、生まれたときから常に自然の中で生きてきたというか。子どもの頃から川で泳いだり、ザリガニを捕まえてそれを食べたり、山の中にこもってクワガタを捕ったりしてましたね。

ジモン　え!?　クワガタ採ったりしてるの？　俺と一緒じゃん！

——ジモンさんはクワガタマニアで有名ですもんね。

ジモン　俺のクワガタ歴は長いよ。この長いあいだのこだわりを胆力っていうん

君はネイチャージモンを知っているか?
ネイチャージモンとは、ダチョウ倶楽部の寺門ジモンのもう一つの顔、いや、真の顔である!
真の最強を目指し、30年間にわたり独自のトレーニングを一日たりとも欠かしていないというネイチャー。
そして大自然を愛し、自然の中で生き抜く術を常に考え、現在でも年間5回以上、山ごもりをしているのだという。
そんなネイチャージモンに対し、格闘技界のネイチャーといえば、我らが"マイクの鬼"三崎和雄!
これまた大自然を愛し、山の中で五感を研ぎ澄ますトレーニングを現在も続けている三崎が、
ついにネイチャージモンと初遭遇!
お笑い界と格闘技界のネイチャー頂上対談がここに実現した!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫

ネイチャージモン

だけど、好きになったことを貫くと、それが本物になる。俺のクワガタ好きって、初めは（ダチョウ倶楽部の）メンバーに「バカ、おまえ、お笑いやれよ！　クワガタやってる場合じゃねえ！」って言われてたんだけど、クワガタ好きをずっと続けてたら、こうやってネイチャーの仕事が来るもんね、やっぱり。

——なるほど（笑）。

ジモン　なんでもそうだけど、ずっとやり続ければホントの力になる。三崎選手もそういうことがわかってる人だと思う。子どもの頃からのいろんなネイチャー体験が、いまに活きてるんですよ。

三崎　それは感じますね。

ジモン　だけどね、俺はすべての格闘家に言いたいのよ。農家でクワを持ってるおばあちゃんを見てみろ、って！　背中の骨が曲がるまで長年クワを降り続けたんだよ。でも、格闘家で拳で殴るかたちで骨が変形してるヤツがいるかっていったら、いない。

——ダハハハハ！　確かに骨自体がファイティングポーズになってる人はいませんね（笑）。

ジモン　まだいないんだよ！「ヤバいよ、これ！　この人、拳で殴ることだけに一生を懸けてんの？」って格闘家がいない。だけど、凄い人って意外なところにいるんだよ。あるとき山芋掘りのオヤジに会って「どうもこんにちは」って握手したときに、俺は驚いたよ。グローブしてるんじゃないかと思ったんだ。そしたら違うんだよ。右手が左手の倍ぐらいゴックなってた。「あ、ごめんな、気持ち悪くてな。山芋は手で掘らないとダメなんだよ、スコップで掘ったら山芋が壊れちまうから。手で掘ってるあいだに手がクワになっち

やったんだ」って言うんだよ。

——手がクワになっちゃいましたか。

ジモン　俺、その山芋掘りのオヤジに手刀を食らったら、生きてる人間いないと思ったね。そして俺は三崎選手が秋山(成勲)さんと闘ったのを観たとき、この人はジムのトレーニングだけじゃなくて、自然の中での鍛錬をしてるネイチャーだなって思ったんだよ。べつに筋肉モリモリじゃないけど、自然の中で鍛えた感性が俺には見えたから!

——ネイチャー同士だからこそ、わかりましたか(笑)。

ジモン　わかったよ!

三崎　いまは秋山さんの例でしたけど、秋山さんじゃなくても、たとえば筋肉モリモリの外国人選手が相手になったとき、僕は「ラッキー」って思うんですよ。

ジモン　うん! そうだろ、そうだろ。

三崎　こんな筋肉モリモリの身体じゃ、自然界には勝てないぞ、と。

ジモン　そう、勝てないんだよ! おいおいおい、嬉しいなあ。これがわかってくれる人がなかなかいないんだよ、芸人には。

——芸人にはいないでしょうね(笑)。

ジモン　俺ね、筋肉がデカいヤツって、全然怖くないんですよ。筋肉なんてたいしたことじゃない。俺はいろんな達人とこれまで会ってきたけど、みんな筋肉じゃない、骨です。

——骨ですか?

三崎　骨ですよねえ(頷きながら)。

——三崎さんもわかりますか(笑)。

ジモン　達人は骨格をうまく活かすんですよ。スポーツ筋肉を鍛えると、若いときは強そうに見えるけど、そこに頼ってしまうから、歳をとると動きの鈍い、対応できない筋肉になってしまうんだよ。だから本当に強い人はそっち系にいないの。ビヤ樽みたいな身体で、太い足が地面についてるのが強い。カール・ゴッチさんなんかそうでしょ?

——確かにそうですね。

ジモン　格闘技やってる人だけじゃなくて、マタギさんの達人なんかもみんなそうなの。あの人たちは、地面に手つくから、重心が低いの。肩はデカいんだけど。よく雪山で「雪男発見!」とかいってシルエットの写真が出るでしょ? あれ系の身体ですよ。

三崎　なるほど。

ジモン　俺、ちょっとそれになりつつあるのよ、ヤバいよ。トレーニングしすぎで骨格が変わっちゃってるんだよ。

——雪男に近づいてますか(笑)。

三崎　僕もジモンさんの言われるとおり、やっぱり骨だと思うんですよ。格闘技をやっていく上で、最低限の筋肉はもちろん必要で、そういうトレーニングもやってますけど、一番大事なのは骨なんです。たとえば、僕が一番理想としているのが、赤ちゃんや小さな子どもの動きなんです。

ジモン　いいねえ! いい線だねえ!

三崎　大人になると座ってる体勢から立ち上がるとき、手をついて起き上がる。これは完全に筋肉の動きなんです。でも、赤ちゃんは筋力もなければ手を使うことすらわからない。それがどうして立てるかというと、本能の中でバランスと骨だけを使ってうまく立ってるんですね。結局、人間は骨で身体を動かしてるんで、格闘家であってもつけた筋肉を骨でどう動かすかが一番大事。よけいな筋肉をつけるということは、おもりを背負って闘うようなものですから。勝つため、生き残るためには、必要のないものはどんどん排除して、最終的にはシンプルなものだけが残ると思うんですよね。

ジモン　それ正解! ナイスネイチャー!

——ナイスネイチャーですか(笑)。

ジモン　これは、いい話だよ! あなたもよく聞いとけよ。

——はい(笑)。

ジモン　俺はこんなお笑い芸人をやってるけど、三崎選手の言うことがわかるよ。

——こんなお笑い芸人(笑)。

ジモン　いやあ、三崎選手いいね! 日本の宝だよ! ネイチャーだよ!

三崎　僕もジモンさんのおっしゃるとおり、自然の中で生きていける人間こそがホントに強いと思うんですよ。だから僕は、格闘技をやってる中で、相手の肉体的な強さや技術っていうのは怖くないんです。何が怖いかって、本能の部分が一番怖いんですよ。

ジモン　そうなんだよなあ! わかるよ!

三崎　だから秋山さんと向かい合ったとき、正直言って、本能の怖さというものを感じました。秋山さんは『HERO'S』という舞台で(ライトヘビー級の)頂点に立った人間ですから、自然界で言えば、ライオンの群れのボスですよね。ただケンカが強いだけじゃ、自然界じゃトップに立てないんです。

ジモン　全然無理だよ! 何かがあるんだよ。

三崎　たとえば自然を読む力。気候から周りの状況からすべてを感じて、群れを守るのがライオンですから。秋山さんも向かい合ったとき、ライオンと同じものを感じました。そのライオンの怖さが僕

NATURE JIMON × KAZUO MISAKI

この男は実在する! ネイチャージモン伝説

ゴッチ式トレーニングを30年間続けている伝説

「ボディビルのような筋肉は実戦では通用しない!」と考えるネイチャーは、カール・ゴッチのような自分の体重と重力を使った独自のトレーニングをなんと30年間も続け、現在は全身に実用的な筋肉がついた肉体を作り上げている。とくに野犬に噛まれたときを考え、急所である首を鍛え上げているのは驚きだ。

オオクワガタのために年間10回山ごもり伝説

年間5~6回は山ごもりをしているというネイチャー。その主な目的はオオクワガタ採取! 単なるクワガタ捕りと思うなかれ。オオクワガタは標高の高いところにしかいないから、平気で1週間は山にこもり、クワガタを捕りながら、6時間、匍匐前進だけで移動するトレーニングをしたり、木の上で寝たりしているのだ!

目指せマス大山! 指で10円玉曲げる伝説

超人追求のために、『空手バカ一代』や大山倍達総裁の著書に書いてあったことを一通り実戦したというネイチャー。「『逆立ちしながら二本指立て伏せ』が自分の年齢の数だけできるようになったら、10円玉は曲がる」と書いてあったことを真に受け、6年間にわたり指立て伏せを続け、ついに「逆立ち指立て」はできるようになったが、結局、10円玉は曲がらなかったのだという!

ウィリーもビックリ!? 熊に4戦4勝伝説

往年の極真空手家ばりの超人追求は、山ごもりや10円玉曲げだけではない! なんと〝熊殺し〟ウィリー・ウィリアムスよろしく、ネイチャーも熊との対戦経験があるのだ。しかも4回! あまつさえ全勝! といっても熊と殴り合い、取っ組み合ったわけじゃない。ある日森の中で熊さんに出会ってしまった際、ヒグマ以外はじつは臆病という熊の性質を知っているネイチャーは、横隔膜を鍛え、野獣ばりの雄叫びで熊を威嚇。4回とも熊は背を向け逃げ出したため、4回ともネイチャーの不戦勝だったのだという!

ヒクソンにも俺なら勝てる伝説

最強を目指すネイチャーは、もちろん「もしヒクソンと闘わば」も想定している。しかも、「間違いなく自分が勝てる」と言うのだ! しかし、その闘う場所はリングではない。もちろんネイチャーの〝ホームリング〟である山の中だ。そこにヒクソンを誘い込み、1カ月間、山の中で姿をくらませ、ヒクソンが「俺、何やってんだろ……」と、精神的に隙ができたときに襲う。「そうすれば必ずヒクソンに勝てる」と言うのだ!

本当に足を手のように使えてしまう伝説

「足の裏には全身の神経が集まっており、足を器用に動かすことは、脳の神経や全身を鍛えることにつながる」という考えから、ネイチャーはなんと、日常生活のすべてのことを足で行なえるように鍛錬しているのだ。たとえば足でプラモを作ったり、足で習字をしたり、足で栗まで剥いてしまったり……。とにかくネイチャーは、足をサルのように使えるのだ!

秋山さんと向かい合ったとき
野生動物同士が闘うときのように
なかなか踏み込めなかったんです

その気持ちわかる！
俺がイノシシや熊と
対峙したときもそうだったよ！

の動きも止めたし、向こうも僕に同じものを感じて、なかなか攻め込めなかったんだと思うんです。

ジモン　わかる！　野生の世界では、なかなか踏み込めないもんなんだよ。

三崎　向かい合って探り合いをしてるんですよね。ただ、殴り合うことは誰でもできることなんですよ。でも、野生の動物同士が向かい合うと、やっぱり動きが止まるんですよね。その止まった状態で、相手の呼吸、鼓動、目の動き、すべてを見るんです。

ジモン　そう、全体を見るんだよ！　俺がイノシシや熊と対峙したときがそうだったから！

――イノシシや熊と対峙してるんですか！

ジモン　山を歩いてると遭遇するんだよ！　だから俺も向かい合ったとき、一歩も動けなくなるけど、周りの葉っぱ一枚一枚が見えるからね。三崎選手、いいこと言ってるよ。ナイスネイチャー！

――三崎vs秋山は、ジモンvsイノシシに通ずるものがありましたか（笑）。

ジモン　格闘技でもさ、トップ選手同士がファイティングポーズをとって見合ってるとき、ファンはみんな「さっさといけよ！　攻めろよ！」って思うじゃない。でも、あれはいけないんだよ！　向かい合って相手のすべてを見ている。相手の仕掛け方を見る、おまえが来るか、俺がいくかっていうのをね。

三崎　そうですね、だからつばぜり合いまでもいってないんですよ、止まった状態なんですよ。

――よく野犬同士がうなりながら、一定の距離でグルグル回ってるような感じですか？

ジモン　あ、それいい表現だと思う！　まさにそうなんだよ。野生の世界では負けは死を意味するから、相手を知り、自分を知り、確実に「勝てる！」と思わないと、闘わないもんなんだよ。

三崎　だから自分の力を過信している人間は勝ち残れないと思うんですよ。僕は子どもの頃から泣き虫で弱虫で、いままでも自分のことを弱いと思ってるんです。でも、弱いと思うから、自然の状況とか、周りの空気感を常に自分の中で察知してないと、自分の命を守れないんですね。だから、試合のときも相手と向かい合いながら探って探って、勝機を見つける。周りから見たら、攻めないで向かい合ってるのはおもしろくないと思うんですけど、僕は一匹の生き物として闘ってますから、どうしてもそういう動きになってしまうんですね。やっぱり自然界で生き抜くということは、勝つためじゃなくて、自分の命を守ることが重要ですから。

ジモン　自然界では一つでもミスしたら終わりだからね。三崎選手は自然の掟をよくわかってるよ。

三崎　だから自然界で生き残るために大事なのは、「自分を知る」ということだと思うんですね。

ジモン　そうだね、鏡を見て自分を知る。だから神社でお参りするときも必ず鏡でこっち見るのは、自分に対して祈ってるんですよ。神様っていうのを呈して自分に心がけることが言えるか言えないかが、達成する、達成しないは、毎日我が身を見ているかどうかなんだよ。

三崎　僕の場合は、いまおっしゃった神社の鏡と同じように、心の中にいつも鏡を置いてるんですよ。だからいま生きてるあいだも常に自分の心の鏡に映し出し

てて、自分のやっていることは正しいのか、人に迷惑をかけてないのかを問いかけてる。その中で、自分がよかれと思ってやったこと、言ったことで叩かれることも多々ありましたけど（笑）。

——大晦日のマイクとかですね（笑）。

三﨑　でも、自分の信念を持って、しっかり目標を立てて人生をまっとうすれば、その目標がかなわなかったとしても、僕は死ぬときに満足だと思うんですよね。あと、話は少しずれてしまうんですが、僕は日本人として、日本人の血が流れているから、日本人、そして日本を愛してるんです。そして、日本人というのは桜を凄く愛してるじゃないですか。あれも意味があると思うんですよ。日本人の身体に流れている血と、桜の中にある気が一緒だと思うんです。だから僕は、毎年毎年、桜の花を見るとき、もし自分に嘘をついて生きてたら、来年は素直に桜の前に立てないんだって思うんですよ。

ジモン　なるほど！

三﨑　僕は来年もちゃんと自信を持って桜の木の前に立つために、いまをしっかり生きたい。だから僕の中では桜も〝鏡〟なんです。

ジモン　素晴らしい武芸者だね！　ネイチャーだ！　古い言葉で、「年毎に、咲くは吉野の山桜、木を割りて見よ。花の在処は」って言葉がある。桜は毎年咲くんだけど、割ったところで中にどういう花が咲く理由があるわけでもない。でも花は咲く。桜の花が咲き、散るというのは、人生の哲学が詰まってるんだよ。それを感じながらいつも自分の気持ちと対面してるっていう三﨑選手は……いいねえ！　ナイスネイチャー！

三﨑　ありがとうございます（笑）。

ジモン　やっぱりねえ、桜もそうだけど、自然というのはいろんなことを教えてくれるんですよ。自然の中に入ると、自分が何もできないことに気がつく。そうすると、自分についているいらない鎧が剥げていくの。ある有名芸術家も言ってるんだから。その芸術家が最後にタヒチの島に行ったとき、「自然の中で生き残る方法は、五感を養う以外にない」って。だからアートにも通ずるんだよ。格闘家は芸術に触れたほうが強くなる。格闘家も芸術家も五感を養わないとダメです。

——五感を養うということは、三﨑さんも以前からよく言われてることですよね？

三﨑　そうですね。やっぱり僕が山の中に入る理由として凄く大事に考えているのは、自分の本能をどこまで自然に近づかせることができるか、なんです。僕はいまでもそうやって山に入ってるんですけど、10代の頃は他人には言えなかったんですね。「本能に近づくため」なんて言ったら、「おまえ、おかしい」とか言われるのがイヤで。

ジモン　その頃に俺と会ってればなあ！

——ガハハハハ！　確かに（笑）。

三﨑　そうですよね。ホントに東京に出てから、自分の思いをちょっとずつ話していって、周りにも同じような感覚を持った人間がいたということで認められてきたんですけど。昔から僕は本能を磨くために山に入ってるんですね。山に入って大の字に寝て目をつぶっていると、鳥の声や風の音や水の音や土の匂いがして、自分が人間だっていうことも忘れてしまう状態になるんですね、無の状態に。だから身体が自然と一体化して、自分の身体がどこにあるのかもわからなくなってしまう。その状態に持ってったときに自然の中で生きていけると僕は思ってるんですよ。だからもっと言えば、そこの状態になれば、もう怖いものはないんですよね。本能の状態ですから。

ジモン　ネイチャーだよ！　俺なんかも山に入るじゃない。そのときに大きな木の下に夜中ずっといると、鹿が頬っぺた触るぐらいのところを歩くからね。もう俺には気づかないんだよ。

——ガハハハハ！　自然と一体化してますか。

ジモン　俺はもう人間じゃないし、匂いもない。俺は鹿の匂いを感じて「あ、鹿が来た」ってわかるんだけど。そのレベルまでいくわけだから。

三﨑　なるほど、それは強いなあ。

ジモン　自然の中に自分の身体を投げることによって、いろんなものが見えてくる。風の音、鳥の声、風の匂い、シーンとした空気の重さとか、そういうのを感じてくるわけ。五感なんですよ。それを感じたとき、「あ、東京にいるときに感じられなかったものを感じられてる。この感覚はなんだ？」っていうのが彼がいま説明してくれたことなんだけど、それを突き詰めていくとトレーニングに活かせるのよ。無の感じと覚醒した感じは、じつは近いものだから。

三﨑　確かにおっしゃるとおりですね。

——三﨑さんなんか、「そういう五感が研ぎ澄まされたときは隕石が落ちても避けられるんじゃないか」って言ってましたよね？

三﨑　そうなんですよ。

ジモン　そりゃ避けられるよ！

——避けられますか（笑）。

ジモン　昔の武芸者は、うしろから石を投げたらパッと避けたんだよ。でも、石を投げたフリして丸めた紙をうしろから投げたら、気配でそれが紙だとわかるから避けないんだよ。俺はそれを体現してますから、これは絶対にできますよ。できない人間は、五感を研ぎ澄ましてないだけ

満月の夜、素っ裸で仲間たちと浜辺で取っ組み合いをするんです

KAZUO MISAKI

みさき・かずお■1976年4月25日、千葉県出身。01年7月にパンクラスでプロデビュー。『ネオブラッド・トーナメント』で優勝。04年よりPRIDEに出場。06年にはダン・ヘンダーソン、デニス・カーンらを下し、見事『PRIDEウェルター級GP』で優勝。昨年大晦日には“魔王”秋山成勲をKOし、一躍ときの人となるが、その後、ノーコンテストに。現在は『戦極』を主戦場としている。179cm、83kg。

だから。これは格闘技も同じだと思う、相手がパンチを打ってくるとき、目で見るんじゃなく、相手の重心移動の中で「これは来るな」って自然に感じてるわけよ。おそらく三崎選手はそれを体現してるんだよね。

——秋山戦の最後なんか、そんな感じでしたよね。三崎選手は山の中に入るトレーニングだけじゃなく、真冬の荒れ狂う海の横で、素っ裸で浜辺を走るトレーニングをしたっていうのはホントなんですか？

三崎 それもたまにやってますね。

——たまにやってますか（笑）。

三崎 これも本能なんですよ。やっぱり満月の夜だったりすると、本能的に外に出たくなるんです。

ジモン それはある！　満月はそういうこと凄くあるよ！

——ホントにあるんですか!?

三崎 やっぱり地球の自然を動かしているのは、太陽であったり、月であったりしますから。

ジモン そうそう、それが自然界の仕組みなんだよ。

三崎 だから満月のときは満ち潮になるし、新月になれば引き潮になる。満月になれば赤ちゃんが生まれるし、新月になれば人が死ぬ、やっぱり人間の体内も全部それにとらわれてると思うんですね。だから僕は満月になると、仲間たち数人で海に行って、素っ裸になって大声出して走るんですよ。そして、ワーッて走った瞬間、もう人間じゃなくなってるんですよ。

ジモン ネイチャーだねえ！

三崎 言葉なんかいらないんです。友だち同士でも言葉をしゃべらなくて、パッと見た瞬間にもう組み合って投げたりとか。素っ裸で取っ組み合ってるわけですから、それこそ原始の格闘技ですよ。

ジモン うん、そうだと思う！

三崎 みんな柔道やってた仲間たちなんで、投げて寝技で押さえ込んだり、完全に極めたり絞めたりするわけですよ。そこはもう本能の闘いです。そして最終的には海の中に顔を突っ込む。でも、生き物はやっぱり生きようとするから、火事場の馬鹿力ではねのけるんですよ。でも最後の最後、もう負けを認めて「あ、もうダメだ」って力を抜くんですね。そうなったときに、たぶん勝敗がついて、群れのリーダーが何人かいる中で決まるのは、最終的にしょうがないです、僕がいつも一番強いんですけど（笑）。

——最終的にはいつも三崎選手が群れのリーダーですか（笑）。

三崎 そして最終的に、僕は負けた相手に対してマーキングをするんですよ。

ジモン いいねえ！

三崎 それが完全に支配したっていうことなんですね。

三崎選手は俺が思った以上のネイチャーだよ！　最高だよ！

NATURE JIMON×

ねいちゃーじもん■1962年11月25日、兵庫県出身。ダチョウ倶楽部、寺門ジモンのもう一つの顔。幼少の頃より山奥に住み、30年間独自のトレーニングを一日も欠かしていない。その最強探求ぶりが浅草キッドの著書「お笑い男の星座2」に書かれたことで世に出て、その後、バラエティ番組『やりすぎコージー』でブレイク。いまも自然を愛しながら70歳での最強到達を目指している。

ジモン 俺もマーキングやるよ。

——ジモンさんもしてるんですか（笑）。

ジモン「俺がここにいたんだ」っていう意味でね。

三崎 相手にとっては屈辱だと思うんですけど、でもそれは自然界で生きてる中ではしょうがないことです。もう、こいつの下で生きていくって、そこでわかるわけですから。

ジモン おもしろいねえ！　おまえ、ネイチャーだなあ！　その儀式はぜひとも続けてほしいもんだ。

——これからも素っ裸でマーキングしてほしい（笑）。

ジモン ジジイになるまでやってほしいね。70歳ぐらいになったジジイが「おまえらまだまだ！」ってやってたら、すげえカッコよくない？　白髪で、「オラーッ！」ってやってたら。ちょっと嬉しいよね。そういうジジイになりたいでしょ？

三崎 なりたいですね。仙人になりたいですね。

ジモン そう、俺は70歳で最強を目指してるから。70歳になって若いヤツをヒョコヒョコ倒しながら、ステーキがあったら、それをサラッと食べて「おまえら残すのか？」って食う人間になりたい。

——最強の70歳ですか（笑）。

ジモン そして70歳で最強になるためには、重いものを持ち上げたり、あんまりエネルギーを燃やすトレーニングをしても、それは無理なんです。でも、自然なトレーニングを続けていれば、それができるから（キッパリ）。三崎選手もそれができる人だと思うから、昔の日本の武芸者のように生きてほしいな。

三崎 ありがとうございます。

——三崎選手はジモンさんも認めるネイチャーですか？

ジモン ネイチャーだね！　俺が思ってたよりネイチャー度が高かったね（笑）。

——ダハハハ！　ジモンさんの想像を上回ってましたか（笑）。

ジモン 最高だよ！　彼は伸びるよ！　頑張ってほしいね。

——では、これを機会に今後もネイチャーな交流を続けていただけたらと思います（笑）。

ジモン そうだな。今度、一緒にメシ行こう！　強くなるためには、羊とかヤギを食わなきゃダメだから！

三崎 ぜひ、お願いします。こんなに深く話ができる人はなかなかいらっしゃらないんで（笑）。いろいろ勉強させてください！

ジモン よし！　じゃあ、メシ行くだけじゃなく、一緒に山にも行こう！　三崎選手いいね〜。ナイスネイチャー！

【08年4月24日／地球上のどこかにて収録】

ホジャー・グレイシー。
この男こそが、かつて間違いなくあった〝グレイシー最強伝説〟を現代によみがえらせる可能性をおおいに秘めた、グレイシー最強にして最終兵器だ。
90年代、グレイシーと名のつく選手は常勝を義務づけられていた。そしてそれを「グレイシー柔術のためなら死ねる」という言葉とともに忠実に守り、実践してきたヒクソン、ホイス、ホイラー、ヘンゾ。かのグレイシーたちはグレイシーのグレイシーたるゆえんをまざまざと見せつけ壮絶な試合をこなしてきた。
だが、彼らは試合をこなすにつれ名声を高めながらも、ときには自らの敗北する姿も見せることになってしまっていた。そしていつしか最強の名をほしいままにしてきたグレイシーの負ける姿は珍しくなくなり、グレイシーの名は「興行における老舗ブランド」的な扱いにまで堕ちてしまった。
グレイシー復権の期待を背に、07年にグレゴー、ホーリスが、08年にはイゴールという第3世代グレイシーがMMAデビューした。しかし、グレゴー、ホーリスこそ白星でデビュー戦を飾ったが、イゴールはデビュー戦で敗北。グレゴーも3戦目で早くも黒星を喫している。そう、もはやグレイシーはMMAの世界において特別な存在ではなく「その他大勢」となってしまっているのだ。
しかし、このホジャーだけは違う。
ここでホジャーの簡単な経歴を紹介しよう。グレイシー柔術創始者、カルロス・グレイシーの直系の孫として生を受けたホジャーは現在27歳。選手として最も脂が乗ってきている時期といっていいだろう。その証拠に昨年の夏には、生涯の目標として掲げていたブラジリアン柔術世界選手権、通称ムンジアルの階級別&無差別級の2階級制覇を達成している。
このムンジアルの前には寝技世界最強決定戦と誉れ高いADCC（アブダビ・コンバット）のスーパーファイトで、かつて敗れたことがあるユノラフ・エイネモと対戦し、一本勝ちこそできなかったが危ない場面はまったくなく、ポイント6―0で磐石の勝利を挙げた。
ADCCでは05年大会で階級別と無差別級を優勝して2階級制覇を達成。しかも、階級別、無差別ともに全試合を一本で勝ち上がる完全勝利でホジャーは本大会で名実ともに最強のグレイシーの名を不動にする活躍を見せた（余談だが、この大会でホジャーは現在のMMAシーンの中心にいる選手たちである青木真也、アレッシャンドリ・カカレコ、ホナウド・ジャカレイ、ファブリシオ・ベウドゥムらを下している点も興味深い）。
そして06年12月、ホジャーはあの『ボードッグ』で、ロン・ウォーターマンを相手に突如MMAデビューをはたす。

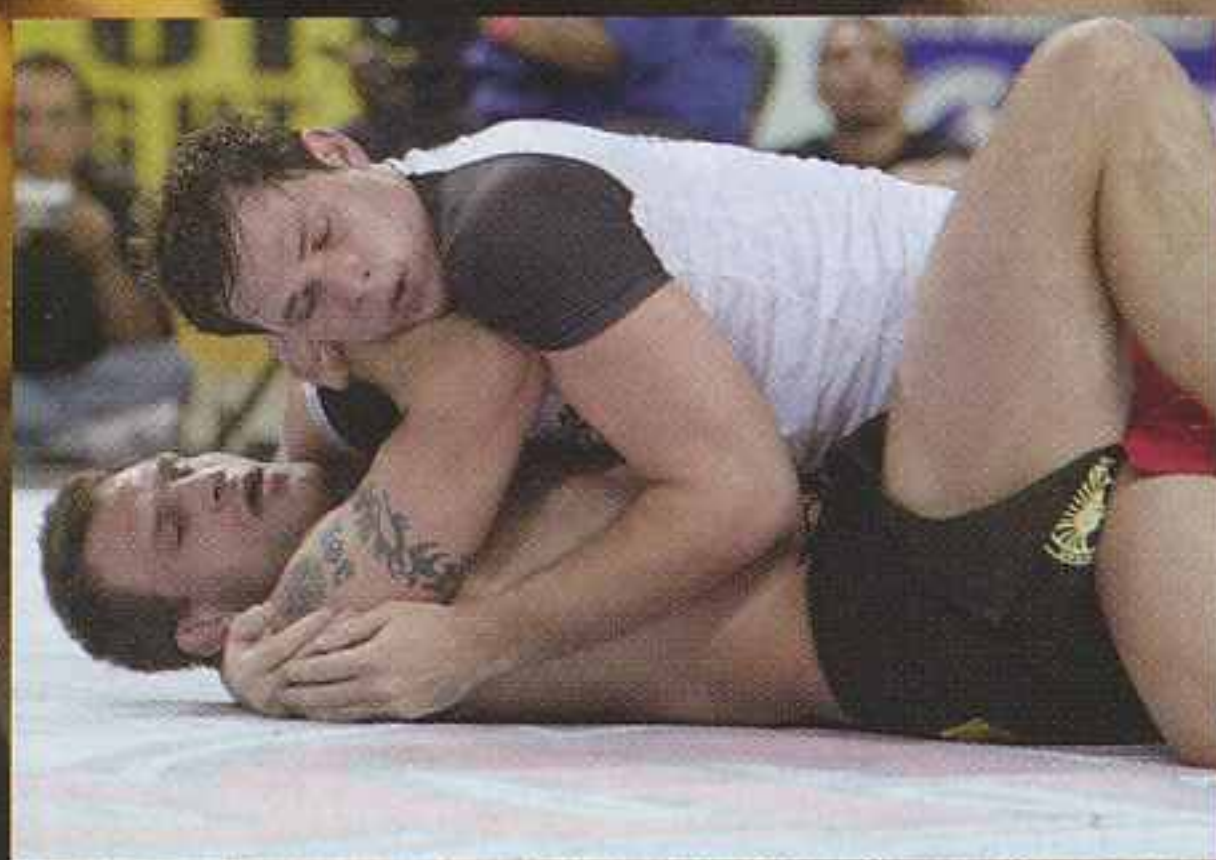
5.18『戦極』有明コロシアム大会の超目玉

ホジャー・グレイシー 一族最強の秘密兵器が出るぞ!

かねてから来日が熱望されていた、グレイシー一族の最強最後の切り札ホジャー・グレイシーがついにやってくる! ADCCとムンジアルをともに制した寝技のトップ中のトップ。5.18『戦極～第二陣～』最大の目玉であるホジャーとは、はたしてどれほどの実力者なのか? 柔術に造詣が深く、ホジャーを何度も取材しているライター橋本欽也が、その強さを明かす!

文・写真／橋本欽也　構成／堀江ガンツ

デビュー戦の相手としてロン・ウォーターマンを選んだのは、いまにして思えば適切な判断だったかもしれない。なぜなら当時のウォーターマンは、選手としては下降線で力だけのパウンドファイターの印象があり、この手の選手に対して柔術ベースの選手は得意とするところだからだ。
試合は「MMAでもスタイルを変えずに闘う」と話していたホジャーらしく、ガードからの腕十字で体格で大きく勝るウォーターマンを一蹴し、柔術と変わらぬ強さを見せつけた。ただ、相手がトップ選手ではなかっただけに当然の結果か。
その翌年、満を持して参戦した07年のムンジアルで階級別&無差別級を制し、悲願を達成したホジャー。このムンジアル2階級制覇はグレイシーファミリーの中ではホジャーが初めて達成した快挙だ。
ホジャーはこのムンジアル直後こそ「来年もムンジアルに出る」とのコメントを残していたが、昨秋あたりから本格的にMMA転向の噂が聞こえ始め、今回、5・18『戦極～第二陣～』有明コロシアム大会への参戦が正式発表された。
このタイミングでMMAに出場するということは今年のムンジアル出場はないと思っていいだろう（ムンジアルは6月上旬に開催）。それだけにホジャーのMMA参戦は本気だということがうかがい知ることができる。
ホジャーの柔術のスタイルはクラシックなテクニックのみで試合を構築していくいわゆるオールドスクール・スタイル。これはホイスやヒクソン、ホイラーの試合スタイルに酷似したグレイシー・スタイルと言い換えてもいいだろう。最近、柔術大会で勝ちまくっているヒクソンの次男、ク

ROGER GRACIE■1981年9月26日、ブラジル・リオデジャネイロ出身。グレイシー柔術の始祖カーロス・グレイシーの孫。05年、『ADCC』99キロ以下級、無差別級優勝。06年、『ムンジアル』スペルペサード級、無差別級優勝。06年12月『ボードッグ』でMMAデビュー、ロン・ウォーターマンに一本勝ち。5.18『戦極』が二度目のMMA出陣となる。193cm、99kg。

前回大会の無差別級優勝者が、トップ選手の挑戦を受けるかたちで行なわれるADCCのスーパーファイト。05年大会の無差別級優勝者であるホジャーは、07年大会でユノラフ・エイネモと対戦。見事勝利し、寝技のトップ中のトップであることを証明した。

ロンもホジャーと同じような試合スタイルだ。ＭＭＡで使える柔術のテクニックはギ（衣）がないだけにベーシック・テクニックに限られるのだから、高いベーシック・テクニックの精度を持つホジャーは、案外すんなりとＭＭＡにも順応するかもしれない。もちろん打撃スキルの習得は必須なのは言うまでもない。ただ、ウォーターマン戦のように安易にガードになるのは、パウンダー全盛の現代のＭＭＡにおいてはいささか危険とも思えるが……。

ホジャーは試合のない通常時は父親であるマウリシオ・ゴメスとともにイギリス・ロンドンで柔術アカデミー経営に従事しており、日々、指導に汗を流している。そしてＭＭＡやＡＤＣＣの前にはＮＹのヘンゾの下で集中キャンプを張り、普段できない追い込み練習を敢行して試合に備えているのだ。このヘンゾのアカデミーは先ごろＭＭＡ復帰したヒカルド・アルメイダやジャマール・パターソン、グレゴー、イゴール、ホーリスのグレイシー・ファミリー、ＩＦＬのチームメンバーらが集まるプロ練習があり、大型選手であるホジャーでも練習相手には事欠かない。またヘンゾはホジャーのよき相談役でもあり、ヘンゾは自身の豊富な経験をもとにホジャーにアドバイスしているという。

ヘンゾ軍団の充実ぶりは、先頃、ＵＦＣで衝撃的な復活をはたしたヒカルド・アルメイダを見ても証明済み。ホジャーも必ずや、新生代のグレイシーらしい試合を見せてくれるはずだ。

かつてのヒクソン、ホイス、ホイラー、ヘンゾらと違い、ヘビー級ということも魅力のホジャー。新たなグレイシー神話を作り出すのは、この男をおいてほかにいない！

5.18有明大会はジョシュ、ホジャー、ランデルマンらビッグネームだけじゃない!

“初耳ファイター”もわんさか出陣!

戦極マニアックスいざ!!

SENGOKU

『戦極～第二陣～』、5.18有明コロシアム大会が近づいてきたぞ!(『戦極』ナレーション調)。今回もジョシュ、ランデルマンら日本でもおなじみのビッグネームも多数登場するが、『戦極』のもう一つの売りはマニアックな強豪ガイジンの参戦! というわけで、これを読めば有明大会が“『戦極』倍”楽しめること間違いなしの『戦極』マニアックガイドをお届け! 行くぞ～ッ! 一、十、百、『戦極』! 『戦極』ッ!!

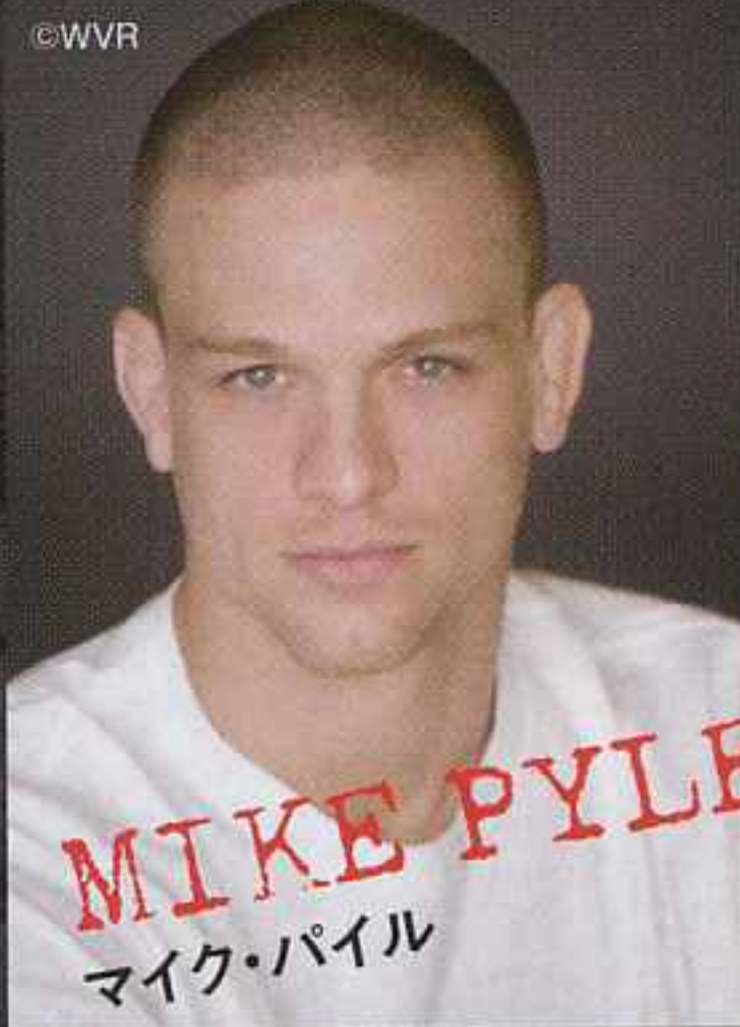
構成／阿修羅チョロ　試合写真／乾普也

『戦極』名物! マニアックガイジン対決も実現!
“モヒカン野郎”と“イケメン野郎”も出るぞ!

5・18『戦極～第二陣～』のオープニングマッチは、旗揚げ戦に続き、すでに恒例となりつつある〝マニアックガイジン対決〟に決定!?（このページの締め切りの4・26現在、正式発表はないが）。

前回のオープニングマッチではDREAMで衝撃のデビューをはたしたエディ・アルバレスに、唯一黒星をつけたニック・トンプソンが静かに来日。そして静かに勝利して帰国したが、今回も日本的にはまったく無名の選手が第1試合で激突する可能性が高い。しかし、登場する二人とも、アメリカの中規模MMAイベントで堂々とメインを張り、メジャー団体への進出をあと一歩に控えるブレイク寸前のダイヤの原石なのだ。

〝激情モヒパンク〟ダン・ホーンバックルは、パンキッシュなモヒカンヘアから連想されるイメージどおりのネイティブ・アメリカン。試合以外ではいつもモヒカンをピンピン立たせ、リングに上がれば、熱いファイトで観客を熱狂させる若きメインイベンター。

アメリカの専門マスコミでは「クレイジーな柔術のテクニックをベースに、すべての局面でスーパーアグレッシブに攻めるハードパンチャー」と評価されるように、見た目と違って（?）寝技も超得意! 下から上から殴りまくるのが大好きな男なのだ。06年にMMAデビューをはたすと、とんでもない勢いで試合をしまくり、たった2年で15勝1敗という好成績を記録。しかも現在12連勝中で、おまけに判定決着はわずか一試合というアグレッシブさ。そのハイスパートで攻撃的なファイトスタイルは、第1試合にはうってつけのファイターだ。そのムダに熱い試合で『戦極』のリングへ、いざ!

対するマイク・パイルは、このご時世に打撃の習得のためアメリカから、はるばるデンマークへ移住し、武者修行に励んだという筋金入りの格闘バカ!

もともと柔道&柔術のバックボーンを持つパイルは、プロデビュー戦で、いきなり現・UFCライトヘビー級王者のクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンと対戦するも、惜しくも判定負け。しかし、デビュー3戦目には、現在UFCウェルター級のトップコンテンダー、ジョン・フィッチから見事に一本勝ちして、大器の片鱗を見せた。その後、何を思ったか、パイルはデンマークに移住し、打撃の練習に励みながらヨーロッパのMMA大会で連戦連勝。2年の修行を終えて04年9月に帰国すると、〝鉄人〟ランディ・クートゥアーと合流し、再びグラップリング・スキルを磨き直すことに専念。

ひさしぶりのアメリカマットでは、グスタポ・シム、ショーニー・カーターといった実力者を次々と撃破し、WECでは第4代ウェルター級王者に。その後、エリートXCからジェイク・シールズとのタイトルマッチがオファーされるなど、77キロ級ではブレイク寸前の逸材。〝イケメン格闘バカ〟が『戦極』でそのベールを脱ぐ!

（大川義之）

©WVR

MIKE PYLE
マイク・パイル

©WVR

DAN HORNBUCKLE
ダン・ホーンバックル

©WVR

JORGE SANTIAGO
ジョルジ・サンチアゴ

ストライク・フォース ミドル級覇者も出るぞ!

『戦極』のリングに、まさか、あの“GSP”ことジョルジュ・サンピエールが参戦! かと思いきや、よく見るとジョルジ・サンチアゴ……。しかし! 紛らわしい名前の持ち主だからといってマガイモノ扱いは禁物ッ! このサンチアゴ、アメリカの某ウェブサイトのMMAランキングでは、ミドル級（84キロ以下）で、日本でおなじみのデニス・カーン（同ランキング13位）やユン・ドンシク（同22位）を上回る11位にランク入りしている歴戦のツワモノなのだ（ちなみに対戦相手の佐々木有生は同96位）。

これまでのMMA戦績は16勝7敗。そのキャリアの中でも、日本でも名前のあるSKアブソリュートの和田拓也やラバーン・クラーク、ジェレミー・ホーン、そしてアンドレイ・シモノフらを相手に、すべて一本&KOで勝利している点が光る。とくに“鉄人”ホーンからアッサリ三角絞めを極める柔術黒帯の実力に加え、ストライカーのシモノフを左ストレートでKOするなど、その総合力は非常に高い。

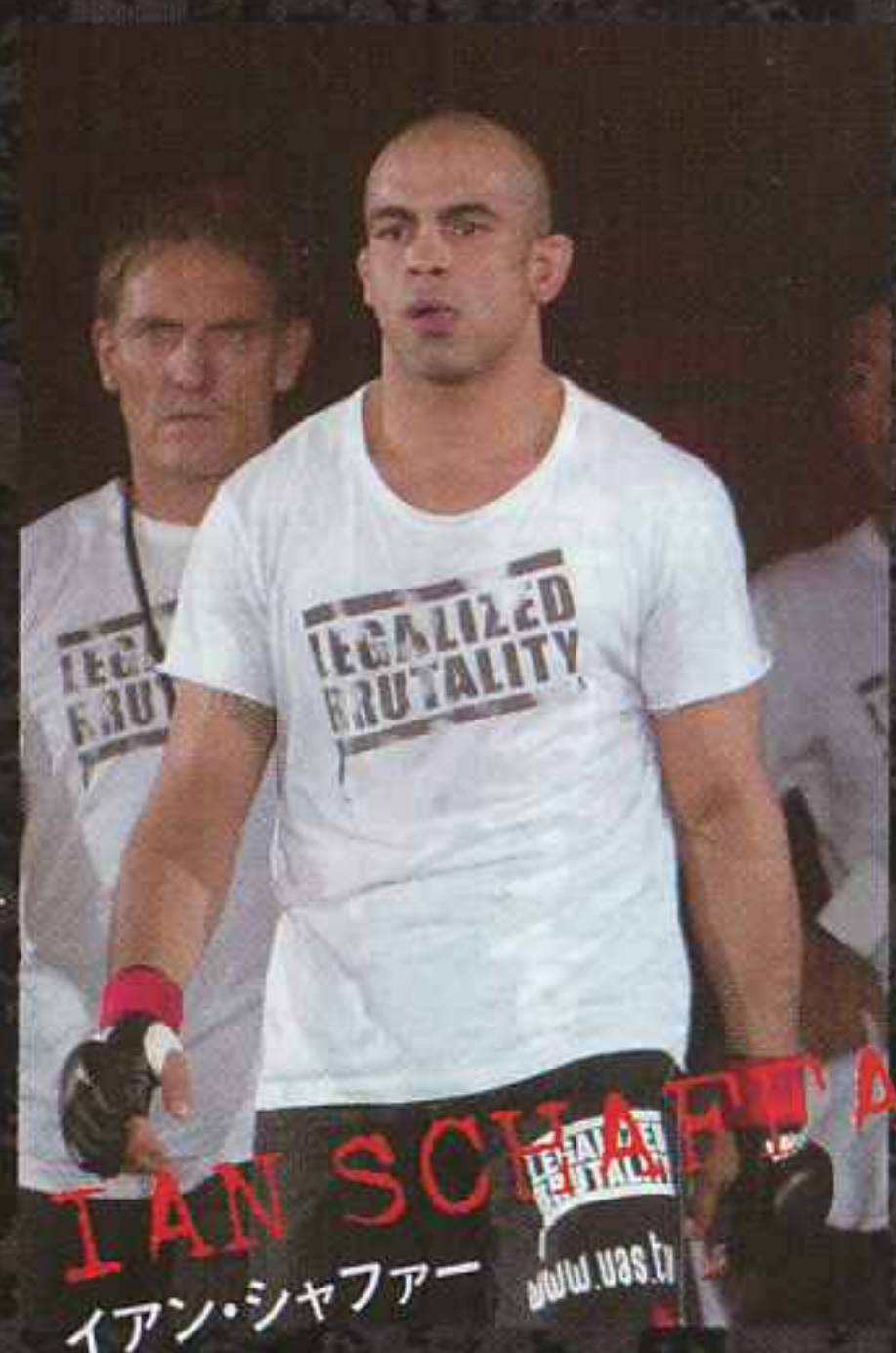
07年11月にはストライク・フォースのミドル級トーナメントで優勝するなど、日本での知名度こそないが、その実力は折り紙つき! もう“ニセGSP”とは呼ばせない（?）。

（大川義之）

日本の大舞台を経験したガイジン二人も出るぞ!

BIG JIM YORK
BIG・ジム・ヨーク

コイツはヤバイ! 何がヤバイって上の写真に注目! 写真は06年8月のMARS両国大会に参戦した際のものだが、ヨークのセコンドには『戦極』旗揚げ戦前日、藤田と乱闘騒動を起こしたマイク・グラハムの姿が! ってことは、今回も"KISS以上のこと"を予告している中尾さんと……!?

IAN SCHAFTA
イアン・シャファー

旗揚げ戦で五味隆典と対戦したドゥエイン・ラドウィックに続き、またしても"須藤元気を倒した男"が『戦極』に出るぞ! これまで『HERO'S』やK-1 MAXで山本KID、魔裟斗らと激闘を繰り広げ、知名度もそこそこあるシャファーだが、その激シブなルックスは、まさに『戦極』向きと言えるだろう。

©Entlian Co.

KWANG HEE LEE
イ・グァンヒ

"韓国の五味隆典"も出るぞ!

"韓国の火の玉ボーイ"も『戦極』に出るぞ!!

UFCに進出したキム・ドンヒョン、日本で活躍する女子格闘家のハム・ソヒを輩出した韓国の名門ジム「浄心館」の核弾頭、イ・グァンヒは05年から本格的にプロ格闘家としての活動を開始。すぐに『格闘王選抜大会』(80キロ以下級GP)、『ネオファイト6』(無差別級GP)で連続優勝をはたし、その合い間に柔術やグラップリング大会で優勝するなど、怒濤の勢いで勝利を重ねる。そして、適正体重の70キロに身体を絞り込み、満を持して06年に韓国のメジャー大会『スピリットMC』へと進出。ここでグァンヒはデビュー戦、そして2戦目でも強烈なパンチで連続KO勝ち。なんと! 2戦連続で相手を立ったまま失神させるという衝撃のパンチ力を見せつけ、一気にスターダムへと駆け上がる。

07年には、『HERO'S』にも参戦した韓国屈指のストライカー、クォン・アソルとのタイトルマッチで白熱した打撃戦を展開。最後は強烈なボディブローで相手をKOし、念願のベルトを腰に巻いた。この試合は、多くの関係者や選手から「韓国格闘史に残るベストバウト」と絶賛されている。

グァンヒの主武器は、もちろん核弾頭を搭載した強烈無比な打撃だが、それはしっかりとしたレスリングやグラップリングの技術があってのもの。普段は内気な性格だが、ひとたびリングに上がると狂気を帯びた闘争心を発揮する。その激しいファイトスタイルは"韓国の五味隆典"とも評される。

これまでグァンヒの総合戦績は全戦全勝。そのほとんどがKOでの勝利で、韓国では向かうところ敵なしの状態。『戦極』への参戦が決まると、グァンヒは自信満々に「70キロ級の最強は、みんな五味と言うだろうが、それは違うと思う。なぜなら俺こそが最強だから」と豪語! 五味戦実現の手土産として、まずは光岡映二の首を狩るッ!

(大川義之)

新顔の日本人も出るぞ!

EIJI MITSUOKA
光岡映二

和術慧舟會から『戦極』初参戦を決めたのが、DREAMライト級GPで1回戦を突破したヨアキム・ハンセンを、昨年、修斗のリングで下している光岡だ。ちなみにプチ情報として、同大会に参戦する北岡とは03年5月のコンテンダーズ横浜大会で対戦し判定勝ちを収めているぞ!

SATORU KITAOKA
北岡悟

PRIDEライト級GP出場を懸けた試合に勝つも大会が行なわれなかったり、先輩の船木誠勝に挑戦状を叩きつけるもシカトされるなど、すっかり"不運な男"のレッテルを貼られた北岡がライト級へ階級を落とし、毒舌も封印し『戦極』へ。今度こそ夢をつかめるかな?

YUKI SASAKI
佐々木有生

昨年11月、アメリカで開催されたストライク・フォースでのミドル級トーナメントに出場予定だったが、直前に"モヤモヤ病"が発覚し出場ストップがかかってしまったグラバカの佐々木が、その際の対戦相手だったサンチアゴと激突! "マイクの鬼"三崎和雄に続きブレイクなるか?

NAKAO"KISS"YOSHIHIRO
中尾"KISS"芳広

DREAM旗揚げ戦でのミルコ戦も噂された中尾さんが、新たなイケメンを求め(?)『戦極』に出陣! 対戦相手のヨークに対して「凄くいい男」と中尾さんも満足げで「KISS以上のモノが飛び出すかも」と不気味な予告をしているが、いざ?

『戦極～第二陣～』

東京・有明コロシアム
5月18日(日) 開場14:30/開始16:00

対戦カード

ジョシュ・バーネット vs ジェフ・モンソン
ホジャー・グレイシー vs X
ケビン・ランデルマン vs 川村亮
光岡映二 vs イ・グァンヒ
北岡悟 vs イアン・シャファー
佐々木有生 vs ジョルジ・サンチアゴ
中尾"KISS"芳広 vs BIG・ジム・ヨーク
マイク・パイル vs ダン・ホーンバックル

チケット料金

VIP席50,000円(特典:専用入場ゲート・グッズ付)/
RRS席25,000円/
戦極シート(S席) 15,000円(特典:グッズ付)
S席15,000円/A席7,000円
※1歳以上のお子様も入場券が必要です。

お問い合わせ

株式会社ワールドビクトリーロード
TEL.03-3369-2211

K-1ワールドエースの
おっとり王者

「仕事、学校、練習の毎日です」

K-1甲子園 U-18日本一

雄大

聞き手／ジャン斉藤　撮影／丸山剛史　試合写真／乾晋也

『K―1甲子園』王者は苦労人だった！
07年大晦日の『Dynamite!!』で行なわれた『K―1甲子園』トーナメントでは、1回戦で久保賢司、2回戦でHIROYAを倒し、見事チャンピオンに君臨した雄大。
これまで、HIROYA、藤門嘩裟、それから前ページに登場した才賀紀左衛門ら、K―1ワールドユース勢がたびたび本誌には登場してきたが、振り返ってみたらこのワールドユース最強にはさわってなかったよ！ なので、埼玉県は三郷市にある治政館に行ってきました。
そもそもこの取材を申し込んだ際に、FEG広報から「雄大選手は凄く忙しいとのことで、電話インタビューでしか対応できなさそうです」という驚きの返事を返ってきた。う〜ん、いったいどうしてそこまで多忙なんだろうか。なんとか取材にこぎ着けると、そこにはTBSがすぐ食いつきそうなひたむきな姿勢があったのだ！（仰々しいナレーション調）。というわけで、雄大の爪の垢を煎じて飲んだつもりで、インタビューを読みましょう!!

―今日は"K―1ワールドユース最強"の雄大さんにお話をうかがいに来ました！
雄大 あ、よろしくお願いします（緊張気味に）。
―雄大さんはけっこう取材は受けられているんですか？
雄大 はい。新聞がけっこう多いですね。雑誌だと『Number』です。
―取材が増えたのは、やっぱり大晦日の『K―1甲子園』で優勝されてからですよね。
雄大 はい。
―まあ、ウチは新聞とか『Number』とは全然違うアレなんですけど（笑）、今日は雄大さんの生い立ちと言ったら大げさなんですけど、昔の話から聞かせてください。もともとお父さんが空手の先生なんですよね。
雄大 はい。子どもの頃、親が夕方になると地元の体育館を借りて、空手を教えていたんです。だから3歳ぐらいから空手を始めてて。でも、練習とかも遊びみたいな感じだったんです。たぶん本気で強くなろうと思ったのは小学校の中学年ぐらいからですね。
―なぜ強くなろうと思ったんですか？
雄大 それは武田幸三さんがムエタイのチャンピオンを倒したのを観てからです。ウチのお父さんがいろいろビデオを見せてくれて、それで武田さんの試合を観て「俺もこうなりたい！」って思いました。
―武田さんがきっかけだったんですね。

07年『Dynamite!!』のK-1甲子園では、HIROYAがクローズアップされがちだったが、フタを開けてみると優勝したのは、この雄大。HIROYA戦では延長ラウンドまで闘った末、雄大が判定勝利を勝ち取った。

雄大 はい。それから週3回ぐらいだった練習を週6回やるようになって。ジムの館長がウチの父親と知り合いだった関係もあって、「中学卒業してプロでやりたいならウチに来い」って言われて。
―あ、中学時代からプロ志向だったんですか。
雄大 はい（ちょっと照れ気味に）。
―でも、迷いませんでした？ 中学卒業後にジムの寮住まいで格闘技漬けだなんて。ボクならもっと遊びますよ！
雄大 う〜ん、全然勉強もしたくないっていうか、苦手なんで（照れながら）。勉強やってもいい学校に行けるわけじゃないんで。あとはほかにこれはっていうこともなかったんで。
―そんな理由ですか（笑）。
雄大 はい（笑）。
―でも、周囲はビックリしたんじゃないですか？ たとえば学校の先生やお母さんにしても。
雄大 学校の先生は空手をやってたのを知ってたんで。お母さんは「自分の人生なんで、やりたいことをやってるんだったらいいんじゃない」って。
―理解がありますねぇ。ご両親は大晦日の試合は観戦されたんですよね？
雄大 はい。「とにかく優勝してよかった」って。プロ最初のデビュー戦だったんで、うちのお母さんなんてかなり心配していたみたいで。終わったら何日か寝込んじゃって……。
―うわ〜、それくらい心配だったんですねぇ。
雄大 試合を観てるの怖かったって言ってましたね。
―実家はどちらなんですか？
雄大 川越ですね。
―ここから（埼玉県の三郷）だと微妙な距離ですね。
雄大 毎日通うのは大変ですし。やっぱりたまに帰ったときは実家っていいなあ〜って思いますねぇ。
―寮では一人暮らしなんですか？
雄大 はい。ちょっと前はもう一人いたんですけど。
―今度おじゃましてもいいですか？
雄大 どうぞ（笑）。汚いですけど。
―いいですよ、べつに。今日このまま泊まっていっていいですか？
雄大 きょ、今日ですか⁉
―ダメ？
雄大 でも、いまは本当に部屋が散らかっているので……。
―いや、冗談ですよ（笑）。すみません、雄大さんの一日のスケジュールをちょっと教えていただけますか？
雄大 バイトがある日は、ビルとかマン

お母さんかなり心配してたみたいで大晦日の試合後、何日か寝込んじゃって

ションの清掃の仕事をして。
——あ～、所（英男）くんがやってたやつだ。
雄大 それが週に3～4日ぐらいですね。で、仕事がある日は朝の7時ぐらいに駅に集合して、車か電車で行くんですけど。それでだいたい夕方5時か6時頃に帰ってきて、9時か9時半ぐらいまで練習して。終わったら夜ごはんを食べて、洗濯とかをして片づけて、寝るのは12時ぐらいですね。
——大変だなあ。若いのにエライ!!
雄大 いえいえ（照れながら）。
——いいや、エライなあ。それで学校も行ってるんですよね。
雄大 通信制なんですけど。年度の最初の2ヵ月ぐらいは学校に授業を受けに週2～3回、柏まで行かなきゃいけないんですよ。それでテストを受けて合格すれば進級するんです。
——バイトも学校もまったく何もない日ってあるんですか？
雄大 ないですね。日曜は練習が休みなんですけど、バイトが入ってるんで。
——ちゃんと自炊はしてるんですか？
雄大 料理は全然できないですけど……。お米を炊いて、何かおかずを買ってきてみたいな感じです。
——何か覚えたほうがいいですよ。
雄大 よく言われます（照れながら）。でも、あんまり料理を凝っても、僕の場合食べるのがかなり遅いんで、寝る時間がたぶんなくなるので。
——雄大さんは、なんだかおっとりしてますもんねぇ。
雄大 はい。格闘技をやってるふうには見えないってよく言われます。
——注文したマンゴージュースも全然飲んでないし。
雄大 あ、すいません！（やっぱり照れながら）。
——だったら朝ごはんも大変なんじゃないですか？
雄大 朝は菓子パンです。
——子どもじゃないんですから（笑）。ちゃんとごはんを食べなさい!!
雄大 アハハハ。朝は米が喉を通らなくて、甘くなくっちゃダメなんですよ。
——甘くないとダメか。せめてトーストにしましょうよ。
雄大 そういうのでも大丈夫ですけど、朝が早いんで、コンビニでパンを買ってます。
——それは困ったなあ……、ってこっちが困る必要はないんだけど（笑）。格闘技以外で趣味的なものってあるんですか？
雄大 趣味っていうような趣味はないですね。
——最近、気になっていることとかは？
雄大 うーん……とくにないですねぇ。
——じゃあ、本当に格闘技以外は興味はないんですか？
雄大 いや、そうでもないです（照れながら）。
——どっちなんですか！（笑）。じゃあ、ファイトマネーは何に使ってるの？
雄大 ファイトマネーは貯金しました。練習とか仕事ばっかりしているんで、あんまりお金は使わないですね。
——じゃあ、けっこう貯まってるんですね。いいなあ。
雄大 まあまあです（笑）。
——しかし、中学を卒業して、寮住まいで何かに打ち込む人って、いまどきかなり珍しいですよ。これからもやっていけそうですか？
雄大 それは全然、大丈夫です。練習がきつかったり、ケガをしたりしてイヤになるときはありますけど、応援してくれる人もいるんで、そういう人たちのためにも頑張らないと。あとは自分でも目標があるので。
——どんな目標でしょうか？
雄大 世界チャンピオンですね！ 5月の25日にも試合があるので頑張りたいですね。
——なるほど、なるほど。ところでK—1ワールドユースという舞台についてはどう思ってるんですか？
雄大 いろんな国の人と闘えるんで、そういった意味でいい経験ができるなあと思いました。あとHIROYAくんとは中学校のときに試合をしたことがあるんですけど、どんだけ強くなっているかなと思いながら観たりしてました。
——ほかのK—1ワールドユースの選手たちとは話す機会はけっこうあるんですか？
雄大 記者会見の待ち時間に少し話したりとか。でも、HIROYAくんと、闘嘩裟くんはほとんどしゃべらないですね。一番しゃべるのは……。
——ああ、言わなくてもけっこうですよ。紀左衛門でしょ？
雄大 はい（笑）。凄くしゃべりますね、紀左衛門さんは。ボクには友好的ですけど。
——でも、陰で何を言っているかわからないとか思いませんか？（笑）。
雄大 そうですね～（笑）。
——HIROYAくんとしゃべらないのは昔からのライバル関係があるからなんですかね？
雄大 ボクはべつに話しかけてきたら話しますし、でも、向こうがあんまり……。で、そういう気なら自分もって。
——闘嘩裟くんとは？
雄大 昔は一緒に練習していたんですけ

いまのところはK-1MAXの中で数試合だけ行なわれているワールドユースだが、ゾクゾクと選手は集まりだしている。実力や存在感が抜きん出ている選手はいないが、強くておもしろいヤツがエースだ!!

朝は菓子パンです。米が喉を通らなくて、甘くなくっちゃダメなんですよ

門嗶裟くんは本当に昔と変わっちゃって いまは挨拶しても無視されますし……

雄大

ど、その頃とまったく変わっちゃったんですよ。門嗶裟くん、うちのお父さんの道場にいたんですよ。

——へえ。そうなんですか。いつ頃の話ですか?

雄大 小学校の中学年か低学年ぐらいのときですね。

——かなり前の話だ。じゃあ、その頃はかわいかったんじゃないですか?（笑）。

雄大 そ、そうですね、まぁ（笑）。

——門嗶裟くんってどういうふうに変わりました?

雄大 なんていうんですかね……。雰囲気からしてもう。昔は普通によくしゃべったりしたんですけど。いやあ、なんかもう……。ほかの人と雰囲気が違うんですよね。

——ククク。

雄大 本当に昔と変わっちゃって、いまは全然しゃべったりもできませんし、挨拶しても無視されますし……。

——ダハハハハ! そのあいだのHIROYAくんと門嗶裟くんの試合はどうでした?

雄大 おもしろかったです。思ったよりもHIROYAくんが苦戦していましたね。

——そうですか。じゃあ、体格差もあるっていうことで、HIROYAくんが圧勝するんじゃないか思っていたんですか?

雄大 そうですね。

——ということは、雄大さんと門嗶裟くんのあいだにも大きな差があると?

雄大 試合というのはやってみないとわからないですけど、自分が圧倒的に勝つというか、やるんだったら見せつけるみたいな感じです。このあいだトーナメントをやったメンバーはだいたい昔から知ってるんですよね。

——ある程度、認め合っている関係ということですね。

雄大 そうですね。昔からけっこう闘ったりしているので。

——そのメンバーがいまやK−1ワールドユースという場に集結してるなんて、けっこうドラマ性がありますね。

雄大 そうですね。それにK−1はいろんな人が観てくれているんで。やっぱりテレビに出られるんで。

——やっぱりテレビの反響は凄かったですか?

雄大 そうですね。いろんな人が観てくれますから。あとこういった取材があったり、あとこれは恥ずかしいんですけど、『SASUKE』に出ることができたんで。結果はダメでしたけど。

——それを見て「俺が出たらもっと凄かったのに!」って吠えてる人がいたんですよ。

雄大 知ってます。……紀左衛門さんですよね?

——もしかして、直接言われたんですか?

雄大 言われました（笑）。

——ダハハハハハ! 凄いなあ、紀左衛門は（笑）。

雄大 キックとか格闘技のリングだったら僕が一番強いですけど、あれはしょうがないんで、そっちは譲ります（照れながら）。

——まあ、気にしないでください（笑）。最後の今後の目標をお願いします。

雄大 そうですね。とりあえず目の前にある目標をクリアしていって、そういうふうに自分がやる試合をどんどん勝っていけばいろいろと見えてくると思いますので。

——高校を卒業したらどうしますか?

雄大 キックと仕事を続けます。

——偉いなあ。

雄大 いや〜（照れながら）。

——さ、早くマンゴージュースを飲みましょうか（笑）。

【08年4月23日／三郷のびっくりドンキーにて収録】

ゆうだい■1991年1月24日、埼玉県出身。空手の先生である父の影響で3歳から空手を始める。その後、武田幸三に強い憧れを持ち、中学生でプロ志向に。07年『Dynamite!!』のK-1甲子園では、プロデビューの大会ながらも、いきなり優勝。藤門嗶裟をはじめ、同じK-1ワールドユースの仲間たちとは古い付き合いでもある。168cm、58.0kg。

試合もないのにまたまた登場！

「HIROYAくんはとんだ〝計算野郎〟ですよ！」

おしゃべりユース野郎
才賀紀左衛門

試合予定もないのに再び登場！
本誌初登場となった『kamipro』No.121で、
その適当かつ毒気あふれるマシンガントークで好評を博した
才賀紀左衛門!! 愛称はモンちゃん。HIROYA、藤門曄裟らに
負けないキャラクター性を持っており
今後のワールドユースの行方を握る一人なのだ。
今年の夏頃にはワールドユース単独興行の噂もされているが
"おしゃべりユース野郎"はHIROYAvs藤門曄裟戦をどう見たか？

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

HIROYA vs 藤門嘩裟戦!?
そんなもんアウト・オブ・眼中ですわ!!

紀左衛門（以下、モン）　今日はまたどういう取材ですか？

――K―1ワールドユースがかなり盛り上がってきているので、ここは再びモンちゃんの出番じゃないか、と。どうですか、掛布雅之以外のモノマネレパートリーは増えました？

モン　最近は谷川（貞治）さんですかね。……「紀左衛門くぅ～ん！」って。

――んあ～！　凄い、凄～い（笑）。

モン　ちょっと『kamipro』さんのほうでも、谷川さんにお願いしてくださいよ～。「紀左衛門が凄い、紀左衛門が凄い。試合に出しましょう！」って！（ペラペラペラペラ）。

――ウチはね、あんまりK―1を扱ってないんですよ。

モン　え？　なんでですか？

――いやあ、谷川さんは毎回取材してるんですけどね（笑）。そんなことより、先日行なわれたHIROYA vs 藤門嘩裟戦はいかがでした？

モン　こないだのインタビューでも言ったと思うんですが、アウト・オブ・眼中ですわ!!　どうですか、観てておもしろかったですかぁ？（怪訝そうな顔で）。

――自分はおもしろかったですよ。

モン　へぇ～。まあ、人それぞれ好みちゅうもんがありますからねぇ。

モノマネの新たなレパートリーとしてサダハルンバのモノマネを習得した紀左衛門。ぜひサダハルンバの目の前でやってほしいものである。んあ～！

――まるでボクがノーセンスみたいな言い方ですね。

モン　いやいや、ボクもこないだのロイ・タン戦はイマイチな試合やったんで、あんまり他人のことを言えない立場なんですけど。こないだ言ったとおり、HIROYAくんが勝つと思ってましたし、HIROYAくんを応援してましたね。

――ワールドユース世代として燃えるものはありませんでした？

モン　門嘩裟くんに対してはな～んとも思わなかったですけど、HIROYAくんには前に判定で負けてるんで、絶対に捕まえてやろうというか、次にやったらKOする自信はありますねぇ。

――あの試合が盛り上がったことで、ワールドユースの注目度はアップしてるんですけど、そういう実感ってあります？

モン　そんなにないですけど、早く試合がしたいですねぇ。7月のK―1MAXにはぜひ出させていただきたいですし、プロとして魅せる試合がしたいです。ボクはもっともっと有名になりたいんですよ。いまよりもっと強くなって、もっと有名になって！

――強くなるのと有名になるのとどっちがいいですか？

モン　両方ですよ！

――いやいや、モンちゃんは有名になりたいほうでしょ？

モン　何を言うてるんですか！　両方取ります、ボクは。

――まあ、強くても有名にはなれない選手はいますよね。

モン　いますね。おもしろくない試合をしたりして。

――で、強くなくても有名になれる人もいますよね。試合内容がおもしろいとか、何か人を惹きつけるものを持っている。

モン　ボクは両方、目指したいですね。いまのMAXって魔裟斗さんが支えてるじゃないですか。でも、魔裟斗さんももう29歳じゃないですか。一般のお客さんの中には魔裟斗が引退したらもうMAXは観ないっていう人もおると思うんですよ。そこでボクが強くなってメディアにも出れば、MAXの知名度も上がるわけじゃないですか。魔裟斗さんが引退してもMAXが大丈夫なようにボクがしっかりできればいいなと思いますね（ペラペラペラペラ）。

――ふ～ん。なんだか殊勝なことを言ってますけど、要するにK―1をきっかけにして有名になって、テレビドラマに出たいというわけですね。

モン　よう言いますわっ！　ボクは格闘家ですよ。まっ、練習に影響しないならべつにいいですけどね～。

――出るんだ。

モン　まあ、バラエティとかやったら練習に影響しないでしょうねぇ。

――そっちはいいんだ！（笑）。

モン　いや、マジで出たいっすよ、『踊る！さんま御殿!!』とか。ボク、あんなん出たらメッチャおもろいですよ！

――『TBSオールスター感謝祭』でマラソンしたいぐらいですか？

モン　ボク、マラソンをやらしたらヤバイですよ～。だいぶ速いっすよ～！

――そういえば、HIROYAくんはだいぶ前に『関口宏の東京フレンドパーク2』に出てましたね。

モン　ちょっと、言っていいですか？　HIROYAくん、あの番組で全然おもしろくなかったっすよっ!!

――ちゃんとチェックしますね（笑）。

モン　ボクが出てたらもっと凄いですよ。視聴率を上げますよ！　ちゃんと友だちにも宣伝するし。

――それで視聴率は上がりませんよ！

「HIROYAくんを応援していた」と言いながら、前回の取材では「HIROYAくんはKOしないとダメでしょ～。でないとなるとHIROYAくんもねぇ～」と、おもいきりプレッシャーをかけていた紀左衛門。さすがユースの年長者、いやらしい大人の戦術だ!?

モン　いやいやいや、ボクが出たらあんなもんじゃないですよぉ。HIROYAくんなんて、ただニコニコ笑ってるだけじゃないですか！

――いいじゃないですか、HIROYAくんらしくって。モンちゃん、歌はどうなんですか？

モン　ボク、ムッチャうまいですよ！

――なんでもうまいんですねぇ。

モン　なんでもいけますけど、まあ、シブイのあたりやったらDEENの「このまま君だけを奪い去りたい」とかですかねぇ～。自信ありますよ～。

――へぇ～。ちょっと、サビだけ歌ってみてくださいよ。

モン　えぇ～？　恥ずかしいじゃないですかあ、こんなファミレスで。

――谷川さんのモノマネはしてたのに（笑）。しっかし、そんなに有名になりたいのに『kamipro』にしか出てないのは問題ですねぇ。

モン　いやいや『kamipro』でも充分嬉しいですよ！

――みんなね、最初はそう言うんですよ。ところが有名になるにつれ……。

モン　いやいやいや！　もうね、ボクが『kamipro』を背負いますから！

――それも凄い話だなあ。

モン　まあ、『kamipro』のほかにもいっぱい出たいんですよねぇ。

――ほら、やっぱり出たいんでしょ（笑）。

モン　フッフッフッ。ボク、いいふうにも悪いふうにもチヤホヤされるのが好きなんですよ～。フッフッフッ！

――悪いふうにもチヤホヤされたいのか（笑）。気をつけてくださいよ。芸能界でも未成年者がよく問題を起こすじゃないですか。もの凄く心配!!

紀左衛門の考えるK―1ユース勢のイメージ

HIROYA
「計算野郎」

みんなが認めるさわやかファイターのHIROYAも、紀左衛門からすれば、ただの"計算野郎"なのだからビックリ。紀左衛門の恨みは恐ろしい。

藤鬥嘩裟
「ウーパールーパー」

図らずも極真魂とウーパールーパーという二つの昭和幻想を掘り起こした藤鬥嘩裟。そう言われると、なんだかウーパールーパーに似ている気がしないでもない。

雄大
「ジャージ」

もはやイメージというより、単なる服装だよ！　107ページからの雄大インタビューでは、紀左衛門との関係性が明らかになっているのでチェックだ。

モン　ボク、ああいう自殺行為は絶対にしないです。正味の話、いつどこで誰が見てるかわかんないじゃないですか。まあ、ボクはへんなことをしてないから関係ないですけどねぇ。

――女の子を泣かすくらいですよね。

モン　いやいや！　何を言うてんすか！　ボク、彼女いないですよ。フラレっぱなしの人生なんで（ニヤリ）。

――ちなみにモンちゃんのファンクラブとかってあるんですか？

モン　わかんないです。

――追っかけはいないんですか？

モン　ああ、それはまあ。

――あるんだ（笑）。モンちゃんって同性の方からも人気がありそうですよね。

モン　そういえば、大阪のミナミを歩いてたらオカマバーにスカウトされたことがありますね。あと高校1年生の頃になぜか男の子に告白されたことはありますけど。

――んあ～！　凄い、凄～い（笑）。

モン　ボクの友だちの知り合いの子で、正直、最初は「こいつ、オレに殺されたいんかな」と思いましたけど。「才賀さんのことが好きです！」って言われて。「こいつ、どないしたん？　大丈夫!?」って。

――大変ですねえ、両性から。

モン　まあね、好かれるのはいいことなんで嬉しいっちゃあ嬉しいですけど。ボクら格闘家は人気があってナンボの世界なんで。一人でも多くのファンがいてくれるなら大歓迎です。

――ブログとかはやらないんですか？

モン　ミクシィっちゅうのはやってますよ。（携帯からアクセスして）ほら！

――へえ。絵文字とか使ってるんですね。

モン　そらあ絵文字、使いますよ。ボク、10代っすよ。

――そういえば、鬥嘩裟くんもブログで絵文字を使ってますね。

モン　ふ～ん。そこは彼なりの戦略なんじゃないですかぁ？

――これこれ、鬥嘩裟くんは腹黒くないですよ！（笑）。

モン　鬥嘩裟くんってシャイな子なんじゃないですか？　ストイックじゃなくてシャイボーイのほうがいいんじゃないですかねぇ。

――そんな鬥嘩裟くんに話しかけたことはあります？

モン　あ、思い出した！　HIROYAくんが『kamipro』のインタビューで「紀左衛門さんが話しかけてくるんで……」って迷惑そうに言ってたじゃないですか。あれ、全然違いますよ！

――あ、そうなんですか。

モン　「あのボケ、何を言っとんねん！」と思って。あいつ、ガンガンしゃべりかけてきますよっ！　ボクも積極的にしゃべりかけるほうですけど。けっこうHIROYAくんもにこやかにいろいろ話しかけてくれますよ（ペラペラペラペラ）。

――どんなことを話すんですか？

モン　「最近どう？　学校は」とか「タイ語、しゃべれんの？」とか話すと、「紀左衛

鬥嘩裟くんってシャイな子ですよね？
ストイックじゃなくてシャイボーイ

それに雄大くんって、見た目とか地味い～じゃないですか

門さんはどうなんですか？」とかボクに質問してくるわけですよ。ってことは言葉のキャッチボールができてるわけじゃないですか。それなのに迷惑そうにして。「HIROYAくん、こいつ何、口からナックルボールを放ってんねん！」と思いましたよ～。

―HIROYAくんにやられましたか。

モン　やられましたねぇ。いい子ぶって、ビックリしますよ、もう。HIROYAくんは、とんだ〝計算野郎〟ですよ！

―〝計算野郎〟（笑）。

モン　冗談ですよ（ニヤニヤ）。

―ちなみに門嘩裟くんにはどんなイメージがあるんですか？

モン　門嘩裟くんって暗いイメージがあるじゃないですか。ウーパールーパーに似てるんですよね？

―いや、飼ってるんですよ。

モン　あ、飼ってるのか。まあ、いいんじゃないですか、ウーパールーパー。どんな子か知らないんで、あんまり悪いふうに言いたくないですけど、学校でも友だちがいなくてずっと一人で座ってそうなイメージがあるんですよ～。

―ちょっと、おもいきり悪く言ってますよ（笑）。

モン　（無視して）ボクは小学校の頃から、どちらかといえばあまりよろしくないほうの子やったんですけど、そのかわり友だちも多かったですし。門嘩裟くんはボクのこと苦手じゃないんかなって思いますね（ペラペラペラペラ）。

才賀紀左衛門

―ワールドユース王者の雄大選手はどういう方なんですか？

モン　『SASUKE』に出た方です！

―どんなイメージですか！　もしかして、モンちゃんも『SASUKE』にも出たかったんですか？

モン　ボク、ひょっとしたらというのは聞いてたんですよね～（悔しそうに）。でも、雄大くんが出たから、ボクの出番はなくなりました。でも、雄大くんは即行で失格になってねぇ～！

―恨みがましいなあ。

モン　（眉をひそめながら）いやいや、ボクが出たいというより、ワールドユースの選手はこんなに身体能力が低いのかと思われたんとちゃうかなと思ったんですよ～。雄大くん、あそこでワールドユースの身体能力をガク下げっすよ～。あ～あ、ボクが出ていればなあ～（ペラペラペラペラ）。

―もうわかりましたから（笑）。

モン　それに雄大くんって、見た目とか地味ぃ～じゃないですか。ボク、雄大くんのこと、あんまりわかんないんでアレですけど、ジャージのイメージが強いですよね～。よく知りませんけど。

―あまりわからないのにそこまで言いますか（笑）。

モン　全部冗談ですよ！

―んあ～！　早くモンちゃんの試合が観たいですね。

モン　やはりボクは格闘家なんで、しっかりK―1で試合を組んでいただけるなら試合したいですし。で、次の試合のときには「ああ、紀左衛門は変わったな」と（しみじみと）。

―いったい何がそんなに変わったんですか？

モン　ファイトスタイル。足技を活かして、構えも変えて。もっとこうステップも使えるようになりたいですし、7月に試合があるんなら7月には完成したいと思いますけど。そこは試合のときのお楽しみっていうことで。

―わかりました！　期待してますので。

モン　お願いしますよ～。紀左衛門く～ん、紀左衛門く～んって応援してくださいよ～（ペラペラペラ）。

【08年4月16日／大誠塾にて収録】

さいが・きざえもん■1989年2月13日、大阪府出身。幼少時代から空手を始め、その後大成塾に入門。350戦300勝というなんともダイナミックな戦績を引っさげK-1に堂々参戦。初登場はK-1甲子園への出場が難しくなった藤門嘩裟の代打として出場した07年『Dynamite!!』HIROYA戦。ジャニーズ系のビジュアルと、そこからは想像させない“テキトーキャラ”で、今後ブレイクの予感を秘める期待のティーン。168cm、60kg。

プロレスと格闘技とkamiproの情報と
生きていく上ではなんら必要ない与太話が満載

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
カミプロドットコム

カレンダーや試合結果も追加しました!
今後もどんどんバージョンアップします!

ニュース

日々、大小さまざまなニュースであふれかえっているマット界。プロレス&格闘技界の重要なカード発表の記者会見や気になり始めるとごはんもノドを通らないような試合結果などをその日のうちにアップします! 最新情報にいち早くアクセスしたいなら毎日アクセス! またRSS対応しているので更新したらすぐにチェックすることも可能です。

kamiインタビュー

マット界の激流の中で輝きを放っている旬の選手&関係者のインタビューをいち早くお届けする当コーナー。いままで登場したのは青木真也、青木パパ、石田光洋、永田克彦、モンテ・コックス、レッドデビル代表ワジム・フィンケルシュタイン、ZSTの所英男&“ミニ・ホンマン”奥出雅之、ジョシュ・バーネットなど。続々と注目の選手が登場します。

ポッドキャスト

本誌の座談会でもおなじみの“カリスマ司会者”原タコヤキ君が送るプロレス&格闘技のポッドキャスト番組。THE PEHLWANS代表・井上崇宏、ハッスル事情通ライター・八木賢太郎、本誌編集部の野良犬・阿修羅チョロが週替わりで登場。たまにイレギュラーで乱入ゲストもあり! 呼んでもいないのにRGが来たりもします。聞き逃し厳禁!

最新号情報

「いつ発売するんですか?」「次号は誰のインタビューが載ってるんですか?」などというお問い合わせをいただくことが多い本誌編集部。でも、これからは最新号の情報はWEBサイトでいち早く公開しますよ! エンターブレインの通販サイト「eb!ストア」とリンクしているので、買い逃していたバックナンバーも購入可能です。

このほかにも毎日の記者会見や試合の記事からこぼれ落ちた写真をフォトニュースとしてアップ!!
殺伐とした話題が多い昨今ですが潤いをもたらしてくれます!
さらに、Tシャツや単行本のリリース情報、カレンダーやメールマガジン配信など、
思わず「これいいんですか?」と聞きたくなる充実のコンテンツをすべて無料でお楽しみいただけます!

レッツ毎日アクセス!!

http://kamipro.com

※携帯電話からはアクセスできませんのでご了承ください。

Special PRESENTS

超イケてるプレゼント満載!

今回の読プレは ヤバい絶対!!

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2008年6月10日以降発送予定です)。
【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦秋山成勲が闘いたいファイター3人は誰?⑧最近おもしろかった興行は?
【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「俺こそおまえが大嫌い」係まで
※締切は2008年6月9日(月)当日消印有効

kamipro Special 応募券
見てわかるんかな?

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

DREAM

DREAM ■ http://www.dreamofficial.com/

Back

1名様

DREAM オフィシャルTシャツ

[ホワイト/¥4,210(税込)]

旗揚げから約2ヵ月が経過! ミドル級&ライト級GPのどちらも1回戦を終えて、いよいよ怒濤の2回戦へと突き進む、DREAMのオフィシャルTシャツを1名様にプレゼント。

1名様

DREAM オフィシャルフェイスタオル

[ブラック/¥4,200(税込)]

5.11『DREAM.3』ライト級GP2回戦では、主催者推薦枠問題でますますヒートアップする石田vs宇野も実現! 会場で手に汗握るあなたにジャストフィットなタオル。

3名様

山本"KID"徳郁 KID "bless"タオル

[ホワイト/¥2,100(税込)]

ひさびさの登場となった今号では、DREAM旗揚げ戦の話から超"ヤバい"お子さん話までを語りまくり。日本格闘技界に欠かせない男、山本"KID"徳郁のタオルをドーンと3名様に。

2名様

山本"KID"徳郁 TATTOO Tシャツ Ver.2

[ホワイト&ブラック]

4月にはフィットネスジム『ヤマモト・スポーツ・アカデミー』もオープン! 自身のトレーニング、後進の育成にも余念がない山本KIDの超イケてるTシャツが到着!!

1名様

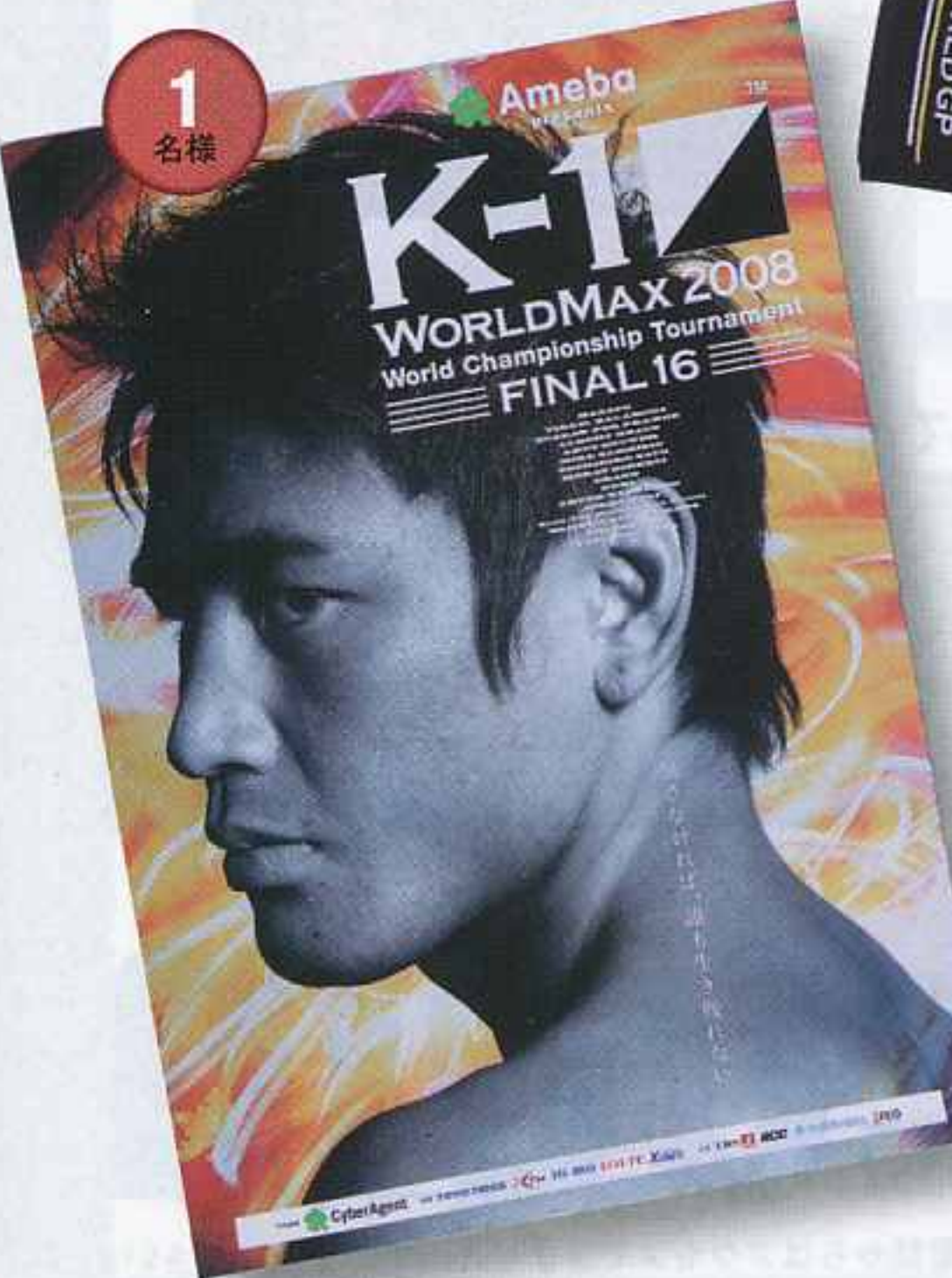
DREAMオフィシャルチャームストラップ

[ブラック/¥2,100(税込)]

これがあれば、いつでもどこでも"夢"と一緒!! 格好いいDREAMのロゴがクールにデザインされたオフィシャルチャームストラップが到着! ズバリ、1名様にプレゼント!

K-1

FEG ■ http://www.k-1.co.jp/

1名様

3名様

セーム・シュルト "絶対王者" フェイスタオル

[ブラック/¥1,890(税込)]

現役の歴代GP王者を総ナメ! あいかわらずズバ抜けた強さを誇るシュルト。谷川代表も「相手がいないんだよねぇ〜」と嘆く"絶対王者"のフェイスタオルを3名様に!

K-1 WORLD MAX 2008 FINAL 16 パンフレット

[¥2,100(税込)]

10代同士による真剣勝負に鳥肌立った! HIROYA vs 門嗥裟の宿命の黄金対決をはじめ、魔裟斗やサワーなどMAXオールスター勢揃いの4.9 K-1 MAXのパンフレット。

2名様

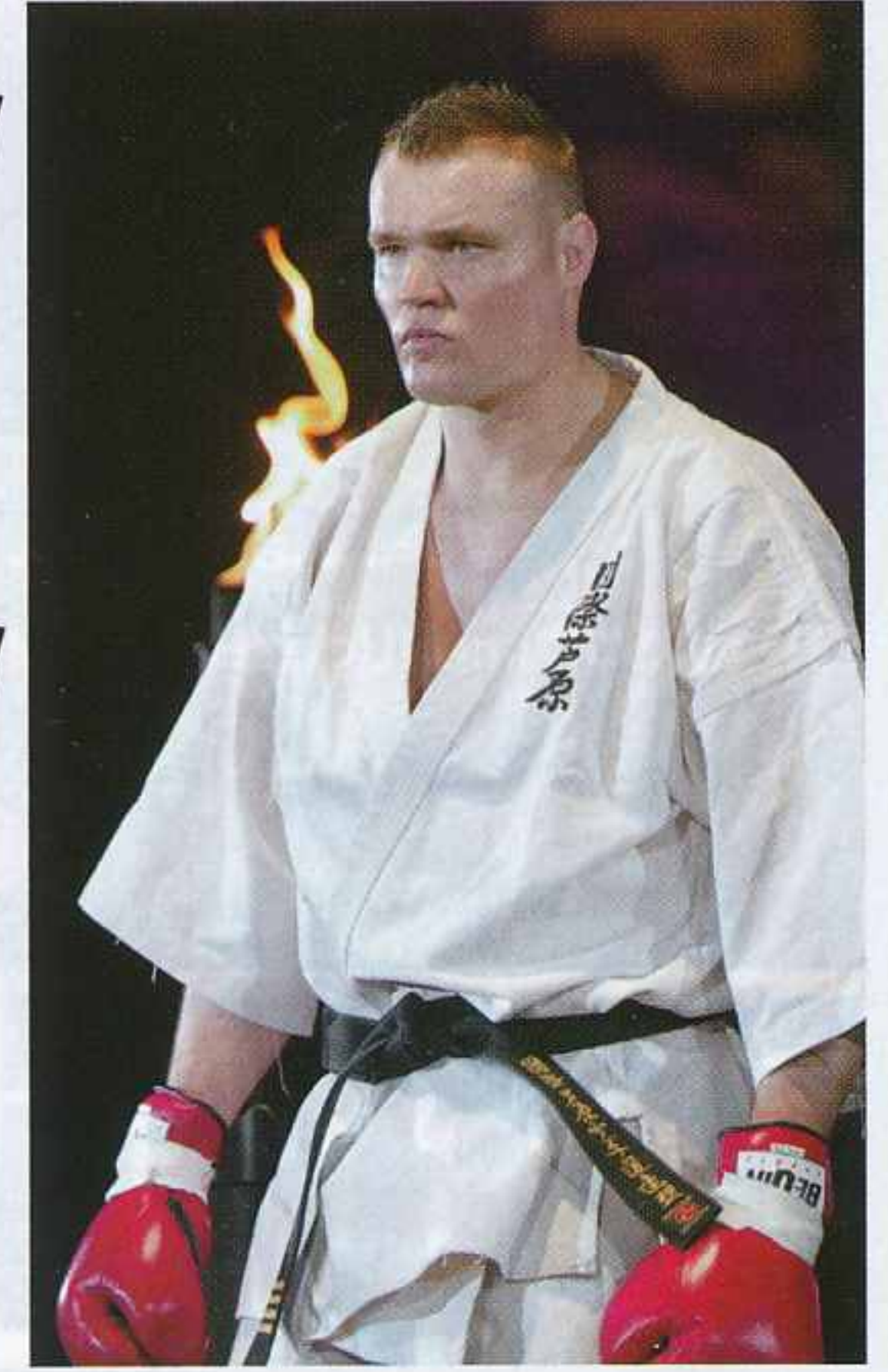
"絶対王者" vs "サモアの怪人"大会記念 "SCHILT vs HUNT" Tシャツ

[ブラック/¥1,890(税込)]

"サモアの怪人"が5年ぶりにK-1復帰! 注目を集めたマーク・ハント vs セーム・シュルトの一戦をプリントした、4.13 横浜アリーナ大会記念Tシャツが堂々登場!

SENGOKU

戦極 ■ http://www.sengoku-official.com/pc/

3名様

戦極〜第二陣〜ポスター

[¥525(税込)]

出るぞ！ ジョシュvsジェフ・モンソンをメインに、ホジャー・グレイシー、ケビン・ランデルマン、中尾"KISS"芳広など、注目ファイターが続々参戦する『戦極〜第二陣〜』のポスター。

NEW JAPAN

新日本プロレス ■ http://www.njpw.co.jp/

新日本プロレス・ステッカー

[¥500(税込)]

一番凄いのはプロレスなんだよッ！(中邑真輔調)。昨年35周年を迎えて、さらに邁進する"キング・オブ・スポーツ"新日本プロレスのステッカーが到着！

各1名様

G・B・HTシャツ

[ホワイト／¥3,000(税込)]

"友情タッグ"を裏切った飯塚も加入し、勢力拡大！ 新日本プロレス・最高峰のヒール軍団GBHのTシャツ！ グレート・バッシュ・ヒールの名に恥じないイカした逸品だ。

G・B・H バンダナセット

[ホワイト＆ブラック／¥1,500(税込)]

今号では『バック・トゥ・レスリング』企画に登場！ そのヒール哲学と成り上がりプロレスラー道について語った邪道＆外道も加入するGBHの素敵なバンダナセット！

HUSTLE

ハッスル ■ http://www.hustlehustle.com/

サイン入り

サイン入り インリン様 女神「LOVE」Tシャツ

[ホワイト／¥3,990(税込)]

いよいよカウントダウン！ 今号では、5.24『ハッスル・エイド』の引退へ向けて胸中を語ってくれた、インリン・オブ・ジョイトイのサイン入りインリン様Tシャツを提供。

1名様

ART JUNKIE

ART JUNKIE ■ http://www.artjunkie.jp/

Back

1名様

ヌー・W・F ニューカラーTシャツ

[グリーン／¥3,675(税込)]

おなじみART JUNKIEからは昭和プロレス者にはたまらないストロングスタイルのダブルスタンダード『N』と『U』を一つにした謎の団体ヌー・W・FのTシャツを1名様にプレゼント。

PANCRASE

PANCRASE ■ http://www.pancrase.co.jp/

Back

1名様

北岡悟・フロックマTシャツ

[ホワイト／¥3,675(税込)]

北岡悟の必殺技といえば、フロントチョーク！ これを使いこなすクマ、フロックマのデザインTシャツをプレゼント。これを着て5.18『戦極〜第二陣〜』に応援しに、行くぞ！

REVERSAL

REVERSAL ■ http://www.rvddw.com/

FULL MARK POINT BELT

[ホワイト／¥6,090(税込)]

人気格闘ブランドのreversalからは、ひび割れ加工という質感へのこだわりや、無骨な手触りもイカすオリジナルベルトが到着！ ベルトが見えるこれからの季節に最適！

各1名様

サイン入り TOKOROTシャツ9 "REBIRTH"

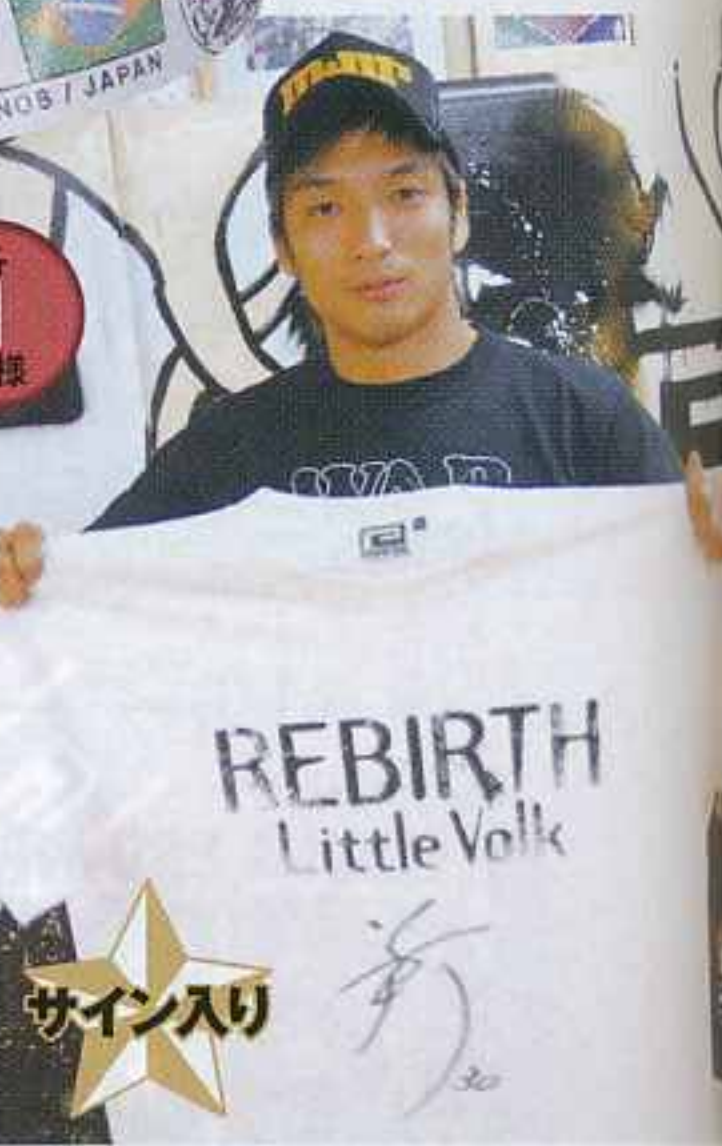
[ホワイト／¥5,040(税込)]

今号では、大晦日の田村潔司戦やDREAM旗揚げ戦の感想、そして噂の山本KIDとの対戦という野望まで明らかにした"世界の所さん"こと所英男のサイン入りTシャツ！

サイン入り

QUEST

各1名様

QUEST ■ http://www.queststation.com/

今成正和サイン入り DEEP THE BEST 2007

[188分／¥5,880(税込)]

2007年のDEEPが丸わかり！ 長南、今成、長谷川にしなしさとこなど個性あふれる選手のタイトルマッチ6試合を含む、昨年のDEEP名勝負全23試合を収録した今成正和のサイン入りDVD！

サイン入り

『高阪剛 TK式格闘学会 実践編 vol.1』 135分／¥5,880(税込)
『高阪剛 TK式格闘学会 実践編 vol.2』 131分／¥5,880(税込)
『高阪剛 TK式格闘学会 実践編 vol.3』 100分予定／¥5,880(税込)

BOOK

各3名様

講談社 ■ http://www.kodansha.co.jp/ 扶桑社 ■ http://www.fusosha.co.jp/

猪木式教育論 父親の背中の見せ方

[アントニオ猪木(著)(講談社)／¥1,000(税込)]

アントン総裁が猪木式教育論を語った一冊が登場ッ！「亀田史郎さんはいい親父じゃないですか」、「夫婦のあいだの反則も5カウントまで」などアントン節が満載！

天職への階段 〜29人の仕事愛〜

[週刊SPA!編集部(編)(扶桑社)／¥1,365(税込)]

アントニオ猪木からマッスル坂井まで！ さらにビートたけし、立川談志、角川春樹、DJ OZMAなど29人の"天職"に出会った著名人のロングインタビューを収録した一冊を提供。

SHOOTO

3名様

修斗 ■ http://www.x-shooto.jp/

5.3 修斗JCBホール大会 "修斗伝承"ポスター

桜井"マッハ"速人に佐藤ルミナ、リオン武も参戦！ ウェルター級タイトルマッチも行なわれた、5.3 修斗JCBホール大会のポスターが到着。題字の"修斗伝承"の文字は関根勧書！

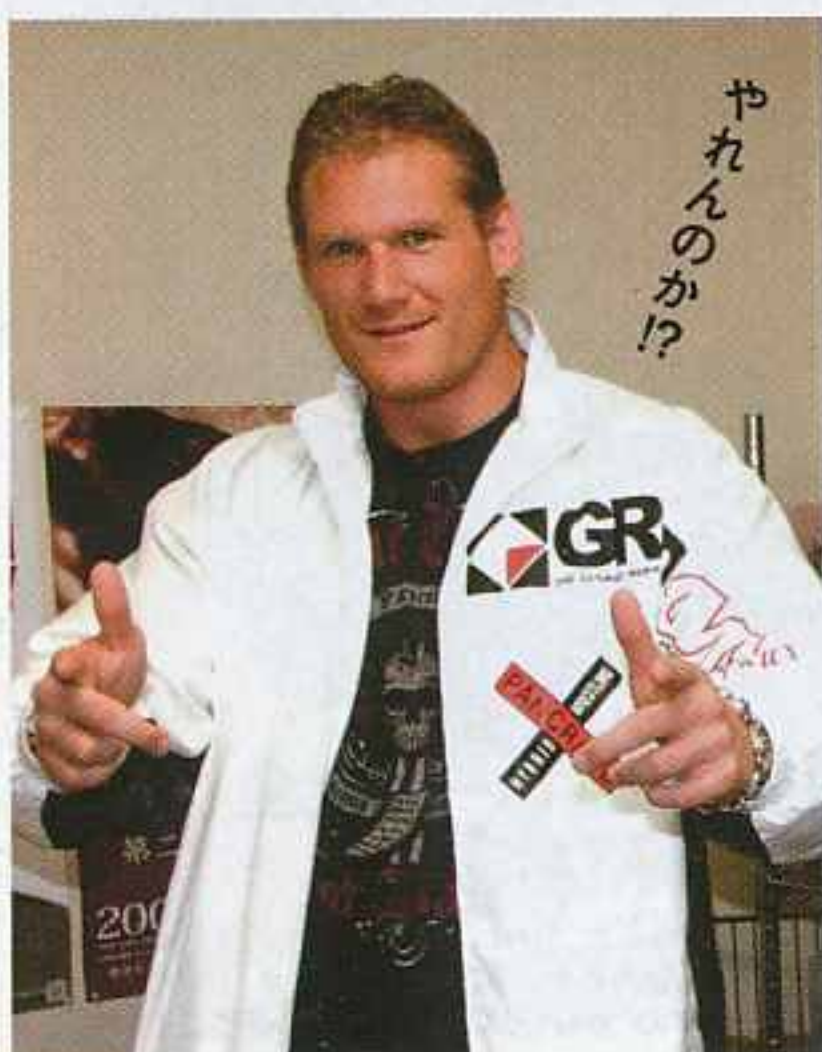
5.18『戦極』有明大会まもなく!

出るか、ジョシュの戦極ポーズいざ!!

イチ、ジュー、ヒャク、センゴク! センゴク!!

5.11『DREAM.3』速報!
6.8『戦極～第三陣～』も特集するぞ!!
kamipro No.123は
5月22日(木)発売予定!
※地域によって発売日は多少遅れるぞ!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2008 JUNE
2008年5月23日 発行

やれんのか!?

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
鈴木 佑
八木賢太郎(2000倍馬券的中のため非番)

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん
上杉出張好き

編集次長(PAT口座パンク危機)
松林 貴

デザイン大将
出田さん(TwoThree)

デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき (以上、TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上、さおとめの事務所)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

帰宅措置
入江ホンマン(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"グロスPP"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

編集チアマダ～ム
廣橋久美子

広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで)

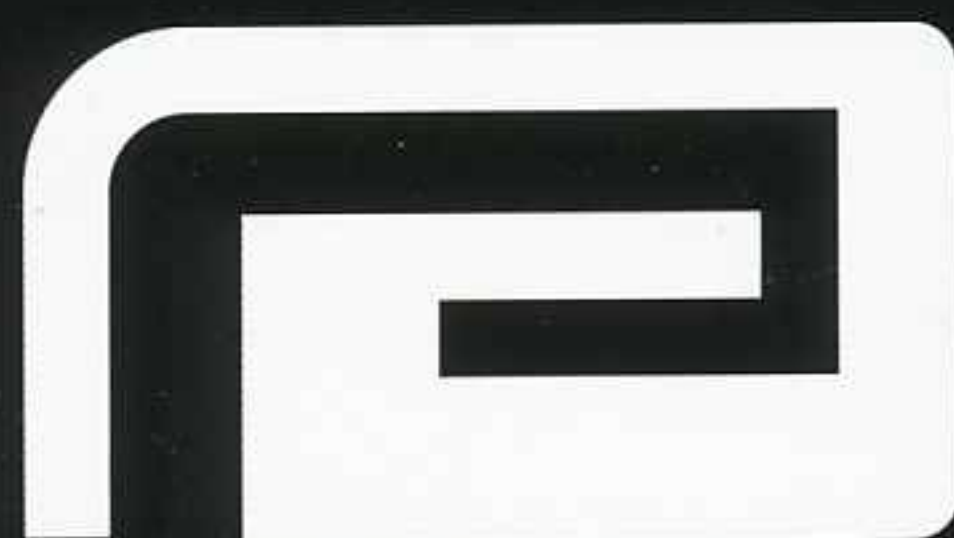
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート] ☎0570-060-555(受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00) メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

Kamipro Special 2008 JUNE
呪われたJ.Z.カルバン戦、ついに完全決着!! 三度目でやれました!!
2008年5月23日
発行人／浜村弘一 編集人／斉藤偉一 発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本／大日本印刷株式会社

9784757742598

定価：本体743円＋税

雑誌 61956-13 Ⓗ2008.9

Printed in Japan 大日本印刷

ISBN978-4-7577-4259-8
C9476 ¥743E

1929476007438

enterbrain